

- のう(おのう・牧村) → 祖心(そん;法諱、祖心尼、大奥御局役/臨濟僧) D 2 5 8 8
- 3501 能阿(のうあ;法諱) ? - ? 鎌倉後期正和-正中1312-26頃の時宗僧、  
連歌:1313?善阿一回忌追善一日千句参加;菟玖波集1句入、続現葉歌集1首入  
[頼むぞよ十声ひとこゑほととぎす](菟;二十発句/善阿追善一日千句)
- 3500 能阿彌(のうあみ/能阿;号、眞能;法諱、俗姓中尾) 1397-1471? 室町將軍足利義政の同朋衆、  
將軍家書画唐物管理、書画鑑定に長ず/水墨画を嗜む:「白衣観音図」画、  
連歌:1457北野連歌会所奉行、33北野社万句参加、宗祇連歌百句入、  
宗祇「竹林抄」の連歌七賢の1、「君台観左右帳記」「集百句之連歌」著、  
「能阿句集」、1791-93禅盛・蘭坡・光敏・勝元らと百韻、新菟入、藝阿弥の父/相阿弥の祖父、  
[能阿彌(;号)の別号] 秀峰/鷗斎/春鷗斎
- 囊庵(のうあん・小池) → 白麻(はくま・小池、俳人) D 3 6 9 3
- 能安(のうあん・河瀬) → 太宰(だざい・河瀬/戸田、儒/勤王家) O 2 6 9 2
- 能一(のういち・松岡) → 能一(よしかず・松岡まつおか、和算家) C 4 7 4 9
- 3502 能因(のういん、俗名;橘永愷ながやす、初法名;融因、元愷男、実際は近江守忠望男?) 988-? 1051存、  
文章生/1013頃(30歳前)に出家;法師/摂津古曾部住、歌;藤原長能門、  
諸国歴遊;陸奥に2度行脚、藤原公任・範永・大江嘉言・源道濟等と交流、  
1035賀陽院水閣/49内裏歌合/50祐子家歌合参加、「玄々集」編纂、  
「能因法師集」「能因歌枕」「能因日記」「八十島記」「和歌手習伝」著、袋草紙;逸話など入、  
勅撰66首;後拾遺(31首39/43/98/117/118/167/189/201/218/226/243/287/296/366以下)、  
金葉(159/625)詞花(59/164/205/334)千載(99/505/1038)新古(10首)以下、  
続詞花集(11首)・雲葉集入、  
[能因(;法名)の通称] 肥後進士/古曾部入道/橘入道  
[都をば霞とともに立ちしかど秋風ぞふく白河の関](後拾遺518)  
[嵐吹く三室の山のもみぢ葉は竜田の川の錦なりけり](後拾遺366;1049内裏歌合)
- G3521 能運(のううん;法諱) ? - ? 南北期天台僧;権大僧都、「西塔院主次第」著、  
歌;新後拾(826)、  
[あつめこしするしもあれやわが山の杉生ぢふの窓に残る白雪](新後拾;雑秋826)
- G3522 能悦(のうえつ) ? - ? 連歌;1551義隆「宮島千句」参加
- G3547 能円(のうえん;法諱、藤原顕憲男)?-? 母;二条大宮、平安後期法勝寺執行/法印、  
盛憲・憲忠・盛能・憲保・玄頭・顕覚・実暹・隆慶・憲範などの兄弟、  
元信・弘円(法勝寺執行/法印大僧正)・静誉(蓮華王院執行)・乗信・道伊・承明門院の父、  
息女 → 承明門院(しょうめいもんいん、源在子/後鳥羽天皇妃) B 2 2 6 8
- G3523 能円(のうえん;法諱) ? - ? 1295存 鎌倉期僧/法眼、歌;1295新名所絵歌合参加、  
新後撰(1444)続千載(848)、  
[世の人の数にもあらばいかならむうきにだになほそむかれぬ身は](新後撰;雑1444)
- G3524 能海(のうかい;法諱、通称;中納言法印/俗名;源房親、頼房男)?-? 鎌倉中期真言大僧都、法印、  
1243大門寺で宏教より両部灌頂・保寿院流・西院流の印可を受、  
1274勝円より金剛王院流を受法、歌人;東撰和歌六帖入、新後撰(1261)玉葉(1987)、  
[かすむだに心づくしの春の月くもれと祈る夜半もありけり](新後撰;雑1261、  
春のころ月蝕をいのりて思ひつづけ侍りける)
- G3525 能海(のうかい;法諱) ? - ? 1506存 戦国期天台僧;1506「恵心流譜脈」を玄海に授与、  
「教相義十如是義」著
- 能改庵(のうかいあん) → 貞昌(さだまさ・片桐かたざり、藩主/茶人) J 2 0 6 6
- 能改庵(のうかいあん) → 宗源(そうげん・藤林、貞昌の側近家老/茶人) H 2 5 1 5
- 能改斎(のうかいさい) → 以貫(いかん・穂積ほづみ、儒者/芸談) 1 1 7 1
- G3526 能覚(のうかく;法諱/別法諱;覚尊、通称;治部卿法印、大納言源能俊男) 1117-1182? 真言僧;

仁和寺住僧;1145(久安元)仁和寺大聖院の密教声明の会で新相応院流(西方院流)を樹立、  
1152(仁平2)仁和寺心蓮院で世豪より伝法灌頂を受/1181遍照寺別当、「阿彌陀贊」著

- G3551 **農角**(のうかく) ? - ? 俳人;1703不角「広原海わたつみ」入、  
[御内儀と小判が寝たと覚し召せ](広原海/仲裁人の言/御内儀は町人の主婦/間男代五両)  
能楽(のうがく→のうらく) → 能楽(のうらく、社僧/連歌) 3 5 5 7  
能楽斎(のうがくさい) → 蒙々斎(もうもうさい・牛貫うしてゐ、狂歌) 4 4 6 0
- 3527 **能閑**(のうかん;法諱、能音男、能金の兄)?-1620 北野天満宮の社僧;沙汰承仕/一和尚、  
連歌:1577紹巴何田百韻参/89能村らと何人百韻/1602菅公七百年忌万句参加、  
1616曼殊院より關所処分;京を追放/駿河に住
- 3528 **能監**(のうかん・桜井さくらい、号;辰丸、一時村岡姓、梅室[能允]男)1844-9855歳 神道家/太政官、  
1853父遺稿「かれきく集」編、「十七題要録」著
- 3529 **能喜**(のうき;法諱、能信男、俗姓;藤原)?-? 鎌倉末南北期僧;法眼、歌;新千載1733、  
[待ちわびて帰る山路の一声にまたたづねいるほととぎすかな](新千載;雑1733)  
濃技軒(のうぎけん) → 至善(のりよし・角すみ、酒造業/歌人) I 3 5 7 7  
能久(のうきゅう・小早川) → 能久(よしひさ・小早川こばか、兵法家) G 4 7 2 8
- 3530 **能金**(のうきん;法諱、能音男)?-1643 京北野天満宮の社僧;北野社預/三和尚/法橋、  
連歌:「賦何木連歌百句」、能閑の弟  
能化丸(のうけまる・岩城) → 義隆(よししたか・佐竹さたけ/岩城、藩主) D 4 7 9 4
- 3531 **能賢**(のうけん;法諱) ? - ? 僧;法眼、歌;1384成立「新後拾遺」(1079)、  
[うちとけぬ人の心の下紐にしひて契りを何結ぶらん](新後拾;恋1079)  
能賢(のうけん・長井) → 能賢(よししたか・長井ながい、州吏・歌人) O 4 7 2 1  
能元(のうげん・橋) → 能元(よしもと・橋たかはな、廷臣/歌人) H 4 7 6 7  
囊玄子(のうげんし) → 幸和(よしかず・吉見/菅原/源、神職/国学) 4 7 0 6  
囊玄子(のうげんし) → 茂矩(しげのり・近松/松、藩士/兵法/俳人) C 2 1 8 2
- 3532 **能康**(のうこう) ? - ? 伊勢山田の俳人;1633重頼「犬子集」入、  
[三界をまはりこぐらの月日哉](犬子集;1156、月と日を回競まわりこぐらに喩える、  
回競;異なる道を回りある地点の到着を競う遊び)  
能光(のうこう・三室戸) → 能光(やすみつ・三室戸みむろど/藤原、権大納言) E 4 5 0 8  
能弘(のうこう・伴) → 能弘(よしひろ・伴はん/捨井、商家/歌人) O 4 7 6 8  
能興(のうこう・原田) → 能興(よしおき・原田/原、藩士/和算家) C 4 7 4 0  
納斎(のうさい・冢田) → 子常(しじょう・冢田つかだ、医者) T 2 1 7 9  
能濟堂(のうさいどう) → 諒斎(りょうさい・北城/北条、医者/種痘) H 4 9 6 7
- 3533 **能札**(のうさつ;法諱、上大路能重男、西久松家の祖)?-1622 北野天満宮社僧;沙汰承仕、能舜の兄、  
連歌:1584北野社裏白連歌参/99「千句連歌会」催、紹之・宗順・昌叱・昌琢・紹巴らと百韻多数  
濃山散人(のうざんさんじん) → 太乙(たいいつ/たいおつ・村瀬、藩士/儒者) B 2 6 0 3  
濃山樵夫(のうざんしょうぶ) → 太乙(たいいつ/たいおつ・村瀬、藩士/儒者) B 2 6 0 3
- 3534 **能子**(のうし/よし・藤原定方女)?-964 平安前期;913醍醐天皇の女御、従四上、  
930天皇没後;敦実親王と交際;離別/藤原定頼の妻(;大和物語に逸話)、  
歌:勅撰4首;後撰(68/1109)続古今(1395;三条右大臣娘)玉葉(1424)、  
[能子(;名)の女房名] 三条御息所さんじょうのみやすんどころ/衛門御息所・娘女御むすめのようご(;後撰)、  
[山里に散りなましかば桜花にほふさかりもしられざらまし](後撰;春68/衛門御息所)、  
(太秦に里帰り中に桜の枝を所望の天皇よりの使者に託す歌)  
[参照] → 定方女(さだかたのむすめ・藤原、新拾遺歌人) I 2 0 0 1  
注;尊卑分脈の仁善子(よし)は別人 → 仁善子(よし・醍醐皇子保明親王妃、時平女)
- 3535 **納子**(のうし) ? - ? 江戸俳人;1739宋阿[巴人]「桃桜」入;超波らと  
農師(のうし・山田) → 寄斎(きさい・山田やまだ、儒者/詩文) K 1 6 4 7  
能子(のうし・橋本) → 能子(のぶこ・橋本はしもと/東儀、歌人) J 3 5 6 0  
能氏(のうし・大蔵) → 能氏(よしうじ・大蔵おおくら、能楽師;大鼓) C 4 7 2 1  
能治(のうじ・竹内) → 惟庸(これつね・竹内たけのうち/源、廷臣/歌) F 1 9 9 6  
能実(のうじつ・藤原) → 能実(よしざね・藤原、大納言/歌合催) D 4 7 4 8

- 能秀(のうしゅう・門司) → 能秀(よしひで・門司もじ/藤原、武将/連歌) G 4 7 3 5  
 能充(のうじゅう・桜井) → 梅室(ばいしつ・桜井、研刀職/俳人) 3 6 0 4
- 3536 能舜(のうじゆん;法諱) ? - ? 1443存 天台宗叡山東塔長寿坊住僧、  
 1441「即身義竜女分極」編、「一仏始終」「仏土義自受用所居」著
- 3537 能舜(のうじゆん;法諱・松吟軒、能重男)?-? 1641存 北野天満宮社僧;沙汰承仕/年中行事預、能札弟、  
 連歌;1581紹巴・清誉上人と「何木百韻」、91北野社裏白連歌参/1626紹巴25忌懐旧百韻参加  
 能俊(のうしゆん・源) → 能俊(よしとし・源みなもと、大納言/治部卿) Q 4 7 4 7
- 3538 能順(のうじゆん;法諱・脩竹斎/観明軒/松雲庵、能舜男、家名;上小路) 1628-1706 79 京の生;連歌師、  
 北野天満宮社宮仕僧、1657(明暦3)加賀能美郡前田家管廟小松棧天神社別当職(梅林院)、  
 1683北野学堂初代宗匠/98法橋、1702(元禄15)後水尾上皇法楽連歌発句を依頼される;  
 [広前の手向は花の千枝哉]、  
 連歌;「連歌伝習抄」「聯玉集(梅の雫)」「愚句老葉」「二十四人連歌仙」編、  
 「能順師北山之記」著
- 3539 能松(のうしゅう;法諱、能特男)?-1635 北野天満宮の社僧;沙汰承仕、  
 連歌;乗海らと1589「山河百韻」/90「何船百韻」、93長久と「何人百韻」  
 能尚(のうしゅう・大江) → 能尚(よしひさ・大江おおえ、廷臣/歌人) Q 4 7 4 0  
 能章(のうしゅう・村井) → 見樸(見朴けんぼく・村井、藩士/医者) E 1 8 4 1  
 能勝(のうしゅう;法諱) → 傑堂(けつどう;道号・能勝、楠木正能、曹洞僧) H 1 8 2 8  
 納樵(のうしゅう;号) → 樵禅(しょうぜん;道号・禅鎧;法諱、臨濟僧) K 2 2 4 4  
 能除仙(のうじよせん) → 蜂子皇子(はちこのおうじ、羽黒山開祖) E 3 6 8 5
- 3540 能信(のうしん;法諱、参議藤原能清男)?-? 鎌倉末期天台僧;権少僧都/法眼/法印、能喜の父、  
 歌人;続現葉入、  
 勅撰;7首;新後撰(677)続千(1289/1666/1937)続後拾(496)新千(1288/2031)、  
 玉葉集に隠名で入集、  
 [夕暮のたかねを出いづる月影も入るべきかたをわすれやはする]、  
 (新後撰;釈教677/往生礼讃に必有事礙不及向西方 但作向西想亦得といふ心)
- 3541 能進(のうしん・河竹かわたけ、帮間荻江栄蔵男?) 1821?-86 66 江戸浅草諏訪町提灯屋の生、遊芸に長ず、  
 素人浄瑠璃で寄席に出演;眼丸名、提灯屋・画工の一眼斎国重を通し狂言作者を志望、  
 志望叶わず戯作者;三亭春馬門/のち改めて歌舞伎作者;2世新七[黙阿弥]門、  
 1854河原崎座で繁河長治名で作者/57竹柴諺蔵に改名/65市村座で2世勝諺蔵に改名、  
 1868市村座で立作者、71経済的理由で大阪へ;72筑後芝居・中の芝居に勤務;好評を得る、  
 京大阪で新風を注ぎ第一人者の作者/1878初世新七の俳号能進を継ぎ勝能進に改名:  
 諺蔵名を息子彦助に譲渡、1884河竹能進を名乗る/86引退;病没、  
 1872「相馬良門萃みばえ文談」73「桜田雪はなぶき盛忠美談」(息彦助[3世諺蔵]と合作)、  
 1875「護国婦女太平記」78「西南物語」85「花茨胡蝶晒彩色」外著多数、  
 [能進の号] 繁河長治/竹柴諺蔵/2世勝諺蔵かつげんぞう/座全堂、戯作号;勝言彦/河流舎
- 能親(のうしん・平/今城肥前守) → 能親(よしか・平、連歌) E 4 7 4 6  
 能新(のうしん・南部) → 利謹(としのり・南部なんぶ、有職故実/歌) N 3 1 3 2  
 能信(のうしん・小川) → 能信(よしのぶ・小川おがわ、藩士/歌人) L 4 7 8 0  
 能進(のうしん・河竹/能進斎) → 新七(初世しんしち・河竹、歌舞伎・浄瑠璃作者) U 2 2 0 2  
 能晋輔(のうしんじゅう;歌舞伎作者) → 種清(たねきよ・柳水亭・桜沢堂山、合巻作者) G 2 6 3 6  
 能助(のうすけ・三宅) → 椋園(しょうえん・三宅みやげ、儒家/詩歌) H 2 2 3 0  
 能助(のうすけ・吉松) → 増春(ますはる・吉松よしまつ、藩士/和漢学) T 4 0 7 1
- 3543 能誓(のうせい) ? - ? 連歌;1564景恵「石山千句」参  
 能正(のうせい・源) → 能正(よしまさ・源、廷臣/歌人) G 4 7 9 3  
 能世(のうせい・梅沢) → 能世(よしよ・梅沢うめざわ、製塩/和学者) L 4 7 7 6  
 能清(のうせい・宅間) → 能清(よしきよ・宅間たくま、和算家) D 4 7 1 4  
 能盛(のうせい/よしもり・藤原、北面武士) → 能蓮(のうれん;法諱、/歌人) 3 5 5 8  
 能静(のうせい) → 荘丹(そうたん・高柳/鈴木、医者/俳人) C 2 5 4 8  
 能静(のうせい・喜多) → 六平太(ろくへいた・12世喜多きた、能楽師) B 5 2 0 4

- 3544 **能暹**(のうせん;法諱、法師)? - ? 平安後期天台叡山僧/歌人、  
1062無動寺和尚賢聖院歌合参加;右方(比叡山延暦寺塔頭無動寺で檢校広算主催)、  
[万代よろづよをよごとにこめて色かへぬ竹ぞみむろのしるしなりける](賢聖院歌;十番20)
- G3557 **能暹**(のうせん;法諱、法師)? - ? 鎌倉期僧/歌人  
1243(寛元元)河合社歌合(藤原信実勸進/藤原為家判)参加;3首、  
[思ひ寝の夢を此世の逢ふ事に頼むさへこそかなはざりけれ](河合社;不逢恋卅番左59)
- 能宣(のうせん・大中臣) → 能宣(よしのぶ・大中臣おおなかとみ、神職/歌) 4 7 2 3  
能遷(のうせん・古賀) → 朝陽(ちょうよう・古賀、医/儒者) K 2 8 0 6  
能潜(のうせん・設楽) → 八三郎(はちさぶろう・設楽じだら、幕臣/海防) E 3 6 8 7
- 3545 **能禅**(のうぜん;法諱・弁法師/大覚院法印、藤原為成男)1204-89 真言僧;嚴遍門/東寺定額僧、  
1230宏教より西院流伝法灌頂;同流能禅方の相、「師伝鈔」「灌頂用懷中記」著
- 能遷館(のうせんかん) → 王民(おうみん・藤村ふじむら、商人/詩文) C 1 4 6 9  
能遷亭(のうせんてい) → 王民(おうみん・藤村ふじむら、商人/詩文) C 1 4 6 9  
能遷亭(のうせんてい) → 直弘(なおひろ・藤村、王民弟/書画・俳) C 3 2 3 0  
衲叟(のうそう) → 馴窓(じゅんそう;法名、武将/歌人) K 2 1 1 9  
曩宗(のうそう・宮崎) → 曩宗(ひさむね・宮崎みやざき、国学者) L 3 7 4 4  
能貪(のうたん・法名) → 俊頼(としより・源、歌学) 3 1 5 2
- 3546 **能長**(のうちょう;法諱) ? - ? 1610存 安土桃山期北野天満宮の宮仕;社僧、  
1691預/99小預/一和尚/1602法橋、  
連歌;1608(慶長13)2月能札のうさつらと「千句」
- 能通(のうつう・藤原) → 能通(よしみち・藤原ふじむら、廷臣/歌人) H 4 7 3 2  
能通(のうつう・六角) → 能通(よしみち・六角ろっかく/藤原、廷臣) H 4 7 4 4
- 3547 **能庭**(のうてい;法諱) ? - 1591 安土桃山期北野天満宮の宮仕;社僧/  
連歌;1588/89能福・能徳・能弁らと百韻
- 3548 **能哲**(のうてつ) ? - ? 連歌;1551義隆「宮島千句」参加  
能当(のうとう→よしまさ・国友) → 一貫斎(いっかんさい・国友、砲術/蘭学) G 1 1 8 4  
囊道人(のうどうじん) → 蕪村(ぶそん・与謝/谷口、俳人) 3 8 1 1
- G3543 **能徳**(のうとく;法諱) ? - ? 安土桃山期北野天満宮の宮仕;社僧、  
連歌;1588能福らと夢想連歌/88能弁・能庭らと「唐何百韻」
- 能貪(のうどん;法名) → 俊頼(としより・源、廷臣/歌学/筆策) 3 1 5 2  
能仁(のうにん;法諱) → 一麟(いちりん;道号・能仁、臨濟僧) J 1 1 2 3
- 3549 **能範**(のうはん) ? - ? 連歌師、1464?盛長催「熊野千句」参
- 3542 **農夫**(のうふ;字・山本やまもと、亡羊男)?-? 幕末期京の本草学;父門、  
1850「竹米行」兄弟で共著、錫夫せきふ・秀夫しゅうふ・章夫しょうふの弟
- 農夫(のうふ) → 東雄(はるお・福嶋、名主/国学/地誌) G 3 6 0 2  
農夫(のうふ・喜早) → 清主(きよぬし・喜早きそ、神職) Q 1 6 0 8  
農夫(のうふ・田中) → 俊民(としたみ・田中たなか、歌人) V 3 1 5 2  
農夫園杉夕(のうふえんさんせき) → 東雄(はるお・福嶋、名主/国学/地誌) G 3 6 0 2
- 3550 **能福**(のうふく;法諱・家名;上大路、能栄男)?-? 1589存 安土桃山期北野天満宮の宮仕;社僧、  
連歌;1588能徳らと夢想連歌/89能弁らと何路・何木百韻
- 能富女(のうふじょ・西山) → 能富女(よしとみのむすめ・西山にしま、歌人) K 4 7 7 4  
能富蔵(のうふぞう) → 宅彦(いえひこ・松木、神職/歌/記録) E 1 1 9 5  
能遍(のうへん;字) → 日応(にちおう;法諱、日蓮僧) 3 3 9 0  
能遍(のうへん;字) → 日視(にっし;法諱・深広院、日蓮僧) D 3 3 9 2
- 3551 **能弁**(のうべん;法諱) ? - ? 1596存 安土桃山期北野天満宮仕;社僧/預/1596法橋、  
連歌;1588能徳能庭らと唐何百韻/89能福らと何路・何木百韻
- 農甫(のうほ・片岡) → 春及(しゅんきゅう・片岡かたおか、農業/文筆/歌) Z 2 1 6 1  
能甫(のうほ・秋山) → 弘通(ひろみち・秋山あきやま、藩儒) H 3 7 3 0  
能輔(のうほ・藤原) → 能輔(よしすけ・藤原、少納言/歌人) D 4 7 7 5  
能茂(のうも・藤原) → 能茂(よしげ・藤原、武士) K 4 7 2 3

- 3552 **能也**(のうや;法諱) ? - ? 江前期北野天満宮の宮仕;社僧/1645行事、  
「賦何木連歌百句」参加
- 3553 **能祐**(のうゆう;法諱、家名;十川、能椿男)?-1552 戦国期社僧:北野天満宮の宮仕/法橋、  
連歌;1507宗碩千句参、1537能親「伊予千句」参加、51義隆「宮島千句」参加、「雑々発句」著  
能有(のうゆう・源) → 能有(よしあり・源、近院大臣、廷臣/歌人) 4 7 0 2
- 3554 **能誉**(能与のうよ;法諱、守誉の甥)?-? 1331存 鎌倉末期真言僧;法師/歌人;為世門/和歌四天王、  
晩年に九州下向、続現葉/松花集/臨永集入、井蛙抄に逸話、新後撰に隱名入、  
勅撰9首;続千(1118/1671)続後拾(1159/1249)新千(630/1393/1617)新拾(1165)新後拾、  
[恋ひしなむ後にもかたる人もがな同じ世にこそ忍びはつとも](続千載;恋1118)
- 3555 **能誉**(のうよ;法諱、近衛坂正僧正)?-? 1465存 天台宗園城寺光明院僧;房能門、天王寺供養導師、  
1465「八千枚支度」著
- 3556 **能養**(のうよう;法諱) ? - ? 1607存 安土桃山期北野天満宮の宮仕;社僧;1602/7行事、  
連歌;1590能松/乗海らと何船百韻  
濃陽軒(のうようけん) → 知隆(ともたか・小塚、神職) P 3 1 6 5
- 3557 **能楽**(のうらく;法諱、能軽男)?- ? 江前期北野天満宮宮仕;社僧、  
連歌;1667「連歌之帳」著  
能楽斎(のうらくさい) → 蒙々斎牛貫(もうもうさいうしつら、狂歌作者) 4 4 6 0
- 3558 **能蓮**(のうれん;法諱、俗名;藤原能盛よしもり、盛景男?) 1132?-? 1192存 平安後期檢非違使/左衛門尉、  
後白河北面;今様衆の1、出家、歌人;「一品経和歌懐紙」「石清水社歌合」の作者(散佚)、  
勅撰2首;千載1280/新勅撰1254、寂身(やくしん)の父、  
[石清水清き流れのたえせねば宿る月さへくまなかりけり](千載;神祇1280)  
納老(のうろう→とろう・沢嵐) → 納老(とろう・沢嵐さわあらし、歌舞伎作者) I 3 1 4 9  
能六斎(のうろくさい・歌沢;うた沢節) → 谷峨(2世こくが・梅暮里、俳/人情本) C 1 9 3 5  
野右衛門(のえもん・玉置) → 直磋(なおあき・玉置たまおき、藩士/国学) N 3 2 8 0  
野雁(のかり・安藤) → 野雁(ぬかり・安藤、万葉研究/歌人) 3 4 0 2
- 3559 **野川**(のがわ;号・屋代やし、名;きくみ、出羽松山藩士弦木円蔵女) 1760-1839/80 屋代伝四郎の妻、  
1784夫が病没、歌人/白河藩主松平定信の奥向出仕、「奥の道の記」著、1814出羽松山に帰国
- 3560 **野川檢校**(のがわけんぎょう) ? - ? 大阪の三味線唄の名手/組歌を整理  
野菊(のぎく/やきく) → 毛条(もうじょう・奥田、俳人) 4 4 5 6  
野菊女(のぎくじょ秋色亭) → 秋色(2世しゅうしき・田本/深川、俳人) H 2 1 5 6
- G3539 **軒端杉丸**(のきばのすぎまる) ? - ? 狂歌;1787「才蔵集」1首入:  
[すきとほる雲のびんづらさし櫛の名にもかくれぬ十三夜かな](櫛屋は九四で十三屋)
- H3520 **禾麿**(のぎまる・安養寺あんようじ、通称;幸之丞) 1697-1767/71 土佐土佐郡の儒・南学;土佐藩儒谷重遠門、  
国学者:歴史考証、「土佐幽考」著(;地歴的故実研究)  
乃七郎(のしちろう・小松) → 信周(のぶかね・小松こまつ、国学/歌人) I 3 5 4 4
- G3446 **野瀬**(のせ) ? - ? 美濃の碁師、1623策伝「醒睡笑」入、  
[碁なりせば劫こふを棄てても活いくべきに死ぬる道には手一つもなし](醒睡笑:四臨終)  
(ただし1666行風「古今夷曲集」には本因坊算砂の作とある)  
納叟(のそう) → 馴窓(じゅんそう・納叟、武将歌人) K 2 1 1 9  
能曾丸(のそまる) → 荒陽(こうよう・渡辺、儒者/国学者) G 1 9 5 3  
乃太夫(のだゆうゆう・小松) → 信周(のぶかね・小松こまつ、国学/歌人) I 3 5 4 4
- 3561 **野足**(のたり・巨瀬こせ) 749 - 816/68歳 廷臣;春宮大夫/蔵人頭、詩人識人しきひとの祖父
- 3562 **後生**(のちおう/-なり/-ふ・藤原ふじわら、文貞男) 909-970/62 平安前期廷臣;959大内記/960文章博士、  
従四上、957仁王会呪願文/963東宮元服詔書、965日本書紀講義召人/康保天禄元号勘申、  
詩歌:959「内裏詩合」右方参、新撰朗詠集/類聚句題抄等に入、文粹入/拾遺集472、  
[昔我が折し桂のかひもなし月の林の召しに入らねば](拾遺集;八雑472)、  
(清慎公[藤原実頼]の月林寺参詣に遅参した時の詠/折し桂は官吏登用試験及第のこと)、  
息子;弘道(951or954-1008/文章博士/従四下)・至道(従五下若狭守)・惟信(従五下伊豆守)、  
息女;天曆御乳母てんりやくのおおんめとの少納言(拾遺322)・後生女(拾遺1208/是房男後生女か?)
- 3504 **後生女**(のちおう/のちなりのむすめ、加賀介藤原後生[是房男]女or文章博士後生女)?-? 平安中期女房、

歌人、拾遺1208;左大将藤原濟時[なりとき941-995]と交渉/のち筑紫の下る

[けふまではいきの松原いきたれどわが身のうさになげきてぞふる](拾遺十八1208)

- 3563 後蔭(のちかげ・藤原ふじわら;北家魚名流、俊蔭としかげ、有穂男)?-921 母;安部興武女、平安前期廷臣、895大蔵大丞/897蔵人/902従五下/越中介/左馬助/左兵衛佐歴任/910右近衛少将、912-19蔵人/919備前権守従四下、本朝文粹;911紀長谷雄「亭子院に飲を賜ふ記」に入、歌人:「仁和の中将の御息所の家」歌合参加/醍醐御時菊宴参加、勅撰3首;古今108/後撰748/続古今497、

[花の散ることやわびしき春霞たつたの山の鶯の声](古今;春108/仁和中将御息所家)

- 3564 後蔭女(のちかげのむすめ・藤原ふじわら、俊蔭女)?-? 平安前期歌人;大和物語に元平親王(958没)との恋、続後撰集990(藤原俊蔭女名)、

[せかなくにたえとたえにし山水のたれしのべとか声をきかせん](続後撰;恋990)、

(元平親王が通い絶えてのち訪れた時あわなかったため恨みの歌を贈るその返歌)

- E3514 のちかた(姓;不詳) ? - ? 平安前期歌人;898亭子院女郎花合参加

[今よりは撫でておほさむ女郎花ときある秋にあふと思へば](女郎花合31)

後生(のちなり・藤原) → 後生(のちおう・藤原、文章博士、詩歌) 3 5 6 2

後生女(のちなりのむすめ・藤原) → 後生女(のちおうのむすめ、加賀介藤原後生女) 3 5 0 4

後安祥寺殿(のちのあんしょうじどの) → 寛胤法親王(かんいんほっしんのう、真言僧/歌人) D 1 5 4 4

後安養院(のちのあんよういん) → 邦輔親王(くにすけしんのう、歌人) 1 7 0 9

後井関神主(のちのいせきかぬし) → 忠久(ただひさ・賀茂かも、神職/歌人) F 2 6 6 8

後一音院(のちのいちおんいん;号) → 房実(ふさざね・九条、左大臣/歌人) C 3 8 0 7

後一条入道前関白左大臣(のちのいちじょうのにゆうどうさきのかんぱくさだいじん) → 実経(さねつね・一条) D 2 0 2 1

後猪熊殿(のちのいのくまどの) → 経忠(つねただ・近衛/藤原、関白/左大臣/歌) C 2 9 4 1

後猪熊前関白左大臣(のちのいのくまのさきのかんぱくだいじょうだいじん) → 経忠(つねただ・近衛/藤原、歌) C 2 9 4 1

後今出川右大臣(のちのいまでがわのうだいじん) → 実直(さねなお・今出川、右大臣/歌) D 2 0 3 5

後今出川前左大臣(のちのいまでがわのさきさだいじん) → 公行(きんゆき・今出川、歌人) E 1 6 8 4

後宇治殿(のちのうじどの) → 師実(もろざね・藤原、摂政関白/歌人) H 4 4 2 4

後宇治関白(のちのうじのかんぱく) → 師実(もろざね・藤原、歌人) H 4 4 2 4

後円光院(のちのえんこういん) → 冬教(ふゆのり・鷹司、関白/歌人) E 3 8 3 7

後円成院(のちのえんじょういん) → 兼香(かねか・一条、関白/太政大臣、歌) O 1 5 3 9

後円明寺(のちのえんみょうじ) → 兼冬(かねふゆ・一条、廷臣/関白/歌) D 1 5 0 4

後往生院(のちのおうじょういん) → 兼晴(かねはる・九条/鷹司、左大臣/歌) O 1 5 8 7

後岡屋前関白左大臣(のちのおかのやさきのかんぱくさだいじん) → 基嗣(もとつぐ・近衛) D 4 4 0 5

後岡屋殿(のちのおかのやどの) → 基嗣(もとつぐ・近衛、関白/歌人) D 4 4 0 5

後岡本天皇(のちのおかもとのすめらみこと) → 齐明天皇(さいめいてんのう、皇極天皇/岡本宮に都) 2 0 0 8

後押小路前内大臣(のちのおしこうじさきないだいじん;新続古今) → 公忠(きんただ・三条) E 1 6 2 9

後押小路内大臣(のちのおしこうじないだいじん) → 公忠(きんただ・三条、故実) E 1 6 2 9

後小野僧正(のちのおのそうじょう) → 弘真(こうしん;法諱・文観;字、真言僧) J 1 9 8 8

後小野宮(のちのおのみや) → 実資(さねすけ・藤原、右大臣/故実/歌) 2 0 3 9

後尾花舎(のちのおばなのや) → 盛章(もりあき・畠山はたけやま、神職/歌人) L 4 4 0 1

後花山院(のちのかざんいん) → 兼雅(かねまさ・花山院かざんいん、左大臣) H 1 5 0 4

後花山院(のちのかざんいん) → 定雅(さだまさ・花山院/藤原、右大臣/歌) C 2 0 4 3

後花山院(のちのかざんいん) → 通雅(みちまさ・花山院、太政大臣/歌) C 4 1 5 2

後花山院内大臣(のちのかざんいんのないだいじん) → 師信(もろのぶ・花山院/藤原、歌人) H 4 4 6 5

後檀園(のちのかしぞの) → 広定(ひろさだ・中島なかじま、藩士/神職) H 3 7 7 9

後閑院贈太政大臣(のちのかんいんのぞうだいじょうだいじん) → 実季(さねすえ・藤原、歌人) D 2 0 0 7

後観音寺(のちのかんおんじ) → 実宣(さねのぶ・西園寺/藤原、左大臣) L 2 0 1 9

後喜多院(のちのきたいん;諡号) → 深仁親王(しんにんしんのう;法諱、真言仁和寺僧) P 2 2 5 4

後九条内大臣(のちのくじょうないだいじん) → 基家(もといえ・九条/藤原、詩歌) C 4 4 1 2

後高野御室(のちのこうやおむろ) → 道法親王(どうほうしんのう;法諱、真言御室) H 3 1 2 0

後己心院(のちのこしんいん) → 忠基(ただもと・九条、関白/記録/歌人) F 2 6 9 2

後己心院 (のちのこしんいん) → 公修(きんおさ・三条/転法輪三条、記録) Q 1 6 7 1  
 後己心院前関白左大臣 (のちのこしんいんさきのかんぱくさだいじん) → 忠基(ただもと・九条) F 2 6 9 2  
 後己心院前内大臣 (のちのこしんいんさきのないだいじん) → 公修(きんおさ・三条/転法輪三条、記録) Q 1 6 7 1  
 後桂昌院 (のちのけいしょういん) → 邦道親王(くにみちしんのう、伏見宮12代/歌) B 1 7 6 6  
 後江相公 (のちのごうしょうこう) → 朝綱(あさつな・大江、詩人) 1 0 1 6  
 後光台院御室 (のちのこうたいいんのおむろ) → 静覚法親王(じょうかくほつしんのう、真言仁和寺僧) H 2 2 7 8  
 後久我右大将 (のちのこがのうだいしょう) → 晴通(はれみち・久我がが、廷臣/連歌) H 3 6 1 2  
 後久我前太政大臣 (のちのこがのさきのだいじょうだいじん)  
     → 通光(みちてる・みちみつ・久我/土御門/源、歌) 4 1 1 9  
 後久我太政大臣 (のちのこがのだいじょうだいじん) → 通光(みちてる・みちみつ・久我/土御門/源、歌) 4 1 1 9  
 後久我内大臣 (のちのこがのないだいじん) → 通基(みちもと・久我がが/源、内大臣/歌) C 4 1 6 6  
 後五大院 (のちのごだいいん) → 経覚(きょうかく; 法諱、法相僧) G 1 6 6 2  
 後近衛関白 (のちのこのえかんぱく) → 家基(いえもと・近衛、関白/歌人) 1 1 6 7  
 後西園寺 (のちのさいおんじ) → 実兼(さねかね・西園寺/藤原、太政大臣/歌) 2 0 3 7  
 後賢木屋 (のちのさかきや) → 弘佳(ひろよし・矢田部やたべ、国学/神職) M 3 7 1 0  
 後之幸能屋 (のちのさちのや) → 忠安(ただやす・吉川きつかわ/よしかわ、藩士/砲術家) R 2 6 1 0  
 後三縁院 (のちのさんえんいん) → 満家(みつえ・九条/藤原、関白/歌人) D 4 1 0 8  
 後三条前内大臣 (のちのさんじょうさきのないだいじん) → 実忠(さねただ・三条/転法輪三条、内大臣/歌) 2 0 4 1  
 後三条左大臣 (のちのさんじょうさだいじん) → 実量(さねかず・三条/転法輪三条、左大臣/歌) C 2 0 9 6  
 後三条内大臣 (のちのさんじょうないだいじん) → 公教(きんり・三条/転法輪三条/藤原、歌) E 1 6 5 4  
 後三条内大臣 (のちのさんじょうないだいじん) → 公豊(きんとよ・三条/正親町三条、歌) E 1 6 4 3  
 後三条内府 (のちのさんじょうないふ) → 実忠(さねただ・三条/転法輪三条、内大臣/歌) 2 0 4 1  
 後三条入道前太政大臣 (のちのさんじょうにゅうどうさきのだいじょうだいじん: 新統古) → 実冬(さねふゆ・三条) D 2 0 5 8  
 後三条入道前太政大臣女 (のちのさんじょうにゅうどうさきのだいじょうだいじんのむすめ: 新統古) →  
     実冬女(さねふゆのむすめ・三条) D 2 0 5 9  
 後三条入道相国 (のちのさんじょうにゅうどうしよく) → 実冬(さねふゆ・三条/藤原、太政大臣/歌) D 2 0 5 8  
 後三条坊門 (のちのさんじょうのぼうもん) → 通重(みちしげ・中院なかのいん、内大臣) B 4 1 6 0  
 後の三房 (のちのさんふさ); 後醍醐天皇の側近で「房」のつく三人  
     → 宣房(のぶふさ・万里小路) 1258-1348 D 3 5 1 8  
     → 定房(さだふさ・吉田) 1274-1338 2 0 2 3  
     → 親房(ちかふさ・北畠) 1293-1354 2 8 0 5  
 後三昧座主 (のちのさんまいざしゅ) → 慶円(きょうえん・けいえん、天台座主) N 1 6 2 6  
 後三藐院 (のちのさんみやくいん) → 忠熙(ただひろ・近衛、関白/歌人) F 2 6 7 4  
 後慈眼院 (のちのじげんいん; 法号) → 尚経(ひさつね・九条/藤原、関白/記録) B 3 7 3 9  
 後四天王寺 (のちのしてんのうじ; 法号) → 随庵(ずいあん; 号、空性法親王、詩歌) 2 3 2 4  
 後十楽院 (のちのじゅうらくいん) → 尊応(そんのう; 法諱、天台座主/歌/連歌) F 2 5 0 2  
 後十輪院 (のちのじゅうりんいん) → 通村(みちむら・中院/源、廷臣/歌人) 4 1 2 1  
 後寿量院 (のちのじゅうりょういん) → 堯胤法親王(ぎょういんほつしんのう、天台僧/歌) G 1 6 5 6  
 後少将 (のちのしょうしょう) → 義孝(よしたか/のりたか・藤原、廷臣/歌人) 4 7 1 3  
 後浄土寺 (のちのじょうどじ) → 道房(みちふさ・九条/藤原、摂政/記録) C 4 1 4 2  
 後浄土寺太政大臣 (のちのじょうどじのだいじょうだいじん) →  
     実香(さねか・三条/転法輪三条/藤原、太政大臣) K 2 0 7 9  
 後照念院 (のちのしょうねんいん) → 冬平(ふゆひら・鷹司たかつかさ、右大臣/歌) E 3 8 3 8  
 後称名院 (のちのしょうみょういん) → 公保(きんやす・三条西/西三条、歌人) E 1 6 8 2  
 後常瑜伽院御室 (のちのじょうゆかいのおむろ) → 永助親王(えいじょしんのう、門跡/歌人) 1 3 3 6  
 後深心院 (のちのしんじんいん) → 道嗣(みちつぐ・近衛、堀川関白、詩歌人) B 4 1 8 6  
 後瑞雲院 (のちのずいうんいん) → 兼宣(かねのぶ・広橋、廷臣/歌) O 1 5 8 2  
 後鈴屋 (のちのすずのや) → 春庭(はるにわ・本居、国学/歌人) 3 6 3 3  
 後青竜院宮 (のちのせいりゅういんのみや) → 尊道親王(そんどうしんのう、天台座主/歌人) F 2 5 0 0  
 後是心院 (のちのぜしんいん) → 光平(みつひら・二条/藤原、摂関/記録) E 4 1 6 4

- 後僧正 (のちのそうじょう) → 眞然(しんぜん; 法諱、真言僧) P 2 2 1 4
- 3503 後素堂 (のちのそどう) ? - ? 俳人; 1787「奥のほそ道解」著
- 後大喜院 (のちのだいきいん) → 経尋(きょうじん、九条、法相僧) C 1 6 7 1
- 後大勝寺 (のちのだいしょうじ) → 忠香(ただか・一条、廷臣/公武合体派) T 2 6 8 9
- 後大染金剛院 (のちのだいせんこんごういん) → 尹房(ただふさ・二条、関白/日記) F 2 6 7 5
- 後大通院 (のちのだいつういん) → 貞常親王(さだつねしんのう、伏見宮4世、歌) F 2 0 3 5
- 後竹林院 (のちのちくりんいん) → 実遠(さねとお・西園寺/藤原、左大臣/聯句) F 2 0 6 2
- 後知足院関白 (のちのちそくいんかんぱく) → 房嗣(ふさつぐ・近衛、太政大臣/歌) C 3 8 1 5
- 後中書王 (のちのちゅうしやおう) → 具平親王(ともひらしんのう、詩人) Q 3 1 3 9
- 後月輪 (のちのつきわ) → 兼孝(かねたか・九条くじょう、関白/故実) O 1 5 5 6
- 後土御門内大臣 (のちのつちみかどのないだいじん) → 定通(さだみち・土御門/源、内大臣/歌) C 2 0 4 6
- 後洞院 (のちのとういん) → 輔実(すけざね・九条/藤原、撰関/記録) G 2 3 3 0
- 後常磐井 (のちのときわい) → 公宗(きんむね・西園寺さいおんじ、廷臣/歌) E 1 6 7 2
- 後常磐井 (のちのときわい) → 実俊(さねとし・西園寺、公宗男、歌/母; 竹向) D 2 0 3 1
- 後常磐井前右大臣 (のちのときわいさきのうだいじん: 新統古) → 実俊(さねとし・西園寺) D 2 0 3 1
- 後徳大寺左大臣 (のちのとくだいじのさだいじん) → 実定(さねさだ・藤原、歌人) 2 0 3 8
- 後中大路入道神主 (のちのなかおおじにゅうどうのかんぬし) → 惟久(これひさ・賀茂かも、神職/歌) E 1 9 4 4
- 後長岡大臣 (のちのながおかのおとど) → 内麻呂(内磨うちまる・藤原、廷臣) D 1 2 1 2
- 後中園左大臣 (のちのなかぞのさだいじん) → 公定(きんさだ・洞院とういん、文筆) E 1 6 0 4
- 後中院 (のちのなかのいん) → 昭実(あきざね・二条、廷臣/公家制礼) D 1 0 4 1
- 後中院 (のちのなかのいん) → 通重(みちしげ・中院なかのいん、廷臣/歌人) B 4 1 6 0
- 後中院前太政大臣 (のちのなかのいんさきのだいじょうだいじん: 新千/新拾) → 長通(ながみち・久我こが) F 3 2 8 8
- 後中院前内大臣 (のちのなかのいんさきのないだいじん: 新千/新拾) → 通重(みちしげ・中院なかのいん) B 4 1 6 0
- 後中院相国 (のちのなかのいんしょうこく) → 長通(ながみち・久我こが、太政大臣) F 3 2 8 8
- 後野宮 (のちののみや) → 公胤(きんたね・徳大寺、左大臣/日記) R 1 6 4 1
- 後野宮入道前太政大臣 (のちののみやにゅうどうさきのだいじょうだいじん: 新統古) → 公俊(きんとし・徳大寺) E 1 6 4 0
- 後野乃舎 (のちのののや) → 政徳(まさのり・天野/藤原、幕臣/歌人) G 4 0 1 2
- 後八条入道前内大臣 (のちのはちじょうにゅうどうさきのないだいじん) → 実継(さねつぐ・三条、内大臣/歌) D 2 0 1 8
- 3565 后雛丸 (のちのひなまる、土井とい周卿(周郷)、九日庵、坊雛丸[土井見益]男) ?-? 大阪狂歌師: 順慶町住、  
1827刊「有馬筆すさみ」編
- 後芬陀利花院 (のちのふんだりかいん) → 経通(つねみち・一条、関白/詩人) D 2 9 8 5
- 後遍智院准后 (のちのへんちいんじゅごう) → 義賢(ぎけん; 法諱、真言僧/門跡/歌) B 1 6 0 7
- 後報恩院入道前関白左大臣 (のちのほうおんいんにゅうどうさきのかんぱくさだいじん: 新統古)  
→ 経教(つねのり・九条、歌人) D 2 9 0 9
- 後法界身院 (のちのほうかいしんいん; 法号) → 道恕(どうじよ; 法諱、真言僧/画) F 3 1 2 6
- 後法興院 (のちのほうこういん) → 政家(まさいえ・近衛/藤原、関白/日記/歌) B 4 0 2 9
- 後法興院関白 (のちのほうこういんかんぱく) → 政家(まさいえ・近衛/藤原、日記/歌) B 4 0 2 9
- 後法金剛院御室 (のちのほうこんごういんのおむろ) → 覚道親王(かくどうしんのう、真言僧) K 1 5 2 7
- 後如法寿院 (のちのほうじゅいん) → 尚基(ひさもと・二条、関白/歌・連歌) C 3 7 0 3
- 後法成寺関白 (のちのほうじょうじかんぱく) → 尚通(ひさみち・近衛、太政大臣、歌/連歌) B 3 7 9 4
- 後法成寺大証 (のちのほうじょうじのだいしょう) → 尚通(ひさみち・近衛、歌/連歌) B 3 7 9 4
- 後豊神霊神 (のちのほうしんれいしん) → 兼隆(かねたか・吉田/卜部、神職/日記) C 1 5 8 1
- 後葆光院 (のちのほうこういん) → 貞康親王(さだやすしんのう・伏見8世、歌人) C 2 0 5 8
- 後菩提寺大僧正 (のちのぼだいじだいそうじょう) → 光濟(こうさい; 法諱、真言僧/歌人) B 1 9 4 8
- 後の北華 (のちのほっか) → 北華(ほっか・山崎/平、医/俳人/戯作) E 3 9 4 8
- 後法性寺殿 (のちのほっしょうじどの) → 兼実(かねざね・九条/藤原、撰関/歌) 1 5 2 9
- 後法性成寺入道前太政大臣 (のちのほっしょうじのにゅうどうさきのだいじょうだいじん) → 兼実(かねざね・九条) 1 5 2 9
- 後穂向屋 (のちのほむきのや) → 茂枝(しげえ・竹村たけむら、国学者/歌人) B 2 1 9 2
- 後松屋 (のちのまつのや) → 高雅(たかまさ/たかつね・藤井、神職/国学) D 2 6 7 4
- 後皇子命 (のちのみこのみこと) → 高市皇子(たけちのみこ、太政大臣/歌人) 2 6 2 1

後南御堂(のちのみなみみどう)→ 覚深親王(かくじんしんのう、真言僧) K 1 5 1 2  
 後妙華寺(のちのみょうげじ)→ 冬良(ふゆよし・一条、関白太政大臣/連歌) 3 8 1 9  
 後民部卿(のちのみんぶきょう)→ 資宣(すけのぶ・日野/藤原、廷臣/詩歌) C 2 3 7 1  
 後山階太上天皇(のちのやましなのだいじょうてんのう)→ 醍醐天皇(だいてんのう、格式・歌集編纂) 2 6 0 3  
 後山階前内大臣(のちのやましななきないだいじん:新後拾/新続古)→ 実夏(さねなつ・洞院とういん) D 2 0 4 0  
 後山科大臣(のちのやましなのおとど)→ 三守(みもり・藤原ふじわら、右大臣) H 4 1 3 7  
 後山本左大臣(のちのやまもとのさだじん)→ 実泰(さねやす・洞院/藤原、左大臣/歌) D 2 0 7 3  
 後予楽院(のちのよろくいん)→ 経熙(つねひろ・近衛/藤原、右大臣/日記) D 2 9 5 5  
 後理趣院(のちのりしゆいん)→ 信尊(しんそん;法諱、俗姓鷹司/法相僧) P 2 2 3 2  
 後竜翔院左大臣(のちのりゅうしょういんのさだいじん)→ 公頼(きんより・三条/転法輪三条、記録) R 1 6 9 4  
 後六条摂政(のちのろくじょうせつしょう)→ 兼嗣(かねつぐ・近衛このえ、右大臣) O 1 5 6 2  
 後生(のちふ・藤原) → 後生(のちおう・藤原、文章博士、詩歌) 3 5 6 2  
 能登(のと・梅津) → 利忠(としただ・梅津うめづ、藩士/兵法家) M 3 1 6 9  
 能登(のと・桂) → 南野(なんや・桂かつら、藩士/儒者) 3 2 4 1  
 能登(のと・速水) → 親祐(ちかすけ・速水はやみ、官人/歌人) B 2 8 0 0  
 能登(のと・藤川) → 三溪(さんけい・藤川ふじかわ、藩士/尊攘) M 2 0 0 8  
 能登(のと・大杉) → 安直(やすなお・大杉おおすぎ/日下部、国学) F 4 5 5 1  
 能登(のと・島津) → 久慶(ひさやす・島津しまづ、藩士/記録) C 3 7 0 9  
 能登(のと・上甲) → 振洋(しんよう・上甲じょうこう、藩儒/教育) Q 2 2 0 1  
 能登永閑(のといえいかん) → 永閑(えいかん・能登、連歌師) 1 3 1 9

G3537 能登路(のとしじ) ? - ? 狂歌;1785「徳和歌後万載集」1首入、  
 [青柳は参らせ候にしだれつゝかしくと梅のすはえ出てみる](後万載;55、  
 下線部は崩し字;女性の書簡用語の形/若枝の女性的特徴をとらえる)

能登四郎(のとしろう) → 則途(のりみち・赤松、武士/歌人) F 3 5 8 4  
 能登大夫(のたたいふ) → 忠隆(ただたか・藤原、歌人) F 2 6 2 0、  
 能登入道(のとういどう) → 定政(さだまさ・松平まつだいら、城主) J 2 0 6 7  
 能登守(のとかみ・宇佐美定興) → 道盛(どうせい;法名、武将/連歌) F 3 1 9 5  
 能登守(のとかみ・神保) → 氏弘(うじひろ・神保/惟宗、武家/連歌) C 1 2 6 8  
 能登守(のとかみ・大岡) → 忠相(ただすけ・大岡おおおか、幕臣/日記) F 2 6 1 9  
 能登守(のとかみ・青島) → 貞賢(さだかた・青島あおしま、神職/国学) I 2 0 0 0  
 能登守(のとかみ・笠因) → 清雄(すけお・笠因かさより、神職/歌人) F 2 3 8 0  
 能登守(のとかみ・朝原) → 宗勝(むねかつ・あさはら、神職/歌人) D 4 2 6 2  
 能登守(のとかみ・稲葉) → 幾通(ちかみち・稲葉いなば、藩主/日記) B 2 8 8 7  
 能登守(のとかみ・戸沢) → 正令(まさのり・戸沢、藩主/歌人) G 4 0 2 4  
 能登守(のとかみ・跡部) → 良弼(よしすけ・跡部あとべ、幕臣/奉行/歌) K 4 7 9 5  
 能登守(のとかみ・鈴鹿) → 秀麿(ひでまる・鈴鹿わすずか/平佐、神職/歌) J 3 7 9 3  
 能登守(のとかみ・内藤) → 政義(まさよし・内藤/井伊、藩主/歌) I 4 0 6 9  
 能登守(のとかみ・竹尾) → 重毅(しげよし・竹尾たけお、神職/国学) Z 2 1 3 4  
 能登守(のとかみ・松田) → 内直(うちなお・松田まつだ/賀茂、神職・歌) D 1 2 0 9  
 能登守(のとかみ・河村) → 季興(すえおき・河村かわむら、諸大夫/尊攘) I 2 3 3 1

3566 野戸川伎(のどかわき・小笠原佐渡守)?-? 江戸外桜田に住、狂歌:才蔵集490/593入、  
 [色みえてうつろひやすき花よりは団子のまろきちぎりともがな](才蔵;490、  
 (古今集小町;「色みえてうつろふものは世の中の人々の心の花にぞありける」のもじり)

能登智洞(のちのちどう) → 智洞(ちどう;法諱、本願寺派僧/唱導本) E 2 8 9 3  
 能登の頓成(のちのとんじょう) → 頓成(とんじょう;法諱、真宗大谷派僧) S 3 1 3 1  
 能登房(のとぼう) → 日持(にちじ;法諱・本応院、日蓮僧) C 3 3 0 2  
 後野宮内大臣(のちののみやないだいじん) → 公清(きんきよ・徳大寺とくだいじ) D 1 6 8 9  
 野宮(のみや) → 忠長(ただなが・花山院/藤原、廷臣/連歌) Q 2 6 3 1  
 野宮入道前内大臣(ののみやにゅうどうさきのないだいじん:新後拾) → 公清(きんきよ・徳大寺とくだいじ) D 1 6 8 9  
 野宮左大臣(ののみやのさだいじん) → 公継(きんつぐ・徳大寺、左大臣/歌) E 1 6 3 2

- 野宮太政大臣(のみやのだいじょうだいじん)→実時(さねとき・徳大寺/藤原、歌) D 2 0 2 8  
 野々舎(ののや) → 千引(ちびき・大井、国学/歌) 2 8 1 6  
 野廼屋(ののや) → 守静(もりきよ・辻/源/三枝、幕臣/歌人) F 4 4 3 6  
 野原雲輔(のはらのくもすけ) → 定丸(さだまる・紀、幕臣/狂歌/黄表紙) C 2 0 4 4  
 野仁(のひと、野の人) → 杜国(とこく・坪井、俳人) L 3 1 7 1
- D3589 ノフ(のふ) ? - ? 俳人;1690不角「二葉之松」入(103)、  
 [華の徳母の御食おききに味付けて](二葉之松;103/花を眺めながらの母の食事)  
 誠(のぶ・大田垣) → 蓮月(れんげつ;法名、大田垣、歌人) B 5 1 0 4  
 暢(のぶ・伴) → 香竹(こうちく・伴、国学) B 1 9 6 9  
 暢(のぶ・前田) → 暢子(のぶこ・前田まただ偕、歌人) B 3 5 3 7  
 延(のぶ) → 延女(のぶよ、歌人) G 3 5 9 9
- 3567 信顯(のぶあき・坊門ぼうもん/藤原、信家男)?-? 鎌倉後期廷臣;右近少将、  
 歌人;1295清誉催「三十六番歌合」参加、閑月集/新三井集入、新後撰1342、  
 [冬さむみあらしになびくすみがまの煙にまじる峰のうき雲](新後撰;雑1342)
- 3568 延明(のぶあき・度会わたらい、延雄男)?-1344 伊勢神職;1331外宮禰宜/五禰宜、延誠のぶとの兄、  
 歌人;1321外宮北御門歌合参加、1305「古今訓点抄」、「延明神主五十首和歌」著、  
 [いたづらにうき名ながして妹背川へだつる中はおふせだになし](外宮歌合;34番右68)
- 3569 宣明(のぶあき・中御門なかみかど、初名;宣藤、法名;乗誓、経宣男/本姓;藤原) 1302-65 母;藤原長成女、  
 鎌倉南北期廷臣;蔵人頭/左大弁歴任/1339(暦応2)参議/56正三位/中納言/62権大納言、  
 後醍醐天皇の蔵人/記録所寄人、南北期は北朝廷臣、後光厳天皇擁立の儀に参与、  
 1339「宣明卿記」著、歌人;1350「為世十三回忌和歌」参加、  
 勅撰4首;新千載(1877)新拾遺(643/1115)新後拾遺(824)、  
 [仕へきてひとつ流れの絶えせねば濁らじと思ふわが心かな](新千;雑1877)
- 3570 信秋(のぶあき・豊原とよはら、法名;雲巖道岫、竜秋男) 1318-8667 楽人;笙/1381雅楽頭/従四上、  
 1384出家、1374「応安七年記」「応安七年前筑前守信秋記」著
- 3571 宣顯(のぶあき・中御門なかみかど、資熙男/本姓藤原) 1662-174079 廷臣;1731権中納言/38権大納言、  
 1696「葵祭列書並御蔭山神事次第」著、詩;1721用拙齋「八居題詠」入
- I3589 誠顯(のぶあき・田村たむら、田村顯当5男) 1670-172758 母;能見松平家松平昌吉女の富、江戸の生、  
 1696田村建頭たてあきの養嗣子;1708(宝永5)養父没;陸奥一関2代藩主;従五下下総守、  
 正室;熊(田村建頭女/瑞光院)/継室;おいよ、男性の子なし、  
 歌;竹内惟庸これつね(冷泉流歌人)門、1727(享保12)没後;婿養子村頭(伊達宗賛男)が家督嗣、  
 1701(元禄14)建頭催[田村家深川別業和歌]参加、  
 [さす棹の袂も涼し浦風の夏なき波に舟をうかべる](田村家和歌;船中納涼)、  
 [誠顯(;名)の初名/通称]初名;長信、通称;小膳/助十郎/修理/下総守
- J3535 信秋(のぶあき・中島なかじま、通称;豊前/伊勢)?-1741 江中期;陸奥(陸前)伊具郡の和学者
- 3572 信映(のぶあき・春日かすが、通称蔵人、大日向種直男) 1705-9288 豊前小倉藩士/藩重臣春日家嗣、  
 系譜研究、「倉府俗話伝」著、1784「小笠原忠真年譜」編、
- 3573 信要(のぶあき・佐藤/通称善左衛門)?-? 江中期仙台地誌家/萱場高寿家臣:奥羽実地踏査、  
 「奥羽観跡聞老志」を訂正;1741「封内名蹟志」献上、「通俗封内名跡志」著  
 雨後亭白英と同一? → 白英(はくえい・雨後亭、1684-?1754存/地誌家) C 3 6 6 2
- I3553 信明(のぶあき・佐藤さとう、旧姓;伊良原) 1718-9679 筑前鞍手郡本庄村の里正、国学者、  
 [信明(;名)の通称]源兵衛 (伊藤常足「岡県集おかがたしゅう」入)
- H3515 信章(のぶあき・宮崎みやざき、) 1742-182887 筑後三潞郡蛭池村の三島神社社司、国学者、  
 [信章(;名)の通称]日向守、信敦(のぶあつ・船曳大枝おえ)の父
- 3574 信明(のぶあき・阪倉さくら、号;桜戸/海老屋) 1759-183678 撰津西宮の商人、国学/歌:伴蒿蹊門、  
 俳諧を嗜む、1830「桜戸雑話」著
- K3535 宣秋(のぶあき・吉田よしだ、) 1775-184167 上野桐生の絹商;国壳(行商)の代表、  
 歌人;橘守部門、  
 [宣秋(;名)の通称/号]通称;源兵衛、号;浅桐庵/一村/壺珪楼/桐葉舎/楽斎
- J3550 信敬(のぶあき・西島にしじま、旧姓;三宅) 1776-182954 若狭小浜の商家、歌人;香川景樹門、

- [信敬(；名)の通称/屋号]通称;左右輔そうけ/又右衛門、屋号;升屋
- H3583 **宣顯**(のぶあき・岡本おかもと、晦亭[宣休]男)1785-1862<sup>85</sup> 山城乙訓郡長岡神足村の商家;油屋、国学者;本居大平門/歌人、  
[宣顯(；名)の幼名/字/通称/号]幼名;国二郎/九十郎、字;士慎、通称;弥兵衛、号;晴軒/静軒/南岡、屋号;油屋、法名;晴軒戒蒼淨傳禪定門
- 3575 **宣陽**(のぶあき・七尾ななお、七尾検校男)1786-1857<sup>72</sup> 加賀金沢の儒者;1799京の皆川淇園門、1803帰郷;加賀藩老臣前田家の家臣、「涌浦紀行」著、  
[宣陽(；名)の別名/字/通称/号]初名;子相、字;伯埜はくや、通称;銅次郎、号;麟園
- 3576 **信明**(のぶあき・浅田あさだ、字;叔哲/通称;啓作/号;三堂)?-? 江後期文政1818-30頃大阪の医者、京住、「三堂雑記」「十三科摘要」著
- G3566 **信明**(のぶあき・夏目なつめ) ? - 1859 幕臣;1811(文化8)西丸小姓組/20小納戸、1838(天保9)小姓組番頭/52西丸御普請/1852(嘉永6)~59(安政6)御側御用取次、備後守/左近将監、歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[足引の遠山がらすほのぼのと声もかすみて春は来にけり](大江戸倭歌;7元日)、  
[信明(；名)の通称]丑太郎/兵之助/次郎左衛門/備後守/左近将監
- 3580 **宣昭**(のぶあき・荒井ありい、大立目おだちめ修麗3男)1796-1865<sup>70</sup> 仙台藩士/1840山林奉行、郡奉行/罷免増田に隠居;子弟教育/史籍渉猟し歴史研究/1853郡奉行に復帰/出入司/1857致仕、「異国防禦」「草根本葉糧」編、「治国の辨」「治国家伝」「子孫繁昌手引草」著、  
[宣昭(；名)の初名/通称]初名;定均、通称;東吾
- H3530 **陳暁**(のぶあき・池上いかがみ,) 1797-1869<sup>73</sup> 日向佐土原藩士;近侍/用人職/藩校学習館舎長、一族ともに勤王派;1819息子隼之助はやのすけを勤王運動に参加させるため脱藩させる、  
[陳暁(；名)の通称]祐之進/郷左衛門
- 3581 **宣明**(のぶあき・清原きよはら) ? - ? 江後期儒者;1835「女四書芸文図会」著
- 3577 **宣明**(のぶあき・西宮にしのみや、初姓;西野にし) 1802-83<sup>82歳</sup> 常陸水戸藩士/国学;小山田与清門、1839「常陸風土記」校訂、藩主徳川斉昭命で師与清らと「八洲文藻」「明倫歌集」編纂に従事、1841藩校弘道館訓導、国典並武家故実掛/山陵取調掛歴任、維新後新政府出仕;山陵調査、1831「西野宣明上書写」36「和書編集所開宴和歌」41-60「松寓日記」、59「本朝牙笏考証」、「風土記概論」「山陵紀事」「植松記」「牛乳考」「扶桑拾葉集鈔目録」「松宇雑録」外著多数、  
[宣明(；名)の字/通称/号]字;叔和、通称;新治/新治/六郎、号;松宇
- 3578 **信昭**(のぶあき・佐藤さとう、信淵のぶひろ男) 1806-? 江後期江戸の文筆家、1858「蝦夷地開拓私議」校、「奉富山侯書」著、  
[信昭(；名)の通称/号]通称;昭[正]太郎、号;升庵/昇庵、
- I3511 **信章**(のぶあき・木村きむら,) ? - ? 1844頃没 伊予松山出淵町の富商;布屋の生、信兢のぶかつ(1809-77)の弟、歌人;河本延之(1813-65)門、京の藤波家の家臣、  
[信章(；名)の字/通称/号]字;子成、通称;熊之丞/内記、号;廉泉/閑斎
- 3579 **述明**(のぶあき・江沢えざわ/初姓;松崎、江沢講修ときながの養子) 1816-94<sup>79</sup> 上総夷隅郡原村の歌人、和算家;距離計算術、「雅語便覧」/1854「量距尺運用発微」「量距尺表」/57「江沢述明日記」著、1862「江沢述明詠艸及講修墓碣」、「あら波日記」「奈留加乃海底石なるかのいくり」/著、東京住  
[述明(；名)の号]号;静慮
- 3582 **信晁**(のぶあき・栗原くりはら、信充男/本姓;源) ?-1865 幕臣/絵師;父の著書の挿絵、父著「鞍鐙図式」「甲冑図式」に精密画、1843「玉石雑誌」画、「頒代銭史」著、  
[信晁(；名)の初名/通称]初名;信兆、通称;太平/左兵衛
- 3583 **信詮**(のぶあき・島崎しまさき) ? - ? 江後期信州木曾与河の歌人;糟谷磯丸門?、1858「貞良磯丸詠草」編
- G3591 **宣鏡**(のぶあき・吉村よしむら) ? - ? 江後期;歌人、藩士? 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[月をのみ清き心の友と見んよのうき雲は風にまかせて](大江戸倭歌;秋856/月為友)

|                   |                   |           |
|-------------------|-------------------|-----------|
| 信明(のぶあき→さねあきら・源)→ | 信明(さねあきら・源、歌人)    | 2 0 3 1   |
| 信明(のぶあき→さねあきら・源)→ | 信明(さねあきら・源、楽家)    | F 2 0 5 9 |
| 信明(のぶあき・高麗/林)→    | 葛廬(かつろ・林はやし、幕府儒官) | O 1 5 0 4 |

- 信明(のぶあき・津軽) → 信明(のぶあき・津軽つがる、藩主/儒者) J 3 5 1 0  
 宣明(のぶあき→のぶはる・伏原) → 宣明(のぶはる・伏原、廷臣/明経博士) C 3 5 8 7  
 宣明(のぶあき・佐々原) → 梅操(ばいそう・佐々原さきはら、儒者) B 3 6 7 5  
 信詮(のぶあき・大沢) → 信詮(のぶのり・大沢おおさわ、幕臣) C 3 5 6 9  
 信詮(のぶあき・荷田かた、羽倉) → 信詮(のぶのり・荷田/羽倉、国学者) C 3 5 7 0  
 信章(のぶあき・山口) → 素堂(そどう・山口、俳人) 2 5 2 6  
 式昭(のぶあき・松浦/田中) → 式如(のぶゆき・田中/松浦、神道家) D 3 5 6 3  
 順信(のぶあき・木下) → 浄庵(じょうあん・木下、儒者) K 2 1 9 4  
 宣昭(のぶあき・清水) → 宣昭(のりあき・清水、国学) E 3 5 2 0  
 宣昭(のぶあき・長谷川・柳の屋) → 宣昭(のりあき・長谷川、国学者) E 3 5 2 2  
 信卿(のぶあき・柳沢) → 信鴻(のぶとき・柳沢、藩主/俳人) C 3 5 2 8
- 3584 信詮(のぶあき・六角ろっかく/佐々木、山内備中守、通称五郎、佐々木時信男/源)?-?1351存 左衛門尉、  
 従五下備中守/観応の擾乱時に兄氏頼に代わり近江守護、歌/連歌、新千載1394/菟5句入
- 3585 信鏡(のぶあき・朝倉あさくら/土橋、朝倉景高男/本姓;日下部)?-1574 武将;73朝倉義景を襲い信長臣、  
 土橋姓、1574越前の一向一揆に敗死、連歌:1573紹巴と何人百韻  
 [信鏡(;名)の初名/通称]幼名;孫八郎/初名;景鏡、通称;式部大輔
- 3586 演徴(のぶあき・由比ゆい) 1748- 181265 下総佐倉藩士/堂上派歌人:伊藤松軒/日野資枝門、  
 「安久多哥葉」「巧夕愚草」「由比演徴詠草」、「和歌記誦牘」著、  
 「退屈の友」息と共編、演義(のぶよし)父、  
 [演徴(;名)の字/通称/号]字;明卿、通称;安兵衛、号;琴松亭/不求斎
- J3510 信明(のぶあき・津軽つがる、信寧(のぶやす)長男) 1762-9130 母;側室歌喜(青木助右衛門妹)、  
 陸奥弘前藩8代藩主;1784(天明4)父急死;家督嗣、従五下/土佐守、天明飢饉最中の就任、  
 藩財逼迫;財政改革を実施;乳井貢や毛内有右衛門等有能な人材登用・不正の家臣に厳罰、  
 藩士の帰農・土着策;荒廃農地復興、その他各種の策で財政再建中に1791(寛政3)急死、  
 儒学;宇佐美瀧水しんか(恵助)・戸沢惟頭門/上杉鷹山・松平定信と交流、  
 正室:松平朝矩女の喜佐姫(喜佐子)、嗣子なく養嗣子の寧親(のぶちか)(別家津軽著高男)が継嗣、  
 [信明(;名)通称]熊五郎/松五郎、法号;體孝院  
 妻 → 信明室(のぶあきらのしつ・津軽/松平、喜佐子/歌人) J 3 5 1 1
- 3587 信明(のぶあき・松平まつだいら、信礼男) 1763-181755 母;村雨忠武女の清見、三河吉田藩主;1770襲封、  
 従四下伊豆守/侍従、奏者番/側用人/1788老中;蝦夷地開拓、松平定信と將軍家齋を補助;  
 [小知恵伊豆こぢいず]と称される、国学/歌人:芝山持豊門、儒;大田錦城門、  
 「崇岳詩集」「松平信明歌稿」「信明公御自筆日記」、1797「九日之記」1800「夢の記」著、  
 1812中山美石うましに「後撰集新抄」作製を内命、  
 [信明(;名)の幼名/号]幼名;春之丞、号;崇岳、法号;瑞竜院、家名;大河内  
 松平信順(のぶのり)(吉田藩主継嗣)・本庄道貫(美濃高富藩主)・松平忠質(ただかた)の父
- 3588 信頭(のぶあき・足立あだち信頭、北谷琳筑男/足立伊右衛門養子) 1769-184577 幕臣;大阪鉄砲組同心、  
 暦学;麻田剛立門、寛政天保改暦参加、1813ロシア船通訳折衝/35天文方、ロシア語辞書翻訳、  
 「魯西亜国字反切音訳」1824「魯西亜学筈」訳、1811「彗星実測録」43「彗星出現記」著、  
 [信頭の字/通称/号] 字;子秀、通称;左内、号;溪隣
- G3589 信彰(のぶあき・片桐かたざり/本姓;源、通称;鉄五郎)?-? 江後期;歌人、旗本幕臣?、  
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
 [妻恋ふる鹿の音なくは山里に嵐吹く夜も袖はぬれじを](大江戸倭歌;秋765/鹿声幽)
- 信明(のぶあき・源) → 信明(さねあき・源、歌人) 2 0 3 1  
 信亨(のぶあき・松平) → 信亨(のぶつら・松平、藩主/歌・俳) C 3 5 2 1
- J3511 信明室(のぶあきらのしつ・津軽つがる、松平朝矩女) 1762-9130 江戸の生/弘前藩主津軽信明の正室、  
 名;喜佐姫/喜佐子さきこ、法号;瑤池院、漢学/歌人;成島衡山こうざん(勝雄)・東岳(司直もとなお)門
- K3553 信厚(のぶあつ・上田うへだ、) ? - ? 江前期;上方の歌人、  
 1670下河辺長流[林葉累塵集]入、  
 [棹鹿の夢野のすすきうつつにも霜にかれ行く冬はきにけり](林葉累塵;冬632/寒草)
- 3589 信篤(のぶあつ・山高やまたか誠之/字;子善、信順男) 1766-181853 名古屋藩御馬廻役/神影流兵法;父門、

大草流鎌術;尾崎勝安門/鈴流軍用;寛致門、1811「張藩武術師系録」編、首藤允仲まさなかの兄  
[信篤(;名)の通称] 孫左衛門/沢右衛門

- H3559 **信厚**(のぶあつ・小津おづ/旧姓;長井・大泉)?-? 江中・後期;伊勢松坂の商家/国学者、  
同族の本居宣長女的美濃(1773-1838/歌人/書家/1男2女を出産)と結婚  
[信厚(;名)の初名/通称]初名;尚明、通称;新七/嘉左衛門/新吾/勘右衛門  
妻 → 美濃(みの・小津おづ/本居、歌人) F 4 1 6 2
- 3590 **信温**(のぶあつ・武田たけだ、通称;蔵人/治部太夫、治兵衛男)1776-1824<sup>49</sup> 宇和島藩士;1783家督、  
若年寄、1813俚約令頭取;藩財政再建尽力/18京使者、1814「存路書」著
- H3516 **信敦**(のぶあつ・宮崎みやざき、信章のぶあき長男)1776-1861<sup>86</sup> 母;佐斐姫、筑後三潞郡蛭池村の神職;  
三島神社祠官、神道;宮崎信生のぶなり(三島社祠官)・萩原員幹門/歌;富士谷御杖・香川景樹門、  
従五位下/阿波守、久留米藩校明善館講師;古今・万葉を講義、船曳大枝の兄、  
門人多数;真木保臣・船曳大滋・鉄門かなと(共に大枝男)・大藪基足・有馬照長・井上近子の師、  
[信敦(;名)の別号/通称/号]初名;信墩、通称;阿波守、号;桃廼舎
- 3591 **信厚**(のぶあつ・矢野やの、通称、寺嶋弥平2男)?-1822 矢野伊六の養子/讃岐高松藩士;1815徒目付、  
「帰道訓」著  
[信厚(;名)の通称]健次/権左衛門/権七/又平
- J3515 **佃厚**(信厚のぶあつ・柘植つげ、)1789-1863<sup>75</sup> 筑後久留米藩士、国学;矢野一貞門/歌;通阿門、  
国学・歌;真木保臣/歌;大隈言道門、歌人、信春の父、  
[佃厚(;名)の通称/号]通称;万三郎/長蔵、号;七草園/一枝窩
- 3592 **信敦**(のぶあつ・下曾根/下曾禰しもそね、筒井政憲2男)1806-74<sup>69</sup> 下曾根小十郎信親の養子;幕臣;  
1829養父を継嗣;小普請組、/洋学;渡辺華山門/1841砲術方に入;高島秋帆門/  
高島流砲術指南/1855先手鉄砲頭/56講武所開設に伴い砲術師範兼任、  
1861諸大夫に列し甲斐守、1867陸軍所修行人教授方頭取;幕府の軍事改革に参画、  
1862「高嶋流砲皆伝書」、「和蘭伝製薬秘書」「経済辨」「下曾根上書」著、  
[信敦(;名)の通称/号]、通称;金三郎/武羅雄、号;桂園/威遠
- 3593 **信篤**(のぶあつ・土屋つちや、通称;武三郎)?-? 江後期和算家;谷松茂門、  
1843「奉備幽斎谷先生霊前」著
- 3594 **信篤**(のぶあつ・長谷ながたに、号;騰雲/梧園、高倉永雅男)1818-1902<sup>85</sup> 長谷信好の養子;廷臣、国学、  
安政勤王八十八廷臣の1/1855従三位、正三位参議/王政復古;議定に就任/京都府知事、  
貴族院議員/刑法事務総督/学習院学頭、妻;梓子(坊城俊政女)、長谷信成のぶなりの父、  
1863「長谷信篤日記」
- H3540 **信惇**(のぶあつ・今井いまい、通称;熊三郎/頼母)?-1860 江後期;信濃諏訪郡下諏訪神社祠官;武居祝、  
国学;服部菅雄門、信古のぶひさの父  
信篤(のぶあつ・林) → 鳳岡(ほうこう・林、幕府儒官/大学頭) 3 9 5 3  
信篤(のぶあつ・小栗) → 永言(ながこと・小栗おぐり/港崎可酔、国学/歌) K 3 2 2 8  
信篤(のぶあつ・堤) → 宣信(のりのぶ・堤つみ、医者/歌人) J 3 5 1 9  
信敦(のぶあつ・名倉) → 松窓(しょうそう・名倉、藩士/漢学/渡仏) K 2 2 5 9  
信厚(のぶあつ・井沢) → 榛軒(しんけん・井沢いざわ、蘭軒男/医者) O 2 2 1 5
- J3545 **信有**(のぶあり・南部なんぶ、賢信男)1702-35<sup>34</sup> 陸奥南部藩主重信の孫/遠野領主利戡(1712没)を嗣、  
1712(正徳2/11歳)遠野南部家26代領主、1719元服;南部弥六郎信有と改名、和学、  
1718(享保3)身延山日裕(久遠寺34世)の上人宣下慶事の使者を遣る、1735(享保20)病没、  
[信有(;名)の通称]通称;善之助(;初称)/若狭/弥六郎(;南部遠野家の代々の称)
- H3595 **信存**(のぶあり・唐川からかわ、旧姓;安田)1757-1820<sup>64</sup> 備中浅口郡占見村の唐川専蔵信陽の養嗣子、  
信陽女の婿養子、国学/歌;木下幸文たかみ門/歌;同郡里正の塚村直ただし門、忠三郎信邦の父、  
[信存(;名)の通称]順介
- 3595 **信有**(のぶあり・彦部ひべ、通称;数馬/五兵衛、号;槻廼舎、至輔男)1766-1832<sup>67</sup> 足利將軍旧臣家、  
上野山田郡広沢の機業/郷士、江戸で学問・歌;清水浜臣・立綱・橘守部門、歌文/能書家、  
子弟教育、染色研究;桐生絹業に貢献、知行ともゆきの父、  
「桐生の里ぶり」「信有家集」「寿守三鏡」「槻廼舎日記」著、

- 信有(のぶあり・中沢) → 親応(ちかまさ・中沢なかざわ、藩士/兵法家) B 2 8 8 3  
 信存(のぶあり・津田) → 東巖(とうがん・津田、藩士/儒者) C 3 1 3 4
- 3596 **信家**(のぶいえ・藤原、通称;山井大納言、関白教通男)1018/9-106144-43 母;藤原公任女、頼通の猶子、右近中将/1036権中納言/47権大納言/正二位、1061(康平4)出家:没、歌人;1027関白頼通歌合/49内裏歌合/51内裏根合/56寛子春秋歌合参加、正室;僊子内親王(小一条院女)、袋草紙に1051(永承6)内裏根合の時の逸話入、新勅撰465、兄弟;太政大臣信長/生子(後朱雀天皇女御)/歆子(後冷泉天皇皇后)、[つねよりも春ものどけき君が世にちらぬためしの花を見るかな](新勅:賀465)
- 3597 **信家**(のぶいえ・坊門ぼうもん/本姓;藤原、侍従長信男/大納言忠信の養子)?-1274 鎌倉期廷臣;侍従、右中将/肥前介/1260甲斐介/64(文永元)従三位非参議/69正三位/70左兵衛督、1273右兵衛督/74(文永11)没、歌人;1251(慶長3)後嵯峨院吹田十首歌会参加、1259後嵯峨院[正嘉三年北山行幸和歌]入、勅撰2首;続拾遺324/新後撰235、[長しとも何思ひけむ山鳥の尾のへにかかる秋の夜の月](続拾;秋324/吹田十首)
- 3598 **信氏**(のぶじ・藤原、能登守信友男)?-? 鎌倉後期の武人;長門守・右馬介、歌;続千載1062、[知られじな遠山鳥のよそにのみをのへ隔ててねをばなくとも](続千;恋1062)  
 信海(のぶみ・林) → 信海(のぶみ・林、萩廼舎、国学/歌人) D 3 5 3 5
- H3531 **信兄**(のぶえ・池田いけだ、通称;要人、守之助男)?-?寛政1789-1801頃没 備前岡山藩士、歌人 岡山藩中老池田要人(かなめ、俳人白翁/1709-87)との関係?  
 信恵(のぶえ・清家) → 信恵(しんえ・清家せいけ、国学者/歌人) V 2 2 1 0
- 3599 **宣条**(のぶえだ・伏原ふしはら、字;子条、宣通のぶみち男/本姓;清原)1720-9172 廷臣;桃山天皇侍読、1743(寛保3)明経博士、垂加神道;竹内式部門、少納言/1777(安永6)正二位、宣香の弟、「見聞私記」88「倭漢善行録」著、[宣条(;名)の号] 佩蘭/佩蘭堂主人
- B3500 **信雄**(のぶお/のぶかつ・織田おだ信意/具豊、信長男)1558-163073 母生駒家宗女/一時北畠具房養子、本能寺変後秀信を後見/秀吉臣、1585権大納言/87正二位内大臣/90転封拒絶;下野配流/出家、許され文禄役に相伴衆/関ヶ原で家康臣;5万石、茶道;叔父有楽門、1597「一楽庵之記」著、[信雄(;名)の通称/号] 通称;本御所、出家号;常眞
- J3500 **信生**(のぶお・竹内たけうち、信行男)1776-180934 伊予松山藩士/藩家老;2千石、久六家5代/歌人、[信生(;名)の別号/通称]別名;豊助/信易(のぶやす、通称 八九郎/久六きゅうろく(;代々の称)/久馬 ☆竹内久六家; 信重—信一—信重—信行—信易—信猶=信命=敦信—信金—信均—信倫
- H3593 **延絃**(のぶお・上司かみつかさ)1815-1909長寿95 大和奈良の神職;手向山神社社司、国学者、[延絃(;名)の別号/通称]初名;興丸おきまる、通称;安藝守
- H3528 **信夫**(のぶお・池内いけうち)1826-189166 伊予松山藩士、剣術に秀で藩の剣術監、国学者、維新後;旧藩主所蔵の能装束散逸防止に尽力/3男信嘉(のぶよしと養蚕業発展に尽力、高浜虚子の父、[信夫(;名)の別号/通称]初名;政忠、通称;鶴之丞/友次郎/莊四郎
- H3553 **宣雄**(のぶお・梅村うめむら)1827-190175 江戸の国学者/歌人
- I3545 **信夫**(のぶお・小室こむろ、左喜蔵男)1839-9860 丹後与謝郡岩滝村の豪農/宮津で縮緬商、国学者;平田鉄胤門、尊王運動に参加/1863(文久3)京で足利木像梟首事件に加担;1864(元治元)徳島藩預;68積放;徳島藩士、維新後;権弁事/1869上野岩鼻県権知事/70徳島県大参事/左院中議生/72少議官;左院視察団として英国立憲制度調査のため渡欧/1874板垣退助らと民撰議院設立建白書、実業界に転身;北海道運輸会社・共同運輸会社設立/91貴族院勅選議員、娘婿;小室信介、[信夫(;名)の別号/通称]別名;彰、通称;理喜蔵/信太夫
- 信夫(のぶお:通称・佐藤)→ 千英(ちぶさ・佐藤、神官/国学) F 2 8 2 9  
 信夫(のぶお:通称・岡島)→ 安斎(あんさい・岡島、儒者) D 1 0 1 1  
 信夫(のぶお・吉益) → 北洲(ほくしゅう・吉益よしまつ、医者) D 3 9 3 9  
 信夫(のぶお・樋口) → 碩果翁(せつかおう・樋口、藩士/国学/詩) E 2 4 0 9  
 信夫(のぶお・佐藤) → 千英(ちぶさ・佐藤さとう、神職/国学者) F 2 8 2 9

- 敷雄(のぶお・福田) → 敷雄(しきお・福田ふくだ/瀬木、歌文) P 2 1 9 8  
 暢夫(のぶお・高杉) → 晋作(しんさく・高杉たかすぎ、藩士/勤王家) E 2 2 3 1
- B3501 信興(のぶおき・松平まつだいら、家名;大河内、初名;治綱/基綱/信綱5男)1630-9162 母;井上正就女、  
 1641徳川家綱に出仕;小姓組番頭/側衆/1679若年寄/82奏者番、1682常陸土浦藩主、  
 1687大坂城代/90京都所司代、京に没、従四下/侍従・美濃守・因幡守、  
 「いやそや物語」「水府後楽園志」「常服具足着用記」著、輝綱てつなの弟、  
 歌;1691了然尼撰(茂睡編)[若むらさき]入、  
 [延宝さるのとし五月八日かなしみに読める、  
 なにとなく袖はぬれかり世の中の人のかずならねども]、  
 (若むらさき;116/延宝8[1680]庚申5月8日將軍家綱没)、  
 [信興(;名)の別名/通称/法号]別名;興衡、通称;三左衛門/采女、法号;天桂院
- B3502 信興(のぶおき・清野きよの、通称;伝右衛門/助右衛門、号;都山)1725-? 1780存 上州前橋藩士;和算家、  
 藩主転封;姫路住/1756中西流;房信門/清野流創、77「算学一覽記」78「清野流打量秘訣」著
- B3503 延興(のぶおき・上司かみつかさ、通称;安芸守、延夏男/本姓;紀)1756-182873 奈良八幡宮神主/従三位、  
 「延興古実拾説」「南都僧俗職服記」「飴馬記」著
- J3505 信興(のぶおき・武田たけだ/本姓;源、通称;惣右衛門、)1811-8777 出羽由利郡矢島の酒造業、  
 国学者;香川景樹に私淑、蔵書「武田信興文庫」あり
- H3537 信興(のぶおき・出雲寺いずもじ、通称;安藝守)1818-7558 京の神職;出雲寺定信の養嗣子、  
 下御霊しもごりょう神社社司/従四位上、歌人
- B3504 信興(のぶおき・伊藤いとう、通称;忠太郎)?-? 幕末期京の易学者/東寺住;算数玄機の学、  
 「本朝改曆来由録」「革命諸道勘文」「暦日儀解」
- B3505 信発(のぶおき・松平まつだいら/のち吉井、松平維賢3男)1824-9067 上州矢田藩主松平信任の養嗣子、  
 1847遺領相続/えどで文武修行;兵学精通、1859幕府と水戸藩の斡旋/65致仕、  
 正四位左兵衛督/侍従、1859「礪川奉使筆記」、「要門琴辞綱目覚書」著、維新後;吉井姓、  
 [信発(;名)の幼名/初名/号]幼名;信名/哲丸/和之助、初名;信和、号;旭山/三猿/子交、  
 法号;英明院
- J3531 信起(のぶおき・内藤ないとう/本姓;藤原、)1825-7046 甲斐御嶽山の神道家・国学者;平田鍊胤門、  
 内藤存守(巨摩郡御嶽山金桜かなざくら神社祠官/歌人)の兄、  
 [信起(;名)の通称]主税ちから/筑波
- H3510 信興(のぶおき・赤林あかばやし、)1833-8250 尾張海東郡の尾張藩士/国学/歌人  
 調興(のぶおき・柳川) → 調興(しげおき・柳川、藩士/外交/歌人) Q 2 1 7 0  
 信興(のぶおき・白井) → 鳥酔(ちようすい・白井しらい、俳人) 2 8 2 4  
 信興(のぶおき・増島) → 澧水(れいすい・増島/増嶋ますじま/平、幕臣/儒者) 5 1 4 2  
 信興(のぶおき・山高) → 信壽(のぶひさ・山高やまたか、藩士/国学者) K 3 5 3 0
- K3564 信臣(のぶおみ・藤原ふじわら、正文[?-907]男)?-? 平安前期;廷臣/北家良門流、母;多治比の女、  
 従五上or従四下/紀伊介、経臣の兄、  
 歌人?;袋草紙に拾遺集に信臣のぶひろ(現存拾遺には無し/他本に信臣・経臣名あり)
- H3573 信臣(のぶおみ・大鳥居おおとりい、真木旋臣男)1817-6246 筑後下妻郡水田村の水田天神社祠官、  
 勤王家真木保臣(1813-64)の弟、謹慎中の保臣が一時蟄居滞在、  
 [信臣(;名)の通称/号]通称;理兵衛/啓太郎、号;平石
- J3566 信臣(のぶおみ・林はやし、旧姓;岩田)1847-190660 武蔵入間郡赤尾村の名主林信徒のぶただの養嗣子、  
 国学者;養父門、  
 [信臣(;名)の通称]亀寿/半三郎(林家代々の称)  
 信臣(のぶおみ・津田) → 東巖(とうがん・津田、藩士/儒者) C 3 1 3 4  
 信臣(のぶおみ・小島) → 将満(まさみつ・小島こじま、相良総三/赤報隊) P 4 0 6 0
- B3506 宣香(のぶか・伏原ふしはら、宣通男)1703-3331早世 明経博士/少納言/正四位下、  
 「伏原少納言殿職原要略」著、宣条の兄、
- B3507 延香(のぶか・田中たなか、通称;眞太郎/九左衛門)?-1845 撰津豊島郡の国学者;  
 本居大平/富樫広蔭門/歌人、1844「古言梯拾遺」、「法曹至要鈔正誤」著  
 信香(のぶか・多賀たが/狩野) → 一蝶(初世いちちょう・英はなぶさ、絵師) C 1 1 0 8

- 信香(のぶか・根岸) → 武香(たけか・根岸ねざし、国学者) O 2 6 3 0
- B3508 信景(のぶかげ・佐藤さとう、元庵男) 1674-1732噴火死 59歳 羽後雄勝郡の殖産家、地質地相の研究、各地に鉱山を開く/元禄1666-1704頃蝦夷地調査;著書「開国新書」を松前侯に献呈;国禁に触れるを恐れ1701追放処分を受/「山相秘録」、1724「土性辨」著、1732阿仁鉱山で噴火に遭遇;没、信季のぶすえの父/信淵のぶひろの祖父  
[信景(;)名)の字/通称/号]字;元伯、通称;甚太郎、号;不味軒
- I3565 信影(のぶかげ・桜井さくらい)? - ? 江後期遠江榛原郡地頭方村(御前崎)の駒形神社神主、国学・歌;栗田士満(1737-1811)・平田篤胤(1776-1843)・本居春庭(1763-1828)門、  
[信影(;)名)の通称/号]通称;潤輔/順助/連、号;睡鷗
- 延景(のぶかげ・朝倉) → 義景(よしかげ・朝倉あさくら、武将/歌人) C 4 7 4 4
- 信景(のぶかげ・天野) → 信景(さだかげ・天野、国学) 2 0 1 8
- 信景(のぶかげ・遠山/北条) → 国隆(くにたか・福島くしま、幕臣/軍学) C 1 7 8 1
- B3509 信量(のぶかず・大炊御門おおいみかど信氏、深草右大臣、三条実量男/信宗猶子) 1442-8746 1483右大臣/従三位/歌;1482将軍家歌合参;前内大臣名、連歌:85和漢聯句、新菟玖波入
- B3510 陳員(のぶかず・小野おの、小野言員の養嗣子)?-? 江戸前期水戸の歌人、言員家集「冷笑集」編;光圀の命
- K3501 信一(のぶかず・松田まつだ、通称;市右衛門)?-1827 江中後期;武蔵埼玉郡の国学者;平田篤胤門
- J3585 惟一(のぶかず/ただいち・平川ひらかわ、肥後細川藩士の文助男) 1849-1877戦死29 肥後熊本藩士/国学者 撃剣柔術;山東彌平太門;二天一流剣術・楊心流柔術を修得/藩校時習館に修学;敬神党入 維新後;藩命で佐賀に遊学、中江兆民の民約論に傾倒、藩命で伏見の屯営入、1874佐賀乱後に台湾出征;負傷し帰国/変則第五番中学校の創立に関与;校長、自由民権を主唱、西南戦争で熊本協同隊総隊長として薩軍を支援;1877車坂で戦死  
[通称]覚次郎
- 言員(のぶかず・小野) → 言員(ことかず/ときかず・小野、藩士/歌人) D 1 9 4 4
- J3525 信風(のぶかぜ・土岐とき、旧姓;齋藤) 1803-8381 出羽田川郡の国学者、学問;八幡清名門、国学;平田篤胤門、  
[信風(;)通称)の名/号]名;政治まさはる/真方彦、号;岐戸舎
- I3513 信風(のぶかぜ・木村きむら、信競のぶかつ長男) 1839-59早世21 伊予松山出淵町の商家;布屋の生、鯨夫・千根の兄、国学・歌;三輪田元綱門、  
[信風(;)名)の通称]鹿之助
- 信風(のぶかぜ・春日) → 易重(やすしげ・春日かすが/藤原、神職/国学) F 4 5 7 6
- 宣風(のぶかぜ・高井/久保) → 宣風(のりかぜ・高井/久保、国学/歌人) B 3 5 1 1
- B3513 信賢(のぶかた・藤原ふじわら)? - ? 平安中期廷臣;左兵衛佐/五位、歌人:966「子日の会」入、997重陽節会作文の序、拾遺289、  
[めづらしき千世の始はじめの子日ねひにはまづ今日けふをこそ引くべかりけれ]、(拾遺;賀289/康保三966年内裏の子日に殿上の男の詠歌に)  
「道信集」の右近中将信賢と同一?、藤原惟賢[伊尹男]と同一?
- B3514 宣方(のぶかた・藤原、資能すけよし男)?-? 鎌倉後期廷臣/歌人・1310従三位/11出家、能書、1298「東征絵伝」書、玉葉2022、  
[秋はつるひたのかけ縄ひきすてて残るたのものいほのさびしさ](玉葉;雑2022、田家の心/引板ひた;鳴子/掛縄;鳴子を引く綱/稲の無い晩秋の田のわびしさ)
- B3515 信賢(のぶかた・花山院かざいん、師賢男/本姓藤原)?-?1362頃没 南朝廷臣;大納言/歌:新葉集1277、  
[かべのうへにおふなる草の名にきくも今いるまでの露のやどりぞ](新葉;雑1277)
- B3516 信方(のぶかた・町野まの/本姓三善みよし)?-? 室町幕府奉行人/歌;1367新玉津社歌合参、新拾1076  
[とはれぬもうき身のとがと思ふこそせめてもしたふ心なりけり](新拾遺十二恋;1277)
- B3517 宣方(のぶかた・中御門なかみかど、経兼男/本姓藤原/宣明養子) 1350-9344 廷臣;1376参議/88権中納言、1390出家、「宸筆御八講記」/1370「光厳院七回聖忌宸筆御八講記」著
- 3505 宣賢(のぶかた・清原きよはら、船橋[舟橋]、卜部[吉田]兼俱3男) 1475-155076 清原宗賢の養嗣子、漢学者/正三位・侍従、明経博士清原家の当主;漢学;養父宗賢門/古典;三条西実隆門、注釈書の作成/研究書の書写/辞書の編纂/抄物の作成/講義など当主として業績残す、

学問分野は漢学(経学)の外に和学・神道など多方面、  
「論語」「毛詩」等校合、「伊勢惟清抄」「環翠軒抄出」「塵芥」「宣賢卿字書」「詞源要略」外著多、  
[宣賢(；名)の号]号；環翠軒、宗尤かんゆう(；出家後)、法号；後浄居院

- K3529 **信賢**(のぶかた・山高やまたか、信吉男) 1656-1713 58 江戸の幕臣；1677(延宝5)家督を嗣；1679大番、  
1694御小納戸/97(元禄10)將軍綱吉養女八重姫の用人；千石加増/布衣許可、和学/歌人、  
1708千八百石知行、国学者/敬神の念篤く氏神甲斐山高幸燈宮を崇敬；1712自詠百首奉納、  
「唐土大明神旧書記」著、  
[信賢(；名)の通称]伝助/三左衛門/新左衛門/八左衛門、法名；走夢、信礼のふいの父
- B3518 **延賢**(のぶかた・藤本/黒瀬賢弘、黒瀬益弘男/藤本延香養子) 1676-1753 78 伊勢外宮禰宜/副御塩焼、  
「延賢著述」「度会神主備忘録」「数祓鈔」「古語拾遺塗説」「三社託宣鈔」「本朝弓矢弁」著、  
[延賢(；名)の通称]辰之助/八之丞、
- B3519 **信方**(のぶかた・林やはし、別名；信富、信亮男) 1733-96 64歳 幕府儒官/小普請、  
「朝鮮通信総録拾遺」編/「好述略譜」補/「国朝追遠録」著  
[信方(；名)の通称/号]通称；鍊三郎/式部/又右衛門、号；観山
- B3520 **宣方**(のぶかた・庵原いはら、通称；弥六) ?-1786 幕臣/御普請役；1785蝦夷樺太検分・宗谷帰着没、  
1786「蝦夷拾遺」著
- B3521 **信賢**(のぶかた・佐藤さとう、通称；正太夫、大井益安男) 1746-1811 66 佐藤信盈の養嗣子、仙台の植林家、  
藩内の植樹を推進/藩士の屋敷に茶の木栽培を奨励、1795「茶述」校
- B3522 **信片**(のぶかた・前田まただ、通称；刑部、信成のぶなり男) ?-? 江後期加賀大聖寺藩士、  
1825父の遺稿「太一遺稿」校
- G3581 **延方**(のぶかた・鈴木すずき、通称；規八郎) ?-? 江後期；歌人、幕臣？、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[岩根踏みけふもたづねん足引の山ほととぎす聞かぬ限りは](大江戸倭歌；夏431)

信賢(のぶかた・安藤) → 冠里(かんり・安藤あんど、藩主/老中/俳) E 1 5 2 0  
 信賢(のぶかた・熊谷) → 直好(なおよし・熊谷くまがい、藩士/歌人) 3 2 0 4  
 信賢(のぶかた・松平) → 信亨(のぶつら・松平、藩主/歌・俳) C 3 5 2 1  
 信名(のぶかた・今井) → 八九郎(はちくろう・今井いまい、藩士/蝦夷測量) E 3 6 8 3  
 信方(のぶかた・丹羽) → 雅晃(がちょう・丹羽にわ、俳人) N 1 5 1 7  
 信方(のぶかた・片桐) → 宗猿(そうえん・片桐かたぎり、旗本/茶道) G 2 5 3 5  
 宣賢(のぶかた・高島) → 饒石(にぎし・並河なみかわ/高島、国学/歌) H 3 3 1 4  
 延賢(のぶかた・平沼) → 晋(すすむ・平沼ひらぬま、藩士/詩・書) D 2 3 8 1  
 延賢(のぶかた・津野) → 芳州(ほうしゅう・津野つ、商家/儒者) G 3 9 2 8

- B3523 **宣勝**(のぶかつ・岡部おかべ、通称；左京/号；可堅、長盛男) 1597-1668 72 美濃守/1632大垣藩主、  
竜野・高槻に転封、1640和泉岸和田藩主/61致仕、儒；1629「顕徳論」著
- B3524 **信勝**(のぶかつ・上月こうづき、専庵男) ?-? 江中期宝暦-安永1751-81頃撰津の医者、  
1762「物産録」編
- I3510 **信兢**(のぶかつ/のぶたか・木村きむら、) 1809-77 69 伊予松山出淵町の商家；布屋/富豪；大木村の尊称、  
若年に上京；歌道・国学；香川景樹門、近藤芳樹・大国隆正を招き国学を奨励；人材教育、  
維新後に神職；大山祇神社宮司、信章の兄/信風・鯨夫いさお(庸)・千根ちねの父、  
「藤古呂毛ふじごろう」「直目霊」「道廻技折」「七ヶ条鏡草」「身滌規制」「唯一辨」「幽府神祭略」著、  
[信兢(；名)の通称/号]名；、通称；五郎右兵衛/元五郎/治兵衛、  
号；信乎/信翁/信天/己巳翁きしおう

信雄(のぶかつ・織田) → 信雄(のぶお/のぶかつ・織田おだ、武将/茶人) B 3 5 0 0  
 信勝(のぶかつ・林) → 羅山(らざん・林はやし、幕府儒官祖；幕政) 4 8 0 2  
 信勝(のぶかつ・鶴飼) → 鍊斎(れんさい・鶴飼うかい、儒；彰考館総裁) B 5 1 0 6  
 信勝(のぶかつ・藤原) → 出羽掾(でわのじょう・伊藤、浄瑠璃太夫) D 3 0 0 8  
 信勝(のぶかつ・英) → 一蝶(いちちょう・英はなぶさ、絵師) H 1 1 6 0  
 宣勝(のぶかつ・外山) → 光顕(みつあき・外山とやま/藤原/日野、権大納言/歌) J 4 1 8 2  
 信圭(のぶかた・佐藤) → 泰然(たいぜん・佐藤、医者) K 2 6 4 8  
 信門(のぶかた・上倉) → 老梅(らうばい・上倉かみくら、幕臣/歌人) 5 2 4 4

- B3525 **宣兼**(のぶかね・藤原ふじわら、忠兼男)?-? 平安後期廷臣;待賢門院藏人、歌;1149家成歌合参加
- B3526 **信兼**(のぶかね・藤原ふじわら) ? - ? 鎌倉後期廷臣;五位能登守、歌:玉葉2517、[ふりはつる老の寢覚の涙にぞ身をしる袖はぬれまさりける](玉葉;雑2517)
- B3527 **信兼**(のぶかね・白石しらい、別名;良治)?-? 江後期仙台の暦算家:藤広則門、1807「奥北地理分見略記」著
- I3544 **信周**(のぶかね・小松こまつ、) 1799-1868 70 讃岐高松の国学者/歌;友部方秀まさひで門、[信周(;名)の通称]乃太夫/乃七郎
- G3595 **信樹**(のぶき・安部あべ/本姓;安倍、通称;本次郎)?-? 江後期;歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、[むす苔の色さへ見えず紅葉こうえふの散りて積れる岨そはのかけはし]、(大江戸倭歌;冬1104/橋落葉)
- J3506 **信城**(のぶき・武田たけだ、通称;郡左衛門) 1829-1900 72 淡路洲本藩士、国学・歌;大国隆正門「親愛六々和歌集」編  
延君のぶさみ・今出川 → 美賀子(みかこ・徳川/一条/今出川、将軍室/歌人) J 4 1 8 6
- B3528 **信清**(のぶきよ・中臣なかとみ/家名;大東、助満の長男) 974-1052 79歳 春日社神官;990春日社権預、1038正預、「春日社古社記」著
- B3529 **宣清**(のぶきよ・大江おおえ) ? - ? 連歌:1356成立「菟玖波集」1句入
- B3530 **叙清**(信清のぶきよ・川島かわしま)?- ? 江中期宝永-享保1704-36頃京の絵師:浮草子挿絵、江島屋側の絵師、1712「商人軍配団あきんどぐんばいうちわ」15「それぞれ草」17「遊色置時計」画、1727歌集「佐遊李葉さゆりば」画
- B3531 **延清**(のぶきよ・下井しむい/志茂井しむい)?-? 江中期伊勢度会神職、1711「出雲小縁起」著
- B3532 **信清**(のぶきよ・杉本すぎもと、通称;軍之丞/徳左衛門、号;沖庵ちゅうあん) 1740-1801 62 因幡若桜藩士、儒者:「周易説」著
- B3533 **信精**(のぶきよ・田中たなか) 1761 - ? 1836存 近江彦根藩士/儒者、詩歌;「艸中塵芥拾遺」著、[信精(名;)の字/通称/号]字;秀実/通称与右衛門、号;柿木舎/武志磨/激明とんめい
- B3534 **信精**(のぶきよ・北村きたむら、通称;孫四郎、号;よよ丸) 1764-1833 70 出羽(羽前)米沢藩士、国学;本居大平門、歌人、「寒造弁」著、藤田浪緒なみお/泉崎眞畔まくろの師
- J3543 **信粹**(のぶきよ・並木なみき、) 1785-1852 68 信濃佐久郡野沢の豪商/国学者/歌人、国学・歌;前田夏蔭・香川景樹門、妻;磯野周子しゅうこ(芳薫/歌人)、1825岩村田藩主内藤豊後守が大阪より淀鯉を持帰り信粹に与え養殖;佐久の名産となる、[信粹(;名)の字/通称/号]字;純夫、通称;七左衛門、号;万梅/梅の舎
- B3535 **信清**(のぶきよ・三宮さんのみや/通称;与七)?-? 江後期越後和算:村山保信門、1863「通機算法」校
- B3536 **延清**(のぶきよ・高野、号;士道)?- ? 江後期佐渡文学者、「孝子与三兵衛伝」著
- J3533 **宣清**(のぶきよ・中井なかい、) 1824-1895 72 伊予宇和郡の歌人、中井重清の一族?
- J3547 **信清**(のぶきよ・仁科にしな、旧姓;佐藤)?-? 江後期;陸奥信夫郡の福島藩士、国学者・歌人;海上胤平(1829-1916)門、のち稻荷神社祠官/尾張住、信夫山公園愛宕山に歌碑あり、[信清(;名)の通称]忠兵衛/平三郎  
信清(2世のぶきよ・小川、柳枝軒) → 多左衛門(2世たざえもん・小川、書肆) E 2 6 5 8  
信清(のぶきよ・安部) → 正清(まさきよ・井上/安部、幕臣/砲術) C 4 0 3 4  
宣清(のぶきよ・花輪) → 伝兵衛(でんべえ・花輪はなわ、和算家) E 3 0 2 2  
延清(のぶきよ・大原) → 武明(たけあき・大原おおはら、儒者) O 2 6 2 1  
延清(のぶきよ・内海) → 克清(かつきよ・内海うつみ/田村/中臣、国学) T 1 5 7 8  
誠清(のぶきよ・雨森) → 芳洲(ほうしゅう・雨森あめのもり、朝鮮外交/詩文) 3 9 5 6
- H3558 **信邦**(のぶくに・小川おがわ、通称;靱負) 1832-? 伊豆田方郡角野村子神社神主、国学・神道;平田鉄胤・権田直助門
- J3520 **円子**(のぶこ・堤つみ、藩士・井上本固女)?-1707 讃岐丸亀の歌人;井上通女つうじょ(1660-1738)の妹
- B3537 **暢子**(のぶこ・前田まえだ、別名;斐あや/操/偕/暢、加賀藩主前田吉徳女) 1740-98 59歳 母;夏(寿清院)、1750二条宗基と婚約;54死別/56(宝暦6)播磨姫路藩主酒井恭嫡男の忠宜と婚約/59結婚、1761忠宜と死別;離縁/83剃髪、歌人:有栖川職仁親王門、

- 1770「大応院殿二十五回御忌御追福追善和歌百首」献詠施主、  
 (大応院は兄の加賀6代藩主前田宗辰むねとき)、  
 [暢子(;名)の号/法号]号;祐仙院、法号;祐仙院円明保智大禪定尼
- B3538 年子(のぶこ・伊達だて、淳君、広幡長忠女) 1745?-1805 61 京生/1760仙台藩主伊達重村妻;  
 1796.4月夫重村・7月息斉村なりむらと死別、1796孫政千代(周宗ちかむね、生後7ヶ月)を仙台藩主、  
 重臣と相談し藩政に参画、赤子養育所設置;間引の防止、歌人;「淳君様御詠歌」著
- B3539 薫子(のぶこ・近衛このえ、円台院、有栖川宮職仁親王の女) 1759-1841 83 1776(18歳)近衛経熙と結婚、  
 1799(41歳)夫と死別;剃髪、1789-1841「円台院殿日記」著
- G3580 信子(のぶこ・細井ほそい) ? - ? 江後期;歌人、  
 歌;1858蜂屋光世「大江戸和歌集」入(信女名)、1860鋤柄助之「現存百人一首」入(信子名)、  
 [桜咲く山わけ衣匂はずは雲の中ゆく心地こそせめ](大江戸和歌;春240)、  
 [けしきある雪見むためと植ゑ置きし垣根の松もうづもれにけり](現存百人一首;56)
- J3577 陳子(のぶこ・氷室ひむろ、氷室種長女) 1798-1867 70 松井豊長(のち氷室長翁ながとし)と結婚;婿とす、  
 夫は尾張津島社神主を継嗣、歌;夫長翁(香川景樹門)門、長峰(早世)・松井宝喬の母、  
 養子;千秋泰長やすなが(長女の婿)、法号;豊仙院、  
 1848夫と吉野の花見;夫著の「芳野日記」に入、  
 [のどけさのこゝろや枝にあまるらんひとりちりくる山ざくらかな](芳野日記)  
 [心なく流るゝ水に行く春をちりて告けたる山吹の花](辞世)
- J3597 延子(のぶこ・前田まねだ、久美姫、広島藩8代藩主浅野斉賢なりかたの女) 1804-88 85 江戸の生、  
 越中富山藩主前田利保の正室/5男5女出産、歌人、  
 [延子(;名)の通称]宝寿夫人
- H3557 舒子(のぶこ・小笠原おがさわら、稲垣定淳女) ?-1865 近江山上藩主の娘、信濃伊豆木小笠原長厚の室、  
 歌人;小笠原三千子(義母)門、長裕ながたのの母
- J3579 信子(のぶこ・東久世ひがしぐぜ、柳沢信貞女) 1813-95 83 参議東久世通徳(1816-35/早世20歳)の妻、  
 通禱みちとみ(1834-1912)の母、歌人、  
 [信子(;名)の初名/号]初名;賢子、号;蓮生院
- J3560 能子(のぶこ・よしこ・橋本はしもと、初名;陳子、旧姓;東儀) 1820-49 30 京の歌人
- K3516 延子(のぶこ・毛利もうり、都美姫、萩12代藩主毛利斉広なりひろ長女) 1833-1913 81 母;側室(本多家)、  
 江戸生/国学・歌人、1847(弘化4)長州萩藩13代藩主毛利敬親たかちか/よしちか(1819-71)の正室、  
 1850万世姫出産(夭折)/1857徳山藩の元徳を長州藩世子とす、1863江戸より山口居館に入、  
 幕末の長州は激動の渦となり藩主正室として銃後を守る、維新後;1869夫は隠居、  
 1900夫没;剃髪し[妙好]と称す、1913(大正2)没、  
 [延子(;名)の別号/号]別号;都美子とみこ/偕姫/幸姫、落飾号;妙好、戒名;浄華院
- 延子(のぶこ・高林) → 延女(のぶじよ・高林たかばやし、歌人) G 3 5 9 9  
 遵子(のぶこ・藤原) → 遵子(じゆんし/のぶこ・藤原、円融天皇皇后) J 2 1 8 0
- B3540 禹言(のぶこと・植村うへむら、別号;禹玄、字;之兪、号;琶山はざん) ?-1782 大和添下郡匹田村の地誌家、  
 紀行文、木村兼葭堂けんかどうと交流、  
 1749「己巳紀行」50「庚午紀行」75「乙未紀行」56「丙子紀行」著、  
 「志摩紀伊志」「廣大和名勝志」著
- B3541 信言(のぶこと・荷田かだ/羽倉、初名;士行、信郷のぶさと3男) 1768-90 早世 23歳 神職;巖垣益厚門、  
 「一日詠百首詩」著(没後1791刊)、  
 [信言(;名)の通称/号]通称;常陸介、号;青楓、諡号;錦推  
 延子内親王(のぶこないしんのう/えんしー) → 延明門院(えんめいもんいん、伏見皇女) F 1 3 3 8
- I3520 信維(のぶこれ・北原きたはら、) 1758-1820 63 信濃伊那郡座光村の郷土、国学者・歌人、  
 国学者;座光寺通祇(為礮ためかた)門、妻;市岡いさ(歌人)、因信よしのぶの父、  
 座光寺の自邸に寺子屋を開設;信維・因信・稲雄・信綱と4代続く;門弟多数、  
 [信維(;名)の通称/号]通称;小五郎/林蔵、号;鳳佐
- K3563 信貞(のぶさだ・播磨はりま、) 1058-1097 40 平安中期廷臣(官人);藤原師通の隨身、  
 のち白河院の隨身、府生(六衛府役人)、競馬に頻繁に出場、

舞人の名手(下毛野武忠ただと並称);  
袋草紙;公実(1053-1107)の長能・道済の歌に喩える逸話

- B3542 **信定**(のぶさだ・源みなもと、有雅男)?-? 鎌倉期廷臣;讃岐守、慈円歌合を清書、  
歌人;1215九条道家百首参加、新勅撰1034、  
[やどからぞ梅むの立ち枝えもとはれけるあるじも知らずなににはほふらむ]  
(新勅;雑1034/道家百首歌;庭梅)、  
☆1193六百番歌合の信定は慈円の変名→ 慈円(じえん、道快) 2 1 0 4
- B3543 **信定**(のぶさだ・藤原、信隆男) 1144-1211 68 鎌倉前期廷臣;左京大夫/1211出家、  
詩;1205元久詩歌合左方参加
- B3544 **信定**(のぶさだ・小笠原/通称孫次郎、民部大輔、長棟ながむね男)?-1569 討死 信濃の武将;松尾城主、  
故実家、1569桂川合戦で討死、1539「小笠原鎧伝記」、「具足着始時大事並鎧着初次第」著
- H3511 **延貞**(のぶさだ・明星あかばし、延昌男) 1627-1691 65歳 伊勢桑名の商人、父と共に伊予松山に移住、  
1655;家督嗣;大年寄、掛屋(金融業)、歌人;飛鳥井雅章門、俳諧を能くす、  
[延貞(;名)の通称/号]通称;源左衛門、号;探月庵/雲林閣/雲林亭/真月堂/清琴軒/君山
- B3545 **延貞**(のぶさだ・河崎かわさき、延利男/本姓;度会わたらい) 1634-1709 76歳 伊勢山田の生/外宮権禰宜、  
医者;神宮医、書/古学に通ず、斎館式撰定/「神拝式」制定、  
伊勢両宮争論時に二宮一光之理を主張、河崎延治のぶひろ/久志本常彰つねあきらの父、  
1658「内宮炎上記」「寛文外宮遷宮記」/1671「神境雑話」1700「神境紀談」編、  
「蟄居紀談」著(息常彰刊行)、  
[延貞(;名)の通称/号]通称;半左衛門/凶書/内膳/勘解由、号;清窩/三余堂
- H3503 **信貞**(のぶさだ・安部あべ、春貞はるさだ男) 1657-1722 66 長門萩藩士;御伽役、  
[信貞(;名)の幼名/通称]幼名;岩松丸、通称;左兵衛/左兵衛佐さひょうえのすけ
- B3546 **信貞**(のぶさだ・豊田とよだ) ? - ? 江前期儒者;闇齋門、1715刊「王学辯集」著
- B3547 **信貞**(のぶさだ・馬場ばば、字;道与/道誉、通称;勘右衛門)?-? 江前期甲州流兵法家、  
「甲陽軍理」、1779「弘法大師筆道根元秘事集」、「甲陽軍鑑管見抄」著
- H3567 **延貞**(のぶさだ・大路おおじ、) ? - ? 享和1801-04頃没 京の白川殿内人、国学;本居宣長門/  
1802(享和元)夏京都四条で開講の本居宣長の講釈に参加:「磯の波」の序文執筆を依頼、  
歌学・茶・書画に通ず、  
[延貞(;名)の通称]次郎右衛門/信濃
- H3550 **信定**(のぶさだ・内池うちいけ、通称;与治右衛門) 1749-1822 74 陸奥仙台の歌人;内池長宜ながよし門
- I3536 **信貞**(のぶさだ・小池こいけ、) 1763-1790 早世 28 近江彦根藩士、国学/歌人;大菅圭けい(中養父)門、  
歌;[彦根歌人伝;続寿]入  
[信貞(;名)の字/通称]字;君秀、通称;文吾
- B3548 **信处**(のぶさだ・森もり、変姓;清原) 1791-1862 72 筑前福岡藩士/国学;青柳種信門、  
儒;井土学圃門、和漢典籍の書写/歌を嗜む、「浪華記聞」著(大塩の乱記録)、変名;清原辰信  
[信处(;名)の通称/号]通称;安吉/安平、号;春畦しゅんけい
- B3549 **信貞**(のぶさだ・吉成よしなり、字;履善/通称;又右衛門、号;慎亭/南園、信友男) 1797-1850 54 水戸藩士、  
1821家督、1830郡奉行/40格式先手同心頭列/秋成新田開拓、  
1844幕府に対し藩主斉昭の宥免嘆願に奔走;藩より罰せられ1846(弘化3)蟄居、49赦免、  
武術家(剣/槍/銃/射術)、「吉成又右衛門嘆願書」「嘆願始末」「登愛宕山記」「禁錮中雑録」著、  
「慎亭封事」「方九漫作草」著、「南園遺稿」
- B3550 **信定**(のぶさだ・和田わだ、号;未学堂/築洲)?-? 江後期故実家;供応食作法、1820「臨時客応接」著
- B3551 **延貞**(のぶさだ・根岸ねがし、通称;新兵衛、屋号;多田屋)?-? 江後期江戸国学;平田篤胤門、  
佐藤信淵と交流、1820刊「天満宮御会記略」編
- B3552 **宜貞**(のぶさだ・栗田くりた) ? - ? 1837 存 江後期江戸麻布住の幕臣;御数寄屋勤務、  
和算家;日下誠門、1837「算法地方大成斥非問答」著;発禁、  
「精要下之論」「関流伝書目録」「側円原解集」著、  
[宜貞(;名)の通称/号] 通称;彦左衛門/彦之助/彦之進、号;城南隠居/凶南
- B3553 **信定**(のぶさだ・大竹おおたけ/本姓;源、通称;千之助、信高男)?-? 江後期幕臣、「壺袖考」著、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、

[鳴く鹿をあはれと聞くは老いにけりともしせしよも有りこしものを]、  
(大江戸倭歌;秋762/鹿)

- I3580 **信貞**(のぶさだ・清家せいけ、通称;吉左衛門)1819-9072 伊予宇和郡の国学者/歌人  
信貞(のぶさだ・二宮小次郎) → 道阿(どうあ;沙弥、早歌) S 3 1 6 1  
信貞(のぶさだ・南部) → 利雄(としかつ・南部なんぶ、藩主/風流人) M 3 1 2 6  
信貞(のぶさだ・津田) → 閑斎(かんさい・津田つだ、儒者) Q 1 5 5 1  
信恬(のぶさだ・伊沢) → 蘭軒(らんけん・伊沢いさわ、藩医/詩人) B 4 8 9 3  
宣定(のぶさだ・烏丸) → 宣定(のりさだ・烏丸からすまる、廷臣/日記) E 3 5 5 2
- B3554 **信郷**(のぶさと・荷田かた/羽倉はくら、羽倉信満男)1739-180062 荷田信名のぶなの養嗣子、  
京の神職/山城紀伊郡伏見稻荷社祠官、信言のぶことの父、  
歌;小沢蘆庵門、国学/儒;竜草蘆門/詩文、  
「国事八論」「崇国一家言」/1771「稻荷山12景記」/73「詠百首和歌」著  
[信郷(;名)の字/号/通称]字;子晟、号;三峰/松圃/東圃/間斎、通称;筑前守/撰津守
- H3574 **恂郷**(のぶさと・大藤おおふじ、)1772-184675 安藝広島藩士;普請奉行、歌人;江田居中やすな門、  
金子霜山そうざんと共に「芸備孝義伝」の編集に従事、  
[恂郷(;名)の通称/号]通称;源七郎、号;一泉
- H3570 **信郷**(のぶさと・大館おおだち、信庸男)1776-182651 母;民、尾張海東郡の国学者;本居宣長門(母同門)、  
[信郷(;名)の別名/字/通称/号]別名;豊長/重臣、字;子良、通称;吉郎次/佐右衛門、  
号;海東/石窓
- I3581 **信郷**(のぶさと・清家せいけ、)1820-189172 伊予宇和郡の製臘製茶業、国学/歌人、  
[信郷(;名)の通称/号]通称;儀平/林八郎、号;睦雲洞
- B3555 **信郷**(のぶさと・本居もとおり、高尾たかお田作男)1824-190077 母;本居宣長孫の牛、本居有郷の養子、  
伊勢四日市の生;国者者/伊勢松阪の紀伊和歌山藩校国学所教導、船江白枝神社祠官、  
茶道・造園に通ず、歌人;「信郷詠草」、「祝詞文例」、「本居信郷書簡」「本居氏系譜」著、  
[信郷(;名)の初名/通称/号]初名;健亭、通称;玖之助/九兵衛、号;宗朝、法号;了安居士
- 伸郷(のぶさと・秋山) → 寒緑(かんろく・秋山あきやま、藩士/儒者) R 1 5 9 1
- 3506 **信実**(のぶさね・藤原ふじわら、隆実、法名;寂西、隆信男)1177?-?(1266存)母;藤原長重女、鎌倉期廷臣;  
左京大夫/中務大輔/備後守、歌人;1200正治後(二度)百首/15(建保3)内裏歌合参加、  
1232洞院7撰政家百首/42道助法親王五十首参加、48宝治百首詠、  
1253為家勸進[定家13回忌追善詩歌](歌)参(寂西名)/61頃[弘長百首]出詠、  
「閑窓撰歌合」編/「新撰六帖題和歌」「信実朝臣集」、「今物語」著?、  
万代集・御裳濯・檜葉・雲葉集(7首)入、菟玖波入、猷円の弟/隆範・順徳院兵衛内侍らの兄弟、  
勅撰132首;新勅撰(10首110/203/248/334以下)続後撰(17首126148以下)続古(28首)以下、  
絵師;父門、「紫式部日記絵巻」「北野天神縁起絵巻」「三十六歌仙絵巻」、「小柴垣草紙」、  
「騎馬図」「青馬之図」「絵師草紙」「柿本人麻呂像」画、  
猷円の弟/隆範・順徳院兵衛内侍らの兄弟、  
[山ざくらさきちるときの春をへてよはひは花のかげにふりにき](新勅撰;春110)、  
信実の男; → 為継(ためつぐ・藤原) H 2 6 0 1  
信実の女; → 少将(しょうしょう・藻壁門院) N 2 1 6 4  
→ 弁内侍(べんのない・後深草院) 2 7 0 6  
→ 少将内侍(しょうしょうのない・後深草院) N 2 1 9 1
- K3544 **信眞**(のぶさね・のぶまさ?・川窪かわくぼ、本姓;源)?? 江前期;武士/歌人;浅井忠能[難波捨草];多数入、  
[呉竹のねぐら尋ねて夕日影のかすむまがきにうぐひすぞ鳴く](難波捨草;春27)
- G3582 **信実**(のぶさね・原田はらだ、通称;守次郎)?? 江後期;歌人、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[清滝を尋ねてくればほととぎす水上よりぞ声も落ちくる](大江戸倭歌;夏433)
- I3595 **延実**(のぶさね・高橋たかはし、通称;丹波)??明治1868-1912頃没 周防山口の多賀神社祠官、  
山口宝現霊社宮司、国学者
- H3560 **述信**(のぶさね・小野おの、号;石斎/水石)1824-191087 長門萩藩士/国学者/心学を修学、

明倫館の小学師匠/隣接する敬身堂で心学を講義、維新後;神祇官に出仕/宣教権判事、  
教部省教部小丞;風教改善に従事、「神教要旨」「靈魂真理」著

- I3557 **誠実**(のぶさね/じょうじつ・佐藤さとう、) 1839-1908 70 江戸浅草正行寺の生、和漢学者、  
国学;黒川春村門/儒;安積良斎門、博覧強記、  
維新後;1872(明治5)文部省編輯寮に出仕;古事類苑編輯掛、東京大学古典講習科講師  
東京音楽学校教授、1895古事類苑編輯長;熱心に事業推進;1907(明治40)完成、翌年病没、  
帝国学士院会員、「語学指南」「日本教育史」著、  
[誠実(;名)の通称/号]通称;造酒みき、号;黙斎  
延誠(のぶさね・度会) → 延誠(のぶとも・度会わたり、禰宜/歌人) C 3 5 3 6  
信充(のぶさね・関戸) → 内兄(うちえ・関戸せきと、国学者) E 1 2 7 3  
信眞(のぶさね・守矢) → 信眞(のぶまさ・守矢、神職) D 3 5 2 6  
延三郎(のぶさぶろう・佐野) → 友行(ともゆき・佐野さの、藩士/歌人) V 3 1 3 1
- B3556 **信繁**(のぶしげ・平、法名;信阿、繁雅男)?-? 鎌倉前期廷臣;兵庫頭/出家、  
歌人:1246春日若宮歌合参加、勅撰;新勅撰1253・続後撰1057/1103、万代集入・檜葉;歌無、  
度繁のりしげ(阿仏尼の養父)の兄、範茂しげもちの父、  
[おくれじとなげきながらに年も経ぬ定めなき世は名のみなりけり]、  
(新勅;雑1253/後高倉院逝去後に年月過ぎたことを思い詠)
- B3557 **信繁**(のぶしげ・武田、通称;次郎/左馬助/典廐、信虎男/本姓;源) 1525-61 37 甲斐の武将/信玄の弟、  
儒学;儒教道徳を主唱;家臣の精神的結合を図る、1561川中島に戦死、信豊の父、  
1558「信玄家法」/58「他醜集」、「竹田家伝」著
- B3559 **信重**(のぶしげ・秋野あきの) ? - ? 俳人;立圍門、  
1653師より伝書「河船付徳万歳かわぶねつたりとくまんざい」を受
- K3549 **信重**(のぶしげ・上村) ? - ? 江前期;京の歌人/1682河瀬菅雄[麓の塵]2首入、  
[かくて世をふりにし宿の紅葉葉は今一入の秋ぞかなしき](麓の塵:秋294)
- B3558 **暢茂**(のぶしげ・玉虫たまむし、喜六郎幸茂男)?-? 江中期仙台藩士/東条流兵法家;田辺希文門、  
槍術・居合の奥義を極める、門人多数、「城制秘鑑」著、  
[暢茂(;名)の通称/号]通称;七左衛門、号;拙牛
- H3590 **延重**(のぶしげ・春日かすが、忠重男) 1697-1759 63 出雲神門郡古志村の比布知神社社司、国学、  
紀重のりしげの父、  
[延重(;名)の別名/通称]別名;久重/幸重、通称;佐市/但馬守/造酒みき
- G3564 **信成**(のぶしげ・松平まつだいら/本姓;藤原、信有男) 1767-1800 34歳 鷹司松平家の出身、  
上野吉井藩主松平信明の養嗣子;1775家督嗣;第5代吉井(矢田)藩主、従四下/侍従、  
1781高崎藩主松平輝高主導の幕府の絹糸運上に対する絹一揆や83天明飢饉などに対処、  
左兵衛佐のち左兵衛督、歌;1798石野広通「霞関集」入、  
[神垣にかけて久しきみしめ縄ながきよ祈るしるしなるらし](霞関;神祇1203)  
[信成(;名)の幼名/通称/法号]幼名;栄松、通称;山城守/左兵衛督、法号;徳恩院
- B3560 **宜重**(のぶしげ・笠井かさい) ? - ? 備後の儒者、  
1818「備後国沼隈郡浦崎村答書」編;弘賢「諸国風俗問状答」入
- B3561 **信成**(のぶしげ・中村なかむら、通称;次郎兵衛)?-? 江後期和算家;藤田貞資門、  
「精要算法上中巻解義」著
- I3551 **信重**(のぶしげ・佐々木ささき、通称;左京)?-? 江後期;大和山辺郡の中宮寺侍医、  
国学・歌;伴林光平(1812-64、1857から中宮寺で講義)門
- I3593 **延繁**(のぶしげ・高木たかぎ、通称;宮内) 1806-88 83 但馬城崎郡の日吉神社祠官;  
1869(明治2)山王権現を日吉神社に改称;1873郷社に列す、国学者
- I3575 **信重**(のぶしげ・鈴木すずき、通称;相模守) 1812-97 86 伊勢鈴鹿郡高津瀬村の熊野大神社祠官、  
国学・歌;富樫広蔭門  
延成(のぶしげ・荒木田) → 延成(のぶなり・荒木田、神職/歌人) C 3 5 5 6  
信成(のぶしげ・水無瀬/坊門/藤原) → 信成(のぶなり・水無瀬、歌人) C 3 5 5 7  
信成(のぶしげ・加藤) → 信成(のぶなり・加藤、歌学) C 3 5 6 0  
信成(のぶしげ・前田) → 信成(のぶなり・前田、古学) C 3 5 6 1

- 信成(のぶしげ・南部) → 信成(のぶなり・南部、歌人) C 3 5 6 2  
 信成(のぶしげ・津田) → 信成(のぶなり・津田、系譜) C 3 5 6 3  
 信成(のぶしげ・鈴木) → 信成(のぶなり・鈴木、歌人) C 3 5 6 6  
 信成(のぶしげ/のぶなり?)・佐野 → 皆雲(かいうん・佐野さの、儒者/詩) H 1 5 1 4  
 信成(のぶしげ・小川) → 泰山(たいざん・小川おがわ、漢学/折衷学) B 2 6 4 6  
 信重(のぶしげ・津軽) → 信寿(のぶひさ・津軽つがる、藩主/詩歌) C 3 5 9 5  
 信重(のぶしげ・伊沢) → 柏軒(はくけん・伊沢いさわ、医者) D 3 6 0 0  
 信重(のぶしげ・英) → 一珪(いっけい・英はなぶさ、絵師) H 1 1 0 1  
 信重(のぶしげ・村井) → 喜右衛門(きえもん・村井、漁師/蘭船引揚) J 1 6 6 6  
 信重(のぶしげ・林) → 茂樹(しげき・林はやし、神職/国学者) Z 2 1 7 2  
 信繁(のぶしげ・真田) → 幸村(ゆきむら・真田さなだ、武将) F 4 6 7 7  
 信繁(のぶしげ・松本) → 春朝斎(春潮斎しゅんちようさい・竹原、絵師) K 2 1 2 8  
 宣重(のぶしげ・大川) → 鷲彦(ささひこ・大川おおかわ、歌人) O 2 0 1 1  
 宣繁(のぶしげ・中御門) → 宣順(のぶより・中御門ななかみかど、廷臣/日記) E 3 5 0 8
- B3562 **信階**(のぶしな・伊沢いさわ、井出権蔵男/伊沢信政の養子) 1744-1807 64歳 武州越谷の医者、  
 1794備後福山藩主侍医、「医範」編;没後刊、伊沢蘭軒の父、  
 [信階の字/通称/号] 字;大升、通称;元安/長安、号;隆升軒
- G3599 **延女**(のぶじよ・高林たかばやし、延子、号;櫻顛、藩士宮崎弥左衛門2女) 1811-88 78 加賀金沢の歌人;  
 田中躬之門、金沢藩士高林景寛かげひろ(1808-81)の妻、詠歌;数千首、  
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
 [夏草の深きなかとも頼まれずしのびしのびに通ふ秋風](大江戸倭歌;恋1563)
- 信女(のぶじよ・細井) → 信子(のぶこ・細井ほそい、歌人) G 3 5 8 0
- B3563 **延季**(のぶすえ・荒木田あらかた/家名;家田、氏良男) 1200?-82 83? 伊勢宇治の神職/1221内宮一禰宜、  
 1241一禰宜、氏忠/氏成の父、歌人;御裳濯和歌集2首入、  
 勅撰7首;続後撰(539/540)続古今(560/696)続拾遺(636/1412)新拾遺(1395)、  
 [神ち山峰のあさひのかぎりなく照らすちかひやわが君のため](続後撰;神祇539)
- B3564 **誠季**(のぶすえ・今出川いまでがわ/菊亭、本姓:藤原、西園寺致季4男) 1713-46 早世 34 母;邦永親王女、  
 今出川公詮の養子;廷臣;1735従三位/39権大納言/42従二位、1737「在府日記」著、  
 法号;堅固林院
- B3565 **信季**(のぶすえ・佐藤さとう、号;玄明/玄明窩、通称;孝伯/信有、信景男) 1724-84 61 羽後の殖産家、  
 諸国遊歴、足尾で病没、1780「漁村維持法」「堤防溝洫志」、「山相秘録図解」著、信淵のぶひろの父
- B3566 **信季**(のぶすえ・田辺たなべ) ? - ? 江戸期備後の兵法家;毛利家臣、水軍戦法に通ず、  
 「三嶋流船軍要略」著
- B3567 **信輔**(のぶすけ・平たいら/烏村、高輔男) ?-1296 鎌倉期廷臣/1286治部卿/蔵人頭/88参議、  
 「信輔職事中宣旨案」編、「信輔卿記」「信輔宣旨目録」編
- B3568 **信亮**(のぶすけ・林はやし、葛廬男) 1709-81 73歳 幕府儒官/1728父の代理で聖堂に書を講ず、  
 1757評定所儒者、「葛廬かつろ遺集」編、信方の父  
 [信亮の通称/号] 通称;式部/宇兵衛/勝文、号;菊溪/松洞/稽古斎
- B3569 **所介**(のぶすけ;通称・日野ひの、名;為臣ためおみ) ?-? 江中期備後福山藩士;地史家、  
 1748「軀浦志」(;吉田利国と共編)
- B3570 **陳亮**(のぶすけ・武藤むとう、通称;弾介、号;蟄竜子/桜花園、陳定男) 1792-1840 49 筑後柳川藩士、  
 長崎外聞役;国学/歌;中島広足門、1819郷方役;三藩の有明海入会権を紛争解決、  
 有明海干拓を献言、書画骨董/擊劍/居合/能楽を嗜む、晩年;江戸・京に在勤;加増;禄百石、  
 「桜花園家集」「岩屋評論弁」著
- 信介(のぶすけ・玉井) → 信海(しんかい;法諱、僧/国学/尊攘) V 2 2 0 3  
 信輔(のぶすけ・源) → 観教(かんきょう;法諱、天台僧/歌人) D 1 5 5 6  
 信輔(のぶすけ・根岸) → 友山(ゆうざん・根岸、農業/儒者/武術) C 4 6 0 2  
 宣相(のぶすけ・樹木) → 宣相(せんそう・樹木うえき、狂歌) H 2 4 0 0
- B3571 **延純**(のぶずみ・荷田かた/羽倉はくら、出羽介、羽倉信成男) 1648-1720 73歳 京神職;非蔵人、  
 上北面/縫殿頭/正五下、「諸司職掌」著

信澄(のぶずみ・林) → 東舟(とうしゅう・林はやし、幕臣/儒者/詩) E 3 1 8 9

- 3507 **宣孝**(のぶたか・藤原ふじわら北家高藤流、為輔男)?-1001 母;藤原守義女、平安中期廷臣;  
六位蔵人兼左衛門尉/984円融院判官代/984花山天皇蔵人/990(正暦元)筑前守、  
992大宰少式兼任、正五下右衛門権佐;帰京/998山城守兼任;  
この頃紫式部と結婚(;大式三位の母)、弁官/1001(長保3)疫病死、  
妻;藤原頭猷女・平季明女・藤原朝成女・紫式部(藤原為時女)、  
隆光・頼宣・隆佐・明懐・儀明・賢子(大式三位/999?-1082?)・藤原道雅室の父、  
歌;玄々集入、  
[いどみける女の甲斐守にあひぬとききて、  
甲斐がねを見るとかきけばまことにやよよをふりせぬさやの中山](玄々;45)、  
☆宣孝の没後に紫式部の詠歌;  
[見し人のけぶりとなりし夕より名ぞむつましき塩釜の浦](紫式部集)
- I3547 **信敬**(のぶたか・上月こうぎ、通称;瓊斎けいさい)?-1752 江中期;儒/神道;山本復斎(信義)門、摂津住か
- B3572 **誠敬**(のぶたか・神南かんなみ、名;応孝/興応/光雄) 1724-8865 越後古志郡の生/小千谷に移住、  
仏教を修学するが非を悟り神道家;上京し松岡雄淵門/垂加神道を修学、  
国学・歌を研修:谷川士清門、帰郷後;会津藩に出仕;子弟教育、  
後年その学徳を讃え神南社が造立される、  
「奥の秋風」「袖の時雨」「神代紀精」「東西相撲の品定め」「誹諧難波のあし」外著多数、  
[誠敬(;号)の通称/別号/]通称;佐兵衛、別号;敬中
- B3573 **布高**(のぶたか・村沢むらさき、銀右衛門道高の長男) 1733-180169歳 信州更級郡今里村の和算家;  
赤田百久門;宮城流算学を修学、天文暦算に精通;門弟数百人、詩・書・経・史にも通ず、  
晩年は仏法に帰依、「布高詩集」「今和漢算法匡誤」著、  
[布高(;名)の通称/号]通称;吟左衛門、号;盾峻/旨元、法号;永泉院
- I3522 **命堯**(のぶたか・北村きたむら、) 1785-186480 信濃伊那郡上穂村(天領)の里正、国学者、  
歌人;香川景樹門、命親のぶちかの父、  
[命堯(;名)の通称/号]通称;宗平、号;方寸庵良丈、屋号;北屋
- I3571 **延隆**(のぶたか・下里しもと、) 1805-186359 美濃大垣の総年寄役、国学者;富樫広蔭・本居大平門、  
[延隆(;名)の通称] 周之助/六右衛門(代々の称)、  
下里延平(1771-1835/大平門)の一族(延平の兄延秋の男?)
- B3574 **宣隆**(のぶたか・草鹿砥くさかど、宣輝の長男) 1818-6952歳 三河宝飯郡の鹿砥かど神社宮司/神職、  
儒;美濃の吉田東堂門/国学:八木美穂よしほ・1835平田篤胤門/羽田野敬雄門、能書家、  
古代文字;石塚竜麿門、和漢学に通ず、1835従五下近江守、1844篤胤没;八木美穂門、  
家塾開設;読書皇学を教授/1866自邸に一宮文庫を設立、  
1868(慶応4)羽田野敬雄と上京;神威隊員として内侍所守衛の任、京都皇学所御用掛、  
講官として学問を教育、清和院門前の寓居で没、著作は国語・書道・史学・歌道など多岐、  
「万葉集序歌抄」編、「天門抄」、「古言別音鈔」美穂序、1848「旋頭歌四体」49「旋頭歌抄」、  
1852「説文千字抄」「杉之金門長歌集」57「求夷篇」著、62「本祠祭文録」編/外著多、  
[宣隆(;名)の通称/号] 通称;孫十郎/勘解由/近江/近江守/肥後守/松う、  
号;杉廼金戸/杉門主人
- B3575 **宣敬**(のぶたか・林はやし、別名;有聲ありな、百非男) 1818-8467 長門萩藩士/国学・近藤芳樹門、  
兵学;吉田松陰門、歌人、1860(万延元)「妙葉の記」著、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[難波江や絵のさま見えて霜がれのあしでにまがふ鴨のむら声](大江戸倭歌;冬1220)、  
[宣敬(;名)の通称] 寿之進
- I3541 **延孝**(のぶたか・小林こはやし/本姓;度会、旧姓;出口) 1827-5832 伊勢度会郡の神職;外宮権禰宜従四位、  
国学;足代弘訓門、歌人/有職故実に通ず/裏千家流茶道、書;孫福まごぶく包蒙門、  
[延孝(;名)の通称/号]通称;勝之進/美濃/忠太夫、号;蓬戸
- G3594 **信孝**(のぶたか・安部/安倍あべ、通称;鹿之助/平三郎)?-? 江後期幕臣、歌人、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[吹き寄せて麓の道や埋むらん風の落葉も霜の朽葉も](大江戸倭歌;冬1084)

- 信孝(のぶたか・津田) → 東巖(とうがん・津田、藩士/儒者) C 3 1 3 4  
 信孝(のぶたか・山本) → 素堂(そどう・山本やまもと、儒者/絵師) K 2 5 2 4  
 信孝(信圭のぶたか・太田) → 蓼花(りょうか・太田/武市、藩士/俳人) G 4 9 6 7  
 信高(のぶたか・松平) → 信祝(のぶとき・松平まつだいら、藩主/歌人) K 3 5 0 3  
 信高(のぶたか・時田) → 光介(光輔みつすけ・時田しときだ/転うた/井上、藩士/実業家) J 4 1 8 5  
 宣隆(のぶたか・中御門) → 尚良(ひさよし・中御門なかみかど、廷臣/連歌) C 3 7 1 5
- B3576 信武(のぶたけ・武田たけだ、信宗男/本姓;源)?-1359/60 関東の武将・安藝/甲斐守護、  
 引付頭人/九州探題、1345天竜寺供養の参列、信頼の父、連歌;菟玖波5句入、  
 歌人:新千載2036/新拾1154、  
 [梓弓もとの姿は引きかへぬいるべき玉のかくれ家もがな](新千載;雑2036、  
 等持院贈左大臣足利尊氏逝去後に剃髪して詠む)、  
 [信武の通称/号] 通称;孫六(彦六)/伊豆三郎、号;長福寺/八福寺
- B3577 信武(のぶたけ) ? - ? 「狂歌旅枕」著;1682江戸酒田屋刊  
 淀城主永井尚政か? → 尚政(なおまさ・永井、藩主/連歌) C 3 2 3 5
- B3578 信武(のぶたけ・馬場ばば、字;玄俊)?-1715 京の医・儒・泉田梅翁門、  
 天台門跡道尊法親王仕;医者、書肆;教来寺弥兵衛、典故学/易・兵学、  
 1700「易学図説」03「初学擲錢抄」/05「韻鏡諸鈔大成」著、中国通俗軍書の翻訳/作家、  
 1712-18「通俗続後三国志」/「通俗三朝軍談」「異朝大明軍談」著  
 [信武(;名)の号] 時習齋/梅翁軒、医師名;尾田玄古  
 浮世草子の松林と同一? → 雨滴庵松林(うてきあんしょうりん) D 1 2 3 5
- J3590 宣武(のぶたけ・伏原ふせはら/ふし/本姓清原、宣光のぶみつ男) 1774-1833 60 京の廷臣;漢学・和学者、  
 1803従三位/1810(文化7)従二位/1833(天保4)没;正二位、  
 [宣武(;名)の初名]長賢
- H3546 延武(のぶたけ・宇治うじ、) 1837-1905 69 近江膳所藩士;1846(弘化3)家督継嗣;馬回役、  
 幼少より遵義堂に修学/1853(嘉永6)遵義堂教授、国学者;68出雲路定信門;皇学を修学、  
 1879(明治12)小学正則を受け教員/八幡町勤務/致仕後家塾を開き子弟教育、  
 [延武(;名)の別号/通称/号]別名;檀、通称;久之助、号;真弓
- I3550 信武(のぶたけ・佐倉さくら、) 1848or49-189447or46 遠江城飼郡の池ノ宮神社祠官、国学;平田鉄胤門、  
 蘭学;中村正直門、佐倉真邦の孫、維新後;静岡戸長、1884[静岡大務新聞]発刊、  
 1885(明治19)静岡高等英華学校を設立;校長、86静岡女学校開校に尽力;校主、  
 [信武(;名)の別号/通称]別名;信康、通称;無二之助  
 信武(のぶたけ・林) → 鳳谷(ほうこく・林、幕府儒官/大学頭) F 3 9 2 5  
 信毅(のぶたけ・桑原) → 幾太郎(いくたろう・桑原くわばら、藩士) F 1 1 3 3
- B3579 信忠(のぶただ、源みなもと、信宗or藤原忠房男)?-? 平安後期廷臣;  
 歌人:1118(元永1)「内大臣忠通家歌合」参加、  
 [わが宿の籬にやどる菊なくは何につけてか人もとはまし](内大臣家歌合;残菊六番右)  
 ① 源信宗男なら;藤原基忠養子、右馬権頭従五下  
 ② 藤原忠房男なら;藤原資忠→ 資忠(すけただ・藤原:初名信忠) C 2 3 3 4
- B3580 信忠(のぶただ・藤原ふじわら) ? - ? 鎌倉期信濃守/従五下/歌;1231日吉社撰歌合入
- B3581 宣忠(のぶただ・中御門なかみかど、別名;宣治、法名;乗察、宣秀男) 1517-55 39 母;吉田兼俱女、  
 1545参議/52権大納言、1538「宣治卿記」、「御懺法講奉行宣治記」著
- 3508 信尹(のぶただ・近衛このえ、太政大臣前久さきき男/本姓;藤原) 1565-1614 50歳 安桃江初期廷臣;  
 1577従三位、1585左大臣/従一位、  
 1585関白をめぐり二条昭実と争論;結果秀吉が次に秀次が関白就任、  
 1592(天正20)左大臣を致仕/朝鮮渡海と称し肥前に出奔;94勅勘;薩摩坊津に配流、  
 1596(慶長元)赦免上京、99(慶長4)改名;信尹、1601左大臣還任/05関白/准三宮、  
 能書家:三藐院流/寛永3筆の1、参禅;大徳寺春屋宗園・沢庵宗彭門/歌・連歌/画に通ず、  
 安桃江初期の代表的文化人、養嗣子;信尋、  
 日記「三藐院記」、歌:1583「詠歌大概愚抄」、「可因百詠」「杉門集連」著、「官位昇進雑例」編、

連歌:1609「三藐院千句」独吟/玄仲・兼如・昌琢・紹巴らと百韻多数、「玄与日記」入、  
[ならびきて花を千歳のみぎり哉](三藐院千句;第一何船発句)

[信尹(;名)の別名/号]幼名;明丸、初名;信基(;元服時)/1583信輔、一字名;杉、  
号;可因/三藐院さんみやくいん/岡左兵衛、法名;大初、道号;同徹、法号;三藐院

B3582 宣尹(のぶただ・久須見くすみ、字;正隣/通称;周仙)1704-5653 京の神道家/諸芸に通ず/晩年;医者、  
1736「中臣祓啓秘録」編、「日本書紀卷三解」「五文字守符之伝」著

B3583 敬忠(のぶただ・瀬下せしも、敬豊男)1709-8981歳 信濃佐久郡野沢陣屋の生/母の生家の養子、  
依田郡之丞と称す/兄良之出郷により実父の家督を継嗣;庄屋/信州岩村田に出仕、  
1724(享保9)江戸で立羽不角と交流/国学・俳人;1739松木蓮之(珪琳)門、郷土史家、  
俳文・地誌・随筆を残す、1784剃髪、1753「千曲之真砂」66「長春随筆」、「川岡雑談」著、  
「鶴巢反古枕」「善光寺詣」「武蔵之片鎧」「薙髮集」著、

[敬忠(;名)の幼名/別名/字/通称/号]幼名;猪之助、初名;郡之丞、字;子信、  
通称;安右衛門/園右衛門、号;鶴巢/鶴叟/玉芝/玉枝/苦李子/蓼虫子/樗陰/  
樵路庵/樵路散人/浮瓢子/南軒/北枳房/極月楼主人

B3584 信任(のぶただ・河口かわぐち、初名;房甚ぶさただ/房、房重[了春]男)1736-181176 肥前唐津藩士、  
医;藩医原双桂門、蘭医;1759長崎の栗崎道意、1763藩主土井利里の移封;下総古河に移住、  
1769藩主土井利里の京所司代に従い上京/荻野元凱門;1770京西郊で刑屍解剖、  
1771「解屍編」著、古河に帰り門弟指導;蘭方医学を伝授、茶・俳諧を嗜む、

[信任(;名)の幼名/字/通称/号]幼名;辰之助/道五、字;子遠、通称;忠左衛門/閑春、  
号;宏斎/佳石、法号;寿専院

B3585 信忠(信志のぶただ・南条なんじょう、通称;郡平)?-? 江後期蝦夷松前藩士、1797「蝦夷巡覧筆記」著

B3586 信尹(のぶただ・木村/通称宇太夫/兵群、信直男)?-1821 加賀金沢藩士/1785新番/1818定番番頭、  
1809「諸頭系譜」、「護国公年譜」著

H3584 宣忠(のぶただ・岡本おかもと、)1829-190375 山城乙訓郡長岡神足村の岡本宣頭の養嗣子、  
商家;油屋を継嗣、国学・歌;父門/歌人、  
[宣忠(;名)の通称]通称;弥兵衛(養父の称)/爺平やへえ/菟次郎

J3565 信徒(のぶただ・林はやし、信海のぶみ男)1842-7231 武蔵入間郡赤尾村の名主(里正)、  
国学;井上淑蔭よしかげ(父の従兄弟)門、

[信徒(;名)の通称]半三郎(代々の称)、養嗣子;岩田信臣のぶおみ

延尹(のぶただ・春日) → 易重(やすしげ・春日かすが/藤原、神職/国学) F 4 5 7 6

信忠(のぶただ;名・藤原) → 資忠(すけただ;後名・藤原、廷臣/歌人) C 2 3 3 4

B3587 信立(のぶたつ・安島あじま/初名;忠誨、戸田とだ忠之2男)1812-59自刃48歳 安島信順養嗣;1836家督嗣、  
常陸水戸藩士、藩主斉昭・慶篤2代に出仕;小姓頭/側用人/のち家老、藩政改革の参与、  
攘夷密勅事件関与し自刃、「志の飛音」著、戸田蓬軒の弟、

[信立(;名)の字/通称/号]字;恩誠、通称;弥次郎/帯刀、号;峨興

B3589 信立(のぶたつ・渡辺わたなべ) ? - ? 江後期筑後久留米の茶人;川上宗寿門、  
不白流修得、1847稲垣休叟「今井宗久茶湯書拔」の不流斎良恭写本を転写、  
「茶事年契」「土井家譜年契」著

H3500 暢達(のぶたつ・鷹野たかの) ? - ? 江後期;歌人、

1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、

[あだにとくうつりもゆくかつれもなき人の心は花ならなくに](大江戸倭歌;恋1582)

B3588 信立(のぶたつ・千賀ちが/せんが、甫信男)1822-7251 尾張名古屋藩士;1838家督、家職;船奉行、  
1861側用人/64大目付/65家老、68戊辰戦争;官軍先鋒総括、武術(槍/馬/砲)に長ず/儒者、  
「千賀与八郎航海日誌」「神力丸航海日誌」著、

[信立(;名)の字/通称/号]字;有邦、通称;与八郎、号;担川、

J3567 信立(のぶたつ・林はやし、旧姓;加藤)1823-9472 江戸の国学者

信辰(のぶたつ・松平) → 信辰(のぶとき・松平まづだいら、幕臣/国学) K 3 5 0 2

信竜(のぶたつ・山寺) → 常山(じょうざん・山寺やまでら、藩士/儒/兵学) S 2 2 6 2

3509 宣胤(のぶたね・中御門なかみかど/本姓;藤原、権大納言明豊男)1442-152584 母;慶覚女、室町期廷臣;

1464藏人頭/66(文正元)参議;従三位/67(応仁元)美濃権守兼任/68権中納言/70正三位、  
1476従二位/88(長享2)権大納言/90正二位/1506神宮伝奏兼任/11従一位;落飾;法名乗光、  
日記1480-1519「宣胤卿記(虫記)」、歌人・連歌、「万葉類葉抄」編、  
1473親長歌合参加/75甘露寺親長催「公武歌合」参加/1503三十六番歌合参加、百韻/新菟入、  
[志賀の浦や月の氷をしきたへの枕すゝしき床この山風](公武歌合;八番湖上月右)

- B3590 **宣胤**(のぶたね・桃井もものい/本姓;源、下野守?)?-? 1495頃関東武士/連歌;雲玉歌集入、  
桃井野州家連歌会催?;兼載「園塵」入、新撰菟玖波集3句入
- I3558 **叙胤**(のぶたね・齋藤さいとう、叙昌男)1764-183168 代々京の近藤家諸大夫、歌人;香川景樹門、  
[叙胤(;名)の別名/通称]別名;叙典、通称;若狭守/宮内少輔、叙定の父
- J3583 **信種**(のぶたね・平尾ひらお、旧姓;平井)?-1864 安藝の浄土真宗僧/医者、相模鎌倉に住;国学者、  
横浜で寺子屋開設、尊攘思想家;諸国遊学後江戸住/1864(元治元)水戸藩の天狗党に参加、  
乱後江戸に逃亡;捕縛され獄中に没;小塚原回向院に埋葬、  
[信種(;名)の初名/号]初名;広貞、号;萩斎/桃岩斎
- K3527 **信胤**(のぶたね・山田やまだ、旧姓;山崎)1820-8970 陸奥刈田郡の神道家;平田鍊胤門、五賀村の肝煎、  
維新後;1869(明治2)白石県設置に伴い刈田郡長/権少教正、白石神道事務局の指導者、  
新政府の神仏分離を積極的に推進、角田県に移行後も郡長として活動、  
[信胤(;名)の通称]豊三郎
- B3591 **延胤**(のぶたね・平田ひらた、通称;延麿/延太郎、鍊胤男/母;篤胤女おてう)1828-7245 羽後秋田藩士、  
国学・神道;祖父篤胤門/のち父鍊胤かむたね門、兵学;山国共昌門、1858献上方に登用;  
1862藩命で岩倉具視に接近;藩主佐竹義堯に飛竜回天の建白書提出;藩内の勤王派指導、  
1864御役御免;遠慮の処分を受、1867同志7人に勘定奉行大縄念斎を襲撃させる、  
1867謹慎を赦免;平元謹斎ら佐幕派を排斥、維新後;神祇権大祐・宣教判官・侍講を歴任、  
「古学二千文略解」「馭戎論」「しもとのまにまに附録」「平田延胤消息」著、  
「開国通商交易神考」著、「古暦月歩式」補填/「五十字義訣」校訂  
宣胤(のぶたね・河合/阪本) → 幸庵(こうあん・阪本、藩士/儒者) H 1 9 2 1  
信胤(のぶたね・山中) → 信天翁(しんてんおう、俳人;註釈書) R 2 2 2 9  
信胤(のぶたね・吉村/佐藤) → 魚淵(なぶち・佐藤/吉村、医/俳人) G 3 2 8 4  
信胤(のぶたね・館松) → 千足(ちたり・館松たてまつ、神職/国学/歌) M 2 8 8 1
- B3592 **信民**(のぶたみ・伊藤いとう、字;子和/通称;主計かづえ)?-? 江中中期明和寛政1764-1801頃尾張熱田開業医、  
熱田神宮の研究、「熱田神宮寺記聞」/1769「参考熱田大神縁起」編、「寛平熱田縁起」著
- J3555 **誠民**(のぶたみ・野田のだ、通称;善右衛門[父の称]、千足男)1821-5434 伊予八幡浜の歌人
- G3568 **信民**(のぶたみ・南部なんぶ/本姓;源、南部信也4男)1833-190068 父;角屋敷三戸家の3代目当主、  
1849陸奥七戸藩主南部信誉の養嗣子/62(文久2)家督継嗣;七戸3代藩主/従五下美作守、  
幕末の動乱期;本家盛岡藩と行動;1868戊辰戦争で奥羽越列藩同盟に参加;弘前藩と戦闘、  
維新後;罪に問われ千石の領地削減;養子信方に家督譲渡し隠居を命じられる、  
信方若年のため実際は信民が藩政指導;養蚕・牧畜の奨励・教育の普及に尽力、  
正室;前田利和女の睦子/継室;細川興建女、歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」(睦子と)入、  
[春風のしづけく霞むのどけさにやがて乱るる空の糸かな](江戸倭歌;春315/遊糸)、  
[信民(;名)の通称]通称;棋三郎/璋五郎・美作守  
正室睦子 → 睦子(むつこ・南部なんぶ、前田利和女/歌) D 4 2 5 5  
信民(のぶたみ・間宮) → 士信(ことぶ・間宮、幕臣/儒者) F 1 9 8 2  
信民(のぶたみ・岡田) → 静山(せいざん・岡田おかだ、儒者) I 2 4 4 5  
宣以(のぶたみ・長谷川) → 平蔵(へいざう・長谷川はせがわ、幕臣;旗本) 2 7 6 5  
信太夫(のぶたみ・小室) → 信夫(のぶお・小室こむら、商家/政治家) I 3 5 4 5
- J3521 **信足**(のぶたり・堤つみ、)1731 - 175669 近江彦根藩老横地家の家士、  
詩歌;龍たつ公美きんえ門/国学;小原君雄門、歌;[彦根歌人伝・続寿]入、  
[信足(;名)の字/通称/号]字;竹相、通称;友右衛門/兵吾、号;白雲軒
- I3546 **言足**(延足のぶたり・五富利ごぶり)1787-182337 伊勢度会郡の御師の師職代官、  
国学;本居大平・春庭門、  
[言足(;名)の別名/通称]初名;延足、通称;利左衛門/主馬/左兵衛

- H3504 **言足**(のぶたり・阿閉あべ)1827 - 1865切腹39 近江膳所藩士、国学;谷森善臣よおみ門  
1865(慶応元)第一次長州征伐のため上京する將軍徳川家茂の宿所と決定;  
宿泊2日前に暗殺計画が発覚し中止/藩は尊攘派を処分;尊攘派膳所十一烈士が投獄、  
言足はじめ禄百石以上の烈士4人が安昌寺で切腹/遺族は領内立退きとなる、  
[言足(;名)の字/通称]字;伯知/貞廉、通称;猪三郎/権之丞  
☆膳所烈士;保田正経/田河武整/阿閉信足/榎島光頭/森祐信/高橋正功/高橋幸佑/  
関元吉/渡辺緝/増田正房/深栖俊助
- B3593 **言足**(のぶたり・小池こいけ) ? - ? 江後期国学者:岡部春平[はるひら、1794-1856]門、  
「堅室著書一覽」編、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[橘の花も心のありげなり朝きよめする袖にかをりて](大江戸倭歌;夏481)、  
[紅の末摘花のすゑはまたたがよそほひの色をそふらむ](同;雑1749/紅花)
- B3594 **延親**(のぶちか・度会たらい) ? - ? 伊勢の神職;外宮権禰宜、  
歌;1321外宮北御門歌合参加、  
[吹く風のさそはぬひまもおのづから心ともろく散る木葉かな](外宮歌合;落葉8番左)
- B3595 **宣親**(のぶちか・中山なかやま/本姓藤原、号;聯航軒、親通ちかみち男)1458-151760歳 戦国期廷臣;  
1481参議/88権中納言/正二位/1506出家、將軍義尚の打聞編纂の選衆、  
歌;1503三十六番歌合参加/連歌;宮中連歌参加、新菟入、「宣親卿記」著、  
中山康親やすちか/庭田重親の父、法名;祐什  
[いにしへにかへるとみれば万代の末にも遠き君が道かな](三六番歌合;祝言廿八番左)
- B3596 **信親**(のぶちか・森もり、通称七兵衛、号;紅圃)?-? 江前期京の蒔絵師/俳人:立圃門/のち江戸住、  
1655「信親千句」著、1676西鶴「古今誹諧師手鑑」(親信?名)入、  
[鸞そ鳥の嘴ははさながら琴の爪](手鑑/鸞は別名琴弾鳥)
- B3597 **叙親**(のぶちか・太田おおた) ? - ? 江前期地誌家、  
1675地誌「南都名所集(奈良名所記)」(:村井道弘みちひろと共著)
- B3598 **信近**(のぶちか・福王ふくおう、通称;助之丞/忠左衛門、容斎、信常男)1693-177886 幕臣;1709大番、  
1754先手鉄炮頭/70致仕;容斎号、「経済沢善録」「岐蘇路寝覚草」著
- J3587 **延近**(のぶちか・藤井ふじい、通称;頼母)?-1808 備中賀陽郡の吉備津神社の社家、  
国学・歌;藤井高尚たかなお(1764-1840)門
- I3518 **信近**(のぶちか・菊池きくち、旧姓;大塚)1770-182152 伊予宇和郡の生、野田広足の弟、  
国学/歌;二宮正禎門、伊予八幡浜住、  
[信近(;名)の通称] 一作/安右衛門
- H3576 **信親**(のぶちか・大藪おおあぶ/旧姓;藤原、)1773-181442 1774(安永3)大藪家の養子、  
家督嗣;播磨明石郡岩屋明神社神主、  
国学者;1790(寛政7)本居宣長門/のち荒木田久老門、  
[信親(;名)の初名/通称]初名;親、通称;亀之助/主殿とのも、諡号;武早彦神靈
- B3599 **信親**(のぶちか・脇田わきた、字;全葺ぜんあん/伯行、信貞男)1786-185166 下総古河医;印牧玄順門、  
江戸住、古医法;森川宗円門/1818備中松山藩侍医、歌/書、1824「医言靈」編、  
[信親の号] 厚斎/槐葺かいあん
- C3500 **信近**(のぶちか・伴ばん、信友男)1799-185860歳 母;伴信当女の美尾、若狭小浜藩士;1821家督嗣、  
漢学;西依墨山門/国学者:本居内遠/村田春門門、江戸詰;藩主酒井忠順の歌道師範役、  
父の遺稿を上梓、1819(文政2)「増補金石遺文」編/「続武辺叢書」著、  
歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[昔見しおもかげながら見てしかな鏡も共に老いやしぬらん](大江戸倭歌;雑1972、  
老後見鏡)、  
[信近の通称] 銀八/鏡蔵りょうぞう/金左衛門、 妻の満寿子まきは歌人
- C3501 **信近**(のぶちか・宮坂みやさか、字;子遠/通称;敬蔵、号;旭山、信美2男)1801-7272歳 出羽庄内藩士、  
1813藩校致道館に修学;文武に修学研鑽/1826致道館助教、藩校典学・舎長を兼任、  
1829代官を兼任/48支藩松山藩主守役に転ず/1853致道館助教兼司業/預り地元締を兼任、  
1865隠居、「温海入湯記」著
- I3523 **命親**(のぶちか・北村きたむら、命堯のぶたか男)1810-185546 信濃伊那郡上穂村(天領)の里正の家、国学者、

歌人;香川景樹門(父と同門)、  
[命親(;名)の通称]与一右衛門

- C3502 **信親**(のぶちか・内藤ないとう、信思のぶもと、号;藤翁/鶴嶺、信敦男)1812-7463 越後村上藩主;1825襲封、1851老中に就任、1860信思に改名/62致仕/64隠居、文武奨励;学館克従館創設、1845-48「緒端録」著
- H3548 **信近**(のぶちか・上村うえむら、通称;一平)?-1890 飛騨高山の地役人、国学・歌;山崎弘泰門
- H3575 **延親**(のぶちか・大藪おおやぶ、香川常好長男)1814-9582 播磨美嚮郡下和田村の神職、明石郡岩屋神社社司;明石郡の中総社家触頭、国学者;大国隆正門、大藪文雄あやおの父、[延親(;名)の別名/通称]別名;斎宮、通称;護人/主殿とのも、延親主命
- H3568 **言近**(のぶちか・大竹おおたけ/本姓;中臣、)1819-7355 伊勢度会郡の国学者、[言近(;名)の初名/通称/号]初名;芳光、通称;右藤太/五藤太、号;蓬邨ほうそん
- I3524 **信親**(のぶちか・久野くの、通称;平次郎)1832-189362 常陸茨城郡の国学者
- H3561 **信近**(のぶちか・小比賀おびが、)1835-189965 讃岐香川郡宮脇村の田村神社神官、国学者;皇学、「神道葬祭式」「古文語脈考玉霰論」「音義徴」著、[信近(;名)の通称]善也/千次郎
- 信親(のぶちか・南部) → 利済(とじた・南部なんぶ、藩主) M 3 1 7 2
- 信周(のぶちか・川瀬) → 鳳声(ほうせい・川瀬かわせ、藩士/俳人) B 3 9 9 9
- 信近(のぶちか・柳沢) → 保泰(やすひろ・柳沢やなぎさわ/源、藩主) C 4 5 8 9
- 信近(のぶちか・山上) → 信敏(のぶとし・山上やまがみ/須田、藩士/国学) K 3 5 2 6
- 衍親(のぶちか・松平) → 雪川(せつせん・松平、治郷の弟/俳人) E 2 4 4 8
- C3503 **延都賀**(のぶつが・清元きよもと/為永)?- ? 人情本:為永春水の代作者
- C3504 **信嗣**(のぶつぐ・大炊御門おおひみかど、冬忠の長男/本姓;藤原)1236-131176歳 母;藤原長宗女、鎌倉期廷臣;1259従三位/89従一位/1309(延慶2)太政大臣、1370「土御門院四十四回聖忌宸筆八講」、「宸筆御八講五卷日記」著 [信嗣(;名)の通称/法名]通称;嵯峨、法名;行智
- C3505 **延次**(信次のぶつぐ・荷田かだ、大和介、羽倉はくら政信男)1577-165175 山城紀伊郡伏見稻荷社目代職、内非蔵人、上国面/玄蕃頭/従五下、「荷田信次詠草」著
- H3514 **陳次**(のぶつぐ・有馬ありま、通称;内記)1771-183868 筑後久留米藩家老有馬守居もりいの養子、久留米藩国老に就任、国学、妻;詮子あきこ(歌人)
- G3577 **宣統**(のぶつぐ・石上いそのかみ)?- ? 文筆家;1809(文化6)「卯花園漫録」著
- C3506 **信緝**(のぶつぐ・県あがた、字;敬止、安形あがた通義男)1823-8159 下野宇都宮藩士;家督を弟に譲渡、県家を興す、儒;大橋訥庵/一斎門、劍術;千葉周作門、勘定奉行/農政に通ず、1864天狗党に連座;幽閉、復職;家老に昇進、「県信緝手記」「県信緝日記」「県信緝修陵雑記」「愁思録」、「蒲生君平遺稿」「耕作日記」 [信緝の通称/号] 通称;勇紀[記]/駒之進、号;東洲/六石/在田
- 信次(のぶつぐ・梶) → 旗山(きざん・梶かじ、藩士/画/茶) K 1 6 7 1
- C3507 **信綱**(のぶつな・藤原ふじわら、定成男/大江拳周の猶子)?-? 廷臣;蔵人/従五下、関白頼通家家司?、歌人、1046-53関白殿蔵人所歌合/-67定綱家歌合参加、続詞花集入、金葉Ⅱ656:頼綱と連歌、[かり袴はかまをばをしと思ふか](金;雑656付句/借りと雁・惜しと鴛鴦をしを掛る、前句;鴨川を鶴脛はぎにても渡るかな、宇治への道にて増水し鴨川を袴を脱いで手に持ち渡るを見て;源頼綱、四種の鳥を詠みこむ;物名的連歌) 「後拾遺」の叡覚と同一? → 叡覚(えいかく、僧/後拾遺歌人) 1 3 1 7 金葉集三奏本の[行綱]は誤写? → 行綱(ゆきつな:名・姓未詳) E 4 6 8 9
- C3508 **信綱**(のぶつな・藤原ふじわら) ? - ? 鎌倉前期廷臣;皇太后宮少進、歌人;1201(9月)和歌所影供歌合参加
- C3509 **信綱**(のぶつな・上泉かみいづみ、憲綱男)?-1573 上州勢多郡上泉の軍学者;長野業政に出仕、箕輪城に住/箕輪落城後;諸国を武者修行、軍学;小笠原宮内大輔門/上泉流軍学の祖、愛洲惟孝門;愛洲陰流の刀槍術を修学、自ら工夫し新陰流と称し柳生但馬守に伝授、初め伊勢守と称す/のち宮中参内し従四下武蔵守となる、

- 「軍敗訓閥集」「諸葛孔明八陣積卒五營」著、「軍鑑兵的」伝/「向上極意之方大星巻」伝
- C3510 **信綱**(のぶつな・松平まつだいら、大河内久綱の長男) 1596-1662 67 母;深井好秀(資正)女、  
叔父松平正綱の養嗣子;幕臣;1604徳川家光に出仕/1623小姓組番頭、  
1627(寛永4)相模・上野国内 3 万石の大名に列す、1633武州忍藩主・老中、従五下伊豆守、  
島原の乱で軍功;1639武蔵川越藩主に転封/47加増され7万5千石/家光没後は家綱を補佐、  
幕閣の中心に在り才気は[知恵伊豆]と称される、藩政では治水・開発・勸農政策を推進、  
家光拝領の名物茶碗多数、「松平伊豆守状」著、  
[信綱(;名)の幼名/初名/通称/法号]幼名;亀千代/長四郎、初名;正永、  
通称;伊豆守、綽名;知恵伊豆、法号;松林院
- C3511 **鋪綱**(のぶつな・朽木くつき/本姓;源、玄綱とおつな男) 1730-87 58 1770兄綱貞の養嗣;1780家督継嗣、  
丹波福知山藩主;3万2千石、教育施策;学館建設、太宰春台に私淑、茶を嗜む、  
「擬独語」、「豪徳公詩集」著、養子;昌綱まつな、  
[鋪綱(;名)の幼名/通称/号]幼名;豊之助/千之助、通称;舎人、号;了春庵/了泰庵  
法号;徳寿院
- C3512 **信綱**(のぶつな・土田つちだ、津田伊右衛門男/土田治兵衛の養子) 1789-1849 61 加賀大聖寺藩士、  
:1812家督継嗣、1838近習頭/47御旗奉行、46「聖藩年譜草稿」著、  
[信綱(;名)の通称]権之助/権助/治兵衛(義父の名)
- J3596 **伸綱**(のぶつな・馬来まき、通称;巳次郎/平内兵衛) 1830-? 長門萩藩士、歌;近藤芳樹門、のち神官、  
[たきものほのかなる香をよすがにて軒端の梅ぞ雪に匂ほへる]([萩の歌人]入)
- I3521 **信綱**(のぶつな・北原きたはら、稲雄いなお長男) 1849-1901 53 信濃伊那郡座光寺村の名主(庄屋)の生、  
国学;父門/私塾寺子屋で子弟教育(信惟・因信・稲雄・信綱4代)/国学;父同様に平田鉄胤門、  
1868戊辰戦争で鎮撫副総督澤為量に従軍;奥羽転戦、  
維新後;1869信濃飯田藩主堀親広から士族に列せらる、73村戸長/学校学事掛、  
1876名古屋裁判所に出仕/77山梨県属;致仕帰郷/1884長野県会議員/94衆議院議員、  
のち弟阿智之助も衆議院議員、  
[信綱(;名)の別号/通称/号]幼名;森太郎/別号;信允、通称;東五郎、号;東竜  
信綱(のぶつな・藤原) → 叡覚(えいかく;法諱、僧/後拾遺歌人) 1 3 1 7  
信綱(のぶつな・源) → 重道(重通しげみち・源みなもと、廷臣/歌人) C 2 1 9 9
- C3513 **陳経**(のぶつな・菅原すがわら、賀茂守道男/菅原師長の養子) ?-? 1106存 平安期廷臣;文章生/暦博士、  
「菅家御伝記」著
- K3550 **信常**(のぶつな・吉浦よしうら、) ? - ? 江前期;上方の歌人、  
1670下河辺長流[林葉累塵集]約70首入、同集入集の吉浦景雄と同族か、  
[なごの海や夕日かすめる波の上に紅くぐるあまの釣船](林葉累塵;春75)、  
[うしつらしとばかりいひて山しなやは頼みなき世にも有るかな](林葉累塵;1233)
- C3514 **延経**(のぶつな・出口でぐち、延佳のぶよし2男/本姓;度会むらゐ) 1657-1714 58 伊勢度会郡岩淵の神職、  
兄早世のため家職継嗣;1662外宮権禰宜/従五下/正四下、父延佳より家学の神道学継嗣、  
さらに発展[;講古堂継承]、「延経考物」「神名帳考証」「神道古典考」「神事随筆」、  
「伊勢斎宮部類」「伊勢両宮案内記」「出口延経筆乗」外著多数  
[延経(;名)の幼名/通称/号]幼名;市之丞、通称;帯刀/権大夫、号;講古/講古堂
- C3515 **信庸**(のぶつな・松平まつだいら、初名;政信/信慈、通称九十郎、典信男) 1666-1717 52 篠山藩主/信利養嗣、  
1677襲封/97京所司代/1714老中、藩儒学の奨励、  
「篠山封疆志」「篠山領地誌」編纂、「諸陵考」著
- C3516 **延庸**(のぶつな・中臣なかとみ/家名;富田とみた、延晴の長男) 1692-1757 66 大和春日大社神職/1713権預、  
1751正預、正三位、歌人;冷泉家入門、光知の父、  
「春日社法楽和歌」「五十番歌合」「五百題和歌」著、  
「神代神宝記」「春日山木枯槁御神楽之記」「神籬之伝秘中之秘」著
- C3517 **延彝**(のぶつな・青山あおやま、字;子好/通称一之進、号;瑶溪よりけい、小泉正房男) 1729-1801 73 水戸藩儒、  
儒;菊池南汀・青山西塙門/のち西塙の養嗣子、彰考館員、「瑶溪詩集」「瑶溪文集」著、  
「鬼将軍伝」「古語拾遺訂正」「大社考」「常陸二十八社考」、「瑶溪先生詩纂」「瑶溪先生文纂」著
- C3518 **信庸**(のぶつな・のぶよし・西洞院にしどういん、時名男/兄時義の嗣) 1758-1800 43 母;安藤次由女、廷臣;

1796参議、1797従二位/歌;「探題当座」著

- C3519 **信常**(のぶつね・白井しらい/通称;喜左衛門、屋号;財物屋) 1791-1841 51歳 上総埴生郡地引村の名主・国学/歌;田中重世門、「白井信常詠草」著、  
[信常の号]号;桜舎おしや/さくらのや、能美賀年山人、屋号;財物屋
- J3591 **信経**(のぶつね・二渡ふたたり、) 1825-1894 70 上野山田郡の国学者/歌人;黒川春村門山田郡川内村高津戸の二渡茂矩げりの一族、  
[信経(;名)の字/通称/号]字;恭卿、通称;喜一郎/金平、号;菫園  
信常(のぶつね・角田) → 忠守(ただもり・角田つのだ、神職/暦学) R 2 6 0 4  
宣経(のぶつね・内田) → 宣経(のりつね・内田うちだ、商家/国学者) F 3 5 1 4
- G3560 **信綿**(のぶつね・岩出いわで/本姓;源、通称;主税ちから) 1687-1763 77 江戸の幕臣;勘定/大番、御天守之番頭、歌人;広通「霞関集」入、法号;楊月  
[一声は聞きもさだめずあけぼのの雲のまぎれの山郭公](霞関;夏234/曙郭公))
- C3520 **信頼**(のぶつね・雀部ささきべ/ささべ、信頼?)?-? 江中期;国学者/語学;1760「氏邇乎波てには義慣鈔」著
- C3521 **信亨**(のぶつね・のぶあきら・松平まつだいら/本姓;源、上山範主信将男) 1746-96 51 羽前上山藩主;1761遺領継嗣;襲封、従五下/山城守、大坂城加番/外桜田門番、歌;冷泉家門、藩政怠慢のため藩内の動揺;1790致仕/大蔵少輔、歌/俳諧/書画を嗜む、「信亨朝臣道記」著、歌;石野広通「霞関集」入、  
[聞くからに岩もる清水音たててくるる夜涼し山の下庵] (霞関;夏335/泉声入夜涼)、  
[信亨(;名)の幼名/初名/通称/号/法号]幼名;冬末/勘四郎、初名;信賢、  
通称;山城守/大蔵少輔おおくらのしょう、号;澄月、法号;華台心院
- J3568 **葉面**(のぶつね・林はやし、本姓;橘) 1835-1901 67 近江甲賀郡北柚村三大寺三大社別当本覚院住職、1892三大寺が廃寺となりその寺号と法燈を継承/大僧都/神職、歌人;[鴉のうみ]入、  
[葉面(;名)の別名/通称/法名]別名;正陰、通称;大和、法名;真観  
☆三大寺;飯道山山頂の飯道寺・中腹道德寺・山麓薬王院を指す(各神社を合祀)、  
本覚院;飯道山北麓にあった天台宗寺院/1892三大寺が廃寺;本覚院が寺号法燈を継承/  
のち飯道寺はんどじと改称
- C3522 **信輝**(のぶてる・松平まつだいら、輝綱男) 1660-1725 66 母;板倉重宗女、武蔵川越藩主;1672遺領襲封、従五下/伊豆守、江戸城和田倉門番/内桜田門番/1694下総古河藩に転封;  
門番・警固職歴任/1709致仕、兵学(父を継承;砲術・武具等);軍書著/歌に通ず、  
「銃録綱目」「騎射」「玉之術」「玉経」「短筒之書」「枕仰葉闕」「宗見公信輝軍歌」著  
[信輝(;名)の幼名/初名/号/法号]幼名;亀千代、初名;晴綱、号;宗見、法号;神竜院
- C3523 **宣輝**(のぶてる・小池こいけ) ? - ? 江後期1804-18頃上州生品明神神主、1807「国恩信心足日重鎮」著
- C3590 **宣輝**(のぶてる・草鹿砥くさかど/本姓;藤原) 1818-1869 52歳 江後期三河一宮砥鹿かど神社宮司、国学者、波田野敬雄たかおと離檀運動、1842豊川妙巖寺と離檀懸合を起し1854寺社奉行より許可、平田篤胤撰「弘仁歴運記考」共同で校訂(寺部宣光・竹尾正寛まさひろと)、宣隆の父  
信輝(のぶてる・有馬) → 正義(まさよし・有馬/坂木/榊、藩士/勤王) I 4 0 7 0
- C3524 **信任**(のぶとう・人見ひとみ、在信男) 1772-? 1798存 医者;幕府西丸御医師、「増補小長医編」補
- H3547 **信任**(のぶとう・宇高うたか、) ?-?明治初年没 伊予松山藩士;徒士目付、歌人/能書、柳生流剣術、  
[信任(;名)の通称] 大助/市兵衛
- K3525 **信任**(のぶとう・山県やまがた、) 1809-1866 58 周防岩国藩士;江戸藩邸用人、  
国学者/歌人;森脇惟久門、  
[信任(;名)の通称/号]通称;峻蔵/権左衛門、号;映雲  
宣藤(のぶとう・中御門) → 宣明(のぶあき・中御門なかみかど、廷臣/歌) 3 5 6 9  
信藤(のぶとう・藤原) → 信藤(のぶふじ・藤原/坊門、廷臣/連歌) D 3 5 2 0
- C3525 **延遠**(のぶとお・中臣なかとみ/家名;大東、書名;祐政、有忠男) 1115-76 62 神職;1159春日社権預、1170従五上/71春日社正預/72春日社若宮神主兼任、遠忠の父、「春日社御本地御託宣記」著
- C3526 **宣時**(のぶとき・大佛おさらぎ/家名;北条、朝直ともなお男/本姓;平) 1238-1323 86 武将;鎌倉幕府重臣、北条貞時の連署(1287執事)、1289陸奥守/従五下/1301出家、歌人;為氏/為世/兼好と親交、1261宗尊百五十番歌合参加、続現葉・柳風抄入、勅撰37首;続拾遺(426/847/1183)異か、

朝房・時貞の兄弟/宗宣・宗泰・宗直・貞宣(共に勅撰歌人)の父、

徒然草215段;最明寺入道時頼との逸話の昔語り入、

[さざなみや志賀の唐崎こほる夜は松よりほかの浦風もなし](続拾遺;冬426)、

[宣時(;)名)の初名/通称]初名;時忠、通称;武蔵五郎/出雲五郎左衛門尉、法号;永園寺忍昭

C3527 **信時**(のぶとき・小須賀こすが/本姓;藤原)?-? 江前期伊勢の文筆家;軍記作者、「関原集」著

K3503 **信祝**(のぶとき・松平まつだいら/大河内松平家4代、古河藩主松平信輝長男)1683-1744<sup>62</sup> 江戸生、  
1709(宝永6)父隠居;家督嗣;下総古河藩2代藩主;甲斐守/のち伊豆守、  
1712(正徳2)三河吉田藩7万石に移封/19(享保4)信祝に改名/奏者番、吉田に豊城神社建立、  
1729(享保14)大坂城代;従四下/遠江浜松藩7万石に移封、1730(享保15)老中/侍従;  
将軍吉宗の享保の改革に参与、1744(延享元)老中在任中に没、長男信復が家督嗣、  
古典・歌人;中院なかのいん通躬みちみ・冷泉為久門、  
[信祝(;)名)の初名/通称]初名;信高、通称;亀千代/甲斐守/伊豆守

K3502 **信辰**(のぶとき・松平まつだいら/本姓;源、通称;右衛門、信綿男)1700-38<sup>39</sup> 江戸の幕臣、  
国学;賀茂真淵門

C3528 **信鴻**(のぶとき・柳沢やなぎさわ、別名;義稠よしあつ/信卿のぶあき/伊信、吉里男)1724-92<sup>69</sup> 大和郡山藩主;  
1745家督継嗣、1773致仕、俳諧;2世青峨門/米仲門、博識多趣味;儒/詩歌/画、  
1773-85「宴遊日記」/1778「伊勢物語随意抄」/82「米恩集」/84「蘇明(染井)山荘発句藻」珠来編、  
1791「よつのともし」、1786-92「松鶴日記」、「米つくは」「新編拾草集」、  
「俳諧連歌百韻」「柳沢香山公俳文集」著

[信鴻の号] 香山/浦十/春来/蝦明/米徳/米翁、米仲2世、月村所/紫子庵/蘇明山人

K3542 **宣辰**(のぶとき・田井たい、通姓;久左衛門)1802-74<sup>73</sup> 阿波穴喰の元組頭/庄屋、  
1854(安政元)の安政南海地震・津波の穴喰の状況を詳細に記録;  
2006(平成18)子孫の妻の田井晴代訳[震潮記]に所収

K3524 **信解**(のぶとき・保田やすだ、本姓;柴田)1838-65<sup>切腹</sup>28 近江膳所藩士;中老職、国学者、  
藩の尊攘派を指導;幕府の第2次長州征討に反対/将軍家茂の膳所城宿泊中止事件で投獄、  
1865(慶応元)同志と共に切腹、

[信解(;)名)の初名/通称]初名;正経、通称;信六郎しんろくろう

信言(のぶとき・林) → 鳳谷(ほうこく・林、幕府儒官/大学頭) F 3 9 2 5

C3529 **宣時女**(のぶときのみすめ・大佛おさらぎ/北条/平)?-? 鎌倉後期歌人、続千載1998、  
[いまははや世をもうらみず身ひとつのうきになしてぞねはなかれける](続千載;雑1998)

C3530 **延俊**(のぶとし・源みなもと;醍醐流、明賢男)?-? 笠置少輔入道、1182頃源資賢と贈答歌;  
「入道大納言資賢卿集」入、娘に範宗母がいる

C3531 **信俊**(のぶとし・綾小路あやのこうじ、法号;了信、敦有男/本姓;源)1355-1429<sup>75</sup> 廷臣;1428権中納言、  
従二位、1429出家、郢曲いさきよく、「御神楽記」、「梁塵曲総目録」「信俊卿記」著

C3532 **延俊**(のぶとし・木下きのした、家定男/長嘯子の弟)1577-1642<sup>66歳</sup> 妻幽斎女、撰津駒林城主、  
1600関ヶ原戦では東軍、1601豊後日出城主、「慶長十八年日記」著

B3512 **命朝**(のぶとし・金子かねこ、)1680-1756<sup>77</sup> 信濃佐久郡の薬舗、歌;烏丸光栄門、国学者、  
[命朝(;)名)字/通称/号]字;子陽/子礼、通称;玄蔵/鬚玄蔵、号;玄洲

C3533 **延年**(のぶとし・勝野かつの/大沢、大沢無手右衛門男/勝野武延養子)?-?1757<sup>存</sup> 尾張藩士;1740馬廻番、  
1748御書院番/57致仕、故実家、「故実用捨」「貫流目録」「平士一騎用具略記」著、  
[延年(;)名)の通称]彦蔵/文左衛門

H3577 **延年**(のぶとし・えんねん・岡おか、)1740-1811<sup>72</sup> 備中倉敷の商家;坂口屋/岡窪江かくてい(詩人)の弟、  
絵師;大西酔月門/人物画に長ず、国学を修学、

[延年(;)名)の字/通称/号]字;武成、通称;文兵衛、号;亀亭/仙孺、屋号;坂口屋

G3584 **信敏**(のぶとし・山路やまち/本姓;平)1785-1860<sup>76歳</sup> 京の地下官人、歌人;香川景樹門、  
[信敏(;)名)の字/通称/号]字;有功、通称;帯刀、号;屠竜

I3582 **信俊**(のぶとし・関戸せきど、通称;二郎/号;朔翁)1797-1846<sup>50</sup> 尾張名古屋の茶人/歌人;冷泉家入門

C3535 **延年**(のぶとし・児玉こだま、延、通称;左源太/号;大山、双男)1794-1859<sup>66歳</sup> 加賀大聖寺藩士、  
1820馬廻番、町・寺社奉行/馬廻頭格、家学;兵学/槍術に長ず、狩野派画:「大山写真」著

H3563 **信敏**(のぶとし・大神おおが、) ? - ? 筑前粕屋郡の箱崎宮の宮司、

- 歌人;1836(天保7)香川景樹(1768-1843)門、  
[信敏(;名)の通称/号]通称;惣右衛門、号:余逸
- H3571 **宣甫**(のぶとし・大谷おおたに、) 1775-1835 61 因幡鳥取の町人頭、  
国学;衣川長秋門/歌;城戸千楯門、  
[宣甫(名)の通称/号]通称;文次郎、号;椎の屋
- K3534 **信俊**(のぶとし・吉田よしだ、) ? - 1837 江後期;越後蒲原郡の国学者、  
国学;生田いた万よろづ(国秀くには/1801-37)門/生田万の義挙に関与?
- I3525 **信敏**(のぶとし・久保くぼ、通称;十左衛門/号;静山) 1788-1869 82 佐渡相川の国学者/歌人
- K3526 **信敏**(のぶとし・山上やまがみ、旧姓;須田) 1809-61 53 信濃飯田藩士;側用人、国学者/歌人、  
国学・歌;植松茂岳しげおか門、  
[信敏(;名)の初名/号]初名;信近、号;範治郎
- F3590 **信敏**(のぶとし・戸田とだ/本姓;藤原、信周男) 1814-78 65 美濃大垣藩老戸田縫殿家6代目;  
大垣藩筆頭家老;家禄2千石、妻;大垣藩主氏庸8女の春、国学/歌;富樫広蔭門、  
[信敏(;名)の通称/号]通称;縫殿ぬい、号;菊翁  
☆戸田縫殿家;①信晴(藩主氏信7男)・③縫殿④帯刀信辰⑤右京信周⑥縫殿信敏⑦式部晋
- K3515 **延年**(のぶとし・村田むらた、良風よしかぜ男)?-1872 近江彦根藩士/国学・歌;父門、歌;[鳩のうみ]入、  
[延年(;名)の通称/号]通称;年太郎/大輔/翁介(父の称)、号;美意/宗専
- J3534 **延年**(のぶとし・中路なかじ、旧姓;岡本) 1823-1892 70 尾張名古屋藩士、中路信貫の養子  
儒・陽明学;春日潜庵門、近藤家附人/尊攘派;西郷隆盛らと交流、  
1862(文久2)島津久光の公武合体策を朝廷に仲介、維新後東京住;大日本農会に関与、  
[延年(;名)の通称]栄治/栄之進/権右衛門
- H3566 **延年**(のぶとし・大蔵おおくら、) 1826-1897 72 加賀江沼郡の鉱泉宿経営、学問に励む、  
歌・俳諧・書画を嗜む、維新後;寺子屋[以文館]を開設;子弟教育、  
[延年(;名)の号] 仰道/松斎
- I3554 **信敏**(のぶとし・佐藤はさとう、) 1833-1906 74 出羽御勝郡の国学者;平田鉄胤門、  
神道?;芳賀高信門、大講義、  
[信敏(;名)の通称] 清治/清司
- I3566 **延年**(のぶとし・志賀しが、綏やすし男) 1833-1905 73 紀伊和歌山藩士;御小納戸役、国学;本居内遠門、  
[延年(;名)の通称/号]通称;栄吉/弥左衛門、号;竹翠
- I3516 **延年**(のぶとし・菊川きくかわ、) 1837-1871 35 淡路三原郡湊里村の庄屋、国学者;大国隆正門、  
儒学・詩;/岡田鴨里・山口俊樹(睦斎ぼくさい)・落合双石・藤本鉄石・松本奎堂けいどう門、詩人、  
[延年(;名)の通称/号]通称;与蔵、号;柿谷
- I3583 **延年**(のぶとし・関根せきね、) 1840-1890 51 三河吉田藩士/江戸詰、詩人、  
「豊橋四時雑詞」、1880「東京新詠」著、  
[延年(;名)の別名/通称/号]初名;柔、通称;録三郎、号;痴堂ちどう(癡堂)
- 延年(のぶとし・松村) → 梅岡(ばいこう・松村まつむら、儒者/詩人) B 3 6 1 7  
延年(のぶとし・橋爪) → 玄惟(げんい・橋爪、医者/漢学者/剣術) H 1 8 6 9  
延齡(のぶとし・平出) → 延齡(えんれい・平出ひらで/杉江、医者/文学) C 1 3 2 4  
信俊(のぶとし・隠名) → 栄仁親王(よしひとしんのう、崇光皇子) G 4 7 4 6  
信俊(のぶとし・藤原/坊門) → 信雅(のぶまさ・藤原/坊門、廷臣/歌人) D 3 5 2 5  
信年(のぶとし・藤田) → 浪緒(なみお・藤田ふじた、藩士/歌人) G 3 2 8 9  
信利(のぶとし・白井) → 柳枝(りゅうし・白井しらい、代官/商家/俳人) E 4 9 3 3  
信敏(のぶとし・萩野) → 鳩谷(きゅうこく・萩野/孔平くびら、藩士/儒) I 1 6 7 4  
布淑(のぶとし・小川) → 布淑(のぶよし・小川、歌人) C 3 5 3 4  
宣俊(のぶとし・嶺田) → 楓江(ふうこう・嶺田/峰田、藩士/詩) 3 8 6 0  
信富(のぶとみ・安井) → 信富(のぶよし・安井、神職/狂歌) D 3 5 9 4  
信富(のぶとみ・宇仁館うにだて) → 富元(とみもと・宇仁うに、占卜家) O 3 1 9 7  
信富(のぶとみ・林) → 信方(のぶかた・林やはし、幕府儒官) B 3 5 1 9
- C3536 **延誠**(のぶとも・のぶさね・度会わたらい、延雄男) 1274?-? 1334存(60歳) 外宮権禰宜、  
1305兄延明と古今訓点秘説を受、

歌:1321外宮北御門歌合参加/34朝棟亭歌合参加(3首)、勅撰2首;続千載1888/風雅2118、  
[かくて世にうきを報いと思ひしる心のなきを身にかこつかな](続千載集;十七1888)、  
[涙さへふりこそまされ身のうさを歎く六十の秋の寢覚に](朝棟亭歌合;54)

- C3537 **延朝**(のぶとも・中臣なかとみ/家名大東、延茂男)1309-9385歳 南北期神官;1351春日社権預、  
従四下丹波守、歌;新後拾1510、連歌;菟玖波集1句入、  
[仕えこし跡をぞ頼む三笠山さすがに神のすてじと思へば](新後拾遺;神祇1510)
- C3538 **信友**(のぶとも・榊原さかきばら)?-? 江前期寛文延宝1661-81頃神職;  
奈良春日神社の神楽方、1668「春日神社記」75「両部御遷座篇」著
- G3549 **信知**(のぶとも・古谷ふるや、通称;次郎右[左]衛門)?-? 江前期武芸家/劍術一刀流;伊藤忠也門、  
「一刀流劍術惣目録」「一刀流五箇条之心秘」著(伝)
- C3539 **信友**(のぶとも・羽倉はくら/荷田かだ、信詮男)?-? 江前中期17-18ct伏見稻荷社神職、「信友日記」著、  
荷田春満あずまろ[1669-1736]/羽倉信名のぶな[1685-1751]の兄
- C3540 **信友**(のぶとも・川口かわぐち/初姓;都筑つづき、都筑為常5男/)1694-177178 川口信就の養嗣子、幕臣;  
1701家督;3百俵/腰物方/1732書物奉行、1757西丸裏門番頭/71致仕;没、  
1744「甘蔗考」、「大日本史人名録」著、「万世家譜」編、  
[信友(;名)の初名/通称]初名;為之、通称;万五郎/頼母、隠居号;知還、法号;泰量院
- C3541 **信友**(のぶとも・小森/通称忠兵衛)?-? 江中期大阪文筆家、1749「家彪集」刊
- 3510 **信友**(のぶとも・伴はん、若狭小浜藩士山岸惟智4男)1773-184674 母;片岡良雄女のサヨ、  
伴信当の養子、妻;信当女的美尾、若狭小浜藩士;江戸の御広間番役/1806家督継嗣、  
藩主酒井忠進に随い江戸・小浜・京に在勤、1821致仕、儒;崎門学、国学/古典考証;大平門、  
宣長の没後門人、著述3百巻;「長等山風ながらのやまかぜ」「栄華物語考」「若狭文書」「陰陽根名彙」  
「伴信友歌集」「信友翁歌集」「金石文考証」「風葉編」「軼記」「和訓栞余」「みつわくむ説」著、  
「古文零聚」「古文書抄」「神聖秘函」「和名類聚抄郷名集覧」「聴読抄」編、外編著多数、  
歌;蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858刊)入、  
[難波江やあし火たくなる煙より春の霞もたちや初めける](大江戸倭歌;春64江霞)、  
[信友(;名)の幼名/通称/号]幼名;惟徳、通称;鋭/鋭五郎/州五郎、号;特こい/事負こい、  
法号;善丘院、信近の父
- H3521 **信友**(のぶとも・井上いのうえ、)1784?-185572? 周防岩国藩士/国学者  
[信友(;名)の通称]久槌/直太郎/友太郎/又六
- |             |   |                        |           |
|-------------|---|------------------------|-----------|
| 久槌(ひさつち・井上) | → | 信友(のぶとも・井上いのうえ、藩士/国学者) | H 3 5 2 1 |
| 信友(のぶとも・安藤) | → | 冠里(かんり・安藤、藩主、俳人)       | E 1 5 2 0 |
| 信友(のぶとも・市川) | → | 眞風(まかぜ・市川/藤原、幕臣/国学者)   | 4 0 5 0   |
| 信友(のぶとも・松倉) | → | 恂(じゆん・松倉まつら、藩士/財政/記録)  | 2 1 8 7   |
| 信友(のぶとも・坪井) | → | 信友(しんゆう/のぶとも・坪井、蘭医)    | B 2 2 9 1 |
| 信智(のぶとも・林)  | → | 確軒(かくけん・林はやし、幕臣/儒者)    | E 1 5 6 6 |
| 信智(のぶとも・加藤) | → | 桜老(おうろう・加藤、儒/国学/尊王派)   | C 1 4 7 3 |
- C3543 **信豊**(のぶとよ・武田たけだ、初名;光豊/通称;彦二郎、元光男)1514-? 1581存 武将・若狭守護;  
1538家督継嗣、宮内少輔、故実家、歌/連歌を詠む、  
1556「弓馬」「武田信豊流鎬馬礼法」「歩射失礼」、「歩射礼法」著、  
定家筆「伊勢物語」所持(:武田本)、  
[信豊の法諱/号] 伊豆入道、法諱;紹眞、道号;大仙、法号;靈雲寺大仙紹眞居士
- G3540 **敬豊**(のぶとよ・瀬下せしも、閑鷗/閑翁/江月堂)1667-174781 信州佐久郡の野沢陣屋主人、  
国学・俳人;おじ良重[貞徳門俳人は誰これたれ]門、敬忠のぶただ(俳人/郷土史家)の父
- H3517 **信豊**(のぶとよ・宮崎みやざき、)1703-178987 筑後三潁郡蛭池村の三島神社社司、国学者
- C3544 **信豊**(のぶとよ・大澤おおさわ、通称勝次郎)?-1855 幕臣1830目付/47西丸留守居、36「御台所人別帳」編
- K3555 **宣名**(のぶな・饗庭あえば/本姓;大中臣、)?-? 鎌倉南北朝の武家/廷臣;因幡守、京の東山住、  
1343(康永2)吉田兼好と写本の校合、歌;1345刊[藤葉集]入、  
[川島の水のながれはかはらねどうきせぞ見ゆる人の心に](藤葉;恋592)
- 3511 **信名**(のぶな・荷田かだ/羽倉はくら、信詮のぶのり/-なり男)1685-175167 母;貝子、伏見稻荷神官、社殿預職、  
撰津守/歌文、信友・春満あずまろの弟、信章のぶのりの父、信郷(のぶさと・羽倉信満男)の養父、

- 「羽倉信名日記」、「万葉集童蒙抄」「万葉集割記」著、  
 [信名の通称/別名] 通称;主馬/撰津守/民部、別名;暗麿/暗丸/倉丸くらまる
- G3563 **信名** (のぶな・土屋つちや/本姓;源、近藤佐五右衛門勝義男) 1698-1775 78 江中期幕臣;  
 土屋半大夫虎信の養子;土屋家を継嗣/大番、近藤義休よしの弟、  
 歌;冷泉家門、石野広通「霞関集」入(兄義休と)、  
 [さぬる夜の夢にはあらで逢ふことのうつつながらに見るもすくなき]、  
 (霞関;恋801/適逢恋)、  
 [信名(;)名の初名/通称]初名;信珉しんびん、通称;金十郎、法号;戒身
- 3512 **信名** (のぶな・中山なかやま、柳洲、坂本玄周男) 1787-1836 50歳 常陸の国学者;塙保己一門、  
 幕臣;中山平蔵の養子、和学講学所教授/群書類従編校訂、  
 「塙保己一伝」「常陸編年記」「柳洲雑記」著、「常陸国誌」編  
 信名 (のぶな→のぶかた・今井) → 八九郎(はちくろう・今井いまい、藩士/蝦夷測量) E 3 6 8 3  
 殷根 (のぶな・河村滋根) → 殷根(しげね、河村、国学) C 2 1 6 6
- C3545 **宣直** (のぶなお・北条ほうじょう/家名;佐介/本姓;平、北条宣房男) ?-? 鎌倉後期武将・左近将監/五位、  
 歌;嘉元徳治1303-08頃関東歌壇で活躍、柳風抄入、玉葉333、  
 [わがための初音とのみや時鳥おなじ寝覚の人はきくらん](玉葉:夏333/郭公を)  
 [ゆきのうちに春やおそきと咲く梅のはなにまたれてうぐひすぞなく](柳風抄;春9)
- C3546 **信直** (のぶなお・禰津ねづ、松鷗軒/法名常安、覚直男/本姓滋野) ?-? 1590存 武将;武田家臣/家康臣、  
 信州諏訪社奉仕の鷹匠、「禰津松鷗軒記」著、「鷹狩記根津流」伝
- C3547 **信直** (のぶなお/のぶなが・出雲路[寺]いづもじ/春原、板垣玄仙男、本姓;齋部いんべ) 1650-1703 54 京の神職;  
 下御霊しもごりよう神社社司(祠官)/従五下、垂加神道;山崎闇齋門;高弟、  
 師の「中臣祓風水草」を相伝、歌人/国学者、1682「下御霊社略記」著、「玉籤集」「神代秘記」著、  
 「出雲路信直日記」「近江国栗太郡建部大明神縁起」「神代秘記」著  
 「日少宮伝ひのわかみやでん並生死之伝」著(1764刊)、  
 [信直の通称/号] 通称;民部、号;八塩道翁やしおじのおきな
- C3548 **信直** (のぶなお・佐藤さとう、字;子質、通称東蔵、号;広水、信貞男) 1691-1745 55 仙台藩鷹匠組/大番士、  
 評定所役人/刀奉行、1782「仙台武鑑」;藩主に献上、「仙台武鑑副録」、94「佐藤東蔵上書」著
- C3549 **信復** (のぶなお・松平まつだいら、号;泰河堂、信祝のぶとき男) 1719-68 50 遠江浜松藩主;1744襲封、  
 1749三河吉田藩に転封、儒;三浦竹溪門/歌を嗜む、藩校時習館設立、  
 「楽譜筌蹄」「泰河堂詩集」「泰河公文稿」「信復公歌稿」著
- C3550 **信直** (のぶなお・高橋たかはし/旧姓;西にし) ?-1867 安藝佐伯郡の医者/安藝広島藩医高橋周悦養嗣子、  
 1793(寛政5)広島藩御医師組、1795長崎;吉雄耕牛門/外科を修学/1803御側医、  
 「治験」著、医者西道朴の弟、信義の父、  
 [信直(;)名の通称] 文良
- C3551 **信仲** (のぶなか・藤原ふじわら、信重男) ?-? 鎌倉期廷臣;散位/左衛門尉;後鳥羽院側近、  
 歌;1201(9月)和歌所影供歌合参加、  
 [はるばるのたもともさびしつたま木こる山人かへす谷の北風](影供歌合;15左/遠山慕風)
- C3552 **信長** (のぶなが・藤原ふじわら、九条太政大臣/城興寺殿、関白教通男) 1022-94 73 母;公任女、廷臣、  
 1069内大臣、80太政大臣/従一位、従弟師実と確執、歌;新勅撰370(九条太政大臣名)、  
 [大井河うかぶ紅葉の錦をば浪の心にまかせてやたつ](新勅撰;冬370)
- G3542 **信長** (のぶなが・織田おだ、信秀男) 1534-1582 自害 49 戦国武将/安土時代を画す、1560桶狭間で勝利、  
 1573足利義昭を追討;幕府滅亡/安土城築造;天下統一を目指す/1582本能寺の変で自刃、  
 一代記;1600頃太田牛一「信長公記しんちょうき」/14小瀬甫庵「信長記しんちょうき」/のち伝説化
- C3554 **宜長** (のぶなが・斎藤さいとう、号;旭山) 1784-1844 61 上州板井の農業/和算家;和田寧門、「前玉算法」著
- C3555 **舒長** (のぶなが・安達あたち、字;伯民) 1808-86 79 周防岩国藩士;町奉行/儒者;森脇斗南門、  
 詩歌/歴史に通ず、維新後;藩の系譜編纂に参画、「雨窓詩鈔及和歌集」著、  
 [舒長の通称/号]通称;十郎右衛門/八十綱、号;雨窓/桜所(桜処)/松菊、猶存舎/憂庵
- I3552 **延長** (のぶなが・佐竹さたけ) 1847-1916 70 代々出羽村山郡の出羽三山先達、  
 国学者;出羽鶴岡藩校致道館で修学/江戸に修学、帰郷後;開塾、  
 [延長(;)名の通称/号]通称;数馬、号;東山

信直(のぶなが・出雲路) → 信直(のぶなお・出雲路、国学/歌) C 3 5 4 7

- C3556 延成(のぶなり・のぶいげ・荒木田あらかだ/家名;岡田、成定男)1192-1278<sup>87</sup> 伊勢神職/1222内宮二禰宣、正四上、歌:勅撰7首;新勅(568)続後撰(765/1108)続古(711)続拾(63/1411)新後撰(717)、御裳濯集10首入、  
[やへさか木しげきめぐみの数そへていやとしのはに君をいのらむ](新勅撰;神祇568)
- C3557 信成(のぶなり・坊門ほうもん/水無瀬、/本姓;藤原、水無瀬親兼男)1197-1262<sup>66</sup> 初名;経平、坊門忠信の養子;信成に改名、廷臣;1218参議/正三位/29出家、1240頃水無瀬離宮跡に御影堂を建立し居住;後鳥羽院の菩提弔う、歌人:「北野社歌会」催、1236遠島御歌合参、[雲葉集]3首入/続後撰1176・1255/風雅1916;下野と院思慕の贈答、[君もさはわたりかねける涙川わが身ひとつの淵と思ふに](風雅;雑1916、返歌、後鳥羽院下野の歌;水無瀬川あはれむかしと思ふより涙の淵を渡りかねつつ)
- C3558 宣就(のぶなり・岡本おかもと/本姓;石上、旧姓;熊井田くまいだ)1575-1657<sup>83</sup> 上州の兵法家;岡本家を継嗣、武田家家臣;小幡信貞に属す/武術;上泉秀胤門;秘伝を受、のち彦根藩主井伊直孝の軍師、3千石で重用、歌/書/茶/画/文筆に精通、1634「当流軍敗正血脈」42「日取雑書」著、「悪所城祭」「岡本半介兵学伝書」「関原合戦図」「斥候巻」「潤飾訓閱集」「八幡流軍記」外著多、[宣就(;名)の初名/通称/号]初名;正武、通称;半介/半助/新八号;宜庵/喜庵/喜斎/無名翁/無明道人/安分子/飯袋子/臍斎主人、法号;竜雲院
- C3559 信也(のぶなり・相田あいだ、通称;東知退、権頭男)1641-1713<sup>73</sup> 京の儒:松永昌易/伊藤仁斎門、詩、書;賀陽鉄舟門、歌:望月長孝門、武術/箏・尺八、山脇道円と親交、「東知退詩歌集」著
- K3540 信成(のぶなり・中山なかやま、3代信治[備前入道道軒]男)1655-1703<sup>65</sup> 母;向井忠勝女、1683(天和3)家督継嗣(兄の4代信行の養子);常陸松岡藩5代藩主;従五下備前守、代々常陸水戸藩附家老、和学者/歌人、信順(6代信敏の養子)・7代信順養女の父、1703(元禄16)没、  
[桜狩そこともしらぬかへるさは月待ちてこそ猶しばしみめ](茂睡[鳥の迹]春109)
- H3598 信就(のぶなり・川口かわぐち、旧姓;本多)1667-1701<sup>35</sup> 江戸の幕臣川口信之の養嗣子、幕臣;桐間番、国学者、  
[信就(;名)の通称/法名]通称;源七郎、法名;道幸
- C3560 信成(のぶなり・加藤かとう、字;子原、清順男、景範父)1687-1751<sup>65</sup> 大坂の儒者;三輪執斎門、医者;後藤良山門、歌学;烏丸光栄門、1736-41師口述記録「聴玉集」「師説筆記」編、1748「承露吟草」著、  
[信成(;名)の通称/号]通称;源吉/清右衛門/源四郎/季朔、号;慎斎/禹門/暢庵
- I3555 信也(のぶなり・佐藤さとう、)1717-1790<sup>74</sup> 陸奥仙台藩士;小姓頭、国学者、母も国学者、17c仙台に製塩法を伝えた佐藤三右衛門の子孫か?  
[信也(;名)の通称]権右衛門/三右衛門
- H3518 信生(のぶなり・宮崎みやざき、信豊男)1724-1805<sup>82</sup> 筑後三潯郡蛭池村の三島神社社司、従五位下、大隈村天満宮祠官、国学者/和漢の学に通ず、宮崎信敦の伯父、  
[信生(;名)の通称/号]通称;山城守、号;千河翁
- J3563 信成(のぶなり・服部はつとり、通称;八重岡)1728-1805<sup>78</sup> 近江彦根の歌人/上京三絃;晃延門/檢校歌;[彦根歌人伝・亀]入
- C3561 信成(のぶなり・前田まえだ、利章男/本姓;菅原)1734-76<sup>43</sup> 加賀大聖寺藩士/藩主利道の弟、1761藩臣;家老上席、漢学(古学);大幸おおさか岱吠たいけん門、「前田系図」編、「太一遺稿」(;息信片のぶかた編)、  
[信成(;名)の初名/通称/法号]初名;利挙、通称;民部/中務、法号;太一院、
- C3562 信也(のぶなり・南部なんぶ、初名;信順、通称;左近/号;桜園)1798-1835<sup>38</sup> 陸中盛岡の歌人、「信也詠歌」著/黒川滝津と「春乃錦」共編
- C3563 信成(のぶなり・津田つだ、信邦男)1803-44<sup>42歳</sup> 加賀金沢藩士;1826家督嗣/150石、組外に列す、1832(天保3)御馬廻/定検地奉行/御近習番/御武具奉行、「諸士家譜」「四疊半並三疊大飴附等之図」著、  
[信成(;名)の別名/通称/号]別名;貞進、通称;鏝三郎つばさぶろう/次郎左衛門/宇兵衛、号;幹斎

- H3522 **信成**(のぶなり・井上いづえ、通称;次郎)1803or05-7674or72 武蔵秩父郡大宮郷の絹織物商、江戸で国学/歌;小林歌城・千種有功門、帰郷;私塾開設/のち忍藩庁国学館教授、三峰神社祠官
- C3564 **信就**(のぶなり・吉川よしかわ、通称;唯右衛門、長能ながよし男)?-? 越中富山藩士/奥御用、父からの「随筆」編、敬明たかあきの父
- C3565 **信就**(のぶなり・大脇おおわき、未徹男)?-? 江後期信州木曾福島の代官山村家の家臣、1838連座改易、「山村家譜」編、漢学者自笑じょうの父
- C3566 **信成**(のぶなり・鈴木すずき) ? - ? 江後期江戸の歌人:海野遊翁門、1845刊「貫之集類題」編
- H3502 **信成**(のぶなり・川口かわぐち) ? - ? 江後期;旗本/志摩守、歌人、蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858刊)入、  
[咲匂ふ花に問はばや五百とせの半すぎぬる昔語りを](大江戸倭歌;雑1903、伊予守義昌[木曾/1540-1595or96/武将]の二百五十年の忌に)
- J3541 **信成**(のぶなり・長谷ながたに、信篤のぶあつ長男)1841-192181 廷臣;美濃権介、歌人、1866(慶応2)朝廷刷新の22卿建議(廷臣二十二卿列参事件)参加;差控/67赦免、1868王政復古;秘書御用/参与助役/68参与、近臣/少納言/侍従/宮内権大丞、皇后宮亮兼宮内少丞/宮中祇候、御歌所参候/御歌御会始奉行、1903父没;家督継嗣、妻;閑子しづ(大原重徳2女)/長谷信道の父、  
[信成(;名)の通称] 美濃権介/宮内少丞
- J3572 **信成**(のぶなり・原田はらだ、通称;周右衛門)1842-190059 肥後天草郡の国学者  
 信成(のぶなり・松平) → 信成(のぶしげ・松平まつだいら/藤原、藩主) G 3 5 6 4  
 信成(のぶなり・萩原) → 員従(かづより・萩原はざむら/卜部、神道家) V 1 5 3 9  
 信成(のぶなり・片山) → 恬斎(てんさい・片山かたやま、藩儒/詩歌) D 3 0 4 7  
 信成(のぶなり・小川) → 泰山(たいざん・小川おがわ、漢学/折衷学) B 2 6 4 6  
 信億(のぶなり・生駒) → 信億(のぶのり/のぶなり・生駒いこま、歌/茶人) H 3 5 2 5
- I3556 **信也母**(のぶなりのはは・佐藤さとう、?)-1738(元文3) 陸奥仙台藩士佐藤家の妻、信也(1717-90)の母、国学者
- K3545 **宣庭**(のぶにわ・葛岡くずおか/かどおか/本姓源、?)-? 大坂の歌人;宣慶のぶよし(廷臣庭田家出身)の家族、宣慶の新歌林苑での月次会に参加;1688浅井忠能[難波捨草]入、  
[子規うときも時によるとなくひるともわかでこゑしきるなり]、  
(難波捨草;夏121/月次会に聞時鳥)  
 殷根(のぶね・河村) → 殷根(滋根しげね/のぶね・河村、国学者) C 2 1 6 6
- 3513 **信範**(のぶのり・平たいら、字;平能、知信男/母;藤原惟信女)1112-8776歳 平安末期廷臣;蔵人頭、故実;儀式に精通、1169延暦寺の強訴で備後に配流/1173兵部卿;撰関家累代の家司、鳥羽後白河院司、「兵範ひょうはん記」著
- C3567 **惟規**(のぶのり/これのり・藤原、為時男)?-1011 母;藤原為信女/紫式部の同母の兄、平安期廷臣;少内記/蔵人/式部丞、散位従五下、父の任国越後に赴く途中病に罹り客死、紫式部日記/俊頼髓脳に逸話;紫式部に比し学才凡庸を父が嘆く・臨終にも風雅に終着・齋院中将との恋など、歌人;家集「藤原惟規集」、続詞花集/万代集入、勅撰10首;後拾遺(466/729/764)金葉(391/395/547)千載(682)玉(2550)風雅(1460/1856)、うち後拾遺764は越中で死に臨み齋院中将への贈歌  
 [都にも恋しき人のおほかれればなほこのたびはいかむとぞおもふ](後拾遺764)
- C3568 **宣教**(のぶのり・中御門なかみかど、別名宣政、宣忠男/本姓藤原)1543-7836歳 母;藤原氏直女、戦国期廷臣;左中弁/蔵人頭、正四上、「宣教卿記」「普広院御所行幸記」著
- C3569 **信詮**(のぶのり・大沢おおさわ、正重2男)1624-9269歳 兄正次の養嗣子/幕臣/1633(寛永10)家督継嗣、1639大番/1660(万治3)天竜川堤の普請奉行/62大沢御殿修復奉行/66組頭/87小普請、「大沢信詮詠草」著、  
 [信詮(;名)の初名/通称]初名;治良はるよし、通称;次郎左衛門、法号;俊英
- K3551 **信範**(のぶのり・三沢みさわ、?) - ? 江前期;上方の武士/歌人、1670下河辺長流[林葉累塵集]6首入、

- [山里も松吹きやまぬ風のうへになほちりの身ぞありかさだめぬ](林葉累塵;雑1215)
- C3570 **信詮**(のぶりの/のぶあき・荷田かだ、通称主膳正、羽倉はくら/秋川)1643-9654 山城紀伊郡の神職;  
伏見稻荷社正預、神道家、後妻;深尾盛長女の貝子かこ、信友/春満あずまる/信名のぶなの父
- C3571 **信意**(のぶりの/馬場はば/山川、信武のぶたけ男)1669-172860 京の軍記作者;父門;歴史書・軍記に親しむ、  
1684(16歳)「松門亭万句連歌」に参加(福住道祐らと)、1679頃より軍書考究・訂正に携る  
1706「朝鮮太平記」09「南朝太平記」10「北陸七国志」12「義経勲功記」「西国太平記」外著多、  
[信意(;名)の字/号]字;玄隆、号;柳隠子/羅月堂、晩年号;山川素石
- C3572 **宣紀**(のぶりの/細川ほそかわ、熊本新田藩主細川利重2男)1676-173257 1708熊本藩主細川綱利養嗣子、  
1712(正徳2)家督継嗣;熊本藩主、早魃・台風・火災など天災等で財政窮乏、詩人、  
「研覃居けんたんきよ詩集」「細川家訓」著、50歳知命の賀集「九如集」編纂される、  
宗孝/重賢/清源院軌子のりこの父、  
[宣紀(;名)の初名/通称/号]初名;利武、通称;主税、号;研覃居/桃谷/閑甫、  
法号;靈雲院りょううんいん
- C3573 **宣卿**(のぶりの/新井あらい、通称;百助/百亮/平蔵、白石男)1699-1723早世25歳 儒者;父門、  
「天爵堂寿言」編
- H3554 **円意**(のぶりの/浦上うらがみ、通称;七郎右衛門)?-? 江中期;備後府中の歌人;  
有賀長伯(1661-1737)門
- C3574 **信章**(のぶりの/荷田かだ/家名;羽倉はくら、羽倉信名のぶな[荷田春満の弟]男)1707-3529歳 神職:  
山城紀伊郡伏見稻荷社祠官、権御殿預職、国学者;春満門、1729「古事記割記」著、  
[信章(;名)の初名/通称]初名;信理のぶまと、通称;茂丸/重丸/石見守
- C3575 **宣徳**(のぶりの/吉村よしむら、宣年[道鶴]3男)1756-183681 磐城白河藩家老の家、別家し白河藩士;  
組頭、1810番頭;藩替知安房波左間の陣屋に出仕/国学者・歌人;富樫広蔭門、  
本家の家督継嗣;白河藩家老、藩主松平定信の信任を得て藩政に尽力、  
歌に長ず、「旅のおぼえ」著、  
[宣徳(;名)の通称/号]通称;又市、号;静軒/寿軒、法号;鶴林院
- C3576 **信敬**(のぶりの/中嶋なかじま/本姓;藤原、正安男)1767-? 幕臣;1787家督、  
1849「三代百人一首」「諸家文集」編、1858刊蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[隅田川夕風わたる汐騒はさぬに音せぬ波は桜なりけり](大江戸倭歌;春293)、  
[信敬(;名)の通称]百之助/弁之助?/主税/官次郎
- I3527 **延紀**(のぶりの/草鹿砥くさかど、通称;肥前)?-? 江中後期;三河宝飯郡の一宮砥賀かど大明神の神主、  
神道・国学;鈴木梁満やなまろ(1731-1817)門
- C3577 **信順**(のぶりの/のぶより・松平まつだいら/大河内松平家8代、松平信明2男)1793-184452 母:千枝(恵覚院)、  
江戸西丸下屋敷で生、1797嫡子となり信順を名乗る/1805(文化2)従五位下/駿河守、  
1817(文化14)父病死;家督嗣;三河吉田4代藩主;松平伊豆守系大河内松平家8代/伊豆守、  
襲封直後;国元家臣に文武出精・質素節儉を指示;「御直書」を発す、  
1818年(文政元)奏者番/25寺社奉行/31大坂城代;従四位下、34京都所司代;侍従、  
1837(天保8)大坂で大塩平八郎の乱発生;京市中警備・朝廷へ事件報告・江戸大坂間連絡、  
同年江戸召され老中に就任;病を理由に3ヶ月で辞任;同役水野忠邦と意見不合という、  
1842(天保13)致仕隠居;刑部大輔と改称、家督は嫡子信宝が継嗣、  
1844(天保15)小名木川屋敷に没、正室;鍊姫(牧野忠精女)/継室;延姫(加納久周女)、  
儒;大田錦城門;錦城に藩校時習館で講義させ自らも聴講す/国学;中山美石・本居大平門、  
詩歌を嗜む;古今調の詠歌、1811「野火止紀行」、「信順詩稿」著、「本居春庭歌集」編・序、  
家集「承天公歌集」、「吉田のなぐさ」著、蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858刊)入、  
[あつぶすまうち着てぬれど床さえてすきまの風も身にぞしみぬる]、  
(大江戸倭歌;冬1193/衾)、  
[信順(;名)の幼名/法号]幼名;長次郎、法号;承天院  
息子;信宝/章次郎、息女;徽(松平康寿縁女)/令/綜/貞(信宝養女、松平信璋室)/  
愛(戸沢正実室のち松平直巳室)
- H3581 **誠則**(のぶりの/沼崎ぬまさき、旧姓;串部)1794-184249 母;幾子、伊予越智郡朝倉村多伎神社神主、  
歌人;野間真主左美門、妻;為子(旧姓;田窪/鴨重忠妹)、家集「須賀乃屋誠則和歌集」、

歌;重忠編「幾子誠則為子和歌集」68首入、半井忠見(梧庵)編「ひなのてぶり」5首入、  
[風ならで音信まれの庭の面に咲くもさびしき萩のひとつと](鄙てぶり)、  
[誠則(;名)の初名/通称/号]初名;重利、通称;相模正、号;須賀の屋  
母 → 幾子(いこ・沼崎ぬまぎ、飛鳥井雅光門歌人) K 1 1 0 8

C3578 陳斯(のぶり・堀ほり、字;仲猪/通称猪平/号;竜涯) ?-? 江戸後期江戸和算家;内田五観門、  
1830四谷天王社算額奉納、32「古今算鑑」校、「当世塵劫記并二一天作之五附録解」編

H3525 信億(のぶり/のぶなり・生駒いこま、) 1804-1869 66 大坂の歌人、謡曲・俳諧・書にも長ず、  
茶人;本庄宗伝門;石川流を修得、宗伝没後;石川流10代家元預となり門弟指導、  
[信億(;名)の通称/号]通称;秀次郎、号;守六斎/琢叟/明亭/飲人/宗寿

3576 信誉(のぶり・南部なんぶ、信鄰長男) 1805-62 58歳 父は陸奥国七戸藩初代藩主/1822家督嗣;2代藩主、  
従五位下丹波守、1858城主格、南部信賢(啓之助)の父、養子信民が嗣、  
正室;森長義女、歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[秋の野の尾花吹きしく夕風に声もみだれてうづら鳴くなり](大江戸倭歌;秋801/鶉)  
[信誉(;名)の通称]主悦

G3571 宣範(のぶり・吉村よしむら/本姓;源、家老宣陽長男) 1820-68 暗殺 49歳 伊勢桑名藩士;奏者番、  
番頭/江戸家老500石/1865(慶応元)家督継嗣;家老700石/吉村分家10代当主、のち800石、  
1867藩政改革で家老職廃止;代りに御政事物宰に就任;行政の最高指導者;新政府恭順派、  
若い藩主松平定敬の京都所司代の側近;主張は対立;鳥羽伏見で敗北;江戸靈巖寺に謹慎、  
1868越後柏崎勝願寺滞在の定敬に合流するも意見対立;閏4月山脇正勝・高木貞作に暗殺、  
山脇・高木は会津へ逃亡、宣範は剣術家;新陰流/国学;富樫広蔭門/歌・謡曲を嗜む、  
歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[天の川流れてはやき夏の夜の月をとどむるしがらみもがな]、  
(大江戸倭歌;夏531/夏月役明)、  
[宣範(;名)の通称/法号]通称;外記/権左衛門、法号;賢心院

C3579 信則(のぶり・児玉こたま、逸淵男) ?-? 江戸後期俳人;1867父7回忌「逸淵発句集」編序

J3553 宣教(のぶり・根岸ねがし、) 1833-1897 65 上野碓氷郡の国学者/歌人;井上文雄・橘道守門  
[宣教(;名)の通称/号]通称;忠蔵、号;松齡

信記(のぶり・山高) → 信順(のぶり・山高やまたか、藩士/軍法家) E 3 5 0 9

信敬(のぶり・南部) → 利敬(としり・南部なんぶ、藩主) N 3 1 3 6

信典(のぶり・松浦) → 正典(まさり・松浦まつうら/沢近、神職/歌) S 4 0 6 2

宣徳(のぶり・吉村) → 静軒(せいけん・吉村よしむら、家老/国学者) Q 2 4 5 9

宣徳(のぶり・水原) → 慈音(じおんに:法諱・水原、真宗勤王僧) Z 2 1 9 0

宣卿(のぶり・山中) → 天水(てんすい・山中やまなか、儒者/詩) D 3 0 9 3

K3559 延春(のぶはる・度会わたらい、) ? - ? 鎌倉南北期;伊勢外宮権禰宜、  
歌人;1334度会朝棟亭八月十五夜歌会参加(3首)、  
[宮河や清き流に影さえて秋は今宵と澄める月かな](朝棟亭歌;70)、  
[心なき草葉も露ぞ結びけるうき身を秋の袂のみかは](同;72)

C3580 延春(のぶはる・遠藤えんどう、延好男) ?-? 江戸後期歌人、1867父家集「榎実すぎのみ」編/貞融序

J3539 信治(のぶはる・中山なかやま、中山信吉4男) 1628-1689 62 父は常陸松岡藩初代当主、江戸の生、  
母;塩谷義上女、兄2代当主中山信政の養嗣子/和学者/歌人、1645従五下/備前守、  
1651(慶安4)兄隠居;家督継嗣;松岡藩3代当主2万5千石;常陸水戸藩附家老・中山家3代、  
正室;向井忠勝女、  
信行(4代)・信興・信成(5代)・信庸・信秀・信敏(6代)・女(中山直房室)の父、  
1681(天和元)隠居入道;家督は信行が嗣、歌;茂睡[鳥之跡]/了然尼撰[若むらさき]入、  
[今日とてや藻塩もやがて海士衣うらめづらしき磯な摘むらん](茂睡[鳥の迹]春27)、  
[思い出でて昔かたらふ友もがな我が年波のよるの寝覚めを]、  
(若むらさき;178懐旧/寄るに夜を掛る)、  
[信治(;名)の通称/法名]通称;左助/大膳/備前守(備前入道)、法名;道軒どうけん、  
法号;中山院

C3581 信春(のぶはる・遠山とおやま、通称;太郎兵衛、号;礪川れいせん堂) ?-? 越前丸岡の生、

- 1673-88頃軍記作者;江戸住、歌;1683「遠山和歌集」、85「織田軍記」「島原合戦記」著
- C3582 **延晴**(のぶはる・中臣なかとみ/家名;富田とみた、延英男)1669-1751<sup>83</sup> 大和春日神社神職;1693神宮預、正三位/32正預、歌人;冷泉門、「兼好法師伝」「名所百首」「富田延晴詠百首和歌」著、「熊野権現記」著、延庸のぶつねの父
- D3510 **延治**(のぶはる・河崎かわさき、後名;延陽、延貞男/本姓;度会たらい)1670-1714<sup>45</sup> 江前期伊勢山田神職、伊勢外宮祠官/従四上、1711父延貞の古稀詞集「葵心集」編、歌人、久志本常彰のねあきらの兄[延治(;初名)の通称]通称;采女/右近
- C3583 **信春**(のぶはる・小島こじま)1701 - ? 1783存 陸前仙台藩士、「牡鹿状」著
- C3584 **宣治**(のぶはる・堀越ほりこし)1709-1800<sup>92歳</sup> 仙台藩士;仙台通宝鑄造に参加、田地開墾/道路改修、俳人:答坊雪門門、1778師雪門3回忌追善「封の儘ま」編、1782蕪村「花鳥篇」1句/83維駒「五車反古」1句入(俳号;秋来)、[花咲くやひた屋やごもりの僧がもと](花鳥篇;56/ひたすら堂内参籠の僧;堂前には桜)[宣治(;名)の通称/号]通称;甚兵衛、号;木菟菴/秋来
- C3585 **陳令**(のぶはる・野上のがみ、字;子正/安民、陳堅のぶかた男)1774-1846<sup>73</sup> 羽後秋田藩士/1789大御番、儒:北山門、藩校明德館教授/1833祭酒/34家塾開設、「野上陳令日記」著、根本羽嶽うかくの師[陳令(;名)の通称/号]通称;東蔵/国佐、号;自得/檜山ゆうざん/千秋園/好古堂/古香庵
- I3594 **宣陽**(のぶはる・高島たかしま、旧姓;沢)1784-1864<sup>81</sup> 越前敦賀鞠山藩領の近江高島郡の郷代官、歌;小川布淑のぶよし門/国学;本居内遠門、のち京都住、[宣陽(;名)の別号/通称/号]別号;多田彦/道守、通称;内記/伊兵衛/文太夫、号;伊豆能真屋/六合亭龍山
- C3587 **宣明**(のぶはる・伏原ふしはら、宣武男/本姓;清原)1790-1863<sup>74</sup> 江後期廷臣;1819明経博士/23従三位、1854正二位、内外の講筵に奉仕/皇太子(明治天皇)の読書始に参加;賞により直衣許可、1835「女四書芸聞図会」編/53「鍾珠驚眼」著、[宣明(;名)の字/号]字;愚休/号;葵亭
- C3586 **信春**(のぶはる・西川にしかわ) ? - ? 江後期上方絵師;役者絵、1831「新滑稽発句集」画
- J3516 **信春**(のぶはる・柘植つげ、通称;伝八、佷厚のぶあつ男)1815-70<sup>56</sup> 筑後久留米藩士;御馬廻役、国学・歌;父門
- I3517 **延春**(のぶはる・菊池きくち、通称;出雲)1838-1901<sup>64</sup> 伊予風早郡宮内村三島神社祠官、歌人
- 信春(のぶはる・磯野) → 文斎万陀伎(ぶんさいまだき、書肆/絵師) F 3 8 3 2
- 信治(のぶはる・長) → 友松軒(ゆうしょうけん、書家/往来物著) C 4 6 6 4
- 延春(のぶはる・荷田) → 信資(のぶもと・荷田かだ/羽倉、神職) D 3 5 5 2
- 延春(のぶはる・前田) → 又久(またひさ・前田/菅原/菅、藩士) J 4 0 5 4
- 宣治(のぶはる・中御門) → 宣忠(のぶただ・中御門なみかど、廷臣/日記) B 3 5 8 1
- C3588 **信彦**(のぶひこ・滝たき、初名;信秀、山下公忠3男)?-? 滝信包の養子;江中期讃岐高松藩士、1775記録所の管理、藩主松平頼恭(穆公)の言行を収集;稿本を江戸大火に焼失、1820芝山「穆公遺事」に補筆/編、「源義家朝臣海老鞘巻標疑」「書刀剣拔書」「信彦雑書」著
- C3589 **言彦**(のぶひこ・松木まつき、卓彦つねひ男/本姓度会たらい)1742-1817<sup>76</sup> 伊勢度会郡の外宮禰宜、1801一禰宜、歌;冷泉家入門、「言彦日記」「度会言彦神主二見紀行」著
- [言彦(;名)の通称]通称;民部/監物
- 信比古(のぶひこ・岩政) → 信比古(さねひこ・岩政いわまさ/越智、国学) L 2 0 2 7
- 言彦(のぶひこ・小松) → 言彦(ことひこ・小松、国学者) N 1 9 3 4
- C3591 **信久**(のぶひさ・賀茂かも、十楽院神主、遠久男)?-? 南北期神職:上賀茂社神主、従三位、歌:新千載969、[一すぢに祈れば君がみゆきをもみつ葉の榊われぞとりさす](新千;神祇969)
- C3592 **宣久**(のぶひさ・西園寺さいおんじ、公宣男/本姓;藤原)?-1580 伊予板島丸串城主(西園寺家領邑)、1576「伊勢参宮海陸之記」著
- C3593 **述久**(のぶひさ・松下まつした、初名延久、規久男/本姓賀茂)?-? 神職;上賀茂片岡社禰宜/蹴鞠の名手、歌・連歌作者;細川幽斎と親交、智仁親王の連歌会に参加;常連、1595-1603「何船百韻」など百韻7回/月次漢和聯句参、教久のりひさの父

- C3594 **信尚** (のぶひさ・鷹司たかつかき、法号;景皓院、関白信房男/本姓;藤原) 1590-1621<sup>32</sup> 母;佐々成政女、  
廷臣;1603従三位/12(慶長17)関白、氏長者/14従一位左大臣/15関白辞任/20左大臣辞任、  
連歌:1613「何路百韻」/14「何人百韻」、「鷹司信尚詠和歌」、  
妹;徳川家光室の孝子/弟;幕臣松平信平、妻;後陽成天皇皇女清子内親王、教平の父
- K3541 **信久** (のぶひさ・中山なかやま/丹治、水戸徳川家老中山信吉2男) 1618-99<sup>82</sup> 江前期;幕臣旗本2100石;  
従五下隠岐守、1682-85勘定奉行、遠江守、和学/歌人、  
歌;茂睡[鳥之跡]入/1691了然尼撰(茂睡編)[若むらさき]3首入、  
[心あてにそれかとばかり見る花の霞にもれて匂ふ春風](茂睡[鳥の迹]春140)  
[見し秋の色はあとなくあはれのみ残る夕べの冬の山里](若むらさき;91山家冬夕)、  
[信久(名)の通称/法号]通称;隠岐守/遠江守、法号;勝善院方円居士
- C3595 **信寿** (のぶひさ・津軽つがる、初名;信重、信政男/本姓;藤原) 1669-1746<sup>78</sup> 陸奥弘前藩主/171襲封、  
詩歌;小泉由己門/歌;中院通茂門/画;狩野常信・英一蝶門/俳諧、劍;小野一刀流、  
1731画俳書「独楽徒然草」著、  
[信寿(;名)の通称/号]通称;平蔵/出羽守/土佐守、号;竹翁/栄翁/剛健堂/義軒/観楽亭、  
法号;玄圭院
- H3565 **信古** (のぶひさ・大倉おくら/本姓;菅原、大倉汲水の長男) 1795-1862<sup>68</sup> 京の古筆鑑定家、  
1830(天保元)紀伊藩主に奉仕/49(嘉永2)学習院の鑑定院庫古書籍応徴/51(嘉永4)法橋、  
[信古(;名)の通称/号]通称;政吉/五兵衛、号;好斎/古昔園、法号;池北院
- K3519 **信古** (のぶひさ・矢木やぎ、) 1801- ? 豊後岡の国学者
- C3596 **延寿** (のぶひさ・青山あおやま、字;季卿、延于のぶゆき男) 1820-1906<sup>87</sup> 常陸水戸藩儒:東湖門/弘道館助教、  
彰考館員、槍術;歴遊、1835「弔古荒辞」編/47「登嶽唱和」52「堦簾けんち小集」63「時事記」著、  
1866「読史雑詠」、「大日本史地理志稿」編、「読史偶筆」「鉄槍斎詩鈔」「鉄槍斎文鈔」著、  
[延寿(;名)の通称/号]通称;量四郎、号;鉄槍斎
- C3597 **信古** (のぶひさ・松平まつだいら/間部/大河内、越前鯖江藩主間部詮勝2男) 1829-88<sup>60</sup> 三河吉田藩主;  
松平信璋の養嗣子;1849遺領を継嗣、59寺社奉行/62大阪城代、65溜間詰、伊豆守/刑部大輔、  
維新後版籍奉還;大河内姓、吉田藩知事、1862/3「大河内信古手控」著、  
[信古(;名)の初名/通称/法号]初名;詮信、通称;理三郎、法号;瑞雲院/松峯宗秀
- C3598 **信久** (のぶひさ・江幡えはた) ? - ? 江後期羽後秋田の歌人:屋代弘賢(1758-1841)門、  
「信久歌集」著
- K3530 **信壽** (のぶひさ・山高やまたか、初名;信興/通称;左近/号;程甫) ?-? 紀伊和歌山藩士、国学者、  
国学;本居内遠うちとお(1792-1855)門、
- G3597 **信久** (のぶひさ・和田わた) ? - ? 江後期;歌人、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[神ごころさぞなすむらん折りかへしうたふ霜よの榊葉の声](大江戸倭歌;冬1321、  
神楽、さぞな:さだめし)
- I3528 **信久** (のぶひさ・窪田くぼた、間/園田) 1840-72<sup>33</sup> 信濃飯田の国学者;平田鉄胤門、  
間はさま秀矩ひでのりの養子;離縁、大学校に出仕、  
[信久(;名)の通称]鎌吉/一兵衛/市兵衛
- 信古(のぶひさ・柳沢) → 里之(さとゆき・柳沢やなぎさわ、藩主/俳人) K 2 0 5 7  
信古(のぶひさ・組橋/辻) → 玄通(げんつう・辻つじ、医者) L 1 8 4 9  
信古(のぶひさ・佐藤) → 蕉廬(しょうろ・佐藤、幕吏/国学/詩歌) M 2 2 0 7  
信古(のぶひさ・矢島) → 行康(ゆきやす・矢島やじま/海野、神職/国学) H 4 6 3 9  
信古(のぶひさ・今井) → 信古(のぶふる/のぶひさ・今井、神職/国学/歌) D 3 5 2 3  
延久(のぶひさ・島津) → 綱貴(つなたか・島津、藩主/財政再建) B 2 9 1 0
- C3599 **延秀** (のぶひさ・中臣なかとみ/家名;大東、延忠3男) 1229-99<sup>71</sup> 神職;春日神社神職/1262権預、  
1286正五下/98春日社正預、1298「春日社造替記」著
- D3500 **宣秀** (のぶひさ・中御門なかみかど/本姓;藤原、法名:乗円、宣胤男) 1469-1531<sup>63</sup> 母;甘露寺親長女、  
戦国期廷臣、左中弁/蔵人頭/南曹弁/1494参議/1518権大納言/31従一位、故実家、  
妻;吉田兼俱女、宣忠のふただの父、「侍中事跡」「侍中事」編、「宣秀卿記」「蹴鞠条々大概」外著多、  
連歌;百韻/聯句多数、1521興行「伊勢物語詞百韻」連衆参加

- D3501 **信秀**(のぶひで・佐々木ささき)? - ? 戦国期の歌学者、  
1570「手爾遠葉抄」伝、「和歌愚問抄」著
- D3502 **延英**(のぶひで・中臣なかとみ/家名;富田、初名;延政、延知男)1638-1719 82歳 神職;春日社神職;  
1657春日社加任預/77従四上・内膳正/93従三位/1702春日社正預/03正三位、  
1715春日社若宮神主兼任、  
1663「春日神社記」、「江戸紀行」「春日随筆」「春日神社記改正」「大神宮心御柱記」著
- D3503 **信栄**(のぶひで・児玉こだま) ? - ? 江前期仮名草子作者、1667「何物語」著
- H3526 **信秀**(のぶひで・飯田いいだ、通称;敏)1728-90 63 江戸の生/近江彦根藩士;江戸定府/80石、  
儒家/歌人
- D3504 **信愛**(のぶひで・荷田かだ/家名;羽倉はくら、信美のぶよし男)1777-1839 63 山城紀伊郡伏見稻荷社祠官、  
丹後介/紀伊守、国学者;小沢廬庵門、「非蔵人座次総次第」著  
上田秋成[藤篋冊子つづらぶみ六]に父と共に入、  
[一日紅梅の樹下に遊びてよめる、  
消えがての雪にたぐへて咲き出づる籬の梅の花の紅](藤篋冊子六)、  
[信愛(;名)の初名]能信
- J3564 **信英**(のぶひで・羽生はにゅう、)1790-1873 84 信濃飯田藩士;家老?、歌人;岩沢幸年門、  
[信英(;名)の通称/号]通称;寛二郎/六郎左衛門/貞蔵/貞逸郎、号;徴斎/宣秋庵
- J3559 **信秀**(のぶひで・橋本はしもと、通称;靱負)1825-55 31 備中賀陽郡の吉備津宮社家、国学者
- I3512 **信英**(のぶひで・竹内たけうち、)1827-1890 74 伊予松山藩家老、国学・歌人、地誌家、  
「孟浪燕吟」著(27首抄本)、「垂憲録拾遺」編(伊藤充之みつゆき「垂憲録」の続編)、  
(垂憲録は松山藩士伊藤充之がひろく文献を渉獵して編年体に編集)、  
1874「茶園閑話」著、  
[信英(;名)の通称/号]通称;包次郎/九郎兵衛、号;無弦/安楽窩
- H3534 **信栄**(のぶひで・石川いしかわ、)1834-1901 68 三河宝飯郡の国学者/歌、  
[信栄(;名)の通称/号]通称;清五郎/彦七、号;石林  
延栄(のぶひで・出口) → 常栄(つねひで・中西/出口、国学者) D 2 9 4 4  
信栄(のぶひで・須田/佐藤) → 元庵(げんあん・佐藤さとう、農政家) H 1 8 6 3  
信英(のぶひで・高木) → 允胤(みつたね・高木たかぎ、和算家) D 4 1 8 3  
信秀(のぶひで・滝) → 信彦(のぶひこ・滝たき、藩士/文筆家) C 3 5 8 8  
信秀(のぶひで・小沢) → 雅楽之助(うたのすけ・小沢、宮大工/勤王) D 1 2 0 3
- H3538 **信人**(のぶひと・板垣いたがき、)1812-1880 69 上野佐位郡の染物業、狂歌;黒川春村門、狂歌師、  
[信人(;名)の通称/号]通称;常八/常吉、号;菱花園りょうかえん/春扇静風  
述姫(のぶひめ・徳川/松平) → 頼起夫人(よりおきふじん・松平まつだいら、藩主室/歌) P 4 7 1 9
- D3540 **宣平**(のぶひら・賀茂かも、宣憲男)? - ? 平安期神職/歌人;1182重保「月詣つきまうで和歌集」入、  
宣俊・宣支・道栄の父、在康(歌人)の祖父、  
[をしからぬ枝しなければ山桜いへづとにだに折りぞわづらふ](月詣;二115)
- D3505 **宣平**(のぶひら・津守つり、国平男)1254-99? 46 住吉社神職:左兵衛尉/従五上、  
国助くにすけ/棟国むねくにの兄弟、歌人:1276住吉社三十五番歌合参加、続千載1214、  
[恋ひしなむ命のはてをいかがせむ後さへ人のあはれしらずは](続千載;恋1214)
- D3506 **延平**(のぶひら・下里しもと、六右衛門男)1771-1835 65 分家下里与六の家を継嗣;  
美濃大垣の国学者、兄延秋は大垣藩総年寄役、国学:1812本居春庭に入門/大平/内遠門、  
古典/歌に通ず、1822「花野山都止」、「爾喜美多満拔書」著、  
[延平(;名)の別名/通称/号]別名;中道、通称;次郎市/与六郎、  
号;魯堂/竹窓、法号;竹誉延平居士
- J3526 **延平**(のぶひら・土肥どひ、経平男)1744-1800 57 備前岡山藩士/1765(明和2)番頭;池田治政に出仕、  
歌人;父門、武術・横笛・蹴鞠・插花・茶/香道に通ず、  
[延平(;名)の別名/通称/号]初名;次秀/互、通称;六十郎/藤太郎、号;純兮じゅんげい
- D3507 **修平**(のぶひら・羽生田はにゅうだ、羽生田佐野右衛門貞暁長男)1794-1828 35 信濃上高井郡仁礼宿問屋、  
父に随い度々江戸へ/国学;江戸の清水浜臣門;不如学斎号を受/江戸増上寺学寮、歌人、

- 「不如学齋歌集」「水高日記」「門田の引板」「筆林」「語杖類集」「旋頭歌集」「旅路の土産」著、  
[修平(；通称)の幼名/別通称/号]幼名；大助、初通称；新平、号；不如学齋/いそしの舎
- J3501 **信均**(のぶひら・竹内たけうち、信金男)1802-1872<sup>71</sup> 伊予松山藩士/藩家老、久六家10代/歌人、  
1818(文政元)家老奥平昌瀨の借財不始末の連座で罷免/赦免復職、信倫の父、  
[信均(；名)の通称]久六(代々の称)/八九郎/数之丞/久右衛門/冬松  
☆竹内久六家；信重－信一－信重－信行－信易－信猶＝信命＝敦信－信金－信均－信倫
- J3588 **信平**(のぶひら・藤井ふじい、)1818-1869<sup>52</sup> 備中賀陽郡の吉備津神社祠官、国学・歌；藤井高雅門、  
[信平(；名)通称] 忠造/織江
- D3508 **延平**(のぶひら・網野あみの/旧姓；笠倉かさくら、初名；延、網野家の養子)1819-89<sup>71</sup> 歌人；中田顕忠あきただ門、  
鈴木重嶺しげね門、江戸で田安家に出仕/子弟教育、卜筮に通ず、1852「新撰百人一首」編、  
1862「新内裏清涼殿障子和歌」編、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
1860鋤柄助之「現存百人一首」入、  
[風寒きいなさ細江のあかつきに一つら落つる雁のあはれさ](大江戸倭歌；秋932)  
[皇国は神代のままの道しあればことなるふみのをしへ何せん](現存百人一首；53)
- I3526 **信平**(のぶひら・久保田くぼた、号；南里)1832-76<sup>45</sup> 淡路三原郡の学者/儒；森田節齋門、  
国学/歌；大国隆正門、画；藤本鉄石門、家塾開設；子弟教育、  
維新後；名東みょうどう県権中属ごんのちゅうさかん/第11大区区长/洲本支庁長
- I3549 **順衡**(のぶひら・近藤こんどう、)? - ?明治頃没 信濃伊那郡の高須藩士；竹佐陣屋代官、国学/歌人、  
維新後；竹佐県令、  
[順衡(；名)の別名/通称/号]初名；衡、通称；衛門七、号；莖陵きんりょう  
延平(のぶひら・細川) → 清斎(せいさい・細川ほそかわ、藩儒/詩文) B 2 4 5 9  
命平(のぶひら・榎田) → 玄覚(げんかく・榎田かしだ/平/橋本、藩医) I 1 8 2 5  
宣衡(のぶひら・中御門) → 尚良(ひさよし・中御門ななかみかど、廷臣/連歌) C 3 7 1 5
- K3561 **信広**(のぶひろ・中納言得業)? - ? 平安末鎌倉期；廷臣?、  
隠名か；尊卑分脈・公卿補任には相当する人物はいない、[中納言得業]も不詳、  
歌人；1200後鳥羽院催[正治初度百首]参加、  
[今朝よりは空ものどかに都人霞や春をいはひこむらん](正治百首；2203/春)、  
[敷島の道もとだえしいそのかみふるまふなをば御代にそへつつ](同；2301)
- D3509 **信尋**(のぶひろ・近衛このえ/本姓；藤原後陽成天皇第4皇子)1599-1649<sup>51</sup> 後水尾天皇の同母の弟、  
母；中和門院藤前子(近衛前久女)/母方の伯父近衛信尹のぶただの養嗣、正室；近衛信尹女、  
廷臣；1606(慶長11)従三位/07権中納言/11権大納言/12内大臣/14右大臣、  
1620(元和6/22歳)従一位左大臣/23(元和9)関白/氏長者、1645剃髮、  
茶；古田重然門/立花；池坊専慶門、書；三藐院さんみやくいん流第一人者、歌・連歌を嗜む、  
実兄後水尾天皇期の文化人の中心；智仁親王・良恕法親王・一条昭良らと共に、  
六条三筋町(後の島原)一の名妓吉野太夫を灰屋紹益と競い負けて落胆の逸話あり、  
大徳寺沢庵宗彭に帰依；のち大徳寺に納骨；以後近衛家の墓所となる、寛俊大僧正の父、  
1626寛永御幸和歌会参加/1638後鳥羽院四百年忌御会参加、  
「本源自性院記」「南都道之記」「二条家嫁娶記」「桜御所千句」著、  
「寛永十七年姫君ひんそきの記」外著多数、昌琢らと連歌百韻多数、「後集発句帳」入、  
[よろづ代も変らぬ色に国民のなびく姿や庭の呉竹](松平春嶽「古今百人一首」入)、  
[延尋(；名)の幼名/一字名/号]幼名；二宮、一字名；梧、剃髮後の号；応山/大云、  
法号；本源自性院
- D3511 **信弘**(のぶひろ・津田つだ、通称；右中)1750-1819<sup>70歳</sup> 常陸水戸藩士/1793進仕、  
1811「見聞続集附録」著
- D3512 **信淵**(のぶひろ・佐藤さとう、信季男/本姓；藤原)1769?-1850<sup>82</sup> 羽後雄勝郡の医者/経世家、  
諸国遊歴、蘭医；宇田川玄随門/神道；篤胤・吉川從安よりや門/農学を修得、のち江戸住、  
「経済要録」「禹貢集覽」「経済秘録」「海防策」「復古記」「混同秘策」「蘭学大道」「農政要録」、  
「漆園叢書」外著多数、信昭のぶあき父、  
[信淵(；名)の字/通称/号]字；元海、通称；百祐/孝伯、

号;椿園/松庵/松齋/融庵/融齋/祐齋/万松齋/盤松齋/玄明窩

- D3513 **信弘**(のぶひろ・重松しげまつ) ? - ? 江後期文政-天保1818-44頃大阪の楽人:笛に長ず、歌、1827「笛制考」著
- J3502 **信怒**(のぶひろ・竹中たけなか、通称;虎叟) 1813-9280 信濃伊那郡山吹の座光寺家家臣、歌人;片桐源栄もひで門
- D3514 **信礼**(のぶひろ・中条ちゅうじょう、信徳男/祖父信義養子) 1816-? 1865存 幕臣/中務大輔/1835高家こうげ、侍従、1850致仕/62再役/従四上・左衛門督、歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、1848「和魂邇教」50「杉のした葉」62「発情一家言」著、  
[さざ波や八十の湊のほのぼのと霞も匂ふ横雲の空](大江戸倭歌;春55/霞)、  
[信礼の通称/号]通称;兵部/山城守、号;神随舎主人/豊蘆館/雅桜翁
- D3515 **信寛**(のぶひろ・伊藤いとう) ? - ? 江後期伊勢の国学者、歌;黒沢翁満おきなまる[1795-1859]門、1857翁満「葎居むぐらい前集」共編(丹波之翰ゆきふみ[修治]と)
- I3586 **延裕**(のぶひろ・田中たなか、) ? - ? 江後期紀伊和歌山藩士、国学・歌;紀伊藩の本居内遠(1792-1855)門、  
[延裕(;名)の初名/通称]初名;延裕、通称;忠左衛門/仲右衛門
- K3531 **信広**(のぶひろ・山中やまなか、播磨屋長五郎4男) 1818-7760 出羽(羽後)平鹿郡増田村の商家、分家山中長之助の養子;出奔/久保田城下の茜屋の養子;出奔、1841(天保12)城下大町で呉服仲買業を開業;山中屋新十郎と号す、殖産興業を進言、1852(嘉永5)町処用達・郡方織物用達/藩御用達;久保田藩の殖産興業政策に関与、自らも綿布の生産・販売に従事:[山新木綿]と称す、領内鉦山の総蔵元、1866(慶応2)苗字帯刀を許、維新後;織物関連取引・石油発掘に参画、第四十八国立銀行の設立に参画、1877(明治10)没、  
[信広(;名)の通称] 易吉(;幼名)/新十郎
- G3567 **信弘**(のぶひろ・大久保おおくぼ/本姓;源) 1838-65死罪 28歳 常陸水戸藩士;尊攘派儒者林鶴梁と交流、天狗党に参加;1865敦賀で死罪、歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[そことしもわかむらさきの下もえに霞みそめたる武蔵野の原]、  
(大江戸倭歌;春62/野霞)、  
[信弘(;名)の通称] 市郎兵衛
- I3534 **延弘**(のぶひろ・黒瀬くろせ、通称;主馬) 1842-7635 伊勢度会郡の国学者
- C3553 **信道**(のぶひろ/のぶみち・遠藤えんどう、幼名;亥之吉、号;草城) 1851-8838 陸奥仙台藩宿老の一族、国学;平田鉄胤門、宮原易庵門、神道家;少教正/塩釜神社宮司、1676陸前栗原郡長に就任、「排邪見正」著
- 敷広(のぶひろ・松前) → 章広(あきひろ・松前まつまえ、藩主) D 1 0 8 4  
信広(のぶひろ・大中臣) → 順信(じゅんしん;号、信海;法諱、真宗僧) L 2 1 1 4  
信寛(のぶひろ・林) → 鳳池(ほうち・林はやし、儒者) C 3 9 2 6  
信熙(のぶひろ・大館) → 高門(たかかど・大館おおだち、医者/国学者) C 2 6 6 4
- K3565 **信房**(のぶふさ・源みなもと、経頼[985-1039]男) ?-? 平安中後期廷臣、宇多源氏:源雅信曾孫/扶義の孫、従五下左兵衛佐、歌人、清房・尊覚(僧侶)・濟延(僧侶)・隆昭(僧侶)の弟、1050(永承5)麗景殿女御延子歌合(正子内親王のために頼宗催)の右方講師(兵衛左名)
- D3516 **信房**(のぶふさ・藤原ふじわら、家信男) ?-? 母;祇園別当行円女、平安後期廷臣;従五上/左馬権頭/右兵衛佐/正五下、妻;出雲守長輔女、通家・信成の父、歌人;1050麗景殿女御歌合/51(永承6)内裏歌合参加?
- D3517 **宣房**(のぶふさ・藤原ふじわら、光長男) ?-? 母;藤原俊経女/長房[1169-1243]の弟、鎌倉期左大弁、歌;1198上覚「和歌色葉」往復書簡入
- D3518 **宣房**(のぶふさ・万里小路まへのこうじ、資通男) 1258/63-1348 廷臣;1305参議/24権大納言/31大納言、建武新政で活躍/1334従一位/後の三房の1、  
「万一記」1300「大嘗会記」/33「一品御拝賀記」著
- K3543 **信房**(のぶふさ・桂かつら/本姓;藤原、) ?-? 江前期;武士/歌人、

- [氷みし岩根の水はいはねども春立つ風は道もとむらし](忠能[難波捨草]春6)
- I3502 **信房**(のぶふさ・河地かわち、号;忍斎)?-?1696-1704頃没 75歳 撰津伊丹の布帛販売業、  
若年より家業で上京/貞門俳人;山本西武門/松江重頼と交流、  
妻没後に息子3人も死没;隠居剃髪;号;忍斎、晩年;平間長雅(堂上派地下歌人)入門;  
歌を詠ず、1696(元禄9)長雅主催[奉納千首和歌]2首入、  
1709(宝永6)[住吉社奉納千首和歌]1首入、1696(元禄9)以降没、  
[惜しめども暮れゆく秋の山の端に出づる月さへ明け方の空](暮秋月/奉納千首和歌)
- D3519 **信房**(のぶふさ・鈴村すずむら、通称;庄兵衛)?-? 江前期京の俳人;令徳/梅盛門、  
1660絵俳書「源氏鬢鏡びんかがみ」宗賢と共編/91「茄子食さし」94「源氏道芝」編、  
1713「源氏絵宝枕」編、1691「元禄百人一句」目録入
- H3533 **信房**(のぶふさ・石井いし、通称;平兵衛、宗澄[明房]長男)?-1832 上州甘楽郡宇田村の名主の家、  
歌;父宗澄(澄月門高弟)門・澄月門
- K3536 **修房**(のぶふさ・吉田よしだ、)1808-1891 84 河内石川郡の医者、歌人;勘解由小路資生すけよし門、  
[修房(;名)の字/通称/号]字;子節、通称;循菴、号;星陽  
信房(のぶふさ・南部、藩主)→ 畔李(はんなり・南部、藩主/俳人) I 3 6 6 0  
信房(のぶふさ・真田) → 幸道(ゆきみち・真田さなだ、藩主/詩人) F 4 6 6 6  
延房(のぶふさ・染崎) → 春水(2世しゅんすい・為永、藩士/戯作者) 2 1 5 8
- D3520 **信藤**(のぶふじ・坊門ぼうもん/本姓;藤原、信行男)?-? 1414存 南北室町期廷臣;1345北朝;丹波守、  
左[右]近中将/1412正三位、1414出家、連歌;菟玖波10句入、  
[植ゑ置きし人をや花もしのぶらん](菟;125/前句;春をへてこそふるさとなれ)
- K3558 **延文**(のぶふみ・度会わたらい、) ? - ? 鎌倉北期;伊勢外宮権禰宜、  
歌人;1334度会朝棟亭歌会参加(3首)、  
[浮雲はよそにも見えて澄みのぼる月こそかかれ葛城の山](朝棟亭歌会;64)、  
[はかなくや猶消えかへり頼むらんかりに結びし露の情を](同;65)
- D3522 **信古**(のぶふる・山中やまなか、字;子篤/通称;篤之助、俊信2男)1815-75 61 和歌山藩士;父の功で中奥勤、  
藩主徳川斉順・斉疆・慶福4代に出仕;累進し枢要の職を歴任、本草学;小原桃洞門、  
柑橘の研究、1855「新製清蒙気差表」著/65「南海包譜」編、「文車遠響」編、「避暑偶筆」著、  
「聖武記拔萃」「行宮公卿表」「南狩遺文」著、  
[信古の号] 謙斎/信古しんこに斎/松窓
- D3523 **信古**(のぶふる・のぶひさ・今井いまい/金刺、今井信惇のぶあつ男)1818-59 42 信濃諏訪下社祠官;武居惟祝、  
神道;平田鉄胤門、歌;香川景樹門、国学;田中大秀門、尊王派、  
「款冬園歌集」、「諏訪下社縁起」「蒼生塚根源記」著、  
[信古(;名)の通称/号]通称;蔵人、  
号;款冬園かんとうえん/雪廼屋・雪乃屋ゆきのや/神習舎/磐[盤]手老人  
信古(のぶふる・岡本) → 眞古(まふる・岡本おかもと、郷土史家) K 4 0 1 0
- D3524 **信正**(のぶまさ・源みなもと、重明親王[906-954]男)?-? 平安前期廷臣;民部卿、従四下、詩人;  
969藤原在衡催「粟田左府尚齒会詩」参加
- D3525 **信雅**(のぶまさ・藤原ふじわら/家名;坊門、信経男or季信男)?-? 1339存 鎌倉後期廷臣;少納言、  
1330従三位、歌;1295法印清誉催「三十六番歌合」参加、新三井集入/続千載681、  
[わけ来つる跡とも見えずささの葉のみやまもさやにつもる白雪](続千載集六;冬681)  
[信雅(;名)の別号]初名;信俊、のち信雅を改名;清房
- D3526 **信眞**(のぶまさ・守矢もりや、通称;神平[;信玄の命名]、頼眞男)1543-1623 81歳 信州諏訪上社神長、  
1559従五下/宮内少輔、神使の頭者を勤める、「三月御頭之次第」著(;神長の儀式記録)
- D3527 **信政**(のぶまさ・中山やまなか/通称;内記、号;風軒、信吉男/本姓;丹治)1594-1677 84 常陸水戸藩士、  
1628家老;藩草創期の諸事を確立、常陸松岡城主2代当主、歌を嗜む、  
1651(慶安4)隠居;弟信治のぶるが家督嗣、「土窖どう千首和歌」著
- D3528 **信政**(のぶまさ・狩野かのう、通称;万介/古外記、号;素川/素仙、秀家男)1607-58 52歳 絵師;狩野派、  
猿屋町狩野家の祖、初世永徳門/徳川秀忠臣;將軍家絵師、  
「画道伝授口訣」著、先妻;狩野孝信女、後妻;狩野探幽女
- D3529 **信政**(のぶまさ・津軽つがる、信義男/本姓;藤原)1646-1710 65 陸奥弘前藩主/1665襲封、

兵学;山鹿素行門、法制軍制の整備/殖産に尽力、神道;吉川惟足門、歌/茶を嗜む、  
「独楽徒然草」「自宝集」「拾糟集」「集塵記」著、「津軽古文書」「兵法拾記」編、  
「愚詠集」「雑字集」「耳底集」「自宝集」「和漢詩集」外著多数、  
[信政(;名)の通称/号]通称;平蔵/越中守、号;清如堂/養正軒、法号;妙心院、  
神号;高照靈社

妻 → 信政室(のぶまさのしつ・津軽、増山正利女) G 3 5 5 9

息子 → 信寿(のぶひさ・津軽、藩主/詩歌/画) C 3 5 9 5

- I3578 **信正**(のぶまさ・瀬尾せのお/妹尾、) 1657-1733<sup>77</sup> 備後蘆田郡広谷村の儒者/福山藩士瀬尾氏の養子、  
神学;山崎敬義もりよし(闇斎)門、詩歌人、藩主水野家除封後浪人;帰郷、  
神道藤左衛門と称される、  
[信正(;名)の通称/号]通称;東左衛門/神道藤左衛門、号;如無有/小玉、諡;柴垣靈神
- H3569 **信政**(のぶまさ・大竹おおたけ、) 1664-1737<sup>74</sup> 江戸の幕臣;表右筆、国学者/歌、  
[信政(;名)の通称/号]通称;源太郎/源右衛門/源四郎、号;果了、法名;日証
- D3530 **信正**(のぶまさ・小寺こでら、通称;三郎兵衛、三郎兵衛男) 1682-1754<sup>73</sup> 出羽庄内藩士、儒;春台/觀海門、  
砲術;伊東藤内門/軍制/兵法を修学、歌;北村季吟門/郷土史を研究、  
1724「莊内物語」編、37「箴の考」、「小寺道五思いの儘の記抄」「志塵通」「汝爾通」「帶甲通」、  
「莊内二郡事跡考」「武芸調」著、  
[信正の字/号] 字;文貢、号;文虹/梧軒/道五
- D3531 **信雅**(のぶまさ・高橋たかはし) ? - ? 俳人;1730撰集「あふぎ朗詠」編
- D3532 **布政**(のぶまさ・松岡まつおか) ? - 1750? 因幡鳥取藩士/代々倉吉詰、  
郷土史家;因幡伯耆の古蹟探訪、口碑伝説収集;1742「伯耆民談記」著
- G3561 **信理**(のぶまさ・田谷たや、通称;源右衛門)?-? 江中期歌人;冷泉家門、  
御数寄屋坊主支配の露次の者、岡田忠篤催[千首和歌]参加/広通「霞関集」入、  
成島信遍からの和文数編あり、  
[織女の逢ふ瀬いかにとむかふ夜の袖にすずしき天あまの河原](霞関;秋369/七夕)  
[人訪とはぬ庭の通ひ路絶えにけり厭ふにはゆる蓬のみして](同初撰;閑居)
- H3544 **信正**(のぶまさ・今村いまむら、) ? - 1817 三河宝飯郡の国学者;本居大平門、  
[信正(;名)の初名/通称/号]初名;信通、通称;道太郎/七右衛門、号;花鳥園
- H3541 **宣政**(のぶまさ・今井いまい、) 1754-1840<sup>87</sup> 信濃伊那郡の生、歌;桃沢夢宅門;1809[三義十一箇条]を受、  
筑摩郡小野で医業、小野社中の歌人、政典まさりの父、長女は小野村小沢甫氏に嫁ぐ、  
[宣政(;名)の通称/法号]通称;了右衛門、法号;直悟良心居士
- J3542 **信昌**(のぶまさ・長谷ながたに/西洞院/本姓;平、権中納言石井行忠男) 1762-1824<sup>63</sup> 京の廷臣、  
侍従西洞院時名の養子/甲斐権守西洞院時息の嗣子、1770周防権介/89少納言/侍従、  
1800正三位/16参議/17従二位、歌人、妻;六角知通女、信近・信存・信行の父、  
[信昌(;名)の法号]證菩提院見岳照雲
- D3533 **信正**(のぶまさ・飯尾いのお/本姓;藤原)?-? 江後期文化1804-18頃の絵師、  
1814「長篠軍記画卷」画、  
[信正(;名)の通称/号]通称;素彰、号;大空斎
- J3513 **信正**(のぶまさ・津村つむら/本姓;藤原、旧姓;長野) 1772-1848<sup>77</sup> 紀伊和歌山藩士;御書院番、  
歌人;冷泉為泰・冷泉為則門/国学・歌;本居大平門、  
[信正(;名)の通称/号]通称;長右衛門、号;竹翁/雪廼舎ゆきのや
- J3503 **信昌**(のぶまさ・竹矢たけや、旧姓;田辺)?-1854 江後期;出雲能義郡の富田とだ八幡宮神主、  
国学;千家俊信としぎね門/歌;加納諸平もろり門、歌;富長芳久編[出雲国名所歌集]入、  
[信昌(;名)の別号/通称]別名;五百枝いおえ/百会、通称;播磨/丹後守
- D3534 **信正**(のぶまさ・松岡まつおか) ? - ? 絵師、1854景紹かげつぐ「讃岐国名所図会」画
- H3572 **信正**(のぶまさ・大塚おおつか) 1836-1892<sup>57</sup> 備中後月郡井原の足次山神社祠官、国典・歌に長ず、  
1870(明治3)後月郡の神社取調に就任/皇典講究所委員補、晩年帰郷;子弟に国典を指導、
- I3542 **信誠**(のぶまさ・小林こばやし) 1840-1914<sup>75</sup> 信濃伊那郡平久村の庄屋、国学者/歌人、  
[信誠(;名)の通称/号]通称;豊次郎、号;豊二堂/南岑なんしん
- 宣政(のぶまさ・中御門) → 宣教(のぶり・中御門なみかど、廷臣/日記) C 3 5 6 8

- 信正(のぶまさ・安藤) → 信睦(のぶゆき・安藤、藩主/老中) D 3 5 7 6  
 信正(のぶまさ・岩崎) → 正蔵(しょうぞう・岩崎、幕臣/記録) K 2 2 6 1  
 信正(のぶまさ・佐野/松岡) → 御調(みつぎ・松岡/佐野、神職/国学) D 4 1 2 7  
 信理(のぶまさ・荷田/羽倉) → 信章(のぶり・荷田かだ/羽倉はくら、国学) C 3 5 7 4  
 修政(のぶまさ・池田) → 茂政(もちまさ・池田/徳川/松平、藩主) B 4 4 6 9  
 延昌(のぶまさ・青山/佐藤) → 松溪(しょうけい・佐藤さとう、儒者/絵師) I 2 2 2 3
- G3559 信政室(のぶまさのしつ・津軽つがる、法号;涼松院、増山正利女) 1651-1673早逝<sup>23</sup> 陸奥弘前藩主の妻、  
 歌人
- H3588 信満(のぶまる・羽倉はくら/本姓;荷田、) 1708-69<sup>62</sup> 山城紀伊郡の神職/国学者;荷田春満門、  
 信郷のぶさと(荷田信名のぶなの養嗣子)の実父  
 [信満(;名)の通称] 左仲  
 延麿(のぶまる・平田) → 延胤(のぶたね・平田、藩士/国学) B 3 5 9 1
- D3535 信海(のぶみ/のぶうみ・林はやし、信豊男、母;しげ子[歌人]) 1804-62<sup>59</sup> 武州入間郡赤尾名主(里正)、  
 国学・浜臣門、歌人、川越藩領惣代名主;治水築堤尽力/苗字帯刀、信徒のぶたの父、  
 「風の落葉」「萩乃屋随筆」「信海詠草」「紅葉のしをり」「杉のしをり」「夢の山ぶみ」著、  
 「くやしの道の記」「美豆乃之物語」著外詳細な日記を執筆、井上淑蔭よしかげの従兄弟、  
 [信海(;名)の通称/号]通称;半三郎/為三郎、号;桜園/萩廼舎/茅子舎、法号;慈光院
- H3535 信躬(のぶみ・石津いしづ、通称;甚之助)?-? 江後期嘉永1848-54頃;備前岡山藩士、  
 歌人;香川景樹門
- K3556 信通(のぶみち・藤原ふじわら、権大納言宗通[1071-1120]男) 1092-1120 母;修理大夫藤原顕季女、  
 平安期廷臣;左中將/従三位、伊通(太政大臣)・季通・成通・重通・宗子(忠通室)の兄弟、  
 妻;従三位藤原基隆女、行通(正四下左中將)・信経(正四下伊予守)・参議公隆室の父、  
 歌人;清輔[続詞花集]入(鳥羽殿五番歌合での詠歌)、父没3ヶ月後に没、  
 [過ぎゆかば散りもこそすれ卯花のえださしかはすをのの細道](続詞花;夏100)
- K3557 宣通(のぶみち・大中臣おおなかとみ、)?-? 鎌倉南北期;伊勢の神職、  
 歌:1330度会朝棟亭歌会参加、  
 [幾秋の影を移して五十鈴河今宵は月の名に流るらん](朝棟亭歌会;31)  
 [契りしをわがあらましに待更けて今宵も独有明の月](同;32)
- D3536 延通(のぶみち・中臣なかとみ/家名;大東、祐叙男/祐能養子) 1581-1632<sup>52</sup> 春日神社神職;  
 1598春日社次預/1631正預、「春日社司延通記」「春日御神事記」著
- D3537 宣通(のぶみち・伏原ふしはら/ふせはら、宣幸男/本姓;清原) 1667-1741<sup>75</sup> 廷臣;明経博士/大蔵卿/正三位、  
 1715「於葉室亭聖廟奉納詩歌」著、宣香のぶか/宣条のぶえだの父
- H3596 信通(のぶみち・唐崎からさき、清継長男) 1698-1747<sup>50</sup> 安藝賀茂郡竹原の磯宮八幡宮祠官、  
 1718(享保3)上総介、1719上京;西宮筑後守門/垂加神道修学、  
 国学;1723(享保8)鴨(梨本)祐之門・1734(享保19)松岡雄淵・谷川士清門、  
 1740「辛齋説」著、妻;三津榊山神社の行友吉清女、士愛ことか(常陸介)の父、  
 [信通(;名)の別名/字/通称/号]幼名;幸之助、字;子濯、通称;左門/織部/上総介、号;辛齋
- D3538 信通(のぶみち・久我こが、広幡長忠男/久我通兄or敏通の養嗣) 1744-95 廷臣;1789右大将/91内大臣、  
 正二位、1770「神宮御用日記」著
- H4157 信道(のぶみち・辻岡つじおか) ? - ? 江後期;伊勢一志郡光ヶ野の藤堂家藩士、  
 国学者;本居大平門、大平撰「八十浦の玉」下巻;長歌[榊原温泉]・短歌入、  
 [神無月しぐれの降れば河口の関のかり宮いにしへ思ほゆ](八十浦;838時雨)
- D3539 信道(のぶみち・松平まつだいら、幼名;又七郎/法号;誠敬院、信直の長男) 1762-91<sup>早世</sup> 30 丹波亀山藩主、  
 1781襲封/従五下/采女正/若狭守/紀伊守、奏者番兼寺社奉行、松平定信の側近として活動、  
 1789(寛政元)「領中刑律」制定、「亀山藩議定書」編
- H3527 信方(のぶみち・飯田いだ/旧姓;黒沢、号;休庵)?-1812 伊勢薦野の医者/豊後大野郡岡藩の侍医、  
 江戸で岡藩城主中川修理大夫久貞に出仕、歌人;冷泉為泰門
- D3541 信道(のぶみち・藤森ふじもり、通称;台蔵)?-? 江後期出雲の和算家;内田五観門/1839奉額、  
 「続算学小筌解」著
- I3504 信道(のぶみち・河村かわむら、) 1817-1889<sup>73</sup> 信濃飯田の商家、歌人;福住清風門、

伊那歌壇で活動、  
[信道(；名)の通称] 又助/弥五平、屋号；近江屋

- D3542 **信道**(のぶみち・早川はやかわ、通称；鉄五郎/弥惣大夫)?-? 江後期最上流の和算家；山崎寛林門、1848「算法撰術要法」54「最上流算術許状」著
- D3543 **信道**(のぶみち・前田まへだ/本姓；菅原、前田信順の養嗣子)?-? 江末期加賀大聖寺藩士、「前田系図附由緒」編
- K3528 **信道**(のぶみち・山田やまだ、通称；十郎、旧姓；井原)1833-190068 肥後熊本藩士、国学者；林有通門尊攘思想に惹れ鹿兒島で活動/1863(文久2)政変により江戸で幕府に捕縛；拘禁5年、維新後；新政府入；1871江刺県権知事/一時神風連に属すがのち政府に協力、鳥取県令/福島県知事/大阪府知事/1895京都府知事、96男爵、1897(明治30)第2次松方内閣の農商務大臣/会計検査院長
- J3570 **誠道**(のぶみち・原はら、通称；卯吉郎/卯吉)1843-7230 紀伊和歌山藩士；国学者、  
信道(のぶみち・遠藤) → 信道(のぶひろ・遠藤、国学者) C 3 5 5 3  
信道(のぶみち・伊沢) → 柏軒(はくけん・伊沢いさわ、医者) D 3 6 0 0  
信道(のぶみち・増島) → 澧水(れいすい・増島/増嶋ますじま/平、幕臣/儒者) 5 1 4 2  
信道(のぶみち・坪井) → 信道(しんどう/のぶみち・坪井つばい、蘭医) 2 2 6 5  
信道(のぶみち・角田) → 信道(のぶゆき・角田つのだ、国学者) J 3 5 2 2  
信通(のぶみち・今村) → 信正(のぶまさ・今村いまむら、国学者) H 3 5 4 4  
信通(のぶみち・舟木) → 杏庵(きょうあん・舟木ふなき、医者/詩文) N 1 6 2 7
- D3544 **敦光**(のぶみつ・秦はた) ? - ? 平安前期漢学者・歌、  
943「天慶六年日本紀竟宴和歌」天徳日命入
- D3545 **延光**(のぶみつ・源みなもと、通称；枇杷大納言、代明親王3男)927-7650 母；藤原定方女、946源姓を賜、臣籍降下/966参議/975従三位権大納言/東宮大夫/村上天皇の信任を得る/976出家、妻；中納言敦忠女/敦忠邸宅の枇杷殿を伝領、学者/詩人；959「天徳三年闕詩行事略記」入、「延光記」「親王儀式二卷延光卿撰」著、歌人；960天徳四年内裏歌合；右講師、962応和二年内裏歌合参加、万代集・和漢兼作集入、勅撰5首；拾遺(200/1278)続後撰(37)新千載(140)新拾遺(236)、  
[もみぢ葉を手ごとに折りて帰りなん風の心もうしろめたきに]、  
(拾遺；秋200/殿上の男ども紅葉見に大井に行き詠)
- D3546 **信満**(のぶみつ・武田たけだ、信春男/本姓；源)?-1417自害 鎌倉室町期武将；安藝・甲斐守護、父より楯無の鎧を相伝、鎌倉幕府に出仕/1416上杉氏憲(禪秀)の乱に縁族として参加、禪秀滅亡；帰国退隠；公方足利持氏の将上杉憲宗の攻撃に遭い甲州木賊山で自害、「甲州天目山棲雲寺十境詩歌」著、  
[信満(；名)の通称/法名/号]通称；二郎/右衛門佐、法名；明庵道光/号；長松寺/法号；棲雲寺
- 3514 **信光**(のぶみつ・観世かんぜ、通称；小次郎、元重[音阿彌]男)1435-151682 能役者/太鼓；叔父弥三郎門、のち能作者、謡曲整理；青表紙本書写、作能；「張良」「遊行柳」「紅葉狩」「船弁慶」「竜虎」など
- D3547 **信充**(のぶみつ・名倉なくら/通称；半左衛門、新兵衛信重男)?-1673 会津藩士/家老成瀬の罪に連座、流罪/配所で没、「名倉信充日記」著
- D3548 **信満**(のぶみつ・佐久間さくま、三浦十郎左衛門男)1728-8861 磐城平藩士佐久間信辰の養嗣子；磐城平藩主内藤家家臣/転封により日向延岡藩士、俳諧/謡曲を嗜む、「謡曲参考」著、  
[信満の号] 観潮/旭松下/露傘
- J3589 **宣光**(のぶみつ・伏原ふせはら/ふしー/本姓清原、宣条のぶえだ男)1750-182878 京廷臣；1771(明和8)明経博士、1778従三位/1811(文化8)正二位、和学者、宣武の父
- J3536 **宣光**(のぶみつ・中島なかじま、清三衛門男)1757-182064 母；佐与、中島家分家/備前児島郡の大庄屋、歌人；芝山持豊門、妻；間野家の女、栄武よしだけ(富次郎)・梶(女)・録(女)の父、  
[宣光(；名)の初名/通称]初名；猶茂、通称；新次郎/逸郎次/三郎四郎
- K3518 **信盈**(のぶみつ・森本もりもと/新井、森本本信男)?-1810 信濃伊那郡島田村の庄屋の家/信彌の弟、国学者/歌人；井沢敬忠のりただ門、  
[信盈(；名)の初名/通称]初名；官欄(かんちゅう?)、通称；吉太郎/庄治郎

- J3575 **信盈**(のぶみつ・日野ひの、通称;米吉)?-1824 信濃筑摩郡の歌人;桃沢夢宅(1738-1810)門
- G3562 **信充**(のぶみつ・松平まつだいら/本姓;藤原、信明2男)1775-1803**早世29歳** 紀州家庶流の鷹司松平家、1789上野吉井藩主信成の養子;93従四下/大蔵大輔/左兵衛督、1800養父隠居;家督嗣;第6代吉井藩主、侍従、養子の信敬が家督嗣、歌;1798石野広通「霞関集」入、  
[いづれをかわきて折らまし月影の数々うつる露の萩が枝に](霞関;秋395)、  
[信充(;名)の幼名/法号]幼名;千之進、法号;大智院
- I3503 **信充**(のぶみつ・河原かわはら、和泉可道2男)1793-1861**69** 佐渡北方の諏訪神社祠官の家の生、国学者、  
[信充(;名)の字/号]字;子実、号;益斎
- 3515 **信充**(のぶみつ・栗原くりはら/晩年;武田、栗原和恒男/本姓;源)1794-1870**77** 江戸の生/幕臣;  
故実家:屋代弘賢/柴野栗山/平田篤胤/伊勢貞春門、奥右筆/考証;各地の資料渉猟;武具等、  
博覧強記、1821-42屋代弘賢「古今要覧稿」編纂参加、1864島津久光の招聘で薩摩に滞在、  
のち京に隠棲、信晁のぶあきの父、「鎌倉武鑑」「応仁武鑑」「鞍鎧図式」「甲冑図式」「鞍工系図」、  
「栗原随筆」「柳菴随筆」「しのぶ草」「柳庵聞書」「柳庵漫筆」「浮世袋」「又楽庵蒙話」外著多数、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[弓張の月にむかしの友も来つゝいざ心ひく事や語らん](大江戸倭歌;雑1853、  
梅尾に在るとき月の夕べ都より友訪れ清滝川の辺に行きて)、  
[信充(;名)の幼名/字/通称/号]幼名;陽太郎、字;伯任、通称;孫之丞、  
号;柳庵/柳閣/隠居号;又楽
- I3538 **信盈**(のぶみつ・小泉こいずみ、)1796-1868**73** 近江彦根藩士、歌人;[鳩のうみ]入、信行の兄、  
[信盈(;名)の字/通称/号]字;巨海、通称;弥一右衛門、号;休逸
- G3558 **信充**(のぶみつ・羽倉はくら、信愛のぶひで男)1804-56**53歳** 京の国学者;小沢廬庵・川喜多真彦門、  
神職;京伏見稻荷神社祠官、南宋画を嗜む、  
[信充(;名)の通称/号]通称;紀伊守、号;梧東
- D3549 **延光**(のぶみつ・青山あおやま、延于[拙斎]長男)1807-70**64** 常陸水戸藩儒;家学を修学/詩文に長ず、  
史学に精通/1824出仕/諸職歴任;のち彰考館総裁/弘道館頭取、維新後;大学中博士、  
延寿の兄、「桜花百詠」「佩弦齋詩集」「佩弦齋文集」「佩弦齋雜著」「国史記事本末」著、  
「万斛文源」「名花有声画」「馬癖記料」、1866「雪夜清話」68「感旧編」外著多数、  
[延光(;名)の字/通称/号]字;伯卿、通称;量太郎、号;佩弦齋はいげんさい/晩翠/春夢居士
- G3544 **宣光**(のぶみつ・のりみつ・寺部てらべ/本姓;大伴おおとも、)1811-82**72** 三河宝飯郡八幡村の八幡神社祠官、  
歌人;中山美石うまし門/国学;平田篤胤門、1865私塾開設、1861「万葉集類詞抄」編、  
「大日本史竟宴歌集」編、「香園歌集」撰、  
「類題三河歌集」共編(竹尾正久・宣光・釈公阿・村上忠順ただまさ・中山繁樹の5名で編纂)、  
平田篤胤撰「弘仁歴運記考」を共同で校訂(草鹿砥宣輝・竹尾正寛まさひろと)、  
[宣光(;名)の通称/号]通称;主殿とも/阿波守、号;橘翁/香寮園かほうえん
- 宣光(のぶみつ・庭田/中御門)→ 資胤(すけたね・中御門/藤原/庭田、権大納言) G 2 3 4 2
- 宣充(のぶみつ・恩田) → 蕙楼(けいろう・恩田おんだ、藩士/儒者) 1 8 9 7
- 信充(のぶみつ・林) → 榴岡(りゅうこう・林はやし、幕府儒官) D 4 9 7 8
- 信充(のぶみつ・北原) → 信綱(のぶつな・北原きたはら、名主/政治家) I 3 5 2 1
- 信充(のぶみつ→ざね・関戸)→ 内兄(うちえ・関戸せきと、国学者) E 1 2 7 3
- 信光(のぶみつ・田中) → 光方(みつかた・田中、銀竹軒/俳人) D 4 1 2 2
- D3550 **信嶺**(のぶみね・小笠原おがさわら、信貴男)1547-98**52歳** 武将/徳川家康臣;伊那を本領、  
長久手・小田原陣に参戦、1590武州本庄領主、連歌;1594紹巴と「何路百韻」、  
[信嶺の通称/法号]通称;十郎三郎じゅうさぶろう/掃部(嘉門)かもん
- D3551 **信宗**(のぶむね・源みなもと、通称;院中条、敦明親王[小一条院]男)?-1097 母;源政隆女の瑠璃女御、  
廷臣;左近中将/民部大輔/備中守、伊勢大輔・周防内侍・四条宮下野と交渉、歌;続詞花集入、  
勅撰2首;後拾遺595/金葉II 485(III 476)、  
[いにしへに難波にはのことも変らねど涙のかゝる旅はなかりき](後拾;哀傷595、  
熊野詣にの途中父小一条院に同行した難波に泊り昔を思い出しての詠、難波に何を掛る、  
この詠歌を聞いた伊勢大輔の歌、

- 596; 思いやるあはれ難波のうらさびて蘆のうきねはさぞなかれけん/伊勢大輔集入)
- K3522 **信村**(のぶむら・安田やすだ、旧姓;太田)1795-1858<sup>64</sup> 筑前遠賀郡の国学者、  
[信村(;)名]の通称/号]通称;喜五郎/作次郎、号;亀遊  
之望(のぶもち・渡辺) → 荒陽(こうよう・渡辺、儒/国学者) G 1 9 5 3
- I3587 **宣元**(のぶもと・田中たなか、通称;大隅)1722-54<sup>33</sup> 三河吉田の天王社境内稻荷明神の神主、  
国学;杉浦国頭(国頭くにあきら・三河国学の祖)門、
- J3556 **遜志**(のぶもと・野村むら、) ? - ? 江中期;大坂の国学者;賀茂真淵(1697-1769)門、長平の弟、  
野村ともひ子(野村長平の妻/真淵門/真淵講述[古今和歌集打聴]筆記)の義弟;  
兄夫婦没後に遜志が1785(天明5)頃[古今和歌集打聴]を大坂で刊行
- J3546 **信居**(のぶもと・南部なんぶ/三戸、南部藩主利視4男)1738-87<sup>50</sup> 陸奥盛岡の新屋敷三戸家の祖、  
1742百石/1750千石、国学:歌;三輪家(秀寿・秀奏ひでのり)入門、  
1787(天明7)没;三戸信周男の左近信浄が家督嗣、  
[信居(;)名]の通称]通称;八助/左京、法号;見性院
- I3567 **延駒**(のぶもと・志賀しが、)1764-1831<sup>68</sup> 紀伊和歌山藩士;御徒頭、国学/歌;本居大平門、  
[延駒(;)名]の通称/号]通称;逸兵衛、号;逸翁
- D3552 **信資**(のぶもと・荷田かだ、家名;羽倉、羽倉信賢男)1788-1837<sup>50</sup> 山城伏見稻荷社祠官;目代職を継嗣、  
「荷田目代家系譜家伝記」編、  
[信資(;)名]の初名/通称]初名;延春、通称;出羽守/伯耆守/刑部少輔ぎょうぶのしょう/筑後守
- D3521 **布旧**(のぶもと・安田やすだ、通称;吉次郎/新兵衛、六平男)?-? 江後期金沢藩士/1807家督継嗣、  
郡奉行兼改作方、1837頭並、「御郡奉行改作奉行取捌年中行事」著
- J3554 **信元**(のぶもと・野沢のざわ/本姓;藤原、)1811-64<sup>54</sup> 下野芳賀郡の長沼八幡宮の神主、  
国学;平田篤胤門、天狗党に参加、  
[信元(;)名]の通称/号/変名]通称;久治郎/金吾/金五郎/常陸之允/和泉正、  
号;泰山/壺菅園、変名;長沼巽
- H3529 **信基**(のぶもと・池浦いけうら、)1830-58<sup>早世29歳</sup> 越後三島郡の歌人;橋守部門、  
兄信秀没;家督継嗣、兄の7回忌に岳父解良栄重ら数人で歌合開催;橋守部の判、  
[信基(;)名]の通称/号]通称;又三郎、号;竹舎
- D3553 **信基**(のぶもと・石黒いしぐろ、信之男)1836-69<sup>34歳</sup> 代々越中射水郡高木村村役・郡役の家、  
和算家:内田五観門、1853射水郡の新田裁許/57家督継嗣;660石、加賀宮腰港測量、  
1866敦賀・琵琶湖間の水矯測量を下命、1855「綴術諺解」、「算題集」著、「鉤台」「鉤題」編  
[信基(;)名]の通称]通称;藤右衛門、
- D3554 **信元**(のぶもと・井上いづえ、通称;権一郎)?-? 江末期筑前福岡藩士、「長崎警護記録」著  
信元(のぶもと・吉岡) → 信元(しんげん・吉岡、備中/堺の俳人) D 2 2 9 9  
信元(のぶもと・柳沢) → 吉保(よしやす・柳沢/源/松平、藩主/歌) H 4 7 7 5  
信思(のぶもと・内藤) → 信親(のぶちか・内藤、藩主/老中) C 3 5 0 2
- G3556 **宣盛**(のぶもり・生嶋いくしま、初名;秀敏、秀成男/本姓;平)1628-95<sup>68</sup> 廷臣;因幡守、桂宮諸大夫、  
1660正五下/61宮内大輔/62致仕、1654「穩仁親王御養子ニ付御談合之次第」著
- G3569 **信守**(のぶもり・中山なかやま、常陸府中藩主松平頼説2男)1807-57<sup>51</sup> 1828(文政11)中山信情の養子、  
1828家督継嗣;再度の常陸松岡藩の第3代当主/中山家12代、備前守/従五位下/1851備後守、  
水戸藩附家老に就任;病弱の藩主斉脩の後継者擁立に対立が起きる、  
将軍家斉男斉彊擁立の重臣派と斉脩の弟斉昭擁立の藤田・会沢派の対立、  
信守は斉脩の遺書から斉昭の継承を幕府へ届出/のち斉昭失脚時に責任で30日差控、  
正室;中山信情女/継室;加藤明允女、信宝・信徴・遠山景福室・松本正直室の父、  
歌;蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[みなせ川氷とけゆく春風にむかふ山辺も霞みたなびく](大江戸倭歌;323水郷春望)  
[信守(;)名]の幼名/別名/通称]幼名;与次郎、初名;頼容、通称;備前守/備後守
- 信盛(のぶもり・杉森) → 門左衛門(初世もんざえもん・近松、浄瑠璃作者) 4 4 3 7  
信盛(のぶもり・羽倉) → 春満(あずまる・荷田かだ/羽倉、国学/歌学) 1 0 1 8
- H3587 **信舎**(のぶや・荷田かだ/家名;羽倉、信名男)1692-1761<sup>70</sup> 山城紀伊郡伏見稻荷社祠官;目代、

国学;父門/春満門、従四下出羽守、  
[信舎(;名)の通称]内記/出羽守

信哉(のぶや・塩谷) → 定得(さだり・塩谷しおたに、医者/国学) O 2 0 6 4

K3547 信易(のぶやす・藤原ふじわら、)? - ? 江前期;京の武士/歌人;河瀬菅雄門、  
1682河瀬菅雄[麓の塵]20首入、母も歌人(同集12首入)、自邸で歌会催、  
[呉竹のありし幾世をかぞへ来て又色まさる春や立つらん](麓の塵;春5)

K3546 信安(のぶやす・山田やまだ/本姓;源、)?-? 江前期;武士/歌人、  
1688浅井忠能[難波捨草]3首入、  
[石上ふるきむかしの神代より万代まもる朱の玉がき](難波捨草;神祇409)

D3555 延保(のぶやす・堀ほり、保彙男) 1714-9481歳 神職/豊後介、一老、「御棚飾之日記」著

J3508 信寧(のぶやす・津軽つがる、信著の長男) 1744-8441 陸奥弘前藩7代藩主;1744(延享元)父没;家督嗣、  
従五下/土佐守、飢饉・天災で領地荒廃;借金は35万両、商人と結託した重臣の暴利事件、  
1766地震で弘前城損壊、1781天明大飢饉;84(天明3)幕府より1万両借用、財政再建途中没、  
正室;松平明矩女の綾姫(眞寿院/章子あきこ/歌人)/側室;歌喜(妙詮院)、  
長男信明(母;歌喜)が家督嗣、

J3576 信易(のぶやす・日野ひの、通称;甚五兵衛)?-1820 信濃筑摩郡の歌人;桃沢夢宅(1738-1810)門

I3505 宣易(のぶやす・河本かわもと、) 1760-184182 備中賀陽郡の吉備津宮神楽座の社家、  
国学/歌;藤井高尚たかなお(吉備津神社宮司)門、  
[宣易(;名)の通称/号]通称;石見/主令、号;槐の屋

J3504 宣予(のぶやす・武笠たけがさ、) 1790-187586 近江彦根藩士、歌人;[鳩のうみ]入、  
[宣予(;名)の字/通称/号]字;子順、通称;才三郎/十介じゅうすけ/七郎右衛門、号;休斎/竹坡

D3556 信廉(のぶやす・西島にしじま) 1795-186268歳 若狭小浜大津町の薬種商/1829町年寄、  
歌;香川景樹門、「神閑是日記」著、信好のぶよしの父、  
[信廉(;名)の別号/通称/屋号]別名;通称;宗値、又兵衛/又十郎、屋号;升屋

D3557 信安(のぶやす・木内きうち、通称;斧次郎)?-? 田安家の家臣/和算家;神谷藍水門、  
文化文政1804-30頃活動/1810「伝通院大黒天堂額解術」著

I3564 宣安(のぶやす・榊原さかきばら、本姓;藤原) 1819-9577 三河碧海郡依佐美村の野田八幡宮の神職、  
有栖川宮家に出仕、国学・歌;村上忠順ただまさ・本多俊民門、  
[宣安(;名)の字/通称]字;祥昌、通称;大和/大和正

信安(のぶやす・鍋島) → 直茂(なおしげ・鍋島なべしま、武将/藩主) B 3 2 2 8

信安(のぶやす・柳沢) → 安連(やすつら・柳沢やなぎさわ、幕臣/和学) G 4 5 9 3

信易(のぶやす・竹内) → 信生(のぶお・竹内たけうち、藩家老/歌人) J 3 5 0 0

信康(のぶやす・佐倉) → 信武(のぶたけ・佐倉さくら、神職/教育者) I 3 5 5 0

宣泰(のぶやす・中御門) → 資胤(すけたね・中御門/庭田、廷臣/記録) G 2 3 4 2

J3509 信寧室(のぶやすのしつ・津軽つがる、松平明矩女) 1744-180966 陸奥弘前藩7代藩主津軽信寧の正室、  
歌人、名;綾姫あやひめ/章子あきこ、出家名;眞寿院

K3548 信易母(のぶやすのはは・藤原ふじわら、)?-? 江前期;歌人、  
1682河瀬菅雄[麓の塵]12首入、息子信易も歌人(同集20首入)、  
[七十あまり侍りて春のつれづれにはかなく口ずさびどもかきあつめけるに、  
老いぬれば心の春もおぼろにてかすみにまよふ筆のあとかな](麓の塵;雑641)

D3558 信行(のぶゆき・姓不詳) ? - ? 平安期;歌;1063藤原公基歌合参加(丹波で)  
[わが恋をつれなき人のみにかへて心みせばやたへぬべしやと](公基歌合;恋)

D3559 延行(のぶゆき・荒木田あらかた/家名;岡田、延成のぶなり男)?-1310 伊勢神職/1306内宮五禰宜/正四上、  
歌人;1295「伊勢名所絵歌合」参加、新後撰909、  
[おもひ河瀬々のうたかたいたづらにあはで消えぬる名を流せとや](新後撰;恋909)

D3560 信之(のぶゆき・小須賀こすが、通称;九兵衛/本姓藤原)?-?1616存:80余歳 江前期伊勢の武将/戦功多、  
「小須賀氏聞書」「小須賀氏覚書」著、「志津嶽合戦しづがたけかせん小須賀九兵衛記」著?

D3561 信之(のぶゆき・松平まつだいら、忠国2男) 1631-168656歳 兄信久夭折;1659播磨明石藩主;6万5千石、  
従五下日向守、新田開発・堀割開削などに尽力/1679大和郡山藩に転封;80城下大火;  
救済と再建に尽力/82雁間詰/85老中、86下総古河藩に転封;従四下、老中職のまま没、

宗因を招聘、妻；小出吉英女、忠之の父

- H3599 **信之**(のぶゆき・川口かわぐち、) 1631-1703 73 幕臣；小普請、国学者、養嗣子；本多信就のぶなり、  
[信之(；名)の初名/通称/号]初名；宣武、通称；三郎右衛門/七郎左衛門、号；梅翁
- D3562 **宣幸**(のぶゆき・伏原ふしはら/ふせはら、賢忠男/本姓；清原) 1637-1705 69 明経博士/1677大蔵卿/正二位、  
有職故実家、「辛酉革命考」著、香川宣阿の有職の師、宣通のぶみちの父
- D3563 **式如**(のぶゆき・のりゆき・田中たなか/本姓；源、旧姓；松浦) 1660-1734 75 丹後宮津の国学者、備前岡山藩士、  
江戸で神道；吉川惟足門、加賀金沢藩士田中宗得むねりの養嗣子；金沢藩士、  
京で吉田兼敬かねゆき門；唯一神道修学、1685金沢藩主前田綱紀に出仕；金沢住、  
「諸神記」「新撰和訓解」「倭語小解」「本朝四礼大略抄」「立言源委」「恒斎随筆」著、  
[式如(；名)の別名/字/通称/号]初名；式昭のぶあき、字；玉之/子頭、通称；平丞/左源太、  
号；恒斎/貞簡先生、明如の養父
- D3564 **誠之**(のぶゆき・慶徳けいとく/本姓；源、旧姓；古屋/中川) ?-? 慶徳直矩なおりの養嗣子、  
家職継嗣；尾張大曾根片山八幡神社の神主、吉見幸和門、克明かつあきの父、  
1750「神代直説」/52「幸不幸辨」/58「吉見宅地書庫記」、「恭軒先生事状」著
- D3565 **信幸**(のぶゆき・齋藤さいとう、通称；右近/右仲、本姓；藤原/菅原) 1709-76 68 遠州磐田郡の神職；  
磐田郡目付天神社祠官；継嗣、国学；浜松諏訪社の杉浦国頭門、荷田春満・賀茂真淵門、  
「蘭菊解」「旧事記摘弁」「挫印斎」、1771「弊里神官慎終記」著、本居大平「八十浦の玉」入、  
[み吉野の花の盛りを来て見れば天の下には春なかりけり](八十浦)
- D3566 **信之**(のぶゆき・岸きし、字；子世/通称；忠二郎/号；固斎) ?-? 江中期大阪の儒者、1768「蔵棺略説」著
- D3567 **信之**(延之のぶゆき・仙石せんごく、通称；治部) ?-1778 江中期京の歌人、武者小路家側用人、  
歌；1775景範「蔵山集」入
- D3568 **信敬**(のぶゆき・中条ちゆうじょう、後名；信復のぶなお、信秀男) 1727-1808 82 幕臣；1742家督嗣、山城・大和守、  
1762高家に列す；従五下・侍従、1782徳川家斉元服及び1797家慶元服の使者とし上京、  
従四上/少将、「高家勤藹記」著、  
[信敬(；初名)の通称/法号]通称；鉄三郎/兵庫、法号；高頭院
- H3555 **信行**(のぶゆき・江藤えとう、香月則鎮4男、通称；只吉) 1752-1823 72 筑前鞍手郡笹田村の生、  
猪熊村里正の江藤伴道の養子；1782(天明2)為居村里正/1808(文化5)広渡村里正に転ず、  
1813(文化10)復居村里正、歌人
- H585 **信之**(のぶゆき・加地かじ、) 1738- 1808 71 伊予宇摩郡土居村の庄屋、歌；冷泉為村門、  
1785(天明5)京の新玉津島神社神主森河高尹が来訪、歌の宗匠、草庵；山中庵に住、  
周円「松葉集」の序文執筆、「花の下ぶし」(円浄[渡部忠]編?)に2首入、  
「草庵百首和歌」編?(信之のほか神護寺湛空・越智通清・内藤義堯の3人入集)、  
[色々の玉とこそみれ秋の野の花の千草の露の月かげ]  
[信之(；名)の通称/号]通称；丈助、号；山中庵(；草庵名)、屋号；近江屋
- I3514 **信之**(のぶゆき・木村きみら、) ? - 1812 伊予松山の歌人；随応門、  
[信之(；名)の通称/号]通称；治兵衛、号；愛吾廬
- D3569 **信之**(のぶゆき・高柳たかやなぎ、高柳久蔵[宗寿]養嗣) 1772-1829 58 武州八ツ林の生/名主高柳家の養子、  
俳；莊丹門、神道を修学、1807甲斐・駿河を行脚/09浅草寺に三匠句碑を建立、  
宗教活動；大道教を起こす、  
1807莊丹「芭蕉句解参考」校、「野静草」編、「菜窓菜英草」「山かつら」、「朝夕神拝詞記」著、  
[信之の通称/号]通称；右候/新重郎/新十郎、号；**文献**/菜英/菜窓2世/黄蝶堂
- D3570 **信行**(のぶゆき・平たいら) ? - ? 和文/狂歌；南畝門、1806南畝「ひともと草」入
- I3539 **信行**(のぶゆき・小泉こいずみ、通称；弥一右衛門) 1800-1841 42 小泉信盈のぶみつの義男(実は弟)、  
近江彦根の国学/歌；小原君雄・山本昌蔭門、歌；[彦根歌人伝・続寿]入
- D3571 **信行**(のぶゆき・近藤こんどう、通称；兵作/号；新規矩斎、瀬左衛門男) 1800-73 74 加賀藩士；禄180石、  
1844-54ころ藩老長連弘を盟主とし政権を把握した黒羽織党に属す；頭並に列す/勝手方、  
関流和算家；中之続従門/藩校明倫堂の師範、1854黒羽織党の失脚により罷免、  
1863再び藩政参与、1866息子(4男)信成の自決を賞され百石加増、  
1832「転写法之解」著、「約術解」編、「摘要算法選」「算学鉤致下巻解」「近藤兵作上書」外著多
- D3572 **信之**(のぶゆき・石黒いしぐろ、通称；藤右衛門、信易の長男) 1811-52 42 越中射水郡高木村の村役/郡役、

父病弱のため名代を務める;1837家督嗣;534石、和算家;1846内田五観門/関流算法修学、藩より絵図方・測量方御用を命じられる、「箆笥目録」、1850「海岸御巡見御用日記」著、1850「御領国御扶持人十村等総列名帳」著、信基のぶもとの父

D3573 延之(のぶゆき・河本かわもと/三宅、通称;文介/号;可々楼、河本公輔男)1813-6553 備前岡山歌人:父門、父の跡を嗣ぎ京で鈴屋流の歌学を教授、歌集:「可々楼年々百首」、「すゑくむ水」、「河本延之大人歌集」(歿後1867刊)7周忌追善歌集[聲香集]

D3574 信之(のぶゆき・吉岡よしおか)1813-187462 相模小田原藩番頭吉岡儀太夫の養子、小田原藩士、1829藩校集成館小幹事/目付/諸稽古所奉行/先筒頭/郡奉行兼報徳取扱/箱根関所番頭、大磯固郡奉行/船奉行を歴任、1857御徒頭、江戸勤番の時に国学/歌:千葉葛野かどの門、1862隠居;集成館には1874廃校まで関与、維新後;私塾を開塾;子弟教育、1874(明治7)没、1852「地震日記」1857「実方集私記」、「伊勢物語講義」「しがらみ」「遊蛙園和歌会記」著、[信之(;名)の通称/号]通称;儀太夫/外衛/府生、号;水善舎/榎園/遊蛙園ゆうあえん

G3576 信順(のぶゆき・南部なんぶ、島津重豪14男)1814-7259 母;於曾美(杉浦政信女/高木玄達養女)、薩摩お由羅騒動に島津斉彬が薩摩藩主継嗣にため実兄黒田斉溥と尽力;幕府に運動、兄弟;島津斉宣/奥平昌高/島津忠厚/有馬一純/黒田長溥(斉溥)、八戸藩8代南部信真の婿養子;1842(天保13)養父隠居;陸奥八戸藩9代(最後)の藩主、1855従四位下/遠江守/61侍従、正室:鶴姫(南部信真女)、息子;栄信/邦次郎、息女;八百姫/仁姫(早世)/聖姫(早世)/慶姫(榎筒隆義室/加藤明実継々室)1868(慶応4)戊辰戦争が勃発;実家が薩摩藩のため奥羽越列藩同盟の仮想敵とされる;同盟には家老を立て一方で官軍側の久保田藩と密かに連携する;難局を乗切る、戦闘に参加することなく八戸藩は存続;1869八戸藩知事、71栄信に家督譲渡、日蓮宗富士派大石寺門流檀家の法難を救い自ら1853頃島津斉彬・天璋院と大石寺に帰依故郷鹿児島を懐旧;八戸藩領に薩摩式の庭園(のちの南部家庭園)を造営、[信順(;名)の幼名/別名/通称]幼名;虎之助、初名;久命、通称;篤之丞

D3575 言行(のぶゆき・倉地くらち、通称;次郎八)?-? 江後期江戸の歌人、「木曾の行かひ」「山分衣」、「倉地言行詠草」著、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、[涼しさは夏ともいさやしら菅の真野の入江の波の夕風](大江戸倭歌;夏655/海辺納涼)

G3580 信行(のぶゆき・小池こいけ/本姓;葛原くずはら、通称;弥兵衛/弥右衛門)?-? 江後期;江戸の歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、[薄くこく霞みてけふもくれはどりあやにぞ見ゆるしづはたの山](大江戸倭歌;春74)[夜もすがら宇治の河風音さえて薄雪白し瀬瀬の網代木](大江戸倭歌;冬1195)

D3576 信睦(のぶゆき・安藤あんど、初名;信正、通称;対馬守、信由男)1819-7153 磐城平藩主/幕府老中、公武合体論;1862坂下門事件で負傷

D3577 信行(のぶゆき・足立あだち、通称;久米之助/左内、信順男)?-? 幕末期暦学者(;家職);1845幕府天文方、1842「新法暦書」46「新法暦書続編」、「太陰暦」編、「太陰暦細草」「新法暦書表」著

I3537 信之(のぶゆき・小池こいけ、通称;武助/太右衛門)?-1862 甲斐八代郡の国学者

I3519 信幸(のぶゆき・北野きたの、旧姓;増田)1828-190881 紀伊和歌山の生/神職、伊勢多気郡斎宮村の北野天神社祠官

J3529 信行(のぶゆき・遠山とおやま、初名;仙太郎)1831-190676 筑後久留米の国学者

I3597 信行(のぶゆき・高松たかまつ、)1836-1863殺害28 信濃更級郡の剣術家;江戸の塚田孔平門、国学者;平田鍊胤門、尊攘派と交流/同志たちと京等持院の足利尊氏像梟首事件を起す;1908(文久3)捕吏に襲撃され殺害、[信行(;名)の通称]平十郎/趙十郎/超之助

D3578 信行(のぶゆき・須川すがわ/清水、号;常葉園)1839-191779 近江高島郡の歌人;小出榮つばり門、京の御歌所寄人、「六十六番歌合」催(判者は師小出榮)

H3545 信行(のぶゆき・今村いまむら、文吾の長男)1841-190968 父は信濃伊那郡山吹村の旗本座光家の家臣、国学者;山吹藩士片桐春一・平田鉄胤門、砲術・槍術を習得、維新後;横浜に出る、ジェームス・カーティス・ヘボンの辞書著述に助力/1872司法裁判所に仕出、1877年名古屋裁判所/81年東京上等裁判所/82年東京控訴裁判所の各判事を歴任、

1884年岡山始審裁判所長/86年東京控訴院評定官/94大審院判事/従三位、  
「民事訴訟法」「裁判所構成法」の法典編纂・施行に尽力、恭太郎の父、  
[信行(；名)の通称/号]通称；松太郎、号；竜川

J3522 **信道**(のぶゆき・角田つのだ、忠守男)1846-1884<sup>39</sup> 信濃佐久郡の国学者；平田鍊胤門、忠行の弟、  
岩村田藩出仕、維新後；京都吉田神社宮司、  
[信道(；名)の初名/通称]初名；千穎ちがい、通称；宮吉

J3571 **延行**(のぶゆき・原田はらだ、通称；勇蔵)?-1901 尾張名古屋の紙商、  
国学者；植松茂岳しげおか(1794-1876)門

信行(のぶゆき・寺坂) → 吉右衛門(きちえもん・寺坂、赤穂藩士) L 1 6 2 1

信行(のぶゆき・須田/佐藤) → 元庵(げんあん・佐藤さとう、農政家) H 1 8 6 3

信行(のぶゆき・増島) → 蘭園(らんえん・増島/平/増、幕臣儒官) B 4 8 5 9

信行(のぶゆき・河村) → 秀根(ひでね・河村、藩士/国学者/歌人) D 3 7 5 4

信行(のぶゆき・森本) → 眞弓(まゆみ・森本もりもと、商家/国学/歌) P 4 0 3 5

信之(のぶゆき・岡田) → 静山(せいざん・岡田おかだ、儒者) I 2 4 4 5

信之(のぶゆき・鶴飼) → 石斎(せきさい・鶴飼/鶴、儒者/史学) D 2 4 4 7

信之(のぶゆき・小林) → 一茶(いっさ・小林こばやし、俳人) 1 1 2 1

信之(のぶゆき・村上) → 良元(りょうげん・村上むらかみ、幕府医官) H 4 9 3 7

信之(のぶゆき・今井) → 宗益(そうえき・今井いまい、蘭学者) G 2 5 2 5

信之(のぶゆき・岡田) → 呉陽(ごよう・岡田おかだ、儒者) N 1 9 8 6

信之(のぶゆき・山寺) → 北雅(ほくが・葛飾かつしか/山寺、絵師) C 3 9 9 4

信之(のぶゆき・熊谷) → 直治(なおはる・熊谷くまがい、藩士/国学/歌) L 3 2 9 8

信如(のぶゆき・高麗/林) → 葛廬(かつろ・林はやし、幕府儒官) O 1 5 0 4

信遍(のぶゆき・平井/成島) → 錦江(きんこう・成島、幕臣/儒/歌) 1 6 6 1

延之(のぶゆき・青山/佐々木) → 柳庵(りゅうあん・佐々木ささき/青山、儒者) C 4 9 6 8

延于(のぶゆき・青山) → 拙斎(せつさい・青山、水戸儒者) E 2 4 3 3

D3579 **信世**(のぶよ・小野おの) ? - ? 江前期江戸の俳人；立圃[1595-1669]門、  
立圃「鶉鷺誹諧」入、1676西鶴「古今誹諧師手鑑」入、  
[青天の白日や葉と花の春](手鑑/潔白にして曇り無し)  
二葉之松入集の信世と同一 → 信世(しんせい、俳人) R 2 2 0 5

G3592 **信節**(のぶよ・篠木ささき/本姓；藤原、通称；勝左衛門)?-? 江後期；幕臣、1796上野長楽寺の橋の修復、  
歌人；1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[秋こよひ月のむしろにまとみして千年を契る老の友どち](大江戸倭歌；910、  
仲之が家の尚齒会に月契千秋といふ題にて)

G3520 **延世**(のぶよ・世古せこ、)1824 - 1876<sup>53</sup> 伊勢松阪の酒造業黒部屋；紀州藩御用達、  
儒；斎藤拙堂門・国学；本居内遠/足代弘訓門、1845三条実方と知遇；堂上家臣・志士と交流、  
勤王派、1858水戸藩への降勅事件に関与；投獄/維新後；行政官権弁/宮内権大丞、  
伊勢神宮正遷宮式の弊習改革/古社寺の論旨・古文書・宝物の保存に尽力；  
古社寺保存会を発足、「世古延世詠草」「世古延世歌集」/1862-64「世古延世日記」著、  
「世古延世備忘録」「世古延世雑記」著/「唱義聞見録」「銘肝録」編、外編著多数  
[延世(；名)の字/通称/屋号]字；子直/孟晦、通称；雅太郎/喜兵衛/格太郎

J2540 **延世**(のぶよ・長谷ながたに、通称；九兵衛)1843-97<sup>55</sup> 近江滋賀郡の質商、  
歌；伊東巨規なおのり(秋廼屋颯々あきのやさつさつ)・服部春樹門、歌；[鴉のうみ]入

延世(のぶよ・河崎) → 正世(まさよ・河崎かわさき、神職/国学者) P 4 0 0 5

信節(のぶよ・喜多村、川柳作者) → 筠庭(いんてい・喜多村、国学) C 1 1 0 6

D3580 **信義**(のぶよ・源みなもと、博雅ひろまさ[918-980]男)?-? 平安前中期廷臣；楽人、典薬頭/雅楽頭/従五下、  
信義本「神楽歌」書写(伝)

D3581 **延良**(のぶよ・度会わたらい) ? - ? 伊勢の神職；外宮禰宜、  
歌；1321外宮北御門歌合参加、  
[定めなくしぐるる比こるとおもはずは何に木葉の音まがへまし](外宮歌合；五番左9)

D3582 **信良**(のぶよ・坊門ぼうもんor三井、本姓；藤原)?-? 南北期歌人、六位、新千載1970/新後拾839、

坊門信良なら信頭のぶあき男、

[水茎の岡辺の笹の一節をこのよに残すことのはもがな](新千:雑1970)

- 3517 **延佳**(のぶよし・出口でぐち、初名;延良、延伊男/本姓;度会たらい) 1615-9076 伊勢外宮の神職、  
豊受大神宮権禰宜、伊勢神宮学[度会神道]の始、1648同志と豊宮崎文庫創設;  
伊勢神道書を再興、「神儒伝説」、近世国学の先駆;「鼈頭古事記」など、  
歌;「度会神主延佳詠草」著、延経のぶつねの父、  
[延佳(;名)の通称/号]通称;与三次郎/愚大夫/信濃、号;直庵/講古堂
- J3512 **信義**(のぶよし・津軽つがる、2代藩主信枚男) 1619-5537 母;辰姫(石田三成女辰子/大館御前/莊殿院)、  
1623(元和9)母没;江戸弘前藩邸で育つ/1631(寛永8/13歳)父没;家督嗣;弘前藩3代藩主、  
近従と譜代の老臣との対立;1634お家騒動(船橋騒動)起る;幕府介入;処罰者多数、  
藩主権力の強化に尽力;1647強権反発の家臣による異母弟信英の擁立を肅正(正保騒動)、  
治水工事・新田開発・尾太鉦山開鉦・牧場開設などの功績、反面;奇行・乱行・好色・酒乱、  
正室;富宇姫(慶林院、松平康久女)、側室;久祥院(菊御前/唐牛甚右衛門女)、  
側室;与會子(阿德/1692没/添田貞成女、8男津軽為貞の母/歌人)、25男26女の父、  
歌人;疋田甫庵門、歌集「愚詠和歌集」著、江戸神田邸に没;長男信政(母;久祥院)が嗣、  
[春の花秋の紅葉もいかでかは終の嵐にあはで果つべき](辞世)
- D3583 **宣慶**(のぶよし・葛岡くずおか/かどおか/本姓源、庭田重秀2男/庭田雅純の弟) 1629-171789 廷臣;修理大夫、  
1654従四上、歌人;古今伝授に与る/後西天皇即位に当り官位返上、  
大阪に住;葛岡に改姓;歌学研究、自宅を[新歌林苑]と称し歌の門弟多数指導、  
晩年は五辻家を継いだ孫広仲の後見のため帰京、1688浅井忠能「難波捨草」編纂参加、  
「古往今来秘歌大体」著、家集「歌苑和哥集」著、「三十六歌僊歌集」書、  
姉妹に秀子(後光明天皇典侍;孝子内親王母)、  
[うすく濃き茂るをままに吹き分けて風の行方の見えし夏草](歌苑集;風前夏草)
- D3584 **信慶**(のぶよし・中西なかにし/本姓;秦) 1631or30-9969or70 伊勢山田前野の神職;外宮祠官、  
国学者;契沖と親交、歌/神道に通ず、有賀長伯の師、家集「愚詠草稿」、  
1680「神事常行集」著、「神宮旧記」「神書目録」編、「神境紀談」「窓下随筆」「中西信慶雑記」著、  
「中西信慶神道雜載」「倭姫命世記鈔」外著多数、  
[信慶(;名)の幼名/通称]幼名;信吉、通称;清太夫/易右衛門  
☆1688河瀬菅雄[麓の塵]3首入の[信慶]と同一?、  
[滝つ浪立ちまふ雲の絶間より影も落来る山の端の月](麓の塵;秋258)
- D3585 **信好**(のぶよし・松田まつだ、通称;武太夫)?-? 江前期和算家;中西正則門、  
1684(貞享元)「算法統適等集」師と共著、1689江戸石町一丁目横町で算法指南で生計
- J3558 **信祥**(のぶよし・馬場ばば/本姓;源、房清男) 1640-170364 江戸の幕臣;大番、和学者/歌人、  
1688浅井忠能「難波捨草」数首入、  
[世々にみしならひしれとや面影のかすみてすめる春の夜の月](難波捨草;春84)、  
[信祥(;名)の初名/通称]初名;房仲、通称;右馬助/三郎右衛門/十郎右衛門、法名;道林
- D3586 **信義**(のぶよし・宮重みやしげ、信武男) 1713-7765 幕臣/1752(宝暦2)家督嗣/小普請、  
儒;中村蘭林門、国学;荷田在満門;1746在満「貞観儀式」の編集に参加/1768致仕、  
儒を業とす、歌;烏丸家門/坂静山門、「火色搔練考」「国司任限沿革考証」著、  
1768石野広通[霞関集]初撰入(長井利恒と同じ追悼歌)、  
[柘植つげ知清ともきよ(1687-1744/幕臣/歌人)一周忌に夏懐旧、  
めぐりくる月日もあれどひととせを卯の花垣根隔つるはうし]、  
(霞関集初撰;卯と憂を掛る/垣が隔つを導く)、  
[信義(;名)の字/通称/号]字;子房、通称;千之助/甚左衛門、号;忍斎/一清/飯山
- J3580 **信嘉**(のぶよし・久山ひさやま、通称;平弥、) 1725-9369 備前岡山の酒折宮(後の岡山神社)祠官、歌人
- D3587 **信好**(のぶよし・間宮まみや、向坂言政2男) 1746-9752歳 間宮信栄の養子;1771養家継嗣(妻;信栄女)、  
幕臣;1774西丸書院番/86小十人頭/89目付/94勘定奉行/97公事方、従五下筑前守、  
1793(寛政59「上書執政評物価論」著  
[信好(;名)の通称/法号]通称;熊五郎/伊織/諸左衛門、法号;賢勇
- D3588 **信美**(のぶよし・荷田かた/本姓;羽倉はくら) 1750-182778歳 京の神職;山城紀伊郡伏見稻荷社祠官、

非蔵人、国学・歌；小沢蘆庵門、信愛のぶひでの父、1798春満「春葉集」序/「類題若菜集」序、  
上田秋成を蘆庵に紹介/妻と死別した秋成を丸太町私邸に住わせる：鴨塘寓舎、  
秋成[藤篋冊子つづらぶみ]入、

[花に染む人の心の深み草薄くれなゐの色に匂へど](藤篋冊子/牡丹；浅紅あさきくれなゐ)、  
[信美(；名)の通称/号]通称；上野介/豊前守、号；款冬園

C3534 布淑(のぶよし・小川おがわ、剃髪；萍流へいりゅう、通称；勇/号；九九園) 1756-1820<sup>65</sup> 京極宮(桂宮)に出仕、  
歌：蘆庵門、蘆庵門四天王の1、春海と論争：1802反駁書「雅俗弁」著/以後雅俗論争が続く、  
家集「麓塵集」著、「易封二十八詠」著/「万葉詞題詠記」編、歌；秋成[藤篋冊子つづらぶみ]入、  
1811蘆庵「六帖詠草」校合清書刊、「六帖詠草拾遺」編集中没、  
[めでたくも咲きみてるかなしらがさね粧はひ気高き花の君にて]、  
(藤篋冊子/牡丹；白)

D3590 信義(のぶよし・杉田すぎた) ? - ? 江戸の和文作者/狂歌；太田南畝門、  
1806南畝「ひともと草」入

D3591 信由(のぶよし・石黒いしぐろ) 1760-1836<sup>77歳</sup> 越中射水郡高木村の代々村役・郡役人の家；継嗣、  
関流和算；中田高寛門、測量術；金沢の宮井安泰門/天文暦学；西村太沖門/伊能忠敬と交流、  
加賀藩の検地・測量に従事、1819-35加越能三州地図作成；完成、信易の父/信之のぶゆきの祖父、  
1794「園中累田簾術」、「算学鉤術解術/卷上中下」「渡海標的」、1829「地理測量」、外著多数、  
[信由(；名)の通称/号]通称；与十郎/藤右衛門、号；高樹/松香軒、法号；釈空信

D3592 進良(のぶよし・湯浅ゆあさ、公義男) 1761-1824<sup>64</sup> 加賀金沢藩士；定番御徒/書写役、1803新番組、  
典故に通ず、祇庸やすつねの父、  
「又新斎ゆうしんさい随筆」「又新斎日録」、1796「貽孫詩編」編、「海津藩第之記」「本藩御譜」著、  
[進良(；名)の字/通称/号]字；子簡、通称；半助、号；新斎/傘山えんざん

H3582 宣愿(のぶよし・岡本おかもと/本姓；石上、) 1768-1819<sup>52</sup> 近江彦根藩士；軍監、歌人；香川景柄門、  
詩；玉淵門、歌；[彦根歌人伝・鶴]入、  
[宣愿(；名)の通称] 半之丞/半介/愿

D3593 宣義(のぶよし・林はやし、旧姓；寺嶋) 1768-1843<sup>76</sup> 寺嶋貞則の弟、因幡鳥取藩士林鉄蔵の養子；  
1792(寛政4)家督嗣；7人扶持40俵、94中の中中小姓/銀奉行/1801大坂蔵奉行/郡奉行、  
1814致仕/32剃髪；淇園と号す、歌；清水貞固門、香川景樹と同門/交流、能書家、  
1816-40「歌帖全編」編、橋本守男(秀峰)の父、  
[宣義(；名)の通称/号]通称；勘右衛門、号；淇園/冲遠、法号；春林院

E3506 演義(のぶよし・由比ゆい、演徴のぶあきら[1747-1812]男) 1783-1856<sup>64</sup> 江後期；佐倉藩士/歌；父門、  
「名詮牘」「退屈の友」(父と共編)、「法帖控」、1813「文化十癸酉歳兼題探題当座愚詠留」著、  
[演義(；名)の字/通称/号]字；文字ぶんじ、通称；安兵衛(父の称)、  
号；閑斎/琴松亭(父の号)/琴窓亭/安楽庵/塵外楼

J3561 順福(のぶよし・橋本はしもと/本姓；橋) 1772-1848<sup>77</sup> 京の和学者、  
[順福(；名)の初名/通称] 初名経利、通称；大和守

D3594 信富(のぶよし・安井やすい) 1773-1845<sup>73</sup> 尾張名古屋の古渡山王稻荷の祠官、  
詩人；磯谷滄洲門/狂歌を嗜む、「諸珍録」著、  
[信富(；名)の号]六橋/剪燭斎せんしよくさい/髭翁しゅう；山王のお髭/大屋孫彦、法号；儉操院

H3543 信好(のぶよし・今田いまだ、) 1782-1856<sup>75</sup> 周防岩国藩士；御手廻頭、国学/歌；森脇惟久門、  
[信好(；名)の字/通称/号]字；仲古、通称；雅次郎/仲左衛門、号；以仙/芝腕しえん

D3595 信由(のぶよし・野村むら、信精男) 1794-1848<sup>55歳</sup> 加賀金沢藩士/1807家督嗣；150石/馬廻組、  
大小将/勝手方御用/大少将番頭、  
1827「大小将之定」編、「御供方略記」「歩方組用早繰」「御道中方心覚帳」著、  
[信由(；名)の別号/通称]別名；敬礼、通称七兵衛

G3587 信義(のぶよし・佐藤さとう、信久男) ?-? 江後期；美濃岩村藩士、佐藤一斎[1772-1859]の甥、  
1807(文化4)藩主に随行し大坂城へ赴く、歌；1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[秋もなほ残る暑さにたへかねてならず扇のうちもおかれぬ](大江戸倭歌；あき709

D3596 信由(のぶよし・安藤あんどう、幼名；浜之助、信馨男) 1801-47<sup>47</sup> 磐城平藩主/伊勢守/対馬守、

1843家慶日光参従、  
「日光山御参詣御供被仰付相勤候節之留」

- H3578 **信好**(のぶよし・岡おか、) 1809 - 190778 撰津西成郡の国学者;殿村茂濟しげまさ門、  
[信好(;)名)の通称/号]通称;民造/三庵/立斎、号;松蘿
- J3581 **信贊**(のぶよし・土持ひもち、通称;靈太郎、整信なりの長男) 1814-9784 日向高千穂岩戸村の庄屋の生、  
医・国学;碓井元亮維貞(元亮)門/国学・歌;樋口種実たねみ・本居内遠門、歌人/書家、  
1832(天保3)庄屋;父を継嗣、水利開発;黒原用水・東岸寺用水など、維新後;県社祠官/戸長、  
神道家/1890(明治2)国学者八田知紀が古蹟調査で来訪;高千穂安内と歌問答;  
[高千穂の山桜花この春は君がためとやとくにはほふらむ]
- D3597 **信善**(のぶよし・三輪み、鈴木信政の長男)?-1867 母;三輪正信女、常陸水戸藩士;母の実家姓、  
儒;弘道館教授吉田活堂門、1838床机廻り/1857奥右筆頭取/歌「明倫歌集」撰、尊王派、  
1863藩主徳川慶篤の上京に随行/67(慶応3)將軍慶喜の京退去に際し二条城警備中病死、  
1829「三輪信善詠草」、「桜百首」著、1850「みかけあふき」編、  
[信善(;)名)の幼名/通称/号]幼名;初太郎/初名;杉里、通称;六之助/友衛門、号;観勝堂
- G3579 **信嘉**(のぶよし・篠木しきの、本姓;藤原、通称;大次郎)?-? 江後期幕臣/歌人、  
1854(嘉永7)9月19日成島錦江追悼和歌会に茶人鈴木宗休らと参加(「硯北日録」入)、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[おもふどちわくる野山の桜狩り花より花に道を求めて](大江戸倭歌;春288)
- D3598 **宜義**(のぶよし・斎藤さいとう、字;算象、通称長次郎/長平、宜長男) 1816-8974 上州板井の和算家、  
父おび和田寧門、暦数;円理極数術發明、仕官せず清貧、  
「宜義解義」「極数詳解」「算法円理鑑」著
- H3523 **信義**(のぶよし・井上いづえ、小左衛門の長男) 1818-8972 備後三原の国学者、「井上翁遺稿」(没後刊)、  
通称;小左衛門(父の称を踏襲)
- D3599 **信好**(のぶよし・柏原かしはら、通称;吉右衛門、号;宗阿/隅田舎)?-1871 江戸博物学者;鳥類研究、  
1845「春鳥談」-47「舶来玩禽一覽」、「宇俱比須総論」著
- E3500 **信義**(のぶよし・西岡しおか、通称五郎左衛門)?-? 江後期和算家、1854「容術解義」;長沼安忠に授与、  
「神田額面半虚環中丘解義」著
- J3569 **信好**(のぶよし・原はら/本姓;秦、) 1823-8463 信濃伊那郡清内路村の国学者;  
国学・歌;福住清風・岩崎長世・平田鍊胤門、官吏;神祇官史生、鎌倉宮勤番、  
[信好(;)名)の初名/通称/号]初名;正文、通称;条次郎/武右衛門/欽吾/謹吾、号;翠嶺
- K3517 **信好**(のぶよし・森もり、通称;六兵衛6代目/号;春潮) 1825-1915長寿91 阿波徳島の藍玉商、国学者、  
1853(嘉永6)江戸に出店;黒船来航以来安価な印度木綿普及;藍染需要で全国拡大の契機
- E3501 **信芳**(のぶよし・萩原はぎはら、字;徳卿、友吉男) 1828-190982 上州関根農業/関流和算;齋藤宜義門、  
漢学;藍沢無満門/俳、明治期群馬師範学校教師、1862「算法方円鑑」/66「算法円理私論」著、  
[信芳の通称/号] 通称;禎助、号;湖山/蓼圃/可朴
- E3502 **信義**(のぶよし・土屋つちや、通称恭二郎)?-? 江後期和算家;谷松茂門、「土屋氏割術」著
- E3503 **延好**(のぶよし・遠藤えんどう) ? - ? 江後期歌人、  
1860家集「榎実すぎのみ」(息延春編/貞融序)
- E3504 **信義**(のぶよし・松沢まつざわ、通称;鏡蔵)?-? 江後期白河藩士/和算家;方静門、  
1862「算法量地捷解前編」編
- G3578 **信好**(のぶよし・高林たかばやし)? - ? 伊賀上野の書家/幼時に父没、母没後に江戸住、  
志望する巻菱湖は既に没/独学で古法帖を研究;一家を成す、高林五峰の父、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[峰高く棚引く雲のかけはしを天つかりがね鳴きわたるなり](大江戸倭歌;秋929)、  
[信好(;)名)の字/通称/号]字;子述、通称;多四郎、号;二峰
- J3544 **誠美**(のぶよし・檜崎ならさき、旧姓;磯部)?-? 周防徳山の歌人;飯田惟徳これり(正輔1773-1838)門  
[誠美(;)名)の号] 竹屋/翠嶺
- K3520 **信義**(のぶよし・社やし、通称;丹後守)?-1870 代々近江蒲生郡馬見岡うまみおか綿向わたむき神社祠官、  
国学者;猪熊夏樹(1835-1912)門、貞丸さだまるの父、歌[鳩のうみ]入
- J3549 **信好**(のぶよし・西島しじま、通称;又兵衛、信廉のぶやす男) 1829-8456 若狭小浜大津町の薬種商、

歌人;父門/桂園派歌人

- H3536 **延美**(のぶよし・石渡いわたり、通称;儀三郎)1830-1907 78 伊豆田方郡の三島神社主典/権大教正、  
国学;平田鉄胤門
- H3592 **信義**(のぶよし・勝かつ、)1830-1922長寿93歳 信濃伊那郡加々須村の郷士、国学者/歌人、  
歌;片桐源一門/国学;平田鉄胤門、  
[信義(;名)の別名/通称]別名;琴生、通称;喜一郎/七左衛門
- E3505 **宣嘉**(のぶよし・沢さわ、姉小路あねこうじ公遂男/沢さわ為量の養嗣)1835-73 39 廷臣;1862国事御用書記、  
1863国事寄人;攘夷論、実美と長州へ逃亡/挙兵敗走/1868参与;九州鎮撫総督、  
「教民の詞」著、  
[宣嘉の通称/号]通称;主水正もんのしょう、号;春川/小春、変名;姉小路五郎麿
- 宣義(のぶよし・菅原) → 宣義(のりよし・菅原、詩人) G 3 5 1 9  
宣令(のぶよし・土理/刀理) → 宣令(のみり・刀利とり、廷臣/詩歌) F 4 1 6 6  
信吉(のぶよし・三好/豊臣) → 秀次(ひでつぐ・豊臣/三好、武将/連歌) D 3 7 2 1  
信芳(のぶよし・斎藤) → 中立(ちゅうりつ・斎藤さいとう、商家/和算) G 2 8 9 5  
信能(のぶよし・藤原) → 忠信(ただのぶ・藤原、歌人) F 2 6 5 4  
信能(のぶよし・藤原) → 宗家(むねいえ・藤原/中御門、廷臣/歌人) B 4 2 0 4  
信良(のぶよし・黒沢) → 東蒙(とうもう・黒沢、医者/儒) H 3 1 4 1  
信良(のぶよし・坪井) → 信良(しんりょう・坪井、医者) E 2 2 4 3  
信由(のぶよし) → 信由(しんゆう、俳人) P 2 2 9 6  
信由(のぶよし・南部) → 利正(としまさ・南部なんぶ、藩主/俳諧) N 3 1 7 1  
信美(のぶよし・北川) → 歌麿(うたまる・喜多川、絵師) 1 2 7 0  
信義(のぶよし・山本) → 復斎(ふくさい・山本、酒造業/儒者/講説) B 3 8 5 1  
信義(のぶよし・村上/丹羽) → 玄塘(げんとう・丹羽にわ、藩士/郷土史) L 1 8 8 3  
信義(のぶよし・田中) → 蘭斎(らんさい・田中たなか、藩士/書家) C 4 8 1 5  
信義(のぶよし・富沢/深沢) → 竹外(ちくがい・深沢/富沢、幕臣/俳人) C 2 8 7 6  
信義(のぶよし・河原) → 浪江(なみえ・河原かわはら、国学/歌人) L 3 2 7 7  
信義(のぶよし・狩野/朝岡) → 興禎(きさきさだ・朝岡/狩野、幕臣/絵師) H 2 0 1 7  
信義(のぶよし・山田) → 翠雨(すいう・山田、儒者/詩人/教育) 2 3 2 8  
信義(のぶよし・松田) → 翠崖(すいがい:号・松田まつだ、藩士/絵師) J 2 3 2 7  
信義(のぶよし・石川) → 柏山(はくざん・石川いしかわ、書家) D 3 6 1 0  
信好(のぶよし・阿部) → 玄喜(げんき・阿部あべ、医者/絵師) I 1 8 3 6  
信好(のぶよし・水足) → 屏山(へいざん・水足みづたり/水、藩儒) 2 7 3 8  
信好(のぶよし・岡崎) → 廬門(ろもん・岡崎おかざき/平、詩人) C 5 2 4 4  
信庸(のぶよし・西洞院) → 信庸(のぶつね・西洞院にしとういん、廷臣) C 3 5 1 8  
信善(のぶよし・松井) → 式部(しきぶ・巢内/須内すのうち、勤王家/歌) Q 2 1 0 9  
延良(のぶよし・中川) → 楽郊(らくこう・中川ながわ、藩士/学問) B 4 8 1 2  
陳良(のぶよし・菅野) → 楮園(ちよえん・菅野かんの、俳人) K 2 8 1 6  
信義側室(のぶよしのそくしつ・津軽) → 与曾子(よそこ・津軽つがる/添田、側室/歌) N 4 7 9 2
- E3507 **信頼**(のぶより・武田たけだ、初名;氏信、通称;兵庫助、信武男/本姓源)?? 南北室期;安藝/甲斐守護、  
刑部大輔、武家故実精通、「犬追物口伝日記」著、「騎射秘抄」伝/「騎礼日記」伝
- E3508 **宣順**(のぶより・中御門なかみかど、宣繁、尚良男/本姓藤原)1613-64 52 廷臣;1642参議/45権中納言、  
1652権大納言/正二位、1651-62「宣順卿記」著、資熙すけひろの父
- E3509 **信順**(のぶより・山高やまたか、信就男)1736-1813 78 名古屋藩士/1772家督継嗣;寄合組、  
代々北条流軍法教授、神影流兵法;大塩芳高門、大草流鎌術;大原為治門、制剛流柔術修得、  
皇朝典学;神村正鄰門、「神祇宝典」「類聚日本紀」の校訂、  
「鞍鞆観察秘録」「鞍鞆観察摩象集」「祭神村先生文」著、  
[信順(;名)の幼名/別名/字/通称/号]幼名;鍋吉/別名;正栄/信記、字;子順/子祐、  
通称;孫八/沢右衛門/末路布、号;翠竹軒、山高信篤のぶあつ/首藤すどう允中(允仲)まさなかの父
- E3510 **信憑**(のぶより・織田おだ、織田信栄男/織田信旧の養嗣)1741-1831 91歳 丹後柏原藩主/1783家督嗣、  
従五下出雲守、歌人;1804小沢蘆庵に詠草を請い1811「六帖詠草」成る

- E3511 信順(のぶより・郡司ぐんじ) ? - ? 萩藩毛利家臣:鉄砲師、1805頃「御筒数」著
- E3512 信順(のぶより・足立あだち、通称;重太郎/号;東堂、信頭のぶあきら男) 1796-1841 46 幕府天文方;父継嗣、  
星鏡儀を製作;新緯星由刺奴斯の観察、1819「弧三角品彙」校/24「由刺奴斯表」著、信行の父
- G3583 信倚(のぶより・鳥居とりい/本姓;平) ?-? 江後期;歌人、幕臣?、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[つれづれと降り暮したる五月雨に晴れ間の月を幾夜見ざらん]、  
(大江戸倭歌;夏512/五月雨久)
- E3513 信順(のぶより・住谷すみや、通称寅之介、信成男) 1818-67暗殺 50 水戸藩士/1842弘道館舎長、  
藩主斉昭を助け藩政改革/尊攘活動/1857家督;小普請、63藩主慶篤と上京;京警衛指揮役、  
土佐の山本旗郎により暗殺、「住谷信順回国紀行」「住谷信順雑記」「住谷信順上京日記」著、  
[信順の変名] 小場源介/加藤於菟之介
- K3521 信順(のぶより・社やしろ、) ? - 1892 代々近江蒲生郡馬見岡うまみおか綿向わたむき神社祠官、国学者、  
[信順(;)名]の通称/号]通称;友吉郎/舜吉、号;春齋
- 信順(のぶより・大河内) → 信順(のぶより・松平、藩主/歌人) C 3 5 7 7  
 信順(のぶより・南部) → 信也(のぶより・南部なんぶ、歌人) C 3 5 6 2  
 信順(のぶより・南部) → 信順(のぶゆき・南部なんぶ/島津、藩主) G 3 5 7 6  
 信順(のぶより・松平) → 信順(のぶより・松平、藩主/侍従/儒/歌) C 3 5 7 7  
 信頼(のぶより・雀部ささきべ) → 信頼(のぶつら・雀部、国学/語学) C 3 5 2 0  
 信頼(のぶより・佐々木) → 高行(たかゆき・佐々木ささき、藩士/国学) X 2 6 1 7  
 延太郎(のべたろう・岡本) → 保興(やすおき・岡本おかもと、神職) F 4 5 5 6
- G3552 のぼり(;)組連) ? - ? 武蔵千住の雑俳の組連、  
取次;1775・76「川柳評万句合」入;  
取次例;[弥三郎やたらに石へ穴をあけ](1775万句合/前句わかれ社こそすれ々々)  
(弥三郎は日光の針・錐の商店)、  
(行商で客の前で石に穴をあけ堅さ切れ味を示す;実は石に工夫がある)
- E3515 登(のぼる・源・還俗後の姓;貞さだ、仁明天皇の皇子/母;三国町みくにのまち) ?-? 894存 廷臣;834源姓、  
母町の咎で出家(法名;深寂)/866許されて還俗;貞姓、872土佐守/885備中守/893紀伊守、  
正五下、歌;古今集769、母三国町が紀名虎女種子なら常泰親王(古今歌人)の弟?、  
[ひとりのみながめふるやのつまなれば人をじのぶの草ぞ生ひける](古今集;恋769)、  
(眺めと長雨・古屋と降るや・軒の端と夫つま・忍草と忍ぶを掛る)  
母 → 町(まち、三国町みくにのまち、更衣/歌人) J 4 0 6 0
- E3516 昇(のぼる・源みなもと、通称;河内大納言、融男) 848-918 71 廷臣;895参議、正三位、  
898(昌泰元)宇多法皇吉野宮滝御幸随従;扶桑略記/袋草紙などに白紙を置く逸話入、  
914大納言、916父の遺領河原院を法皇に献上;917法皇が河原院で昇70歳の賀を催す、  
歌人;913亭子院歌合参加、古今六帖入、勅撰2首;後撰1236/新勅502、  
[何時いつの間に降り積もるらんみ吉野の山の峽かひより崩れ落つる雪](後撰;雑1236、  
898年宇多法皇の吉野の滝見物のお供にて詠む)
- E3517 登(のぼる・瀬山せやま、重嘉しげよし、通称四郎兵衛/号;棠川、四郎兵衛男) 1784-1853 70 讃岐丸亀藩士、  
1813家督/21大目付/30勘定奉行/39江戸留守居/下級藩士に団扇内職普及;丸亀団扇隆盛、  
藩の殖産興業尽力/故実精通/写生画/蔵書家、「玄対画譜」「神田橋御盤所日記」「庚辰紀行」著
- E3518 騰(のぼる・宮地みやじ、栄陰、通称馬之助、仲枝男) 1790-1834 45 土佐藩儒/1827教授役、  
詩;日根野鏡水門、歌;一柳千古門、「江戸日記」「備忘録」著
- H3564 登(のぼる・大久保おおくぼ、) 1846- ? 下野の代々当山派の修験者/1869神職;  
1875下野芳賀郡大沢村の御霊神社祠官/教導職権訓導/神道講習所取締/権少講義を歴任、  
1879神職取締芳賀支所の議員、皇学;七井村の岩松義雄(1854生)門
- 襄(のぼる・頼) → 山陽(さんよう・頼らい、漢学/詩人) 2 0 5 8  
 登(のぼる・真藤) → 利明(としあき・真藤しんどう、藩士/歌人) M 3 1 0 1  
 登(のぼる・竹垣) → 直温(なおひろ・竹垣たけがき、幕臣/代官) C 3 2 2 9  
 登(のぼる・牧) → 墨僊(墨仙ぼくせん・牧まき、藩士/絵師) D 3 9 6 1  
 登(のぼる・田中) → 希尹(きいん・田中たなか、儒者) J 1 6 6 0

- 登(のぼる・香坂) → 衡山(こうざん・香坂こうさか、藩儒;朱子学) J 1 9 3 2  
 登(のぼる・大谷/田村) → 藍水(らんすい・田村/坂上/大谷、医官/本草) C 4 8 7 2  
 登(のぼる・熊坂) → 適山(てきざん・熊坂くまさか、絵師/藩士) B 3 0 9 4  
 登(のぼる・岡宗) → 泰純(たいじゆん・岡宗おかむね、医者) K 2 6 3 0  
 登(のぼる・伊東) → 祐根(すけね・伊東/藤原/弓削、藩士/水練) G 2 3 7 9  
 登(のぼる・伊東) → 祐雄(すけお・伊東、藩士/武芸;泳法) G 2 3 0 9  
 登(のぼる・伊東) → 祐春(すけはる・伊東いとう、藩士/歌人) L 2 3 3 0  
 登(のぼる・佐藤) → 節斎(せつさい・佐藤さとう、藩儒/詩人) L 2 4 0 4  
 登(のぼる・黒山/波多野) → 春樹(はるき・波多野はたの/黒山、神職/国学) J 3 6 9 4  
 騰(騰のぼる・司馬) → 遠湖(えんこ・司馬しば、儒者) E 1 3 6 9  
 昇(のぼる・林) → 学斎(がくさい・林はやし、幕府儒官) J 1 5 8 6  
 昇(のぼる・入江) → 威斎(かんさい・富沢とみさわ、藩士/儒者) Q 1 5 5 8  
 昇(のぼる・内藤) → 盛業(せいぎよう・内藤ないとう、藩士/俳人) H 2 4 9 4  
 昇(のぼる・山下) → 守胤(もりたね・山下、商業/絵師/藩士) F 4 4 6 8  
 昇(能保留のぼる・馬場) → 成道(なりみち・馬場ばば、藩士/神職) O 3 2 3 1  
 のぼる(・門阪) → 誠愚(せいぐ・門阪かどさか、商家/国学/歌) F 2 4 7 8  
 能美賀年山人(のみかねさんじん) → 信常(のぶね・白井、国学/歌) C 3 5 1 9  
 鑿鉾言墨金(のみちようなごんすみかね・野見鉾権) → 焉馬(初世えんば・烏亭) B 1 3 3 3
- G3538 野見秋足(のみのあきたり) ? - ? 狂歌;1785「後万載集」2首入;  
 [居ねぶりの船こぎいだすうみづら(海面/倦み面)は幾朝はやくをきつ白波]  
 ノミヤ宗左衛門(能美屋のみや・そうえもん) → 路健(ろけん・直海なおみ、蚕種業/俳人) B 5 2 3 6
- E3519 教頭(のりあき・藤原ふじわら、長頭男/母;飛鳥井教雅女)?-? 鎌倉期廷臣;左兵衛督、歌人;  
 1275家経「摂政家月十首歌合」参加、  
 [長月のけふ名にしおふ月ぞとは空澄みまさる光にぞみる](月十首;五番/十三夜晴)
- H3551 則明(のりあき・内田うちだ、通称;玄陵) 1763-1814 52 備前児島郡の医者/天城藩池田家典医、国学者、  
 幸夫ゆきおの父
- H3597 徳卿(のりあき・唐沢からさわ、明親の長男)?-1863 信濃伊那郡山本村の生/父は同村近藤家代官、  
 国学修学、のち江戸目黒の長徳寺住職、  
 [徳卿(;名)の通称/号]通称;平四郎、号;直山人
- E3520 宣昭(のりあき・清水しみず/通称;太左衛門) 1793-1868 76歳 尾張名古屋の生鯖問屋7代目/豪商、  
 国学;藤井高尚・本居春庭門、古典研究;1830「紫式部日記釈」著、  
 「源氏物語玉の小櫛のそへ櫛」著、1840「品定参註」、「雨夜物語」著
- E3521 則陽(のりあき・赤松あかまつ) ? - ? 江後期文化1804-18頃赤松流砲術家、  
 「海防辯」、1811「陽精頭秘訣」著
- E3522 宣昭(のりあき/のぶあき・長谷川はせがわ、宣義のぶよし2男)?-? 幕臣、宣茂の弟、  
 国学;小山田与清(1783-1847)門、1822(文政5)随筆「三余叢談」著、  
 [宣昭(;名)の字/通称/号]字;義門、通称;午蔵、号;柳の屋
- E3523 宣秋(のりあき・栗田くりた、通称主膳、土満ひじまる長男)?-? 1829存 遠江城飼郡の平尾八幡宮神主、  
 国学者、八木美穂と親交、「平尾八幡再建補助願」著
- E3524 秉哲(のりあき/へいてつ・大沢おおさわ安宅)?-? 幕臣;1852長崎奉行;ロシア使節<sup>フ</sup>チャーチンと交渉/  
 1854小普請奉行/64側衆/66隠居、53-54「長崎奉行大沢豊前守日記」著  
 [秉哲の通称] 仁十郎/豊後守/壱岐守/筑前守
- K3532 徳明(のりあき・吉岡よしおか) 1829-1898 670 江戸の天台僧;平田篤胤著書に感動;還俗、  
 常陸で国学者、歌人;尾高高雅門、向島牛御前の別当、維新後;各地の神職;  
 丹後籠神社権宮司など/神道事務局の教授/修史館に出仕、「古事記伝略」「開化本論」著
- J3586 則明(のりあき・広田ひろた/本姓;度会、橋村正兌まさとき2男) 1836-98 63 伊勢度会郡の神職、  
 外宮権禰宜広田清魚きよなの養嗣子、外宮権禰宜継嗣、御師、  
 [則明(;名)の初名/通称]初名;正資、通称;亀丸/天七郎/右京/越後
- I3576 典暁(のりあき・鈴木すずき) 1843-1893 51 陸奥登米郡の登米神社祠官、  
 [典暁(;名)の通称/号]通称;兵馬ひょうま/東平、号;翠霞

- 範明(のりあき・藤原) → 遠明(とおあき/-あきら・藤原、廷臣/歌人) I 3 1 5 6  
 謹明(のりあき・南部なんぶ) → 利済(としただ・南部、藩主) M 3 1 7 2  
 教明(のりあき・毛利) → 敬親(たかちか・毛利もろり/大江、藩主/維新推進) D 2 6 0 0  
 則明(のりあき・豊福) → 秋風(しゅうふう・豊福とよふく、眼科医/俳人) Y 2 1 2 7
- E3525 **章明親王**(のりあきらしんのう、醍醐天皇第13皇子) 924-990<sup>67</sup> 母;更衣藤原桑子そし(堤中納言兼輔女)、  
 930(延長8)靖子・英子内親王と共に親王宣下(父醍醐没後の恩典)、939元服、三品、  
 上総太守/兵部卿/弾正尹を歴任、通称;兵部卿の宮、作詩/管弦、「蜻蛉日記」入  
 歌人;藤原兼家・藤原道綱母と交流
- E3526 **章敦**(のりあつ・勢多せた、号;意斎、章堅男/本姓中原) 1701-44? 京明法家/1715大尉/29豊後守/  
 1744従四下、34-44「意斎日記」著、章純のりずみの父
- I3585 **則温**(のりあつ・曾我部そがべ、本姓;秦/旧姓;安田) 1744-1813<sup>70</sup> 伊予松山の生、  
 1753(宝暦13)伊予郡上吾川の庄屋、歌人、京家栗田保古に出仕  
 [則温(;名)の初名/通称/号]初名;吉国、通称;彦三郎/惣左衛門/宗左衛門/帯刀、  
 号;白水/三楽
- I3560 **規敦**(のりあつ・齋藤さいとう、規常男) 1745-1808<sup>64</sup> 陸奥弘前の津軽藩士、国学者、規房の父、  
 [規敦(;名)の別名/通称/号]別名;規勇/茲甫、通称;八郎左衛門、号;章堂/草堂
- E3527 **章斐**(のりあや・勢多せた、初名;章義のりよし、章純のりずみ男/本姓中原) 1761-1825<sup>65</sup> 京明法家、  
 1797明法博士、1712大判/正四下、章武のりたけの父  
 「長橋雑記」「寛宮御用雑記」「御寺御所御用雑記」、1822-25「御能御用私記」外著多数、  
 則有(のりあり・香月) → 春岑(はるみね・香月かつき、醸造業/国学) G 3 6 9 7
- 3518 **教家**(のりいゑ・九条くじょう/本姓;藤原、良経2男) 1194-1255 母;藤原能保女、叔父九条良輔の猶子、  
 鎌倉期廷臣、1207従三位/14権中納言/16正二位/18権大納言/24「聖観音造立願文」著、  
 1225(32歳)道心により出家、和漢学者/能書家/詩歌人、  
 「教家摘句」「資実長兼良両卿百番詩合」編、1208道家初度作文歌会参加、  
 1221父の「秋篠月清集」を書写、雲葉集・和漢兼作集入、  
 続古今5首(364/756/757/1580/1921)、  
 [うしとてもおもひほどけばゆめのよをいとふは人のさめぬなりけり]  
 (続古;八釈教756/覚者何還厭夢中事)  
 [教家(;名)の通称/法名]通称;弘誓院くせいいん大納言、法名;慈観  
 範家(のりいゑ・冷泉/甘露寺) → 経元(つねもと・甘露寺、廷臣/故実) D 2 9 9 7
- E3528 **憲家女**(のりいゑのむすめ・藤原、祖母;定家女) ?-? 鎌倉南北期歌人;1321外宮北御門歌合参加、  
 [宵のまは待つに頼みも有るものを更くるもつらき月の影かな](外宮歌合;待恋38番右)
- K3554 **教氏**(のりうじ・藤原ふじわら、従二位頭教男) 1287-1352<sup>66</sup> 南北期廷臣;1298右少将/1309正四下右中将、  
 1316(正和5)従三位;非参議/1332(正慶元)正三位;光厳天皇侍従/従三位に降格/42正三位、  
 1352(文和元)没、歌人;藤葉とうよう集入、  
 [しぐれ行くあとにうつろふ山端の夕日へだつるむらくもの影](藤葉;冬305)
- 宣条(のりえだ・伏原) → 宣条(のぶえだ・伏原)
- 徳枝(のりえだ→のりしげ・増田) → 徳枝(のりしげ・増田ますだ、藩士/和漢学) J 3 5 9 8  
 則右衛門(のりえもん・三井) → 高厩(たかまさ・三井、商家/国学者/歌) N 2 6 1 9  
 則右衛門(のりえもん・三井) → 高敏(たかとし・三井みつゐ、商家/国学) D 2 6 2 1
- E3529 **徳雄**(のりお・荒木田あらかきだ、未成男) ?- 913 平安前期;伊勢神職/875-906内宮禰宜、  
 「太神宮諸雑事記」著、  
 [徳雄(;名)の通称](致仕後);致仕長官/前禰宜
- I3535 **訓夫**(のりお・慶徳けいとく/本姓;度会、旧姓;村上) 1716-85<sup>70</sup> 伊勢度会郡の伊勢外宮権禰宜、  
 歌;冷泉家入門、  
 [訓夫(;名)の初名/通称/号]初名;末敬、通称;権亮、号;松蔭
- I3506 **徳雄**(のりお・金成かんなり、) 1787-1850<sup>64</sup> 陸奥仙台の国学者、  
 [徳雄(;名)の字/通称/号]字;子潤、通称;隼太、号;清斎  
 徳雄(のりお・鴨田) → 棠功(とうこう・鴨田かもだ、俳人) D 3 1 9 2

- 紀雄(のりお・細川) → 重賢(しげかた・細川/源、藩主/詩/武芸) C 2 1 0 6
- E3530 教興(のりおき・山科やましな教清、教言のりとき男/本姓藤原)?-1418 母;橘知任女、廷臣;1411参議、1418権中納言、「教興卿記」著
- E3531 法興(のりおき・荒木田あらかた、道祥どうしゅう:法名)?-? 伊勢皇太神宮[内宮]神主、1423「古事記裏書」書写/24「古事記」伊勢本系統道果本系を書写(:道祥本)
- K3504 乗興(のりおき・松平まつだいら、大給松平家初代、松平乗春2男) 1686-1752<sup>67</sup> 江戸の幕臣;中奥御小姓、御小姓組番頭/御書院番頭/將軍家重の御側/のち寄合/5千石/従五下内匠頭、乗邑の弟、和学者/歌人、1752(宝暦2)没;息子乗行が家督嗣、孫;乗森、1728宝山板「諏訪浄光寺八景詩歌」参加(;後岳夜鹿こうがくのよるのしか)、[秋風に聞くもうしろの岳をかき鳴く鹿の音ねさそふ夜半ぞ寝られぬ](八景歌/詩は海処)、[乗興(;名)の通称/号]通称;小三郎/刑部少輔ぎょうぶのしょう/左衛門佐/内匠頭たくみのかみ、号;霜外、法号;義葉
- E3532 紀興(のりおき・手塚てつか、通称;弥一右衛門、号;光鷹)?-1746 会津藩士/和算;江戸で手塚流算法開、「算法提要集」「算法私用」著
- J3527 教興(のりおき・土肥どひ、通称;団平) 1826-1900<sup>75</sup> 老岐出身;肥前平戸藩士;馬廻役、国学者/歌人、「花かたみ」著
- 憲興(のりおき・上杉) → 篤興(あつおき・上杉うえすぎ、庄屋/国学者) H 1 0 0 6
- 範興(のりおき・志津野) → 拙三(せつぞう・志津野しづの、藩士/神職) O 2 4 1 6
- E3533 則臣(のりおみ・星野ほしの、通称;武之助/左仲/八左衛門)?-1783 尾張名古屋藩士/御書院番/用人、「尾張家御城帳書拔」著
- 徳馨(のりか・平栗) → 徳馨(とくけい・平栗、庄屋/歌・俳人) K 3 1 6 0
- E3534 憲蔭(のりかげ・山本やまもと、通称;主馬、守元斎、憲之男/本姓大江) 1691-1730<sup>40</sup> 京の神道家/歌人、「垂加霊社御璽」著
- E3535 教景(のりかげ・野崎のさき、字;子高/通称平八、号;習堂しゅうどう) 1817-52<sup>36</sup> 久留米藩儒/昌平覺出/儒;慊堂門/1840江戸藩邸講学所講釈方/側物頭格/1850村上量刃引傷事件連座;幽閉、「筑紫浜荻」(九州方言集)、「感旧涙余」「庚子遊草」著、「思艱斎(有馬頼永)遺稿」編、「習堂遺稿」
- 教景(のりかげ・朝倉) → 孝景(たかかげ・朝倉あさくら、武将/家訓) L 2 6 6 6
- 教景(のりかげ・石井) → 樟斎(しょうさい・石井いひ、儒者/書家) I 2 2 9 8
- E3536 御風(のりかぜ・荷田かた/家名;羽倉はくら/柴崎、初名;冬曆、荷田在満ありまる男) 1728-84<sup>57</sup> 京の生、国学(家学);父門/江戸で教授、柴崎好紀の養子;離縁、禄を受ず;豊後岡藩の賓客、「家伝集」「西遊紀行」「柿本人麿画像考」著、叔母;蒼生子たみこ(歌人)、藤井茂善男の羽倉惟得(いとく/これのり/ただのり)を養嗣子、[御風(;名)の字/通称/号]字;子玄、通称;長次郎/東蔵/上総介、号;真要斎
- B3511 宣風(のりかぜ・のぶかぜ・高井たかい/初姓;久保田、常盤井) 1743-1832<sup>90</sup> 信州高井郡小布施村の旧家、道具屋、京・江戸で国学;宣長の学統を修学、歌学;日野資枝/萩原宗固/有栖川織仁門、江戸麴町に住;家塾を開、出生地に因み高井に改姓、常盤井とも称す、歌・歌論を教授、1809「伊勢物語残考」16注釈「万葉集残考」、「源氏物語言葉抄」「後違考」「続後違考」著、「耳風集」著、家集「春雨しゅう・はるさめ集」(息の八穂やつは編)、蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858成立)入、[富士のねの雲吹きはらふ秋風に尾花露ちる武蔵野の原](大江戸倭歌;秋744/薄)、[宣風(;名)の通称/号]通称;伊十郎、号;和光亭/春和亭/春雨亭
- E3537 紀風(のりかぜ;字・村松むらまつ、名;信/別字;修平) 1762/3-1841<sup>80/79</sup> 能登羽咋郡町居の本草家;小野蘭山門、金沢藩老村井家に出仕/関東で朝鮮人参栽培、長崎で甘蔗植栽を修得/紀州で蜂蜜製法を修学、加賀の本草学発展に寄与、「救荒啓蒙」「尚志軒夜話」「不言録」「本農精微論」著、「尚志軒雜録抄」編、[紀風(;字)の通称/号]通称;標左衛門、号;尚志軒/樵耕斎
- G3574 徳風(のりかぜ・村澤むらさわ、桜井要親としちか2男) 1772-1842<sup>71</sup> 父は信州伊那郡山本村の近藤家代官、知栄尼の孫;幼時より歌に親しむ、飯田藩主堀家家臣の村澤権之進世徳の養嗣子、飯田藩主;堀親審ちかしげに出仕/物頭格/表御用人、1814藩本丸番;太宰金左衛門屋敷跡下賜、

1834禄70石、歌人；桃澤夢宅門/植松茂岳門、松尾多勢子の祖母ミチの弟、徳成(歌人)の父、  
[徳風(；号)の名/通称/法号]名；懋徳、通称；介之丞、法号；清淳院

- K3560 **範方**(のりかた・藤原ふじわら、) ? - ? 鎌倉南北期；廷臣、  
歌；1334(建武元)度会朝棟亭八月十五夜歌会参加、  
[いくとせか宮み古りにし五十鈴河神代の秋を月にとはばや](朝棟亭歌会；136)、  
[またれつる秋の今夜のめぐり来て月に心ぞあくがれぬべき](同；138)
- E3538 **矩賢**(のりかた・亀井かめい、通称；吉三郎、矩貞のりさだ長男) 1766-1821 56 母；側室浜野正武女、  
石見津和野藩8代藩主/1783(天明3)家督嗣、従五下/隠岐守、正室；松平忠啓女(雲性院)、  
文武振興、1786藩校養老館開設(山口剛斎を招聘)、1800医学志望者に学資貸与、財政難、  
「柿本明神和歌全集」編、1819(文政2)弟で養子の茲尚に家督譲渡し隠居、法号；賢体院、  
息子；吉三郎・鉄五郎、  
息女；大村純昌正室・間部詮允正室・菅沼定敬正室・相良頼之正室
- E3539 **則象**(のりかた・遠山とおやま、間部まなべ詮長あきなが男/遠山則幸の養嗣子) 1766-? 1844 存 幕臣；1790家督、  
書院番/御徒頭、1844「御巡見一件」著、  
[則象(；名)の通称] 半左衛門/富次郎
- E3540 **徳方**(のりかた・小牧こまき、号；天山) 1776-1853 78 高知藩国老五藤家の世臣/儒；1827侍読、  
經史学/書に通ず、家塾を開く、「天山集」著、  
[徳方(；名)の通称] 金太郎/三四郎/清七/清七郎
- K3508 **教方**(のりかた・三須みす、) ? - 1840 周防岩国藩士、歌人；同藩士の熊谷直好(1782-1862)門  
三須棘水とうすい(儒者)の一族、  
[教方(；名)の通称] 孫兵衛(代々の称)
- E3541 **徳謙**(のりかた・吉田よしだ) ? - ? 大阪のト占家、  
1813「陰陽方位便覧」校/18「局方便覧」/「年中局方便覧」/22「八宅明鏡便覧」著
- E3542 **矩方**(のりかた・竹下たけした、通称；清右衛門) 1821-98 78 薩摩藩士/1854水戸の反射炉工事に参加、  
薩英戦争時に火薬製造所所管、1857-66「竹下清右衛門覚書」著
- J3552 **則方**(のりかた・沼倉ぬまくら、) ? - ? 安政1854-60頃没 陸奥栗原郡の岩ヶ崎邑主中村家家臣、  
国学・歌；保田光則門  
章賢(のりかた・二階堂) → 是円(ぜえん・中原、明法家) D 2 4 2 8  
矩方(のりかた・吉田) → 松陰(しょういん・吉田、藩士/軍学/教育) 2 1 6 7  
宣方(のりかた・藤原) → 宣方(のぶかた・藤原、資能男/歌人) B 3 5 1 4
- G3570 **矩勝**(のりかた・村田むらた/本姓；源、高樋胤兼男) 1757-1851 95 歳 幕臣村田家の養子；1775家督継嗣、  
幕臣；阿波守、1798御勘定に採用/1812(文化9)油漆奉行/勘定組頭/23(文政6)一橋郡奉行、  
1836(天保7)一橋家用人/勘定吟味役/一橋家家老並/42(天保13)御普請奉行、  
「出る杭の考をのぶるひなこと葉」著(弘化雜記)、川路聖謨としあきら「遊芸園隨筆」に逸話入、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[ほととぎすなれも空寝をつくりてや夜半に越えけん逢坂の関](大江戸倭歌；477)、  
[矩勝(；名)の初名/通称]通称；幾三郎/阿波守
- 3519 **範兼**(のりかね/のりかぬ・藤原ふじわら、能兼男) 1107-65 59 母；高階為賢女、平安後期廷臣；東宮学士、  
大学頭/佐渡守・近江守、1162刑部卿/63従三位、1165(長寛3)出家；没、  
歌人；二条天皇歌壇で活躍、歌合を主催、  
歌学；「和歌童蒙抄」「五代集歌枕」「五代名所」「後六々撰」「薫集類抄」著、  
1135/36「家成家歌合」/59「大嘗会和歌」「内裏百首」参加、続詞花・後葉・今撰集・万代集入、  
勅撰20首；千載(5首；312/366/638/763/873)新古(6首125/667/732/752/1295/1504)、  
新勅(416)続後撰(365)新後撰(350)続後拾(339)新千(616)新拾(551)新後拾以下、  
[湊川みながはうきねのところに聞ゆなり生田の奥のさを鹿の声](千載；秋312/夜泊鹿の心)  
[三井寺にまかりて日ごろ侍りて帰りなんとしける時人々別れをしみて歌よみけるに、  
月をなど待たれのみすと思ひけむげに山の端はいでうかりけり](続詞花；雜786)、  
[範兼(；名)の号] 岡崎三位、範季の兄、範光・範子(承明門院在子の母)・卿二位兼子の父  
☆袋草紙；1162(応保2)[中宮育子貝合]において清輔に論破される逸話入
- E3543 **教兼**(のりかね・冷泉れいぜい/本姓；藤原、為守[暁月]男) ?-1316 鎌倉期廷臣；歌人、為家・阿仏尼の孫、

四位、従兄弟為兼が1315六波羅拘留・16土佐配流の時に花園天皇に託した歌書を見る；  
正親町公蔭・藤原為基らと共に一見することを許される(花園天皇宸記入)、  
二条為氏・京極為教・冷泉為相の甥、  
歌人；風雅集(4首；119/295/1424/1511)、

[霞み暮るる空ものどけき春雨に遠き入相の声ぞさびしき](風雅；春歌119)

H3589 **徳謙**(のりかね・掛山かけやま、) 1774-1807 34 信濃上田藩士、国学；江戸の北村家入門  
[徳謙(；名)の通称/号]通称；政右衛門、号；謙甫/雪航

H3579 **矩清**(のりきよ・岡おか/旧姓；曾根、) 1725-67 43 近江犬上郡北曾根村の歌人；  
近江藩小林義兄よしの家集に名入/歌；[彦根歌人伝・亀]入、  
[矩清(；名)の通称] 三郎右衛門

I3508 **典清**(のりきよ・木崎きざき、) ? - 1849 武蔵多摩郡の名主、国学；斎藤義彦門、  
[典清(；名)の通称/号]通称；曾平/曾兵衛、号；巖之舎いずのや

E3544 **規清**(のりきよ・賀茂かも/梅辻うめつじ、報清男) 1798-1861 64 博学；国学・神道・天文・暦学・陽明学修学、  
京の生/修行遍歴；「鳥伝うでん神道」を大成主張、海防・沼地開発を幕府に献策/政治批判、  
幕府の嫌忌；1848八丈島配流；病没、  
「鳥伝神道大意」「瑞鳥園叢書」「日本書紀常世長鳴鳥」著  
[規清(；名)の通称/号]通称；禎作/飛驒守、号；三手翁/対翁/瑞鳥園/斎守翁

I3609 **徳精**(のりきよ・木下きのした、) 1828-1894 67 信濃飯田の国学者；平田鉄胤門、  
実行教(1882柴田花守率る教派神道の一派)に参加、  
[徳精(；名)の通称/号]通称；与八郎、号；三養

G3596 **範静**(のりきよ・赤松あかまつ/本姓源、通称；八兵衛、外国奉行の範忠男) ?-1904 江後期；旗本/幕臣、  
1867-68軍艦奉行、妻；常陸谷田部藩主細川興建おきたの女、  
歌人；1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[千鳥鳴く声もさむけし夜もすがらかたしきわぶる袖の浦風](大江戸倭歌；冬1214)

義清(憲清のりきよ・佐藤) → 西行(さいぎょう、歌人) 2 0 0 3

教清(のりきよ・山科) → 教興(のりおき・山科やまの、廷臣/日記) 3 5 3 0

利清(のりきよ・松田) → 利清(としきよ・松田、俳人) M 3 1 3 1

利清(のりきよ) → 利清(としきよ、狂歌) S 3 1 8 1

利清(のりきよ・池田) → 利清(としきよ・池田、俳人) T 3 1 1 8

E3545 **範国**(のりくに・平たいら；桓武流、行義男) ?-? 1048 存 母；源致明女、平安中後期廷臣；右衛門権佐、  
伊予守/春宮大進、歌；1035関白左大臣家歌合参加、48「高野山参詣記」/「範国朝臣記」、  
経章らの父、師季/行親の兄

E3546 **教国**(のりくに・滋野井しげの、実益男/本姓藤原) 1435-1500 66 歳 廷臣；1487権中納言/正二位兵部卿、  
後花園ごはなごの天皇側近/歌；義政歌会参加、連歌；1487-宗祇庵会参、1479和漢聯句/86何人百韻

H3506 **教邦**(のりくに・岡村おかむら) 1769-1841 73 近江彦根藩士/国学；小原君雄・本居宣長門、  
藩校弘道館和学方に就任、赤尾一樹かづきの師、

[教邦(；名)の別名/通称/号]初名；教守、通称；与惣弥/与一兵衛/与一右衛門、号；蔦舎

乗邦(のりくに・近藤) → 玄瑞(げんずい・近藤こんどう、医者) K 1 8 3 3

I3592 **徳子**(のりこ・伊達だて、伊達吉村3女) 1710-47 38 江戸の生/伊予宇和島藩4代藩主伊達村年の室、  
伊達村候むらとき(1725-94)・幾(柳沢信鴻室)・青木一貫(1734-86)の母、歌人、  
[徳子(；名)の別名/号]別名；定/富(富子)、号；玉台院/恵雲

3520 **軌子**(のりこ・細川ほそかわ、通称；幾姫/号；清源院、熊本藩主細川宣紀のぶのり女) 1725-94 70 歌人、  
1745宇土藩主興里と結婚；間もなく夫と死別、歌人；兄重賢紹介で職仁親王門、  
1782-3「青葉山路」「海辺秋色」、「環翠集」著、家集「清源院詠草」著

参考 父 → 宣紀(のぶのり・細川、藩主/歌人) C 3 5 7 2

夫 → 興里(おきさと・細川、藩主/歌人) C 1 4 2 2

兄 → 重賢(しげかた・細川、藩主/博物学) C 2 1 0 6

G3575 **訓子**(のりこ/きんこ・酒井さかい、初名；嘉代かよ姫、松平頼恭12女) 1754-1804 51 歌人；荷田蒼生子たみに門、  
姫路2代藩主酒井忠以ただね(1756-90)の正室、忠道ただひろ(3代藩主)・忠実ただみら(4代藩主)の母、  
夫は13歳若くしかも早世；光訓院と称す、津村涼庵「片玉集前集」に小文「涼庵にあたふ」入、

- 蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858成立)入、  
 [荻の葉に風の音する夕暮は袖にも露の乱れぬるかな](大江戸倭歌;秋737)
- H3519 **教子**(のりこ・安斎あんざい、北野操六[1792-1864]女)1813-9987 徳川家江戸城大奥奉公、歌人、  
 のち郷里の武蔵川越領の頭取名主安斎保美やすしの妻、歌集「木綿園集」、  
 [教子(;)名)の別名/号]初名;きく/孝子、号;木綿園ゆうぞの
- I3591 **徽子**(のりこ・伊達だて、通称;綵姫まさひめ、斉義なりよし長女)1824-6139 母;側室の美寿(砂沢定栄女)、  
 陸奥仙台藩主伊達斉邦の正室、伊達保子(祐姫/亙理伊達邦実室/貞操院)の姉、歌人、  
 [徽子(;)名)の号]栄心院/勁松院
- J3530 **準子**(のりこ・徳川とくがわ、名;矩姫かねひめ、二本松藩9代藩主丹波長富女)1831-190272 江戸の歌人、  
 国学・歌;植松茂岳しげおか・有経の父子門、尾張14代藩主徳川慶勝よしかつの正室  
 儀子(のりこ) → 儀子(ぎし・嘉楽門院/歌人) B 1 6 1 6  
 矩子(のりこ・津崎) → 村岡(むらおか、近衛家仕/勤王派/歌人) D 4 2 0 9
- E3547 **紀言**(のりこと・児山こやま、紀成のりしげ[1777-1840]の養嗣)?-? 江後期江戸歌人;  
 紀成家集「松の落葉」編、1828氏徳「記録解題」編纂参加  
 教言(のりこと・山科) → 教言(のりとき・山科、廷臣/連歌) F 3 5 2 0  
 憲子内親王(のりこないしんのう) → 新宣陽門院(しんせんようもんいん) 2 2 4 7  
 規子内親王(のりこないしんのう) → 規子内親王(きしないしんのう) 1 6 1 5  
 儀子内親王(のりこないしんのう) → 儀子内親王(ぎしないしんのう) B 1 6 2 0
- E3548 **教定**(のりさだ・飛鳥井あすか、家名;二条/石山、本姓;藤原、雅経男)1210-66 廷臣;1253従三位、  
 右兵衛督/1259正三位/1260左兵衛督、歌人/蹴鞠に長ず、  
 関東伺候;3代の将軍(藤原頼経/頼嗣/宗尊親王)に出仕、「飛鳥井教定卿記」著、  
 歌;1251影供歌合参加、万代集・東撰和歌六帖・新和歌集・夫木抄・雲葉集入、  
 勅撰39首;続後撰(4首125/361/1043/1285)続古(6首74/919/1020/1367/1559/1619)、  
 続拾(7首111/559/786/991/1109/1131/1264)新後撰(192/378/734)玉(1195)以下、  
 [うづもれぬこずゑぞ冬にかはりけるあとなき庭の花の白雪](続後撰;春125/庭落花)、  
 [教定の通称] 二条三位、母;大江広元女、兄;教雅のりまさ、子;雅有まさあり/二条為世の母
- E3549 **教定**(のりさだ・藤原ふじわら、教頼男)1275?-133056 鎌倉期廷臣;右近中将/右兵衛督/1312従二位、  
 歌人、1321亀山殿五首歌合参加、続現葉集入、続千載1443/新千載715、  
 [あふことも今はなぐさの浜風になほ波さわぐ袖を見せばや](続千;恋1443/右衛門督)
- E3550 **範貞**(のりさだ・北条ほうじょう/常葉/本姓;平、時範男)?-1333自害 武将;鎌倉幕府評定衆、  
 新田義貞に敗北;自害、歌;続千載838、  
 [越えやらで宿とひかぬる時しもあれ嵐吹きそふさやの中山](続千;羈旅838)
- E3551 **範定**(のりさだ・高倉たかくら/本姓;藤原、範康男)?-? 南北期廷臣;兵部卿/左馬権頭、  
 歌;1370-6百番歌合/仙洞歌合参加?、1400菊葉集;4首入、  
 [伏見殿(後崇光院貞成親王家)にて六十番歌合に、  
 聞きおくる雁がね遠く鳴過ぎて田面薄ぎる秋の夕暮](菊葉;秋554)
- E3552 **宣定**(のりさだ/のふさだ・烏丸からすまる、法号眞光院、光雄みつお男/本姓藤原)1672-92早世21歳 廷臣;  
 従四上、1691左中弁、「烏丸家記」、1684-92「宣定日記」著、光栄みつひでの父
- E3553 **軌定**(のりさだ・竹内たけのうち、通称郷左衛門/号;翠色子)1693-174654 信州松代藩士/町奉行/史家、  
 真田家の旧記等調査/画、1731「真武内伝」、「松代藩士系譜抄」著
- E3554 **則定**(のりさだ・藤懸ふじかけ、八郎兵衛養子)?-? 江中期金沢藩士/1734家督/54御附物頭/大番頭、  
 1780致仕、1748「奉真院様墓去一件」/49「奉真院様墓去一卷日記」著、  
 [則定の通称/号] 通称;友之助/七郎左衛門/八右衛門、号;仁斎
- E3555 **乗完**(のりさだ・松平まつだいら/本姓;源乗佑のりすけ男)1752-93 三河西尾藩主/1765襲封/81奏者番、  
 1789老中;幕政の要職、儒;南郭門/歌/俳諧/書/画;紫石門、92「独語」、乗寛のりひろの父、  
 歌;1798刊広通「霞関集」入、  
 [草も木も波のうへには春の色を霞ばかりに見する海原](霞関;33/海上霞)、  
 [乗完の幼名/字/号] 幼名;恒三郎/源次郎、字;公善、  
 号;鶴洲/琢玉齋/省己堂/五鷲亭/秀井/白翅/西丘/飲鳳泉、法号;源徳院
- E3556 **命貞**(のりさだ・有沢ありさわ/通称三郎四郎、盛貞男/兄倚貞よりさだの嗣)1757-9438 加賀藩士;1770家督、

武具奉行/軍学:「甲陽軍鑑軍配再伝記聞」著

- J3593 **教貞**(のりさだ・保崎ほさき、通称;徳之進/沢之進) 1766-1836<sup>71</sup> 近江彦根藩士;城番口頭、歌人;[彦根歌人伝・亀]入
- I3531 **教定**(のりさだ・黒須くろす、通称;源助)?-1836 信濃飯田藩士、儒学・歌;加藤尚質ひさただ(1716-80)門
- E3557 **憲貞**(のりさだ・藤田ふじた/小松原こまつばら、通称長助/麓、号;静林堂)?-1839 黒田家家臣、柔術;久保貞治門、楊心流;海賀藤藏直方門/武道;為勢自得天眞流(麓天真流)の開祖、「為勢自得天眞流剛術秘伝書」著
- K3509 **則貞**(のりさだ・三ツ井みつい、通称;与一郎/号;桜園) 1840-93<sup>54</sup> 出羽大館の国学者  
義定(のりさだ・藤原) → 義定(よしさだ/のりさだ・藤原、廷臣/歌) D 4 7 3 3  
記定(のりさだ・浅井) → 清足(きよたり・浅井あさい/菊地、庄屋/歌) T 1 6 3 9
- E3558 **乗邑**(のりさと/のりむら・松平まつだいら、別名;乗益のります、乗春男) 1686-1746<sup>61</sup> 母;山形藩主奥平昌能女、肥前唐津藩主;1690襲封、91志摩鳥羽藩に転封、1710伊勢亀山藩・17山城淀藩に転封、1722大坂城代;徳川吉宗の信任を得る、1723老中・下総佐倉藩主に転封;1737勝手掛老中;農財政最高責任者;享保改革を推進、幕府法令集「御触書集成」編纂、和泉守/左近将監、従四下侍従、1745吉宗没後に失脚;「鄙雑俎」上巻に失政談入、茶器蒐集:「乗邑名物記」著、「雨中訓」「亀山訓」「三冊物」著、乗佑のりけ・乗富の父、歌;広通「霞関集」入、歌人;一首の由縁から「村薄むらすきの和泉守」と称される、  
[秋さむき佐野の渡りの村すすき雪うちはらふ袖かとそ見る]  
[乗邑(;名)の幼名/号/法号]幼名;源次郎、号;松泉、法号;源寿院
- G3554 **教実**(のりさね・藤原ふじわら、教房男?)?-? 鎌倉期廷臣;左近将監、教房男なら従四上民部大輔、1213内裏詩歌合参加(群書類従223所収)  
[唯是春山応、卜、宿 縦覃西日欲、何、之](内裏詩歌合;十七番左)
- E3559 **教実**(のりさね・九条くじょう/本姓;藤原、道家男) 1210-35<sup>早世</sup> 26 母;准后綸子(西園寺公経女)、廷臣;1219従三位/31左大臣/関白/氏長者、32摂政従一位、「洞院摂政記」、歌人;九条歌壇、1226「室町殿詩歌会・和歌会」催/32「洞院摂政家百首」催、歌壇後継者と期待されたが早世、勅撰34首;新勅撰(10首65/134/200以下)続後撰(5首474/762以下)続古(4首)続拾(3首)以下、雲葉集5首入(洞院摂政左大臣名)  
[たちまよふ吉野の桜よきて吹け雲にまたるる春の山風](新勅撰;一65/関白左大臣)  
[教実(;名)の幼名/通称]幼名;牛丸、通称;洞院摂政左大臣とういんのせつしょうさだいじん、忠家の父
- E3560 **憲実**(のりさね・上杉うえすぎ) 1411-1466<sup>56歳</sup> 室町期武将/1432下野足利の領主;足利学校を運営:1439円覚寺の快元を初代能化(庠主;校長)に登用し再興する  
憲信(のりさね・中田) → 憲信(のりさね・中田、国学/神職/法曹) F 3 5 4 1
- E3561 **則成**(のりしげ/のりなり・源みなもと、道成みちしげ男)?-?1026<sup>存</sup> 母;平親信女、平安中期廷臣;文章生、1023蔵人、1024檢非違使/左衛門尉/式部丞、従五下弾正大弼/周防守、兼長の兄弟、歌人;和歌六人党の1、後拾遺;614、  
[年も経ぬ長月の夜の月影の有明がたの空を恋ひつゝ](後拾遺;恋614/思い出により贈る)
- E3562 **教成**(のりしげ/のりなり・平たいら、別名;教重、重義男)994?-1080<sup>87歳</sup> 母;関白藤原道隆女、平安中後期廷臣;蔵人所雑色/1018檢非違使/左衛門尉/1054頃従五上紀伊守/1080出家、棟仲(和歌六人党)の兄、基綱(金葉歌人)の父歌;1038権大納言師房歌合参加、後拾遺590(父の服喪明;589弟と詠)、1080出家;没、  
[うすくこく衣の色は変れども同じ涙のかゝる袖かな](後拾遺;哀傷590、服喪脱ぎの日、薄色の常服と濃色の喪服)
- E3563 **範茂**(のりしげ・藤原ふじわら、範季男) 1185-1221<sup>誅殺</sup> 37歳 鎌倉期廷臣;1201肥前守/20参議、歌;1201(9月)和歌所影供歌合参加
- E3564 **度茂**(範茂/度繁のりしげ・平、繁雅男)?-? 鎌前期1232佐渡守/左衛門尉/正五下、安嘉門院四条[阿仏尼]の養父、信繁の弟
- E3565 **範重**(のりしげ・藤原ふじわら、家国男?範親男?為信男?)?-? 鎌倉後期廷臣/正四下、歌人;新後撰578、家国男なら刑部大輔/弾正大弼、範親男なら少納言、  
[こよひかくしをるる袖の露ながらあすもや越えんうつの山道](新後撰;羈旅578)
- E3566 **修茂**(のりしげ・大胡おおご/本姓;藤原、通称;新左衛門尉)?-? 上州住人/大胡出身?、

- 連歌:1470道真「河越千句」宗祇らと参加、「大胡修茂寄合」著、新菟5 句入
- K3562 **教重**(のりしげ・山田やまだ、) ? - ? 江前期;武士?/歌人、玄不詳、  
1691了然尼撰(茂睡編)[若むらさき]入、  
[夜な夜なの夢にならでは身の上のうきを忘るゝおもひ出もなし]、  
(若むらさき;180述懐)
- E3567 **規重**(のりしげ・山内やまのうち/やまうち、土佐藩家老重直男)1682-1721<sup>40</sup> 土佐藩士/儒;谷秦山門、  
のち宮田定則・尾池存齋門、1701藩主豊房の近習家老となり藩儒大谷養正門に従学、  
1704奉行職/藩主豊隆に諫言;蟄居10余年、藩主豊常の時赦免/家老に復職、  
藩主師傅となり三宅尚齋を招き侍講とす/文教興隆に尽力、  
1715「学否弁論」、「大忍遺事」「山内規重君日記並附録」著、  
[規重(;)名]の通称/号]通称;主馬、号;畏齋、蟄居後通称;深尾尚海、法号;統国院
- H3591 **紀重**(のりしげ・春日かすが、延重のぶしげ男)1724-1802<sup>79</sup> 出雲神門郡古志村の比布知神社社司、  
国学;芝山持豊門、易重やしげの父、  
[紀重(;)名]の通称/号]通称;孫四郎/式部/藤枝、号;春融舎/故交
- E3568 **紀成**(のりしげ・児山こやま、早川直記男/児山三平可至養子)1777-1840<sup>64</sup> 伊勢庄野生/1806江戸、  
幕臣;蝦夷地御用掛/夏目長左衛門に随従;扨扨に渡航/14児山家の養子/39隠居、  
歌・香川景樹門、桂門十哲の1、国学;伴蒿蹊/有賀長収門、  
1808「蝦夷日記」、「児山紀成蝦夷紀行」、1821「真間紅葉見の記」著、  
家集「松の落葉」、「遠山彦」、「影前百首」著、「桂葉集」共編、  
[紀成の通称/号]通称;勇/直次郎/新八郎/勝之進、号;梅園/愛松軒/四生、法号;桂心院
- J3598 **徳枝**(のりしげ・増田ますだ、通称;忠治/号;百壺翁)?-? 江中後期;尾張名古屋藩士、  
和漢学;稲葉通邦(1744-1801)門、紫陽(春祺はるよし/1816-1900/儒者/尊攘)の父
- I3500 **詮茂**(のりしげ・河北かむきた、通称;助大夫)1790-1861<sup>72</sup> 伊勢度会郡の師職(御師おし)、  
国学者;本居大平・本居春庭・足代弘訓門
- H3532 **憲成**(のりしげ・池田いけだ、通称;志津馬)1793-1829<sup>37</sup> 備前雄岡山藩士;中老、歌人
- H3542 **範成**(のりしげ・今小路いまこうじ/旧姓;杉谷、)1820-64<sup>暗殺</sup>45 伯耆会見郡の儒者;景山竜造門、  
今小路家の跡を継嗣;京の輪王寺兼毘沙門堂の坊官/大蔵卿と称す、  
鳥取藩に勤王を説く;藩財政再建のため貿易を主張;攘夷派に憎まれ暗殺される、  
[範成(;)名]の通称]孝兵衛/大蔵卿
- J3532 **儀重**(のりしげ・内藤ないとう、通称;作次郎)1835-89<sup>55</sup> 尾張名古屋藩士、国学;梶原昭豊門、のち神職
- I3507 **訓重**(のりしげ・木口きぐち/旧姓;垣屋、)1837-74<sup>38</sup> 伊勢渡会郡の生、国学;足代弘訓門、  
のち陸奥(岩代)信夫郡本内村の小楯八幡神社神主、赤井夏門と交流、  
弘記ひろり・訓平の父、  
[訓重(;)名]の初名/通称/号]初名;重義、通称;胤之介/伊豆守、号;雅舎/榊園
- E3569 **礼重**(のりしげ・松室まつむら、通称越後/信濃、宗重男/本姓秦)1837-75<sup>39</sup> 京官人;国事書記御用掛加勢、  
1863七卿都落の際参内等禁止された、「松室礼重手録」/1863「松室礼重日記」著
- |                |   |                       |           |
|----------------|---|-----------------------|-----------|
| 教成(のりしげ・牧野)    | → | 富成(とみしげ・牧野まさの、藩主)     | ○ 3 1 8 2 |
| 繁茂(のりしげ・平)     | → | 繁茂(しげもち・平、信繁[信阿]男、歌人) | S 2 1 8 9 |
| 範重(のりしげ・支那弥三郎) | → | 宗鑑(そうかん・山崎、連歌師/俳人)    | 2 5 0 5   |
| 徳林(のりしげ・岩淵/蘆野) | → | 東山(とうざん・蘆野あしの、儒者/詩文)  | E 3 1 5 3 |
| 憲成(のりしげ・藤原)    | → | 敦仲(-中あつなか・藤原、歌人)      | B 1 0 3 5 |
| 宣重(のりしげ・大川)    | → | 鷲彦(さぎひこ・大川おおかわ、歌人)    | ○ 2 0 1 1 |
- J3518 **軌鎮**(のりしげ・土川つちか、)1836-1878<sup>43</sup> 飛騨高山陣屋(郡代役所)番士、国学;山崎弘泰門、  
[軌鎮(;)名]の通称/号]通称;宗左衛門、号;綾水/楽々斎
- E3570 **範季**(のりすえ・藤原ふじわら、範兼のりかね男)1130-1205<sup>76歳</sup> 鎌倉前期廷臣/1197非参議/従二位、  
歌;1200石清水若宮歌合/01和歌所影供歌合参加、  
[ちぢの春みねの桜のひらくるはよろづの人の思ひなるべし](若宮歌合20;桜/右方)
- E3571 **教季**(のりすえ・今出川いまでがわ、菊亭/本姓藤原、実富男)1425-83<sup>59</sup> 廷臣/1444参議/65内大臣/従一位、  
1480右大臣/81左大臣、家学;琵琶、今出川家は代々伏見宮に出仕;1450仙洞歌合参加、  
「返風香調撥合」受、「衛府長装束抄」著、法号;法雲院、

- [鳴く千鳥そなたに友や有明のかたぶく奥に遠ざかりゆく](仙洞歌合;権中納言名)
- E3572 **範輔**(のりすけ・平たいら、親輔男) 1192-1235 44歳 鎌倉前期廷臣;1226参議/34権中納言/  
歌人:和漢兼作集入、新続古今359、  
[岡のべの一むらすすき穂に出でて招くを見れば秋は来にけり](新続古;秋359)
- E3573 **憲輔**(のりすけ・市川いぢか/本姓藤原、和泉守)?-? 1492存 戦国期越後守護上杉房定の家臣、  
連歌:1492堯恵より「古今抄延五記」伝受、新菟2句入
- E3574 **乗佑**(のりすけ・松平まつだいら/字;保卿/法号瑞源院、乗邑のりさと男) 1715-69 55 下総佐倉藩主;1745襲封、  
1746羽前山形に転封/64三河西尾藩転封/大阪城代;任地に没、  
俳諧/詩を嗜む、1754「延年公句集」著
- E3575 **則祐**(のりすけ・島田しまだ) ? - ? 江中期宝暦明和1751-72頃の文筆家、  
1761「花洛紀行」68「日光山紀行」著  
令祐(のりすけ・橋村) → 正令(まさのり・橋村はしむら/度会、神職/和漢学/書) R 4 0 7 2  
範佐(のりすけ・平沢) → 了佐(りょうさ・古筆こひつ、平沢、古筆家祖) H 4 9 5 6  
範輔(のりすけ・野村) → 素介(もとすけ・野村のむら/有地、藩士/政治/書) K 4 4 9 2  
則祐(のりすけ・赤松/源) → 則祐(そくゆう:法諱、赤松/源、武将/僧/歌) D 2 5 5 9  
則祐(のりすけ・友野) → 則裕(のりひろ・友野とも、和算家) F 3 5 6 5  
典助(のりすけ・坂口) → 公弼(きみすけ・坂口さかぐち、藩士/国学) U 1 6 4 0  
宣相(のりすけ・樹木) → 宣相(せんそう・樹木うえき、狂歌) H 2 4 0 0  
矩輔(のりすけ・前波) → 黙軒(もくけん・前波/前場まえば、医者/歌) 4 4 7 7
- E3576 **教純**(のりずみ・皆川みながわ、通称弁蔵/弥六、号;瓦全) 1716-1802 87 水戸藩士/1752進仕/97致仕、  
「武茂郡鑑」「太田郡鑑」「封内巡見記」著
- E3577 **章純**(のりずみ・勢多せた、適斎、章敦のりあつ男/本姓中原) 1734-95 62 京明法家;1756明法博士/73大判、  
散佚書「政事要略」の復元、「服仮輯録」編/「御用雑記」「適斎日記」著、章斐(のりあや)の父  
宣澄(のりずみ・阪本) → 雲郎(雲朗うんろう・麦竜舎ばくりゅうしゃ、商家/俳歌人) E 1 2 1 8
- E3578 **義孝**(のりたか/よしたか・藤原ふじわら、肥後守藤原敦舒男)?-? 寛弘(1004-12)頃生、母;藤原朝野女、  
永源と兄弟、平安後期廷臣;頼通の家司か?、1058頃従五下伊勢守;  
伊勢守在任中に1060(康平3)伊勢神宮の御厨を焼き伊勢祭主・目代を殺害:土佐に配流、  
同名の藤原義孝よしたか[伊尹男/954-974]と混同され易い、  
勅撰3首or10首?;後拾遺(3首149/151/1051)、  
新勅(646)続後撰(1117)続古(64/1566)続後拾(1234)風(374)新千(139)は伊尹男作か、  
[野辺見ればやよひの月のはつかまでまだうら若きさみたづまかな]、  
(後拾遺;春149/三月廿日は暮春の頃/さみたづまは虎杖たどり古名か/妻を掛る)  
参考 → 永源(えいげん/ようげん、東大寺僧/歌人) 1 3 2 3  
→ 義孝(よしたか/のりたか・藤原、廷臣/歌人) 4 7 1 3
- E3579 **教隆**(のりたか・清原きよはら) ? - ? 鎌倉期の儒者、北条実時の師、  
源氏物語注釈;1252-「異本紫明抄」(時朝著?)に入
- E3580 **範隆**(のりたか・薬師寺/本姓;橘)?-? 鎌倉南北期廷臣;六位/歌人、  
1359成立[新千載集](1078)、  
[いはで思ふ心のうちのしがらみにせきあへぬ物は涙なりけり](新千載;十一恋歌)
- E3581 **範高**(のりたか・藤原ふじわら) ? - ? 連歌作者、1356成立[菟玖波集]3句入、  
[浦松の雪のたかきを山とみて](菟;冬555/前句;波の寒きを風にまぎるゝ)
- E3582 **紀隆**(のりたか・三好みよし、通称;三助) 1673-1725 53 三河の史家;太田白雪門、  
佐野監物「三河国二葉松」編纂参加、1722「三河国式内神社考」著
- K3533 **則孝**(のりたか・吉田よした、旧姓戸田) 1752-1817 66 備中倉敷の商家(東油屋)吉田長兵衛永貞の養子、  
国学者、辰輔の父、1817(文化14)没、  
[則孝(;名)の初名/通称/屋号]初名;千頃、通称;丈助(丈介)、号;泉山、屋号;東油屋
- E3583 **紀隆**(のりたか・福嶋/福島ふくしま、初名:世隆、福島末濟男/本姓度会むらい) 1765-1813 49 伊勢外宮祠官、  
1807福嶋善左衛門家系の再興、1801「伊勢公卿勅使行事見聞録」著、  
[紀隆の通称] 造酒之介/大隅
- E3584 **乗高**(のりたか・中村なかむら、通称;斎宮)?-1827 遠江周知郡の天宮神社社司、

国学者;本居大平/平田篤胤門、

1823「事実証談」、「天地日嗣」、「天地黄泉御柱考」、「雑話拾遺」、「玉矛の道しるべ」外著多数

E3585 **教孝**(のりたか・金子かねこ、川瀬教徳男/金子孫三郎能久の養子) 1804-61 斬殺刑 58 常陸水戸藩士、歩行目付/奥右筆/郡奉行、桜田門外変の主謀者として伏見で捕縛/江戸護送後に斬殺、1845「恵の露」/60「金子教孝日記」、「錦村君岐蘇路日記」著、  
[教孝(;)名)の通称/号/変名]通称;子之次郎/孫三郎、号;琴村/錦村、  
変名;西村藤[東]右衛門

I3570 **紀孝**(のりたか・島村しまむら、紹之つぐゆき男) 1808-95 89 近江神崎郡の小間物商、国学者;父門、国学;永野義言よしゆき門、松の舎塾を開き子弟教育、貫名海屋・大国隆正と交流、「伊勢の道の記」著、  
[紀孝(;)名)の通称/号]通称;安太郎/庄司、号;松舎まつゆき/蘭の舎(あらざゆき?)

E3586 **則孝**(のりたか・鹿島かしま/本姓;中臣、号;巖桜、筑紫孝門3男) 1813-92 80 常陸鹿島の人;江戸の生、鹿島則瓊のよし養嗣子;1858養父を継嗣;常陸鹿島神宮大宮司、則文のりふみの父、1865則文の流罪に連座;離職、のち復職、1884息則文の伊勢神宮宮司就任;宇治に移住、武芸/歌/画を嗜む、「まかつひの記」「幕府朱印改渡記」「幕府祈禱次第記」「桜齋雑著」、「桜齋随筆」「巖桜舎詠草」「鹿島則孝詠草」「水戸家書類」著

H3580 **訓棟**(のりたか・西岡しおか/別姓;谷/秦、) 1826-93 68 伊勢度会郡の国学者;足代弘訓の家臣、国学;足代弘訓門/佐々木弘綱門、半井忠見「ひなのてぶり」24首入集  
[訓棟(;)名)の初名/通称/号]初名;吉棟、通称;省吾/篤三郎、号;蕉梧/蕉屋/天然

I3530 **則喬**(のりたか・倉沢くらさわ、) 1845-1911 67 信濃伊那郡大草村上宮外県うえのみやそとあがた神社祠官、国学;平田鉄胤門、  
[則喬(;)名)の初名/通称/号]初名;則高、通称;三河正、神号;美会彦翁命

E3588 **則孝**(のりたか・和田わだ、字;子瑾/通称;太伯、号;庫山) ?-? 摂津の医者、「傷寒論觸」「素問正誤」著

I3579 **則孝**(のりたか・瀬川せがわ、) 1853-1911 59 備前岡山藩士/国学者・歌人、国学;藩士武藤手束たつか門/さらに本居豊穎とよかい・上田及淵しきぶら門、  
[則孝(;)名)の通称/号]通称;丑太郎、号;細石の舎

義孝(のりたか・藤原) → 義孝(よししたか/のりたか・藤原、廷臣/歌人) 4 7 1 3

紀隆(のりたか・鈴木) → 桃鯉(とうり・鈴木、商家/俳人) I 3 1 0 3

憲隆(のりたか・藤原) → 月感(げっかん:法諱、真宗僧) G 1 8 9 3

宣隆(のりたか・草鹿砥) → 宣隆(のぶたか・草鹿砥くさかど、神職/国学) B 3 5 7 4

徳高(8世のりたか・恒川) → 極斎(きよくさい・山本やまもと、和算家) O 1 6 9 3

徳隆(のりたか・土肥) → 徳経(のりつね・土肥どひ、国学/歌人) J 3 5 2 8

E3589 **則武**(のりたけ・相坂あいさか、通称兵右衛門) ?-? 江中期享保1716-36頃津軽藩士;中小姓、1731「津軽一統志」編

E3590 **章武**(のりたけ・勢多せた、章斐のりあや男/本姓中原) 1792-? 1852 存 京明法家;1825明法博士/34大判事、1813「温故録」35「欽宮御方御用仮日記」42「百御所御用掛書記」著、章甫のりみの父

J3537 **範武**(のりたけ・中島なかじま、) 1831-1902 72 信濃伊那郡の国学者・歌人;北原稻雄・平田鉄胤門、  
[範武(;)名)の初名/通称]初名;久美ひさよし、通称;弥次右衛門/小三郎/児三郎

乗全(のりたけ・松平) → 乗全(のりやす/-たけ・松平、老中、詩歌) G 3 5 0 7

宣武(のりたけ・川口) → 信之(のぶゆき・川口かわぐち、幕臣/国学) H 3 5 9 9

則武(のりたけ・宇陀) → 才麿(さいまる・椎本/谷/生駒、俳人) 2 0 0 6

則武(のりたけ・松浦) → 篤所(とくしよ・松浦まつうら、儒者) K 3 1 9 4

E3591 **義忠**(のりただ・藤原ふじわら、藤三品、為文男) 1004-1041 水死 38 平安中後期廷臣;漢学者/対策に及第、詩歌人、博學で詩歌に活躍;1016三条天皇尊号の詔を書ず、後一条天皇大嘗会詠歌、1030少弁/後朱雀天皇の東宮学士・侍読/正四下左中弁、大和守;1041(長久2)10月大和吉野川で溺死、没後;侍読の勞により参議・従三位を追贈、妻;平惟仲女の大和宣旨やまとのせんじ、能成よしげ・忠棟・義職・公義ともり・忠宗・定実・土御門院女房中将の父、歌;1025(万寿2)「東宮学士義忠歌合」主催、1030(長元3)内裏詩宴の序者、1032(長元5)上東門院菊合参加/33頼道白河殿子日に和歌序/35齋院歌会の序者、

1036後朱雀天皇大嘗会で詠歌/41詩宴の序者/41弘徽殿女御十番歌合の判者、  
詩;類聚句題抄・和漢兼作集・擲金抄に入/続文粹3首入、  
歌;続詞花集・万代集・夫木抄入、玄々集(166なりただ/大和守義忠也)は歌内容から別人?、  
勅撰5首;後拾遺(350)詞花(154)千載(1281)続古今(1909)/金葉Ⅲ(280)、

[紫にやしほ染めたる菊の花うつろふ色と誰かいひけん](後拾;秋350/上東門院菊合)

妻 → 大和宣旨(やまとのせんじ、歌人) E 4 5 1 8

女 → 小式部(こしきぶ、歌人/物語作者) C 1 9 7 6

- E3592 **範忠**(のりただ・藤原ふじわら、清範男)?-? 鎌倉中期廷臣;兵部大輔/宮内少輔/正四下、  
1265宗尊親王女子誕生祝賀使として鎌倉下向、歌人;続古今1618、1265白河殿七百首参加、  
[風さわぐ夕べの空のむら雲におもひもあへず降る時雨かな](続古;雑秋1618、  
三首歌構ず;夕時雨)  
[志賀の浦やおなじみどりの松がえにいくとせ春のかすみこむらん](白河七百首;13)
- E3593 **教忠**(のりただ・葉室はむろ、法名利円、長忠男/本姓藤原)1423-9472 室町戦国期廷臣、  
1450参議/65権大納言、1468西軍;位階剥奪/77赦免;78大宰権帥/90出家、妻;葉室頼時女、  
1493息子光忠と足利義材・畠山政長軍に参加、河内正覚寺合戦で敗北;息光忠戦死/  
美濃に逃亡;没、連歌;1479-89「百韻」10度、新菟6句入
- E3594 **憲忠**(のりただ・梅津うめづ、通称;善阿弥/半右衛門、道金男)1572-163059 下野宇都宮の生/武将、  
父と常陸太田に住;佐竹義憲の家臣;茶坊主;善阿弥として近侍/祐筆、  
1600関ヶ原で咎めを受けた藩主義宣に随従;移封先の出羽久保田(秋田)藩士;3百石、  
憲忠・政景まさかげ兄弟の献策で産業振興/阪陣に軍功;佐竹の黄鬼と畏怖される、  
家老となり弟政景と藩政の基礎を築く、書/歌/連歌を嗜む;1614「唐何百韻」、  
政景の子忠国を養嗣子とす
- E3595 **範忠**(のりただ・清原きよはら、通称;与八郎)?-? 江前期軍記作者、  
「難波軍鑑大全」編(「難波戦記」に諸本を追記増補)
- E3596 **倫忠**(のりただ・黒田くろだ、樽井次倫2男)1660-174182歳 岩代二本松藩士/藩主の御付を勤める、  
1698(元禄11)江戸本占/1717郡代を歴任/22致仕、  
文学に造詣;本朝故事に通ず、熊沢蕃山・山鹿素行と交流、「世臣伝」著、  
[倫忠の通称/号]通称;伝太夫/新五左衛門/外記左衛門/六右衛門、号;退道/法号誠量院
- E3597 **則忠**(のりただ・児玉こだま、通称平蔵/仁右衛門)?-? 加賀大聖寺藩士/家学;兵学・槍術、1759隠居、  
1712(正徳2)の百姓一揆顛末記録「那谷寺通夜物語」著
- G3541 **範忠**(のりただ・服部はつとり、通称;活斎、号;玄黄/玄広)?-? 江中期江戸町医者/本草学道三流;  
橘商山門、1722「内景図説」(1815刊)、26「薬圃図纂」「花葉形状図説」、1727「人参譜」(未完)、  
1727「薬圃図纂」「万病名数」/30「本草和談」/38「菜魚図讚」、「温泉小説」「七種考」「経穴必用」
- H3524 **敬忠**(のりただ・伊沢いざわ、通称;丈助)?-1822 江中後期;信濃伊那郡大出村の名主、  
歌人;桃沢茅宅[1738-1810]門、愈忠(1781-1859)の父、宝永より代々日記「日用雑記」あり、  
[さくら花咲初めにたりちるまではやとりからまし長をかの皇きみ](長岡楼花)  
[城山はあれて幾世の秋やへぬ月こそちらめ遠きむかしを](城山秋月)
- E3598 **教忠**(のりただ・三浦みうら) ? - ? 江後期和算;古川氏清門、  
1823「学板算題二百題」/1831「一席一鵬窠集」「棲霞楼集」著
- I3529 **範忠**(のりただ・熊谷くまがい、旧姓;波多野)1777-184367 備前岡山藩士/国学者、  
[範忠(;名)の通称]鉄五郎
- J3517 **紀耕**(のりただ・辻つじ、平八男)1795-186369 出羽(羽後)仙北郡高野村大町の農業;麴製造・染物業、  
歌人;加藤千蔭門、キヨ(小杉天外の祖母)・隆好(勤王家)・丹兵助の父、  
[紀耕(;名)の通称/号]通称;勝兵衛、号;豊田舎
- E3599 **教忠**(のりただ/なりただ・藤波ふじなみ/本姓;大中臣、号;禊川いせん/水石、光忠男)1823/4?-9169 神職;  
1839伊勢神宮祭主、1844神祇大副;従二位/49伊勢権守/58幕府外交に異論を唱える、  
のち東京住、1841「一夜百詠」「東閣詩稿」、「愚詠草稿」、「笑鵬窠集」「笑鵬窠詩抄」著、  
1866「笑鵬窠小集録」、「棲霞楼詩文稿」「蘭圃詩鈔」「教忠卿記」著、言忠ことだの父
- H3507 **則忠**(のりただ・豊福とよぶく、通称;清一郎)?-? 江後期;美作英田郡(粟井郡)馬形村の歌人、  
平賀元義門/1857-8大沢深臣「巨勢総社千首」入、

豊福三平(則明・秋風/医者・俳人)の一族?

教忠(のりただ・小坂) → 呂叟(ろそう・小坂こさか、俳人) C 5 2 0 8

教忠(のりただ・佐藤) → 永忠(ながただ・佐藤さとう、藩士/歌人) M 3 2 2 0

範忠(のりただ・村垣) → 範正(のりまさ・村垣むらがき、幕臣/日記) F 3 5 7 8

義忠女(のりただのむすめ・藤原) → 小式部(こしきぶ、女房、歌/物語作者) C 1 9 7 6

F3500 則忠女(のりただのむすめ・源みなもと)?-? 平安中期歌人/藤原成房の室?、  
1002成房出家時の歌;拾遺1209;父源則忠は盛明親王[928-986・醍醐天皇皇子]男か?  
[生きてるか死ぬるかに思ほえず身よりほかなるたまくしげかな]  
(成房が出家に際し取りに遣わした枕ばこに添えた歌;拾遺集;十八1209)

F3501 則胤(のりたね・阿埜あ/阿部、通称;兵部左衛門)1692-1762 71歳 江中期盛岡藩士/各地の代官、  
画を嗜む、甲州流軍学;松岡周賀門/天文学;帷子可有門/町見根元術;築田義重門、  
「白覚集」著、  
[則胤(;)名)の号] 梅溪/白光軒

H3562 宣胤(のりたね・尾関おせき/別姓;尾張)1812-70 59 尾張丹羽郡扶桑村大字山那の神職、  
国学;平田鉄胤門;平田家伊吹舎に修学、従五位下陸奥守、  
[宣胤(;)名)の通称] 与一/一学/昌/陸奥守

F3502 式胤(のりたね・蜷川にながわ、通称;親胤/図書、子賢男)1835-82 48 京東寺の公人/和算/考古学、  
1868「烏帽子制式考」、「制服古証」、陶芸「観古図説」著

K3512 則民(のりたみ・村井むらい)1783-1843 61 伊予吉田藩士、儒者;本多四明門、和学に通ず、  
吉田藩学の時観堂教授、  
[則民(;)名)の字/通称/号]字;世中、通称;節蔵、号;楽水

紀民(のりたみ・田中/松山) → 玄中(げんちゅう・松山/田中、医者) L 1 8 2 5

J3524 令為(のりたみ・椿居つばき/本姓;平、通称;佐右衛門)1753-1805 43 近江彦根藩士、  
歌人:[彦根歌人伝・鶴]入

F3503 教親(のりちか・一色いっしき、通称;五郎、持信男/本姓;源)1419-51 33歳 室町期武将、  
左京大夫;伊勢・丹後守護、歌;幕府月次歌会参加、  
1448(文安5)賢良「畠山匠作亭詩歌」参加、新続古今1760、  
[暮れて行く秋の別れの道ぞとや野ばらの草も色かはるらん](新続古;雑1760)  
[むすびしもみぬ世の露の玉鬢たまかづらおもかげ残るとこなつの花]、  
(匠作亭詩歌;12/瞿麦/常夏:なでしこ(古名)/対するは瑞溪周鳳の詩)

J3599 徳隣(のりちか・松井まつい、之翰これみ男)1753-? 江中期;信濃飯田藩医/歌人;依田正純門、  
松井家は代々医を以て藩主堀家に出仕;之翰-徳隣-美澄-直寛と続く、  
[徳隣(;)名)の初名/通称]初名;恵随とくずい、通称;義斎

I3563 徳隣(のりちか・酒井さかい)1763 - ? 大坂住の幕臣;大坂御弓奉行兼御具足奉行、  
国学者/歌人;加藤景範門、  
[徳隣(;)名)の通称] 亀太郎/主水

F3504 教愛(のりちか・矢盛やもり/本姓平、通称;近江大目)1817-81 65 京の儒者;山本愛親[葦園みえん]門、国学、  
1859「宇治紀行」/63「真如堂前古墳考」/「村上帝陵略考」/66「桜本御陵考」著

憲親(のりちか・藤原) → 勝命(しょうみょう:法諱、廷臣/出家/歌) B 2 2 6 5

教親(のりちか・中山) → 親通(ちかのり・中山なかやま、大納言) B 2 8 6 1

教親(のりちか・飛鳥井) → 経有(つねあり・飛鳥井/藤原、歌人) B 2 9 6 3

教親(のりちか・井上) → 鶴洲(かくしゅう・井上いとうえ、易占家) H 1 5 3 0

F3505 範継(のりつぐ・高倉たかくら;藤原南家貞嗣流)?-? 鎌倉期廷臣;左馬頭/琵琶;尾張内侍門[文机談]、  
妻;平信繁女、範藤のりおじの父

F3506 教嗣(のりつぐ・九条くじょう/本姓;藤原、通称;中山右大臣、経教のねり男)1362-1404 43 母;冷泉定親女、  
廷臣;1371従三位/83正二位/96内大臣、1399右大臣/1403致仕;04大和内山永久寺に没、  
1381「室町亭行幸記」著、歌;新後拾1243、  
[しられじな片山かげの眞葛原うらむる風は身にさむくとも](新後拾遺;十五恋歌1243)

K3552 宣統(のりつぐ/のぶつぐ?・長江ながえ)?-? 江前期;上方の武士/歌人、  
1670下河辺長流[林葉累塵集]10余首入、

[くるとのみいひてほどへて春の日に今ぞあひみる空の糸ゆふ](林葉累塵;春121/遊糸)  
[いたづらにおくりて身にし積りけりさらば雪ともきえん年かは](同集;雑1144)

- F3507 **範序**(のりつぐ・近藤こんどう) ? - ? 江後期伊予小松の地誌家、藩命で藩内の地誌と伊予歴史を編纂;1860「小松邑志」著
- H3505 **惠次**(のりつぐ・青山あおやま、成次男) 1832-9362 加賀金沢藩士;2150石継嗣/1858家老/加判、神職、藩内の勤王派と藩主との意志疎通を図る、藩が禁裏警固を命じられ上京;公武合体に尽力、1864(元治元)禁門変のち罷免/1869一等上士;70官名称号禁止;与三と改名、[惠次(;名)の通称/号]通称;将監/与三、号;樗堂
- F3508 **範綱**(のりつな・藤原ふじわら、初名;雅清or永綱、法名;西遊、永雅男) ?-? 1179存 母;藤原成季女、平安後期廷臣;右馬助/従五上、1166以前に出家;西遊を称す、歌人;1149右衛門督家成家歌合/66中宮亮重家歌合(西遊名)参加、今撰集/1165成立[続詞花集]4首/言葉集/月詣集など入集、詞花(239)/千載(75/114)、[住吉すみよしの浅沢小野あさざわをの忘れ水たえだえならで逢ふよしもがな](詞花;恋239、右衛門督家成家歌合/のち1156崇徳院配流後;崇徳御製・範綱・頼保・盛経の歌が排除) ☆袋草紙;被除歌の経緯の逸話入
- G3545 **範綱**(のりつな・藤原ふじわら、範保or範弘男) ?-? 鎌倉期廷臣;蔵人大膳亮/歌;1219内裏百番歌合参 範保男なら; 後鳥羽院北面 範弘男なら; 範茂甥、蔵人/中宮権大進 [吉野山かすめる方の春風に木の下しらぬ花のかぞする](内裏百番36;十八番深山花/右)
- F3515 **徳綱**(のりつな・佐々木ささき、通称右近/図書、字;歳松、号;児嶋、利綱男) ?-1834 伊勢石薬師医者、家督継嗣、詩歌/書、父[梅廼舎]と「梅廼舎和歌集」編、1794「西山尋碑記」著、宗六の弟/妻;田上鳩子に嫁/弘綱の父
- G3573 **則綱**(のりつな・渡辺わたなべ、恭綱男) 1697-174246歳 幕臣;1730兄豊綱没;家督継嗣;2000石、大寄合/松平図書に代り城代;与力足輕を預る、養嗣子;実兄豊綱の息子の親綱
- J3578 **紀綱**(のりつな・樋口ひぐち、) ? - ? 大坂の商家、儒者・歌人;加藤景範(1720-96)門、[紀綱(;名)の通称/号]通称;松二郎、号;漢斎、屋号;天川屋
- G3572 **則綱**(のりつな・渡辺わたなべ、豪綱5男) 1788-183245歳 和泉伯太はかた藩主の家;大島・和泉郡を領有、1810(文化7)兄の6代藩主春綱没;家督嗣;伯太藩7代藩主1万3千5百石、従五下/越中守、1828(文政11)隠居;息子の潔綱が嗣、正妻;岡部長住女、潔綱・条綱の父、歌;蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858成立)入、 [袖水ちて真砂ながるる山水を月影ながらいくむすびしつ](大江戸倭歌;夏652)、 [規綱(;名)の通称/号]通称;越中守、号;弄月斎ろうげつせい
- F3509 **規綱**(のりつな・渡辺わたなべ、松平乗友男) 1792-187180歳 渡辺綱光の養嗣;尾張藩家老、茶;弟8世宗室門/陶芸、「喫茶送迎記」「殊域雜纂」、「舶来草木彩色図譜」著、 [規綱(;名)の号] 号;道翁/塘翁/又日ゆうじの庵/宗玄/宗甫/竜艸/一樂園/楽々軒/芸山荘うんざんそう主人
- F3510 **祈綱**(のりつな・横田よこた、別号;宣業、綱敷つなのぶ男) 1821-65斬殺45 下野芳賀郡真岡の質・穀物商、名主を務める、国学;河野守弘門/平田篤胤門、勤王派;1862上京し尊攘活動;1864武田耕雲斎の天狗党挙兵に参加;越前敦賀で斬殺、「東四郎日記」著、 [祈綱(;名)の通称/変名/法号]通称;東[藤]四郎、変名;弥四郎、 法号;義烈院、神名;与古多富士毘古命 父 → 綱敷(つなのぶ・横田、商家/名主/郷土史家) B 2 9 0 7 則綱(のりつな・渡辺) → 一溪(いっけい・渡辺、幕臣/歌人) H 1 1 0 0
- F3511 **憲経**(のりつな・藤原ふじわら、敦頼[道因1090-1182?]男) ?-? 平安後期廷臣;正六上; 歌;1170住吉社歌合;父と参加/72広田社歌合参加、 [池水のいひいでずとも思ひかね深き憂へを神は知るらむ](住吉歌合;述懐廿二番右)
- F3512 **教経**(のりつな・平たいら、教盛男) 1160-1185入水26歳 武将;能登守/屋島で佐藤継信を一矢で射る、壇浦で義経を追う
- F3513 **教経**(のりつな・栗田口あきたぐち/家名;藤井/本姓;藤原、良教男) ?-1292 鎌倉期廷臣;1291参議/従二位、 歌人;1278「弘安百首」入、新続古今(439)、嗣房つぎふさの兄弟、

[秋深き小野のくずはら枯れがれにうらみもよわる松虫のこゑ](新続古;秋439)

- I3573 **則恒**(のりつね・杉本すぎもと、通称;源五左衛門)?-? 江中後期;陸奥会津の国学・神学者;会津藩教授、神学;木本成善(1735-1801)門/1797(寛政9)藩命で佐藤孝徴たかあきらら4人と輪年で教授
- J3528 **徳経**(のりつね・土肥どひ、) ? - 1833 安藝広島の国学者/歌;高松家(公祐きみすけほか)入門、[徳経(;)名)の初名/通称/号]初名;徳隆、通称;保二、号;聴松庵/梅溪/梅洞/二按斎/徹斎
- F3514 **宣経**(のりつね/のぶつね・内田うちだ、)?-1833 尾張名古屋本町の商家;駒屋、国学者;本居宣長門、1798「寛政十午暮春日次記」1801「享和元年歳次記」04「享和四年甲子日黄録」著 [宣経(;)名)の通称/号]通称;源兵衛、号;**蘭渚**、屋号;駒屋
- I3559 **則庸**(のりつね・齋藤さいとう、則因男)1778-1852<sup>75</sup> 出羽(羽後)仙北郡六郷の諏訪神社(諏訪宮)神官、学問;小瀬蔵人門・儒;中山菁莪門、国学;1805本居大平門、神社の祭儀や年中行事を整備、1828(文政11)菅江真澄が諏訪宮訪問;真澄について記録を残す、雄勝平鹿両郡社人組頭、1845(弘化2)大頭格;寺社奉行直支配、役儀の傍ら家塾を開く;のちの[教育堂]、則幸の父、「則庸日記」著、 [則庸(;)名)の初名/通称/号]初名;胤広、通称;甲斐守/兵部介、号;齋廼舎いつきのや
- 則恒(のりつね・香月) → 春岑(はるみね・香月かつき、醸造業/国学) G 3 6 9 7  
則常(のりつね・伊藤) → 則常(そくじょう/のりつね・伊藤いとう、俳人) D 2 5 5 4  
範常(のりつね・前田) → 東溪(とうけい・前田/一色、菊叢、藩儒) D 3 1 0 4  
範恒(のりつね・広田) → 正陽(まさはる・広田ひろた/度会/中須、神職/絵師) S 4 0 2 1
- I3598 **憲連**(のりつら・宅間たくま、旧姓;西村)?-1695 江戸の幕臣;小十人組頭、和学者、憲喜のりよしの父、 [憲連(;)名)の初名/通称]初名;良悟、通称;彦次郎
- F3516 **矩貫**(のりつら・前田まくだ、孝祐男)1748-? 幕臣;1777従五下/98大番頭/1801致仕、「追鳥狩絵図」著、 [矩貫の別号/通称] 別号;孝鳩/孝篤、通称;熊次郎/又吉
- F3517 **則任**(のりとう・源みなもと、則長男)?-? 鎌倉期廷臣/丹後守/左衛門尉/右馬権頭/正四下、歌;1275家経催「撰政家月十首歌合」参加、 [もろともに千代をかねてや白菊の咲ける籬に月の澄むらむ](月十首;十五番月照籬菊)
- 章任(のりとう・中原) → 章任(あきとう・中原、鎌倉期明法家) D 1 0 5 9  
範遠(のりとお・猪熊) → 教利(のりとし・猪熊いのかま/四辻/高倉、廷臣/猪熊事件) H 3 5 1 3
- F3518 **範時**(のりとき・藤原ふじわら、範季男)1166-? 母;伯父藤原範能女、鎌倉期廷臣;学士/侍読、1207非参議/右大弁/従三位、23出家、歌;1218順徳院中殿御会参、詩;1213内裏詩歌合参加(;)右大弁の時)
- F3519 **憲説**(のりとき・藤原ふじわら、木工頭清説男)?-? 鎌倉期正嘉-弘安1257-88頃廷臣;豊前守正五下、中宮権大進、「憲説記」著
- F3520 **教言**(のりとき・山科よしな/本姓;藤原、法名;常言、左中将教行男)1328-1410(or09?)<sup>83</sup> 南北朝廷臣、北朝;正二位、1389権中納言、1390致仕/95出家、内蔵頭(以後世襲)/足利将軍家と親交、禅宗に帰依、笙曲;豊原竜秋・信秋父子門、教興の父、「応永年中楽方記」「教言卿記」著、連歌;菟玖波集1句入、 [ぬし知らぬ宿の夕べの旅の道](菟;羈旅1759/前句;いづくのかたに衣打つらむ)
- J3595 **憲時**(のりとき・堀内ほりうち、初名;憲)1714-1788<sup>75</sup> 甲斐山梨郡の大井俣神社神官/木之宮神社神官、神道;松岡雄淵門/神道・国学;加賀美光章みつあき門、萩原元克もとえ・上野広陵と交流、萩原・上野と伊勢・大和・京・大坂を遊学;入手した歌学書などを甲斐へ持ち帰る、 [憲時(;)名)の字/通称/号]字;士篤、通称;豊前守、号;峽樹/亀石
- J3551 **謹節**(のりとき・西村にしむら、忠実男)1770-1835<sup>66</sup> 駿河府中の茶商2代目;青茶仕立製法静岡茶販売、歌人;外山とやま光実門、 [謹節(;)名)の字/通称/号]字;以養、通称;庄八(父の称)、号;竹茗堂ちくめいどう(代々の号)
- 紀言(のりとき・児山) → 紀言(のりこと・児山、歌人) E 3 5 4 7  
孝言(のりとき・惟宗) → 孝言(たかとき・惟宗これむね、廷臣/詩人) D 2 6 1 5  
徳辰(のりとき・井坂) → 徳辰(あつとき・井坂、神楽/歌人) E 1 0 7 0

- F3522 **則俊**(のりとし・藤原ふじわら、木工頭永光男)?-? 鎌倉中期廷臣;遠江守/従四下、  
歌;勅撰5首;続古今(528)続拾遺(808/1186/1397)玉葉(2597)、新続古(1801詞)、  
連歌;菟玖波2句入、  
[色かへぬ三輪の神杉時雨つるしるしはよそのもみぢなりけり](続古;秋528)
- H3513 **教利**(のりとし・猪熊いのくま、初名;範遠のりとお、四辻公遠?男)1583-1609<sup>27</sup> 高倉範国家を継嗣;再興、  
廷臣;1585叙爵/92侍従/97従五上/99猪熊に改姓/1600左近少将;正五下/01武蔵権介;200石、  
後陽成天皇に出仕;和琴・歌など芸道に通ず、鷲尾隆康日記「二水記」書写、  
美形で猪熊様のいぐまよと称される髪型装束で評判;女癖悪く[公家衆乱行随一]と悪評、  
1608御所女官と密通/09(慶長15)烏丸光広・飛鳥井雅賢・難波宗勝ら7名の乱交事件発覚、  
後陽成天皇の勅勘の猪熊事件;手引き主犯者として逮捕令が下る;西国へ逃亡;  
潜伏先の日向国で捕縛;京の常禅寺で斬刑、妻;生駒一正女の山里/息子;生駒正幸、  
のち猪熊家は実弟の嗣良が再興
- F3523 **則敏**(のりとし・阿部あべ、知義ともよし2男)1789-1861<sup>73歳</sup> 盛岡藩士/和算家;志賀吉倫門、  
江戸の藤田嘉言門、1842藩命で江戸の内田五観門、知翁ちゆうの叔父、  
1837「算題集」49「算学矩合集」、「阿倍三題解」「盛岡算草」「古今算鑑術解」外著多数
- H3501 **典年**(のりとし・山田やまだ) ? - ? 江後期;歌人、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[草枕今宵いづこにむすぶかとふるさとびとや思ひいづらん](大江戸倭歌;雑1829/旅)
- I3515 **祈年**(のりとし・喜田きた)1813 - 1900<sup>88</sup> 伊勢度会郡の大工職/庄屋、  
国学・歌;小林真中・御巫清直・橋村淳風門、  
[祈年(;名)の通称/号]通称;真也/宗太夫、号;一由  
建福(建富のりとも・乳井)→ 貢(みつぎ・乳井にゆうい/鈴木、藩士/財政)D 4 1 2 6
- F3525 **乗富**(のりとも・松平まつだいら/本姓;源、乗邑のりさと男)1718-74<sup>57</sup> 江戸の幕臣、父は藩主で老中、  
国学者;1758(宝暦8)賀茂真淵門、1774(安永3)没、  
[乗富(;名)の通称/号]通称;弥三郎/内蔵、号;明山/眠山
- F3524 **範朝**(のりとも・藤原ふじわら、範光男)1178-1237<sup>60</sup> 母;藤原範季女、鎌倉期廷臣;1209非参議/従三位、  
1211参議正三位/14右兵衛督/15権中納言;左右兵衛督兼任/17従二位/18正二位/致仕、  
1230出家(53歳)、詩:1213内裏詩歌合参加(群書類従223所収)、  
[攀艶共帰樵客路 耽粧欲宿隠倫家](内裏詩歌合;九番左)
- F3521 **教具**(のりとも・北畠きたばたけ、満雅男/本姓;源)1423-71<sup>49</sup> 廷臣;1441伊勢国司、51参議/右中將、  
1469権大納言、將軍義政と不和の足利義視を保護、連歌:父満雄以来宗砌・心敬と交流、  
連歌:1447等運忍誓と「何人百韻」/「初瀬千句」催、  
1470「北畠家二百五十番連歌合」主催(一条兼良判)、新撰菟玖波;6句入、  
[あまりの涙いつかけてまし  
恋の道あづまやのまやなかるらん](北畠家連歌;恋第百四十番左、右は光暁)  
[教具の号]号;等運、法号;金剛宝寺興運常感、政郷まさとらの父
- H3556 **乗友**(のりとも・松平/大給だいぎゅう、乗穩2男)1760-1824<sup>65</sup> 母;芳春院/江戸生;兄乗統早世、1776世子、  
1782(天明2)父隠居;三河奥殿藩4代藩主;大給松平家6代/従五下・兵部少輔/大隅守、  
1783(天明3)浅間山噴火で大被害;救済に尽力/1789大坂加番/飢饉を含め財政悪化;  
3度の儉約令を出す/1790隠居;弟乗尹に家督を譲渡;乗尹病弱のため政務を執行、  
正室;戸沢正謙女/側室;てる(知止院)、  
側室てる(知止院)が藩政を掌握し奢侈;乗友は怒りてると側近を信濃に配流、  
[乗友(;名)の通称]歆次郎/縫殿助ぬいすけ/兵部少輔ひょうぶのしょう/大隈守/大隈入道
- F3526 **矩佳**(のりとも・内藤ないとう、通称;隼人正/法号;勇猛院、品照男)1766-1841<sup>76歳</sup> 幕臣;  
曾祖父品俊の遺領を相続、1794小納戸/小姓/20大坂奉行/29勘定奉行、  
「諸国人数調書」著
- I3543 **業朝**(のりとも・小林こばやし、通称;九右衛門)?-1857 信濃小県郡長久保宿の代々 駅伝問屋、  
国学者、歌人;清水浜臣(1776-1824)門
- G3585 **矩知**(のりとも・かねとも?・山崎やまさき)?-? 江後期;歌人、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、

- [木のもとに涼しく風のかよひきて梢の蟬の声ぞしぐるる](大江戸倭歌;夏589樹陰蟬)
- H3552 **教知**(のりとも・梅沢うめざわ、通称;敬蔵)1839-? 江後期;陸奥(陸前)仙台藩士、奥山正胤の婿、三島主典/大講義/金華山祠官
- K3539 **矩豊**(のりとも・山名やまな、豊政[1571-1630]長男)1619or20-9880or79 母;養安院(大沢基宿女)、江戸幕臣旗本;千石/交代寄合;1628(寛永5/10歳)家督嗣、妻;久留島通春の養妹、従五下、大名並の[上乘輿白無垢着金紋先箱爪折傘]御免の特権、1642陣屋が但馬国黒野村に移る、同地を[村岡]に改名、同地の報恩寺を山名氏の菩提寺とし日蓮宗[法雲寺]に改称、明徳の乱で討たれた山名氏清の供養碑建立、隆豊(福島正盛[正長2男])を養子;嫡男とす、1698(元禄11)没、弾琴/歌人;茂睡[鳥の跡]入/了然尼撰(茂睡編)[若むらさき]2首入、[影うつる花のかがみの池水に底まで匂ふ春の夜の月](茂睡[鳥の迹]春71)、[禊ぎせし昨日の瀬々の白波にけさはたちそふ秋の初風](若むらさき:55立秋)、[矩豊(;名)の通称]通称;伊豆守、法名;芳心院/法号;日光
- F3527 **矩豊**(のりとも・前田まゐだ、通称;式部、孝矩男)?-1771 加賀金沢藩士/1713家督/56公事場奉行、1748「能登四郡御成箇郷帳」著  
教豊(のりとも・山科) → 家豊(いへとも・山科やまひな、廷臣/歌人) 1 1 4 8
- J3507 **則直**(のりなお・知久ちく、頼氏男)1584-164461 信濃伊那郡喬木村の阿島陣屋(領主)、先祖は知久郷本抛の豪族;1554領主頼元(祖父)が武田氏侵攻で捕縛斬首、1582(天正10)武田滅亡・信長没のなか京に潜伏の頼氏(父)が家康により旧領に復帰、1585(天正13)頼氏は家康の不興をかい切腹;嫡男則直(2歳)が家督嗣、1600(慶長5/17歳)関ヶ原で東軍に参加;功により阿島3千石の旗本となり陣屋を築く、陣屋は東西約145m/南北約110m/面積約16000㎡、歌人、則直→直政→昌直→頼久→頼直→頼中→頼膺→頼福→頼衍→頼匡→頼謙→頼温と続く、[則直(;名)の通称]通称;万亀/伊左衛門
- F3528 **宣直**(のりなお・藤木ふじき、幼名松福/通称但馬守、佳直男/本姓賀茂)1616-8368 神職/1661北面、1637但馬守/65新宮社禰宜、「遷宮次第」著、母;賀茂季長女、従直よりなおの兄
- F3529 **敬直**(のりなお・熊谷くまがい、字;徳通・号;止斎、甚六男)1679-172547歳 加賀藩士/知行150石、「享保年間之記」「止斎正記」著、[敬直の通称]伴六郎/忠右衛門
- F3530 **典直**(のりなお・桜山さくらやま、別名;兼典かねのり、左源太男)?-1824 尾張名古屋国学:1800本居宣長門、姉;植松有信妻、義兄植松有信の板木師に協力、「からころも」、「詠草」著、[典直の通称]弥与三郎/三郎右衛門
- H3508 **則直**(のりなお・新免しんめん、通称;摂津)?-? 江後期;美作英多郡国貞村の神社社祠、歌人;平賀元義門、1857-8大沢深臣「巨勢総社千首」入  
詮直(のりなお・肥田瀬ひたせ) → 詮直(あきなお・肥田瀬ひたせ、武将/歌) D 1 0 6 6
- F3531 **軌中**(のりなが・吉田よしだ、通称;八十郎/洪右衛門、喜左衛門男)1670-174172 加賀金沢藩士、1696家督継嗣、「前田四代自記」著
- 3523 **則長**(のりなが・橘たちばな、則光男/母;清少納言)982-103453 廷臣;進士/蔵人/図書権助/修理亮、式部丞/正五下/越中守、季通の兄、妻;歌人相模?、歌人、能因と交流、枕草子に逸話入、1033白河院子日歌合に召されたが不参加(;袋草子)/玄々集・続詞花集入、勅撰4首;後拾遺(301/312/473)新続古今(902;金葉集Ⅲ奏本429では藤原則長作)、[置く露にたわむ枝だにあるものを如何いかでか折らん宿の秋萩](後拾遺;秋301、家の花を人の乞ひ侍りければ/花の風情を惜しみ婉曲に断る)
- F3532 **則長**(のりなが・藤原ふじわら)? - ? 平安中期廷臣、歌:金葉Ⅲ429(但し玄々集・新続古902では橘則長作)  
[逢ふことを何に祈らむ神無月をりわびしくも別れぬるかな](金葉三奏本429/十月ばかりに別れける女のもとへ)  
則長(のりなが・橘、清少納言男?)と同一? → 則長(のりなが・橘) 3 5 2 3
- 3522 **範永**(のりなが・藤原ふじわら、通称;津入道、中清[仲清]男)?-?1077前没 母;藤原永頼女、平安中後期廷臣;1037尾張守/43従四位上/53但馬守/56正四下/62安房守、1065(康平8)撰津守、藤原頼通の家司/1070(延久2)頃出家、歌人;和歌六人党の一員/能因・家経・経衡らと交友、

1047八条山庄障子和歌合・50祐子内親王家歌合・寛子四条宮春秋歌合参加、  
1058/63女婿の藤原公基家歌合判者、家集「範永朝臣集」、  
玄々集・後葉集・続詞花集6首・新撰朗詠集・万代・雲葉集入、  
勅撰32首；後拾(14首23/49/207以下)金葉(3首Ⅱ422/Ⅲ3首)詞(2首)千(2首)新古(3首)以下、  
[たづねつる宿は霞にうづもれて谷の鶯一声ぞする](後拾遺；春23/俊綱邸での詠)、  
[藤原道雅催の八条山庄障子和歌合；山里に郭公を待てる人ある所を、

今朝きなけさやまが峰の時鳥やどもうすき衣かたしく](続詞花；夏106)、

妻 ； → 但馬(たじま、藤原能通よしみり女、歌人) O 2 6 9 5

→ 小式部内侍(こしきぶのないし、橘道貞女、母；和泉式部) 1 9 2 8

男(息)たち ；①良綱よしの(母；能通女但馬) ②清家よしいえ(母；能通女但馬)

③永綱(母；能通女但馬) ④季仲(出羽守) ⑤永賀(僧)

女(娘)たち ；①藤原知綱母(；白河乳母の惟経室とは別人)

②範永女(のりながのむすめ、頼宗・道子家女房、母は小式部内侍)

③藤原公基きんもと室(伊家こいゑ・伊信母) ④藤原忠綱妻(長兼・基兼母)

⑤藤原良綱妻

3521 教長(のりなが・藤原ふじわら、大納言忠教男)1109-?1180前没72? 母；大納言源俊明女、平安後期廷臣、  
1141参議；四下/崇徳院の側近/47従三位/49正三位、1156(久寿3)右中將・阿波権守辞任；  
左京大夫保となる/1156保元乱後に出家；常陸に配流、1162召還帰京、高野入道、  
歌人；崇徳院歌壇で活動；初度百首・1150久安百首参加、  
崇徳院皇子元性法印・守覚法親王に古今集を講ず、1156前「拾遺古今抄」撰(佚)、  
出家召還後も歌活動；1172広田社歌合/78別雷社歌合参、1166-80頃「三井寺山家歌合」判者、  
1172「東山尾坂歌合」催、書論「才葉抄」/家集「貧道集」、  
「教長卿記」「教長卿口伝卅五条」外著多数、  
後葉・続詞花・今撰・言葉・玄玉・万代・雲葉集など入集、  
勅撰37首；詞花(30/351)千載(10首57/155/221/393/451/727/800/953/1217/1218)、  
新古(13)新勅(1329)続後撰(684/797)続古(682)続拾(1115)新後撰(2首)玉葉(3首)以下、  
[ふるさとにとふ人あらば山桜散りなむのちを待てと答へよ](詞花；春30/百首歌奏上)  
[教長(；名)の幼名/通称/法名]幼名；文殊、通称；朱雀相公/入道宰相、法名；觀蓮

G3548 範長(のりなが) ? - ? 室町期尾張熱田神宮の神職、  
連歌；1423「熱田法楽連歌」連衆(1句)、

[ゆふつげ鳥のややさむき声](熱田法楽；賦山何二裏2/夕告鳥は鶏/晩秋の夜寒、  
前句；其阿；あかつきの雲又月に織り延はへて)

F3533 章長(のりなが・高辻たかつじ/本姓菅原、法名；慶学、長直男)1469-152557歳 廷臣；1494文章博士、  
1515権中納言、19式部大輔/晩年は越前在国/贈大納言、1494「和漢聯句懷紙」著

F3534 猷栄(のりなが・深河ふかがわ/本姓藤原)1695-176874 上総飢富おふ神社神官/従五下遠江守、  
「正道総論」著

F3535 規長(のりなが・甘露寺かんろじ、法号幽玄院、万里小路までのこうじ尚房男)1713-8371 甘露寺尚長の養嗣、  
廷臣；1740参議、1750権大納言/75従一位・神宮上卿/賀茂奉行、故実家、  
1727「規長卿記」34「蔵人拝賀記」著

3524 宣長(のりなが・本居もとおり、初名；栄貞よし[なが]さだ、小津おつ定利男)1730-180172 母；村田豊商女勝かつ、  
伊勢松阪の木綿商の生/1740(11歳)父病没/1748伊勢山田の紙商今井田家の養子；50離縁、  
1751実家の家督継承；松阪の木綿商、52上京/国学；堀景山門/医；堀元厚・武川建徳門、  
1757松阪で開業医、国学；1763松阪訪問の賀茂真淵と対面/64真淵門；書簡往復、門弟教育、  
先祖の本居に戻す/1792和歌山藩士；古典指導/1801藩奥医師、1763「源氏物語玉の小琴」、  
1763「紫文要領」791「新古今和歌集美濃の家づと」96「源氏物語玉の小櫛」98「古事記伝」、  
1798「うひ山ふみ」、「石上文集」「鈴屋集」「鈴屋集文集」「玉勝間」「宣長詠草」外多数、  
[師の説なりとてかならずなづみ守るべきにもあらず よきあしきをいはず  
ひたぶるに古きを守るは学問の道にはいふかひなきわざなり](玉勝間)、  
[さし出づる此日の本の光よりこまもろこしも春を知るらむ](鈴屋集；冒頭歌；年初)、  
[旅枕夢の名残りの鶏の音ねも都に似たるあかつきの空](鈴屋集；雑1427/旅宿鶏)、

[敷島の大和心を人とはば朝日にほふ山桜花] (春嶽[古今百人一首]入;51)、  
[宣長の通称/号]幼名;富之助、通称;真良しんりょう/弥四郎/健蔵、俳号;華丹[軒]/華風、  
号;芝蘭/春菴/舜庵/中衛/石上/石上散人/鈴屋/鈴廼舎、  
法名;伝誉英笑道与

☆鈴屋すずのや;36箇の小鈴を赤緒に貫き折々引き鳴らし遊ぼうと屋の柱に掛け置いた

- J3573 **則長**(のりなが・原田はらだ、)1778-183760 因幡気多郡の利川(はやかわ/としかわ)神社社司、和学者、  
原田永寛ながひろ(1807-1871/号;帯霞)と同族、  
[則長(;名)の通称]兵之助/秀丸/普伝/蔵人
- I3590 **憲長**(のりなが・田村たむら、号;八雲舎)1804-8784 近江甲賀郡の田村神社神職、  
歌人;[鴉のうみ]入、淡溪の養父  
宣長(のりなが・大隅) → 松亭(しょうてい・大隅おおすみ、神職) L 2 2 0 1  
教長(のりなが・小笠原) → 宗元(そうげん・小笠原おがさわら、武将/幕臣/連歌) H 2 5 1 2  
範長(のりなが・三好) → 長慶(ながよし・三好、戦国大名、連歌) G 3 2 3 5  
義良(憲良のりなが;親王) → 後村上天皇(ごむらかみてんのう、南朝/歌人) D 1 9 9 1
- F3536 **範永女**(のりながのむすめ・藤原範永[津入道]女、女房名;尾張)?-? 母小式部内侍、歌人;  
堀河右大臣頼宗家女房/承香殿女御(白河天皇女御道子[能長女])の女房、後拾819  
[うちはへてくゆるもくるしいかでなほよにすみがまのけぶりたえなむ](後拾十四恋819)
- K3511 **則成**(のりなり・宮田みやた/本姓;藤原、通称;甚三郎)?-? 江中後期;三河渥美郡住/吉田藩士、  
神道・国学;鈴木梁満やなまろ(1731-1817)門/歌;[類題三河歌集]入
- F3537 **徳成**(のりなり・溝口みぞぐち、通称;市摩・号;枯木)1775-184470 因幡鳥取藩士、  
日置流弓術;飯嶋眞弘門、日置流師範となる、「弓道秘訣抄」「羽文図考」著
- F3538 **教徳**(のりなり・川瀬かわせ、田丸直方男)1777-183862歳 川瀬七郎衛門教雄の養嗣子;水戸藩士、  
徒目付/寺社役/郡奉行/歴任、1818(文政元)藩政を批判;罷免され馬廻組;22蟄居、  
1828赦免;小普請組/30(天保元)復職;郡奉行/36勘定奉行;飢饉対策に奔走、  
「川瀬教徳書簡」著、  
[教徳(;名)の幼名/初名/通称]幼名;酉三郎、初名;直正、通称;七郎衛門、
- K3514 **徳成**(のりなり・村澤むらさき、徳風の長男)1822-8362 信濃飯田藩士、国学者/歌人、  
歌;桜井道賢・桜井春樹門、  
[徳成(;名)の初名/通称]初名;在尾、通称;潤吉/潤蔵
- H3549 **憲成**(のりなり・臼井うすい、号;草の屋)1849?-8638 加賀金沢藩士、歌人;  
維新後;金沢白鬚神社献詠会の宗匠;門人多数、「雅言略解」著  
憲成(のりなり・藤原) → 敦仲(敦中あつなか・藤原、廷臣/歌人) B 1 0 3 5  
則成(のりなり・源) → 則成(のりしげ・源、歌人) E 3 5 6 1  
紀成(のりなり・児山) → 紀成(のりしげ・児山、歌人) E 3 5 6 8  
法の関白(のりのかんぱく) → 寛助(かんじょ;法諱・善巧、真言僧) M 1 5 5 6  
矩之丞(憲之丞のりしのじょう・宇津木) → 静斎(せいさい・宇津木うつぎ、儒者) I 2 4 3 1  
範之進(のりしん・戸田) → 氏範(うじのり・戸田、幕臣/高家) C 1 2 5 8  
紀之進(のりしん・芳賀) → 猶昌(なおよさ・芳賀はが、国学者) O 3 2 2 7
- F3539 **詮信**(のりのが・桃井ももい、法名;浄伝、直信男/本姓;源;清和源氏)?-? 1387存 南北期武家;  
刑部少輔/五位、歌人;1387浄阿[隠岐高田明神百首和歌]に参加、  
勅撰4首;新後拾1132/新続古今370/1628/1962、  
[せめてただ聞きもつくさば別れぢの八声の鳥をさのみ恨みじ](新後拾遺1132;十三恋)  
[谷風の誘ひすてける花なれやうちいづる波も梅が香ぞする](高田明神歌;9/潤落梅)
- F3540 **則信**(のりのが) ? - ? 俳人;1666一雪「阿波千句」百韻入
- J3519 **宣信**(のりのが・堤つみ、大防だいぼう男)1771-183363 近江坂田郡の医者;父門、のち彦根に住、  
歌人;[彦根歌人伝・亀]入、義府(よしもの)の弟、  
[宣信(;名)の初名/字/通称/号]初名;信篤、字;子敬、通称;栄順、号;晋斎/集成堂
- I3596 **乗亶**(のりのが・高橋たかはし、旧姓;佐野)1815-9480 讃岐高松の国学者、国学/歌;友部方升まさのり門、  
[乗亶(;名)の通称]勇蔵/堅蔵/徳兵衛

- I3501 **格誠**(のりぶ・川瀬かわせ/本姓;源、)1833-1872<sup>40</sup> 京榎木町烏丸西の国学者/歌人;河本延之門、国学者;井上文雄・大国隆正・渡忠秋門、河本延之7周忌追善歌集[聲香集]編纂に参加、[格誠(;名)の通称/号]通称;徳兵衛、号;神樹園
- F3541 **憲信**(のりぶ/のりざね・中田なかた、有信男)1835-1910<sup>76</sup> 母;北小路家の律子、播磨明石の生、父は播磨高木邑主一柳家の家臣(地士);1843没(憲信9歳)、54池田昌訓の別宅養子、国学者;平田鋏胤・鈴木真年まとし門、南朝皇胤を自称、1867和泉陶荘陶器村の陶神社の神祇職/1868(慶応4)大依羅神社権神主、維新後;司法界1869弾正巡察属/弾正台に入/70弾正史生/71弾正少疏;大阪住/東京の司法省に転任、1872司法大録/76権少丞/裁判所の判事/91徳島地方裁判所の検事正/92甲府地裁所長、妻;明石郡大窪村石田晴貞女の籌子、太郎(早世)・寛子の父、養子;季信・政信、1900帝国古蹟取調会評議員/03同会主事/04東亜精華女学校初代校長/05国語会幹事長、国語仮名遣いの改定に参画、1910(明治43)神戸にて没、  
[皇胤志]「各家系譜」「諸系譜」「南方遺記」「皇胤志」「大久保村西向天満宮新碑」外著多数、  
[憲信(;名)の初名/通称/号]初名;伊和三、通称;図書/足穂、号;盟臺  
範信(のりぶ・冷泉/甘露寺)→ 経元(つねもと・甘露寺、廷臣/故実) D 2 9 9 7  
直宣(のりぶ・大中臣) → 尊宣(たかのぶ・饗庭あえば/源、武将/歌) M 2 6 6 6  
規宮(のりみや・有栖川) → 堯熙(ぎょうき;法諱・常磐井ときわい/近衛、真宗高田派) U 1 6 8 4
- F3542 **範春**(のりはる・高倉たかくら/本姓;藤原、範藤のりふじ男)1265-? 鎌倉期廷臣;1284三河守/1310非参議、1327出家/歌;03仙洞歌合参加、1304/5伏見院歌合の範春は後伏見院の借名→ 後伏見天皇(ごふしみてんのう) D 1 9 6 8
- K3505 **乗春**(のりはる・松平まつだいら/本姓;源、乗久[1633-86]2男)1654-90<sup>37</sup> 母;水野忠善女、江戸生、幕命で兄が松平忠弘の婿養子/1682(元和2)嫡子;従五下主水正、大給松平家宗家9代、1686(貞享3)父没;襲封;肥前唐津藩2代藩主;和泉守、90(元禄3)江戸に没、和学者、正室;くら姫(奥平昌能次女)、乗邑・忠暁・乗住・乗興の父、長男乗邑のりさと(1686-1746)が嗣、  
[乗春(;名)の通称]主水/主水正もんどしろう/和泉守
- K3507 **乗春**(のりはる・丸山まるやま、可澄よしずみ[活堂かつどう/1657-1731]男)?-1758 江中期常陸水戸藩士、儒者・神道家;父(光圀の下で大日本史編纂に貢献)門、神道師範、  
[乗春(;名)の通称]雲平(父の称)
- F3543 **孝玄**(のりはる・北島きたじま、通称;市正)?-? 江中期出雲大社上官、歌人、「神祇伯弓道」著
- F3544 **憲治**(のりはる・福沢ふくざわ、興治男)1796-1847<sup>52</sup> 信州上穂村の豪農/家督継嗣、民政家、1832(天保3)からの飢饉に米倉を開放炊出、食料野草の研究、山本近藤家の郡代格、歌;香川景樹門、1836救荒書「饑年要録」著、妻;大溝すは子(1843-66/歌人)、喬治たかはるの父、  
[憲治の通称/号]通称;彦四郎/六郎兵衛、号;駒嶺、法号;高臨院
- F3545 **命彦**(のりひこ・松木まつき/本姓;度会、初名;貞高、檜垣常好男)1733-98<sup>66</sup> 伊勢西河原の生、松木邑彦の養嗣子;伊勢外宮神官、正四上、「早懸葬祭伝辨」著、  
[命の通称] 八之丞/主殿とのも/内蔵くら/外記げき/越後/前作
- F3546 **範彦**(のりひこ・松木まつき/本姓度会わたらい、通称;宰記、栄彦さかひこ男)1773-1835<sup>63</sup> 伊勢外宮禰宜、1825一禰宜、1799「世木神社遷宮記」編、「範彦卿日次」著、茂彦しげひこの父、  
[外宮禰宜松木信彦家]信彦-因彦-高彦-圭彦-栄彦-範彦-茂彦
- K3500 **仙彦**(のりひこ・松木まつき/本姓;度会、旧姓;檜垣)1792-1816<sup>早世25</sup> 伊勢外宮禰宜、  
[仙彦(;名)の初名/通称]初名;末達、通称;大輔  
憲彦(のりひこ・西郷) → 近思(ちかもと・西郷、藩家老/儒/国学) C 2 8 0 5
- F3547 **教久**(のりひさ・賀茂かも、号;酒殿三品神主、遠久男)1284-1351<sup>68</sup> 神職;1346上賀茂社神主/従三位、歌;勅撰3首;風雅(2144)新千載(968)新拾遺(1411)、  
[世を祈る心を神やうけぬらし老いらくまでに我ぞつかふる](風雅;神祇2144)
- F3548 **範久**(のりひさ・高倉たかくら/本姓;藤原、通称;高三位、四辻よつ季経4男)1493-1546<sup>54</sup> 高倉範音の嗣子、1533(天文2)従三位/38正三位/1544参議/伊予権守、  
連歌:1527-40百韻3度・和漢聯句3度
- F3549 **教久**(のりひさ・松下まつした、通称;掃部助、述久のりひさ男/本姓;賀茂)?-? 江前期17ct初;上賀茂社神官、賀茂流蹴鞠の名手、

- 「蹴鞠秘伝書」「蹴鞠口伝之抄」「蹴鞠十卷書」、1631「蹴鞠之目録九十九箇条」著
- F3550 **矩久**(のりひさ・松下まつした、別名;富久/誉久、以久ゆきひさ男/本姓;賀茂)1602-8584 上賀茂社神主、兵部大輔、「神主松下矩久日記」、順久まさひさの父
- I3532 **教久**(のりひさ・黒須くろす、旧姓;大竹)1708-8174 信濃飯田藩士;寺社奉行、国学/歌人;依田正純・澄月門、  
[教久(;)名)の通称] 多守/楠右衛門
- F3551 **範古**(のりひさ・山崎まささき、権之丞2男)1786-186782歳 加賀金沢藩士;初め分家山崎長考の継嗣、1806兄長恒の後嗣となり宗家藩老家を継嗣;定火消/奏者番/公事場奉行/寺社奉行歴任、1823(安政6)家老、1863幕末混乱時に藩主と上洛/元治の変により帰藩後家老職罷免/閉門、不遇の中に没、1824「山崎家譜」著、  
[範古(;)名)の字/通称/号]字:君修、通称;直右衛門/庄兵衛、号;神斎/穩斎
- F3552 **法古**(のりひさ・高田たかだ、通称;幾太、法寛男)1811-6656歳 信州松代藩士、原八十子やそこ(1805-65/書歌人)の弟、国学/歌;木島菅麿・千種有功門、1841「伊勢路の栞」著
- J3548 **訓昶**(のりひさ・西尾にしお、) ? - ? 三河西尾藩士、  
国学者;足代弘訓ひろのり(1784-1856)門、歌人;[類題三河歌集]入、  
[訓昶(;)名)の通称/号]通称;孫左衛門、号;比々羅木園
- K3510 **則壽**(のりひさ・宮島みやじま/本姓;藤原、)1804-? 越後蒲原郡三条の大庄屋、国学者;平田篤胤門、老安としやす(1810-34)の兄、  
[則壽(;)名)の初名/通称]初名;老通としみち、通称;儀左衛門/弥五兵衛
- I3533 **教久**(のりひさ・黒須くろす、通称;一郎兵衛)?-1867 信濃飯田藩士、国学・歌人;岩沢幸年門、  
則久(のりひさ・銚屋) → 慈悲成(じひなり・桜川、銚職/戯作/落語) 2 1 3 0  
憲古(のりひさ・杉森) → 巽軒(そんけん・志賀/杉森、藩儒/教育) E 2 5 7 8
- F3553 **範秀**(のりひで・小串おぐし/こぐし/本姓;藤原、河村[小串]観秀or貞秀男)?-1340 鎌倉武士、六波羅探題常葉範貞の家臣/北条一族常葉家被官、六位・右衛門尉、1333出家/一山一寧門、雪村友梅門、宴曲作者;早歌「少林+訣」/1306早歌「拾葉集;曹源宗そうげんしゅう」作詞、琵琶伝授、播磨知足庵に没、範行のりゆきの父、歌人;続現葉集/柳風和歌抄入集、勅撰5首;玉葉(2105)続千載(1622/1796)続後拾遺(1085)風雅(1937)、  
[浦あれて風よりのぼる入り潮におろさぬ舟ぞ波に浮きぬる](玉葉;雑2105)、  
[吹きすぐる木ずゑのあとにしばしなほ風をおくりてちる桜かな](柳風抄;春32)、  
[範秀の通称/道号法諱] 通称;六郎右衛門/七郎、道号;雲岩[巖]/法諱;聖秀、雲巖居士
- F3554 **教秀**(のりひで・勸修寺かじゅうじ、勸修寺贈左大臣、経成つねなり男/本姓;藤原)1426-9671 廷臣;1453参議、1471権大納言/96准大臣/左大臣追贈、女藤子[豊楽門院]は後柏原天皇妃(後奈良天皇母)、詩;1446文安詩歌合参加/歌;1473甘露寺親長家歌合/75親長催「公武歌合」参加、連歌:88何路百韻・79/82和漢句、新菟6句入、  
[中空の月はさ枝のひまもりて影もすぐなる竹の一むら](公武歌合;廿番月下竹右)
- F3555 **範英**(のりひで・吉良きら/今川直房いまがわなおふさ、今川範以のりもち男/本姓源)1594-166168 旗本/幕臣、母;利正院(吉良義安女)/1607(慶長12)父病没/母が公家の大炊御門経頼と再婚、兄弟共に祖父今川氏真に養育;1611(慶長16)祖父今川家を継嗣;禄5百石、高家今川家初代当主;1636奥高家、将軍家光の日光東照社に参詣に吉良義冬と衣紋の役、公卿・門跡の江戸参府の際の接待役/京御所・伊勢・日光への代参使など、1645家光の宮号[東照宮]の宣下に尽力し実現;その功績で武蔵3村加増;所領千石、将軍家綱の代にも活躍;左近衛少将、1661御所炎上の見舞に京都御使とし上洛、同年没、今川氏中興の祖とされる、男子早世のため直房の妹の孫の氏堯(岡山弥清男)が家督嗣、「今川史料」著、  
[範英の通称/法号] 通称;五郎/主膳/主膳正/刑部大輔、法号;青公  
☆1682河瀬菅雄編[麓の塵]12首入の[源直房]と同一?、  
[薄霞今朝たち初めて来る春の空にしらるるみ吉野の山](麓の塵;3/立春)
- F3556 **則栄**(のりひで・入江いへ、後名;則敬のりよし、為茂2男)1727-8862歳 京三条家の諸太夫/正四位下、歌人、1779「詠歌金玉論」、「小窓秘記」著、  
[則栄(;)初名)の通称] 和泉守/左馬権助/中務少丞

- I3540 **則栄**(のりひで・小島こじま、)? - ? 江中後期;幕臣;大御番頭与力、歌人;日野資枝すけ(1737-1801)門;堂上派歌学を修学、  
[則栄(;名)の通称/号]通称;七右衛門、号;桂山
- F3557 **敬英**(のりひで・谷井たにい、字;世昌、号;玉州/高台)1763-1820/21頃没58or59歳 紀伊田辺の生;幼時期に聴力失う、江戸で医を修学/儒を志し諸国歴遊、1800加賀金沢住;楠部屋芸台(楠部肇)に寄食、富田景周・津田鳳卿・林蓀坡と交流、1816「玉州文集」、「韓非子訳解」著、「産科発蒙」校
- F3558 **敬英**(のりひで・那須なす、別名敬美、通称;孝助/幸助)1807-6357 陸前岩沼の国学者;本居内遠門、「不忘山帰行」著  
敬英(のりひで・安井) → 玉洲(ぎよくしゅう・安井やすい、漢学者) P 1 6 0 7  
徳栄(とくえい・のりひで) → 国華(こっか・松永まつなが、藩士/儒/国学) G 1 9 5 4  
規秀(のりひで・松波/齋藤/長井) → 道三(どうさん・齋藤、戦国武将) E 3 1 6 8  
憲仁(のりひと) → 高倉天皇(たかくらてんのう、詩歌) C 2 6 7 5
- G3548 **範平**(のりひら・土肥とい、通称;弥次郎)?-? 室町期熱田神宮の神職、連歌;1423「応永三十年熱田法楽百韻連歌」連衆(3句)、  
[はるばると来ても都は程とほし](熱田法楽;初裏9/前句;山より近き入りあひの声;祐阿)
- F3559 **教平**(のりひら・鷹司たかつかさ、法号;一致院、信尚のぶひさ男/本姓藤原)1609-6860 廷臣;1640左大臣、従一位、詩歌;随庵空性親王門、「鷹司教平詠詩歌」「鷹司教平消息」著  
[教平(;名)の別名]雲/謙/公  
登平(のりひら・源) → 登平(みちひら・源、歌人) C 4 1 3 4  
教平(のりひら・九条) → 忠基(ただもと・九条くじょう、関白/歌人) F 2 6 9 2  
乗平(のりひら・藤尾) → 秀成(ひでなり・藤尾ふじお、歌人) K 3 7 8 4  
憲平(のりひら・親王) → 冷泉天皇(れいぜいてんのう) 5 1 0 4
- F3560 **教弘**(のりひろ・大内/本姓多々良、持世養嗣)1420-6546歳 周防長門・豊前筑前守護/左京大夫、大膳大夫、安藝石見肥前を領有/伊予出陣中に没、歌・連歌;築山館で歌会・連歌会催/雪舟を庇護、連歌:新菟7句入、  
[教弘の号] 法号;關雲寺大基、神号;築山大明神
- F3561 **則広**(のりひろ・鹿島かしま/本姓;中臣、鹿島則盛男)1581-165373 常陸鹿島神宮大宮司、1619「鹿嶋社遷宮入目書」著
- I3569 **教広**(のりひろ・滋野井いげのり/本姓;藤原、権大納言季吉男)1620-8970 京の廷臣;滋野井冬晴の猶子、1638従五上侍従、1646従四下左近中将/従三位/1664(寛文4)安藝に配流、歌人、妻;中務卿(常子内親王乳母)、実光(土佐配流)・五辻英仲の父  
安藝広島尾長天神宮にての詠;  
[世にあふく黒髪山の峯よりやなびく尾長の霞なるらむ]
- F3562 **矩広**(のりひろ・松前まつまえ、通称兵庫、法号矩広院、高広男)1659-172062 蝦夷松前藩主/1665襲封、家臣間の権力争を押え藩政改革、歌/画/彫刻、「蝦夷地風俗書上」「松前藩公儀江上ル書」著
- F3563 **乗寛**(のりひろ・松平まつだいら、乗完のりさだ男)1777-183963 三河西尾藩主/1793襲封/1801奏者番、1822老中、左衛門佐/和泉守、乗全のりやす・乗秩の父、「諸鳥図説」「草木図説」編、
- F3564 **則沆**(のりひろ・高木たかぎ) ? - ? 地下歌人、1807刊「累葉集類題」編
- F3565 **則裕**(のりひろ・友野とも、孫右衛門男)1811-9282歳 備前上道郡東川原村の和算家;片山金弥門、書;林治右衛門門1838長男晋と岡山西中山下に槐南学舎を創設;子弟教育、1839岡山藩出仕;閑谷齋の教授、維新後;1870藩学校の文学三等教授として数学を教授、1831「算法問答図解」、「加算録」「雑問解」「算道秘事」著、「雑問」「算学道案内百千冊」編、  
[則裕(;名)の幼名/別名/通称/法号]幼名;寿吉、別名;則祐、通称;重吉、法号;随導院
- F3566 **憲寛**(のりひろ・広田ひろた、号;九鱗)1818-8871歳 越前大野藩士/武芸;1853大砲稽古;象山門、蘭学;伊藤慎蔵門/1861藩校洋学館教授、1864「増補改正訳鍵やくげん」著、  
[憲寛(;名)の通称] 吉之助/敬次郎/文吉/儀太夫
- J3523 **記博**(のりひろ・角田つのだ、)1827-189670 豊前築城郡の神職、神道・国学;定村直孝門  
[記博(;名)の通称/号]通称;美作守、号;不聡庵
- F3567 **徳広**(のりひろ・松前まつまえ、松前藩主昌広長男)1844-68早世25 大叔父蝦夷松前藩主松前崇広の養嗣、

蝦夷福山城に生/1853世子/58従五位下・志摩守/66(慶応2)崇広没;松前藩襲封、文人、多病衰弱;重臣が政務、1868藩内派閥抗争/榎本武揚軍来襲:陸奥へ脱出、弘前で没、長男修広が家督嗣、和漢洋の学を修学/歌人;「玉鉾集」著、「災妖考」「蝦夷島奇観補註」著、歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、

[駿河なる富士の高嶺は末広き御代にあふぎの姿なりけり](大江戸倭歌;雑2031)、  
[徳広(;名)の幼名/字/通称/号]幼名;明之助、字;胖甫、通称;準之助/準之丞、号;桜陰、  
法号;寛裕院

憲熙(のりひろ・毛利) → 斉熙(なりひろ・毛利、藩主/俗謡作) I 3 2 0 7  
規弘(のりひろ・西) → 元哲(げんてつ・西にし、蘭外科医/奥医) L 1 8 6 3  
規広(のりひろ・齋藤) → 規房(のりふさ・齋藤さいとう、藩士/神道家) I 3 5 6 1  
教弘(のりひろ・天野) → 宗歩(そうほ・天野あまの/平、棋士) I 2 5 8 7  
則弘(のりひろ・間崎) → 滄浪(そうろう・間崎まさき、儒者/尊攘派) D 2 5 2 7

F3596 憲房(のりふさ・藤原ふじわら、惟憲男)?-1073 母;藤原親明女、平安中期廷臣;丹後/尾張/阿波/讃岐守、詩;1051「侍臣詩合」56「殿上詩合」参加(;源経信らと)、妻;藤原定輔女、女;白川頭康室(頭広母)

F3568 教房(のりふさ・一条いちじょう、一字名;方、兼良の長男/本姓;藤原) 1423-80 58歳 母;中御門宣俊女、室町戦国期廷臣、1439従三位;権中納言/57左大臣/58関白/氏長者/59従一位、和漢学修学、1467応仁乱を避け家領の土佐幡多荘中村へ下向;土佐一条家の祖、都文化を土佐に移す、歌;1443前撰政家歌合参加/詩;1446文安詩歌合参加、連歌:「源氏国名百韻」、新菟7句入、[教房(;名)の法号]法号;宗恵、冬良の兄、政房・房家の父

F3569 則房(のりふさ・赤松あかまつ、通称;弥三郎、義祐よけ男) 1545-89 or 98 45? 武将:播磨置塩城主;1565家督継嗣/上総介、1580戦功により阿波を領有、「雑談聞書」著

F3570 範房(のりふさ・堤つづみ/本姓;藤原、) 1750-1820 71 肥前佐賀藩士/歌:正親町実連門、1811「雨中廻登幾うちゅうのとき」編(随筆)  
[範房(;名)の通称/号]通称;主礼、号;宗魯/以心庵/乙馬

I3561 規房(のりふさ・齋藤さいとう、規敦のりあつ男) 1769-1839 71 陸奥弘前の津軽藩士、神道;後藤善佑門、1789藩籍を剥奪/1790江戸の吉川従門門、帰郷;弘前で寺子屋開設、1809再び藩出仕、1813(文化10)国学師範、1822重病の吉川従方からの要請で江戸吉川家に詰める、1825(文政8)帰藩;26八左衛門を継嗣/28学問所和学方御用掛/29高岡神社祭司手代;1830高岡神社祭司、妻;知賀、「神書講述習之心得」(;吉川神道の奥義)、「規房日記」著、[規房(;名)の幼名/別名/通称]幼名;富太郎、別名;規広、  
通称;鉦右衛門/八郎左衛門(父の称))

宣房(のりふさ・万里小路) → 宣房(のりふさ・万里小路までのこうじ、廷臣) D 3 5 1 8

則房(のりふさ・鹿島/中臣) → 則峰(のりみね・鹿島かしま/中臣/富田、神職) F 3 5 9 1

F3571 範藤(のりふさ・高倉たかくら/本姓;藤原、範継男)?-? 母;平信繁女、鎌倉期廷臣;1289非参議/左兵衛督、従三位;1280伏見天皇東宮時の近侍、1292出家、琵琶・鞆鼓に長ず、歌;1280宮中歌会参加/80源氏論議に参加、勅撰2首;新後撰1250/玉葉2358、  
[咲く花の心づからの色をだに見はてぬほどに春風ぞ吹く](新後撰;雑1250、  
心づからは自分の心からの意)

F3572 徳章(のりふさ・渋井しぶい、通称;伊右衛門、太室[1720-88]の従弟)?-? 江中期儒者/伝記作者;「勢免天(責而)話草せめてはぐさ」著(47巻)、「徳章詩稿」著

G3598 憲文(のりふさ・中島なかしま) ? - ? 江後期;歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[むすぼれし心もとけぬ吾妹子わざもが手引の糸のよりもあふよは]、  
(大江戸倭歌;1433/逢恋)

K3538 則文(のりふさ・若松わかまつ、通称;次右衛門/号;南坡)?-1859 薩摩鹿兒島の国学者/絵師、歌人;山田清安・香川景樹・八田知紀門、四条派絵師;師は不詳

F3573 則文(のりふさ・鹿島かしま、号;桜宇、則孝男) 1839-1901 63歳 常陸鹿島の儒者;吉川天浦・安井息軒門、国学・歌も修学、1862上京;諸藩有志と交流/帰郷後;鹿島に文武館創設;子弟教育、幕府に忌まれ1866(慶応元)八丈島に流罪、1869赦免;帰郷/73鹿島神宮宮司/84伊勢宮司、1898(明31)辞職;皇學館を設立、「古事類苑」編纂に尽力、珍籍奇書蒐集;[桜山文庫]創設、

「王事暇」著

- K3566 **範政**(のりまさ・中原なかはら、遠江守俊光男)1050-1106<sup>57</sup> 平安後期廷臣;明法博士、初代中原有象の子孫、天文密奏の師任の孫、檢非違使/左衛門大尉、明法道坂上一流の祖(;尊卑分脈入/明法家坂上定成の猶子?)、袋草紙;申文に副えた訴歎の歌あり;  
[先に積むなげきは下に埋もれて下衆けの思ひは苦しかりけり](投げ木と歎きの掛詞、初め積重ねた薪は下に埋もれ燃えにくいように下位の者は何も言えず苦しい)
- F3574 **教雅**(のりまさ・飛鳥井あすかい/二条/本姓藤原、雅経男)?-1230<sup>早世</sup> 母;大江広元女、左少将、教定の兄、蹴鞠の秘事故実を相伝、歌人;飛鳥井家嫡流とし人麻呂の影像を伝承、古今集相伝前に没、勅撰7首;新勅撰(228/916)続後撰(219/452)続古今(1779)続拾遺(444)新続古(171)、[枯れはててのちはなにせむ浅茅生あさひに秋こそ人をまつむしの声](新勅;秋228)
- G3553 **則雅**(のりまさ・源みなもと?) ? - ? 鎌倉期廷臣、歌;1275家経催「摂政家月十首歌合」参加、  
[暮れぬとて山のはいそぐ月影のしばしやすらふ松のむら立ち](月十首;十二松月出山)
- F3575 **詮政**(のりまさ・斯波しば/本姓;源、詮経男)?-? 南北期廷臣;五位、歌人/勅撰3首;新後拾遺(609/706)新続古今(2027)、  
[初瀬山花のあたりはさやかにてよそより暮るる入相の鐘](新後拾;雑春609)
- 3525 **範政**(のりまさ・今川いまがわ、泰範男/本姓;源)1384-1433<sup>50</sup> 駿河の武将/守護;1409家督継嗣、従四下、民部大輔、1415頃より多くの古典・歌書の書写・校合、源氏物語・万葉集の研究、1432足利義教の富士遊覧に際し望岳亭を新造し接待、正徹と親交;「正徹百首」評、1432「源氏物語提要」、「源氏物語系図」「浅間宮和歌」「富士記」著、「正広百首」判、勅撰;新続古今2首;1019/1910、範忠(彦五郎)・弥五郎・千代秋丸の父;3子係争中に没、  
[ひとめ見しかたぢの小野にかる草のつかのまもなど忘れざるらん](新続古;恋1019)  
[範政(;)名)の通称/法号]通称;五郎、法号;今林寺慶岳道賀
- F3576 **範正**(のりまさ・飯田いだ、雨男)1743-1802<sup>60歳</sup> 周防徳山藩士;父継嗣/小姓役、礼式に通ず、連歌;京花の本で修学、藩命で藩主毛利就隆・元次の詩歌文を編纂、1793(寛政5)「菟玖波の道大意」、99(寛政11)連歌論「連歌少補抄」著、  
[範正(;)名)の通称/号]通称;四郎五郎/与三/弁之介/与一左衛門、号;周原/蘆月園
- F3579 **礼政**(のりまさ・浅井あさい/通称;四郎左衛門)?-? 伊勢桑名藩士/江戸詰、天文を修学、松平定信(1758-1829)の命で「読翻訳蘭製球書」撰
- J3538 **徳政**(のりまさ・堀家ほりけ、中田重遠2男)1786-1823<sup>38</sup> 備中賀陽郡宮内村の旧家の生/母;藤岡津留、中田孝芳の弟、備津神社社家堀家広政の養子;吉備津神社社家を継嗣、国学;藤井高尚門、漢学;天野道斎門/江戸の太田錦城門、歌人、妻;佐伯喜智子きち(幾知子/歌人/緒方洪庵の姉)、輔政・藤井(大藤)高雅の父、  
[草も木もみどり色そふ春雨に人めかれ行く山かげのいほ]([吉備国歌集]入)、  
[徳政(;)名)の幼名/字/通称/号]幼名;常次郎、字;仲敏/中道、通称;式部、号;鯉陵
- F3577 **矩正**(のりまさ・前田まえだ、通称;数馬/式部、孝始たかもと男)?-? 加賀金沢藩士/1818家督継嗣、寺社奉行/40若年寄、国規くにり(1817-71)の父、1828「公事場記録」著、「聞届書」「若年寄御用留」編、「前田矩正集記」著
- F3578 **範正**(のりまさ・村垣むらがき、範行2男)1813-80<sup>68</sup> 旗本/幕臣;1831代々庭番/45細工頭/54勘定吟味役、海防掛・蝦夷地掛として蝦夷地や樺太巡視;ロシアとの国境確認、1855プチャーチン艦隊の再来日に際し筒井政憲・川路聖謨らと下田で応接/箱館表御用、東海道筋川々普請掛/1856箱館奉行;従五位下・淡路守、蝦夷調査・移民奨励・開拓事業推進、1857アイヌの間で蔓延の天然痘対策;桑田立斎らが派遣され大規模種痘、1858外国奉行/59神奈川奉行、1860(万延元)日米通商条約副使;渡米(正使;新見正興)、米国軍艦ポーハタン号にてサンフランシスコに到着/ワシントンD.C.で批准書交換、大西洋・南アフリカ・インドを経由で帰国;詳細記録「村垣淡路守公務日記」「遣米使節日記」著、帰国後禄5百石、1861対馬芋崎浦占拠の露艦ポサドニック号退去交渉、63作事奉行、1864(元治元)西丸留守居/若年寄支配寄合/68隠居;淡叟と号す、歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、

- [友千鳥浦より浦に音づれて波のたちみの安きをぞ聞く](大江戸倭歌;雑1858、箱根に在るとき佐渡奉行山岡景恭がやすに贈る[景恭は1854-60佐渡奉行]/返歌あり)、  
[範正(;名)の初名/通称/号]初名;範忠、通称;与三郎/淡路守、号;淡叟
- I3574 **憲正**(のりまさ・杉森すぎいもり、)1834-189764 筑後三池郡の国学者、  
国学;藩校伝習館国学教授西原晁樹あさき門、のち伝習館館長、此馬このまの父、  
[憲正(;名)の通称/号]通称;六郎兵衛、号;萩の屋主人
- K3523 **徳昌**(のりまさ・安仲やすなか、旧姓;樋口)1843-190159 豊前下毛郡黒石村の里正、国学者、  
[徳昌(;名)の初名/字/通称]初名;義胤、字;子文、通称;武十郎
- K3537 **教正**(のりまさ・吉田よしだ、)1845-190157 尾張愛知郡の神職、国学者、  
阿波那賀郡和食わき郷の蛭子神社社司  
乗政(のりまさ・相田) → 朝久(ともひさ・相田あいだ、書家) Q 3 1 3 6  
紀政(のりまさ・中島) → 円弥(えんや;通称・中島なかしま、儒者/歌) F 1 3 4 0  
[求林の通称] 七兵衛/昆布屋伊兵衛、法号;宗讚  
規正(のりまさ・村井) → 求林(きゅうりん・村井むらい、商/和算/歌) M 1 6 9 9  
則正(のりまさ・石川) → 柳溪(りゅうけい・石川いしかわ、儒者) D 4 9 5 8  
則昌(のりまさ・有馬) → 頼篋(よりゆき・有馬ありま、藩主/和算家) J 4 7 9 3  
宣将(のりまさ・岩間) → 清行(きよゆき・岩間いわま、藩士/歌人) T 1 6 5 5  
憲正(のりまさ・柏木) → 是心軒(4世ぜんしんけん・一翫、医者/華道家) K 2 4 6 3  
乗益(のりまさ・松平) → 乗邑(のりさと/のりむら・松平、藩主/老中) E 3 5 5 8  
則益(のりまさ・香月) → 春岑(はるみね・香月かつき、醸造業/国学) G 3 6 9 7
- F3580 **法麻呂**(のりまさ・磯氏きし:磯部の略か?、治孝男)?-? 陰陽師;大宰府勤務(敵軍動静把握を兼務)、  
正八位相当、730旅人の梅花宴参加:万葉三期歌836、  
[梅の花手折りかざして遊べども飽き足らぬ日は今日にしありけり](万葉;836)  
会侯(のりまさ・岩下) → 貞融(さだみち・岩下/滋野、国学者/歌) C 2 0 4 9
- F3581 **典見**(のりみち・荒井あらい、通称;文碩/号;茅屋、治孝男)?-? 江中後期明和-寛政1764-1801頃;  
陸奥(岩代)会津藩士、歌人、1769「茅屋和歌集」、「三島神社奉納法楽和歌千首」著、  
「見禰山紀行」「見禰山奉納百首和歌」著
- F3582 **章甫**(のりみち・勢多せた、章武のりたけ男/本姓中原)1830-9465 京の明法家;1858明法博士/正五下、  
故実家、維新後;大判事/皇学所教官  
「安政御造営記」「思の儘の記」「先朝紀略」「服仮要略抄」「和宮御縁組一件」著
- F3583 **教通**(のりみち・藤原ふじむら、道長男)996-107580 母;源雅信女の倫子、廷臣;1910従三位、  
左近衛大将/内大臣/右大臣/1058従一位/60左大臣/68関白、70太政大臣、天皇外戚に失敗、  
贈正一位、兄弟;頼通・頼宗・能信・長家・彰子・妍子ら、  
信長/歎子(後冷泉天皇中宮/皇太后)らの父、  
小式部内侍・赤染衛門と交渉;おのおの子を設く(小式部は男:静円を/赤染は女を産む)、  
「改元定部類」著、歌人;続詞花・雲葉・万代集入、玉葉集(1038;二条関白太政大臣名)、  
[かぞふればまだ行く末ぞはるかなる千世をかざれる君がよはひは](玉葉;賀1038、  
母従一位倫子の六十賀の詠)、  
[教通(;名)の通称]大二条殿/大二条関白/二条関白前大政大臣(続詞花集)
- F3584 **則途**(のりみち・赤松あかまつ/本姓;源、通称;能登四郎)?-? 室町期武士/歌人;  
1475甘露寺親長「公武歌合」参加、  
[やどせ袖かち野の月を分けずして露もまだひぬ波の枕に](公武歌合;二番右)
- F3585 **則通**(のりみち・稲葉いなば、佐倉藩鈴木正則男)1671-176090 武蔵の兵学者;山鹿高基門、  
武家典礼:水島卜也門、1727水戸藩士となる/53致仕、  
「稲葉百城」編/「小笠原流小記録」「百城図」著、  
[則通(;名)の通称/号]通称;源太夫、号;円齋、
- F3586 **宣道**(のりみち・岩間いわま、清行[忠助/宣将]男)?-? 江後期陸奥(陸中)盛岡藩士;御雇勘定方、  
岩間藤助家;1831家督嗣、歌人:高松保実門、三輪派歌人、1858(安政5)隠居、  
1839「三部集抄・六義十躰辨雑補抄」著、藤助宣親が家督嗣、  
[宣道(;名)の別名/通称/号]別名;宣能のりよし、通称;平作/忠助/理右衛門、

号;可楽/乙鳥つばくろ先生

岩間宜能(?-1867)は別人(宣道男)か?

- G3586 **憲道**(のりみち・木下きのした) ? - ? 江後期;歌人、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[よそにたく蚊遣のけぶり巡りきて葎むぐらの宿も住みよかりけり]、  
(大江戸倭歌;夏594/隣家蚊遣火)
- C3542 **準道**(のりみち・鈴木すずき、準之4男) 1841-1921<sup>81</sup> 越前福井藩士;1854兄病没;家督継嗣;藩に出仕、  
1864長州征伐に従軍/68郡奉行、維新後;政府の地方官/のち松平家家扶・福井市長、  
「井伊大老始末記」「長防征伐略記」「福井藩役々勤務雑誌」著、  
[準道(;名)の通称/号]通称;拾五郎、号;梅叟(ばいそう)、法号;養鶴院  
教通(のりみち・河野/越智)→ 通直(みちなお・河野こうの、武将/城主/連歌) C 4 1 0 6  
徳通(のりみち・熊谷) → 敬直(のりなお・熊谷くまがい、藩士/記録) F 3 5 2 9
- F3587 **則光**(のりみつ・橋たちばな、敏政男)?-? 平安中期廷臣/蔵人/斉信家司、前妻;清少納言(993離婚)、  
1019陸奥守(後妻同道)/後妻;橋行平女[光朝母こうちょうのはは;後拾遺歌人]、枕草子入、金葉349、  
[われひとり急ぐと思ひし東路あづまぢに垣根の梅はさきだちにけり](金葉;別部349、  
陸奥への途中逢坂の関より都へ遣す歌)、  
[子亡くなりて侍りける頃同じ思ひなるける人に遣はしける、  
かたらばやこのよの夢のはかなさを君ばかりこそ思ひあはせめ](続詞花集;哀傷417)、  
息;則長(前妻の子)・季通(前妻の子?)・光朝(後妻の子)  
妻 → 清少納言(せいしょうなごん) 2 4 1 0  
光朝母(こうちょうのはは;後拾遺歌人) B 1 9 7 5  
息 → 則長(のりなが・橋たちばな、後拾遺歌人) 3 6 2 3  
季通(季道すえみち・橋、後拾遺歌人) B 2 3 4 6
- F3588 **範光**(のりみつ・藤原ふじわら、範兼男/母;源俊重女) 1154-1213<sup>60</sup> 廷臣;大蔵卿/1201(建仁元)従三位、  
1202(建仁2)参議/正三位/03権中納言/辞任/04(元久2)民部卿/従二位/05東宮権大夫、  
1207出家、平家都落に尊成親王(後鳥羽)を伴い追おうとする妹範子を留め親王即位に導く、  
後鳥羽院の側近、範子(後鳥羽院乳母、承明門院在子の母)・兼子(後鳥羽院乳母)の弟、  
範朝(正二位中納言)・範芸・範方の父、  
歌人;1200正治百首参加/当座歌合両度参加/石清水若宮歌合参加、雲葉集入、  
勅撰3首;新古今207・1506/続拾遺753、  
[百首歌奉りし時 夏歌の中に、  
時鳥なほ一こゑは思ひいでよおいそのもりの夜半のむかしを](新古;夏207、  
正治百首1529/老蘇の杜は近江蒲生郡の歌枕;  
☆あづまぢの思い出にせん時鳥老蘇の杜の夜半の一声/大江公資すけより/後拾;夏195)、  
[建仁二年(1202)新宮歌合に 嵐吹寒草、  
荻原やけさはよれはにふきかへて嵐になりぬ野辺の秋風](雲葉;秋689)
- F3589 **意光**(のりみつ・裏松うらまつ、資清すけきよ男/本姓藤原) 1652-1707<sup>56</sup> 廷臣;1684参議権/91中納言/正二位、  
歌人/能書家、1706「維摩会私記」、法号;玉雲院、益光すけみつ父
- G3550 **則満**(のりみつ・古山ふるやま) 1716-1765<sup>50</sup> 陸前仙台藩士;小姓/出入司、1760婚事を掌って上京;  
成就せず帰国後致仕;隠棲、歌人、1863(文久3)「磯まくら」著、  
[則満(;名)の通称/号]通称;九三郎/治太夫/丈太夫/主水、号;甘節堂如衡
- H3594 **則満**(のりみつ・塩谷おたに、名;幸木、好古男) 1819-77<sup>59</sup> 美濃岐阜伊奈波いなば神社祠官;  
1841(天保12)就任/従五下/出雲守、歌;香川景恒門、  
伊奈波山の出雲館の花の寮で桂園派の歌会を主催、豊島夏海・片桐春好らと交流、  
[いつみてもあかぬ所に残りけり花の木の間あり明の月](歌会)
- J3562 **徳光**(のりみつ・橋本はしもと) 1826-1902<sup>77</sup> 備後尾道の町年寄、国学・歌;近藤芳樹・中村良顕門、  
[徳光(;名)の字/通称/号]字;伯厚、通称;吉兵衛、号;静娛/千秋廼家菊満  
紀光(のりみつ・柳原) → 紀光(もとみつ・柳原、史学/詩歌人) E 4 4 3 9  
宣光(のりみつ・中御門) → 資胤(すけたね・中御門、中納言) G 2 3 4 2  
宣光(のりみつ・鷺津) → 毅堂(きどう・鷺津はしう、儒者) G 1 6 0 1

宣光(のりみつ・寺部) → 宣光(のぶみつ・寺部てらべ/大伴、神職/歌) G 3 5 4 4

- F3591 **則峰**(のりみね・鹿島かしま/本姓;中臣、春日社司富田[中臣]光知4男) 1756-1804 49 奈良の神職、常陸鹿島神宮大宮司鹿島則備の養子:1769鹿島に赴く;76鹿島神宮大宮司を継嗣、1786従五下/大和守、1778-9「御占焼執行之記」、「自詠草」著、則瓊(のりよし)の父、[則峰(;)名)の幼名/初名/通称]幼名;梅千代、初名;則房、通称;主税(ちから)/右衛門
- F3592 **範宗**(のりむね・藤原ふじわら、治部少輔基明男) 1171-1233 63 母:源延俊女、俊憲孫/信西の曾孫、廷臣;1183蔵人/84安藝守、1205齋宮頭/11丹後守/19中宮亮/25従三位/非参議、順徳天皇内裏歌壇で承久乱(1221)まで活躍、道家・教実ら九条家和歌行事にも参加、1213内裏詩歌合/14内裏歌合/15内裏名所百首/16内裏百番歌合参加、1218-9道助法親王家五十首参加、承久乱後:1232石清水若宮歌合・洞院摂政家百首参加、家集「郁芳三品集(範宗集)」、続歌仙落書に撰出、雲葉・閑月・万代集入、1233没;定家は[昨今無常殊以悲痛]と慨嘆、勅撰14首;新勅(6首;347/984/999/1008/1184/1297)続後撰(75)新後撰(899)玉(640)以下、[露しぐれ染めはててけりをぐら山けふやちしほの峰のもみぢ葉](新勅撰;五秋347)
- F3593 **憲宗**(のりむね・大中臣おおなかとみ) ?- ? 連歌、1356成立「菟玖波集」3句入(1097/1518/1677)、[鳥の鳴く里の旅寝の夢覚めて](菟玖波;羈旅1097/前句;鐘はかりこそ暁をしれ)
- G3555 **則宗**(のりむね・浦上うらがみ/本姓;紀、昌勝男or宗安男) 1429-1502 74 武将/美作守;赤松政則の家臣、嘉吉乱で滅びた赤松家の再興に尽力/侍所・所司代・守護奉行人を歴任、1467応仁乱では細川勝元軍に属す/1484赤松政則を廃し有馬慶寿丸を立てる、1494政則の嗣子義村を奉じ播磨の紛争を鎮圧、連歌;1383本能寺「何路百韻」参加、「宗祇則宗山何百韻」、新撰菟玖波集3句入、[則宗(;)名)の号/法名]号;悦窓、法名;宗高/法号;祐忻
- F3594 **範致**(のりむね・村上むらかみ、照員の長男) 1808-72 65歳 三河田原藩山浜代官の家;1827家督継嗣、藩校成章館に修学/家老渡辺崋山門、剣術;杉山大助門/西洋流砲術;1841高島秋帆門、帰藩後;高島流師範;門弟多数/1857藩主三宅康保に勧め藩軍制を西洋流に改革、西洋流帆船順応丸を建造;自ら操縦し江戸に渡る、1859田原藩家老;執政/秩禄百20石、1862(文久2)幕府講武所西洋砲術世話役に就任、維新後;大参事、1843「銃陣初学抄」56「漂民間書」、「西洋流奥義大鑑」「奥義大鑑」著、[範致(;)名)の幼名/通称/号]幼名;喜之助、通称;定平/財右衛門、号;清谷
- K3513 **格致**(のりむね・村上むらかみ、別名;格知) 1833-1910 78 伊予松山藩士/国学者、東雲神社宮司  
範宗(のりむね・稲若) → 範行(のりゆき・稲若いなわか、藩士/武術/歌) H 3 5 3 9  
則致(のりむね・曾我部) → 正積(まさかず・曾我部そがべ、国学/歌人) Q 4 0 4 2
- F3595 **乗邨**(のりむら・駒井こまい、字;君聚、通称;忠兵衛、田中忠兵衛2男) 1766-1846 81 駒井官太夫の養嗣子、養家家督継嗣;磐城白河藩士;大小姓/記録役/郡代、1823藩主松平定永転封;伊勢桑名藩士、官奉行/大目付/江戸詰奉行を歴任、国学;富樫広蔭門/歌;水野為長門/俳諧;竹庵門、日常の雑事を記録;千余巻、1796「乙卯随筆」1815「鶯宿雑記」、「知多日記」著、[乗邨(;)名)の号]鶯宿/春院/梅軒/喜叟
- 乗邑(のりむら・松平) → 乗邑(のりさと/のりむら・松平、藩主/老中) E 3 5 5 8
- F3597 **範以**(のりもち・今川いまがわ、通称;五郎/左馬助、法号徳報院、氏真男) 1570-1607 38 母;北条氏康女、武将、父と同様徳川家家臣、京に住/連歌作者:1596「慶長元年10月14日何木百韻」(徳善院[前田玄以げんい]と)
- F3598 **徳用**(のりもち・近藤こんどう、通称;竹之助/登助、法号;浄覚、昌用男) 1661-99 39 幕臣/1682家督継嗣、百人組組頭、文筆:「雨夜すさみ草」著
- F3599 **憲基**(のりもと・丹波たんば、重基or頼康男) 1123-? 1183 存 医者;権針博士/施薬院使/侍医/1183出家、「病源抄」著、知康ともやすの弟
- G3500 **範基**(のりもと・藤原ふじわら、範光男) 1180-1226 47歳 母;藤原範朝女、鎌倉期廷臣;11198蔵人/従五下、1199刑部少輔/1205従五上右馬権頭/丹波守・播磨守従四上/治部卿/1219非参議従三位、美作温泉にて没、歌;1213内裏詩歌合参加(群書類従223所収)[庵いほしめて山のかひあるみ吉野の花より出づる月を見るかな](内裏詩歌;一番右)

- G3501 **教基**(のりもと・二条じょう/本姓:藤原、師基男)?-? 1377存 南朝廷臣;左大将/1347従三位、1359従一位関白/左大臣、1377出家、冬実ふゆぎねの父、歌:1375「南朝五百番歌合」参加、新葉集(13首108/245/290/486/496/679/861/875/986/1098/1102/1317/1400)、  
[忘れじなまたいでぬとも芳野山なれてみとせの花の下陰](新葉;春108/五百番歌合)  
娘 → 教子(きょうし・二条、長慶天皇の妃/歌人) N 1 6 9 0
- H3586 **德基**(のりもと・加藤かとう/旧姓:清水、) 1756-1835 80 安藝広島藩儒、国学;加藤友徳(豈苟かいこう)門、  
[德基(;名)の別名/通称/号]別名;友諒、通称;三平、号;中瀬/定齋
- J3514 **德基**(のりもと・津守つり、国礼くにあや男) 1795-1872 78 摂津住吉神職家の生/歌人・書家、  
河内志紀郡国府に住、栄達を望まず河内の山水を愛す/書・歌を指導、  
[德基(;名)の通称/号]通称;兵部、号;蝙蝠山人へんぶくさんじん  
範元(のりもと・安倍) → 寂恵(じやくえ、順教房、陰陽師、歌人) G 2 1 0 7  
礼幹(のりもと・青地浚新齋) → 浚新齋(しゅんしんさい・青地、文筆) K 2 1 0 0  
德基(のりもと・古川) → 松根(まつね・古川ふるかわ、藩士/国学/歌) J 4 0 8 3  
德基(のりもと・薮) → 関月(かんげつ・薮しとみ/柳原、絵師) D 1 5 5 8
- 3516 **憲盛**(のりもり・藤原ふじわら) ? - ? 平安後期廷臣;式部丞/散位従五下/歌人、  
1165以前;私撰「拾遺現存」撰、1160清輔歌合参、70住吉社歌合/72広田社歌合参加、  
(尊卑分脈には不出)、  
[月のすむ難波の浦の景色には神の心もたえずやあるらむ](住吉歌合;社頭月十九番右)  
憲成と同一? → 敦仲(敦中あつなか・藤原憲成、別雷歌合参、「続現存」撰) B 1 0 3 5
- G3502 **教盛**(のりもり・平たいら、忠盛男/清盛の弟) 1128-1185 入水 武将;越中守/権中納言、  
行家を破る/壇ノ浦で敗戦;入水
- G3503 **則盛**(のりもり・鹿島かしま/中臣、則興男) 1568-1614 47 神職;1604常陸鹿島神宮大宮司、  
徳川家康の願により神社建立、1605「家康公御建立之一巻」著  
徳盛(のりもり・森田) → 千庵(せんあん・森田もりた、蘭学/医者) L 2 4 5 5
- G3504 **教盛母**(のりもりのは・平たいら、藤原家隆[1158-1237]女)?-? 待賢門院出仕の女房、  
平忠盛の妾;1128教盛を生む、歌:続詞花集入(658;新古今1400とほぼ同じ)、新古今1400、  
[ならはねば人の問はぬもつらからでくやしきにこそ袖は濡れけれ](新古;恋1400、  
忠盛がかれがれののち訪ねないことを恨んでいないかと言ってよこしたので返歌)  
ならはねばは人を恨むことに馴れていないのでの意/人を見損なった悔しさに泣く)  
糊屋(のりや) → 芳瀧(よしたき・歌川うたがわ/中井、絵師) E 4 7 1 5
- I3584 **教怡**(のりやす・仙田せんた、通称;文太夫)?-1703 佐渡相川の和学者/連歌・歌人
- I3572 **則安**(のりやす・末松すえまつ、) 1706-1862 57 筑前鞍手郡楠橋村の里正、国学者、  
[則安(;名)の通称]徳四郎/三郎平
- G3565 **範保**(のりやす・佐伯さえき/本姓:藤原)?-? 紀伊和歌山藩士、国学者;本居大平門、  
大平撰「八十浦の玉」下巻入、  
[みやびをの来つつめで見し我が宿の岡山もみち散らまくはをし](八十浦;842庭紅葉)
- G3505 **則恭**(のりやす・黒田くろだ、林恭男/実は則整2男) 1776-1865 90 岩代二本松藩士、大目付/旗奉行、  
和漢学に精通;諸藩の学者と交流、「続世臣伝」編纂に尽力、「二本松藩廢絶家録」著、  
隠居後は風雅の道に遊ぶ、  
[則恭(;名)の通称/号]通称;九八郎/伝太夫、号;垂井淡齋(隠居号)、法号;豪相院
- G3506 **則休**(のりやす・西山にしやま、八田高兼男) 1777-1860 84歳 西山家の養嗣子;因幡鳥取藩士;  
1784養家の家督を継嗣、1816近習、20病気のため致仕、武道;槍剣水泳に通ず、  
記録「武芸伝統録」著、  
[則休(;名)の通称/号]通称;金之丞/六右衛門、号;紅山
- G3507 **乗全**(のりやす/のりたけ・松平まつだいら、乗寛のりひろ男) 1794-1870 77歳 母;福山藩主阿部正倫女のリエ、  
三河西尾藩主/1840襲封、従四下/和泉守、奏者番/寺社奉行/大坂城代/西丸老中を歴任、  
1848-60老中;井伊直弼の信任厚い、1862致仕、藩政;財政・軍制改革/藩校・医学校創設、  
文武に長ず;弓馬・剣/詩歌・能楽・茶に通ず、「鶴洲文集」「水月堂詩集」「水月堂百首」著、  
「松平乗全侯和歌」「好古雑図」「自画帖」「飛動図譜」著、歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[入る月は花より奥にほの見えて霞む外山の春の明けぼの](大江戸倭歌;192/山春曙)、

[乗全(；名)の幼名/通称/号]幼名；源次郎、通称；左京亮/和泉守、  
号；謙翁/水月堂/鶴阜/鶴洲/卑牧堂、法号；源恭院

- H3512 **記保**(のりやす・浅井あさい、)1809-187466 伊予喜多郡八幡浜の庄屋/歌人；二宮正禎門、  
女婿；浅井(菊地)清足きよたり(歌人)、  
[記保(；名)の通称]内蔵太くらた/万兵衛  
宣泰(のりやす・中御門) → 資胤(すけたね・中御門、廷臣/記録) G 2 3 4 2  
乗康(のりやす・雄楯) → 雄楯乗康(おだてのりやす、狂歌) B 1 4 5 1  
則休(のりやす・神崎与五郎) → 竹平(ちくへい・神崎、赤穂浪士、歌俳) 2 8 1 1  
則安(のりやす・曾我部) → 正興(まさおき・曾我部そがべ、国学/歌人) Q 4 0 4 1
- G3508 **範行**(のりゆき・小串おぐし、通称；三郎左衛門尉、範秀男/本姓藤原) ?-? 鎌倉期武将；五位/左衛門尉、  
北条方常葉範貞の被官/1324正中変で六波羅方武将；多治見四郎次郎を討；太平記卷一入、  
歌；「柳風抄」「拾遺現藻集」「続現葉集」入、続千載(1157)、  
[思ひ知る人だにあらば涙にぞ歎く心の色をみせまし](続千載；恋1157)  
[]
- G3509 **教之**(のりゆき・山名やまな/本姓；源、熙之ひろゆき男) ?-1473 室町戦国期武将；伯耆守護・  
右馬守/相模守、1441同族山名らと赤松満祐を追討；その功で備前守護となる、  
1467(応仁元)応仁乱に西軍山名持豊に参加；赤松政則との合戦敗北、1472伯耆に帰国；没、  
連歌；1462「寛政三年何船五十韻」
- G3510 **憲之**(のりゆき・石川いしかわ、初名；昌勝、廉勝の長男) 1634-170774 母；堀尾忠晴女、  
1651祖父忠総の遺領近江膳所藩主を継嗣；襲封/封地を伊勢亀山に移封；5万石、  
1669山城淀城主6万5千石に転封/1706(宝永3)致仕、  
儒者；將軍綱吉に論語を講義、1684「石川家先祖覚書」著、  
[憲之の通称/号] 通称；千勝/総十郎、致仕後号；泰恵/泰憲たいそう、法号；芳円院
- G3511 **美至**(のりゆき・人見ひとみ/本姓小野、修姓；野、雪江せつこう長男) 1723-8664 江戸四谷の幕臣、  
母；岡本一学守勝女、1749(寛延2)家督継嗣；幕府儒官；5百石、1759小普請/69書物奉行、  
1783御船手頭、著書の70「諸国海上道法記」84「船鬪記」を將軍に献上、  
1759「雪江先生詩文集」編、「人見私記」「人見氏伝」「人見氏系図」編、「卷懐随筆」著、  
[美至(；名)の初名/字/通称/号]初名；求、字；克己、通称；善八/七蔵/又兵衛、  
号；雀川かくせん、諡号；興隆、
- G3512 **識行**(のりゆき・志村むら、通称；平丞/五郎左衛門、号；一翁、平左衛門男) 1723-9472 加賀金沢藩士、  
新番/側小姓/御持筒頭/組頭/1791人持末席、  
「謙徳公(前田重熙)御夜話」「謙徳公天珠公(重靖しげのぶ)年表」著
- J3594 **憲之**(のりゆき・堀田ほった、知之ともゆき2男) 1747-182074 尾張海東郡津島の酒造業(家業)；大黒屋、  
津島神社社家堀田家から派生した[番頭太夫家]、歌人；桃沢夢宅門、  
[憲之(；名)の通称]安次郎/安右衛門/善五郎/理右衛門(；父の称)
- G3513 **義行**(のりゆき・よしゆき・佐野さの、高取藩主植村家道3男) 1757-182973 幕臣佐野徳行の養嗣子；  
1773家督継嗣/従五下/兵庫守/肥後守、1781御小納戸に列す/小普請組支配、  
西丸御小姓組番頭/1810西丸御側衆、画；狩野派風を嗜む/詩歌の能くす、  
1791「飛鳥山十二景和歌」編、91「並鄂百絶」93「戸山の春」1801「和多戸山尾公別業之記」著、  
1810「たまのみきり」、「十寸鏡」「巡行日記」著、1814堀田正敦催「詠源氏物語和歌」参加、  
[雲のまぞたちかへりゆく浦波の月にあかしの秋の雁影](源氏和歌；明石)、  
[義行(；名)の初名/通称]初名；氏房、通称；亀五郎/三蔵/兵庫
- J3592 **則之**(のりゆき・船津ふなづ、) 1777-183256 筑前遠賀郡中底井野村の里正(大庄屋)、国学者、  
[則之(；名)の通称]通称；助五/文四郎
- G3514 **則之**(のりゆき・小泉こいずみ) ? - ? 江後期文政1818-30頃和算家、江戸住、  
徳川御三卿の清水家の家臣、和算；深津喜之・日下誠門、  
1820同じ清水家の土白石長忠と共に和田寧やすし門；円理豁術を修学、  
「累円個数術」「堦術解だじゅつかい」著、伊部直瑚・向後義盛の師、  
[則之(；名)の字/通称/号]字；士善、通称；六郎兵衛、号；鼎山/影山

- H3539 **範行**(のりゆき・稲若いなわか、善助2男) 1809-68自刃60 播磨姫路藩士/幼少より能筆、佐幕党の中堅、無害流剣術の免許皆伝、武術を江戸藩邸で教授、祐筆、歌人、1864姫路に帰国；のち1868投獄され自刃、  
[範行(；名)の初名/通称]初名；範宗、通称；新蔵
- G3588 **徳行**(のりゆき・神原かんばら/本姓；源、通称；孫之丞)？-？ 江後期；歌人、幕臣？、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[棚機の別れの袖の露落ちて明行く野辺の草葉にや置く](大江戸倭歌；秋13/七夕草)
- G3515 **約之**(のりゆき・森もり、字；春雄、医者森立之男) 1835-7137歳 母；佐々木勝、備後福山藩の江戸本郷丸山邸に生/医者；父門、父に随い幕府医学館躰寿館の講義に列す、1868から本草学を構ず、68福山の藩校誠之館教官、「福山植物志」父と共著、1856「七蟬説」、「夏小正攷註」「四時経講疏」「周尺説」「桂堂詩稿」著、1865「存誠藥室蔵儒書目」編、外編著多、  
[約之(；名)の通称/号]通称；竹子/養眞、号；授庭しんてい/桂堂/黍西しよさい学人
- G3516 **則之**(のりゆき・安井やすい、通称；小平太、太郎右衛門3男) 1840-8849 尾張名古屋百人町の和学者、犬山城主成瀬家の家臣、遠江の井伊谷宮いひのやぐらの禰宜、1861「万葉摘花集」編
- G3517 **礼之**(のりゆき・何か、字；致遠/通称；礼之介、栄三郎[静谷]男) 1840-192384 肥前長崎の洋学者、唐語に長ず/1844稽古通事/英学；61済美館教頭、江戸詰/67開成所教授、「啖咕喇新聞紙」訳、  
[礼之の号] 蠶舟いしゅう/芥洲/望呉山樵
- |                   |   |                      |           |
|-------------------|---|----------------------|-----------|
| 式如(のりゆき・田中)       | → | 式如(のぶゆき・田中/松浦、藩士/神道) | D 3 5 6 3 |
| 訓之(のりゆき・羽倉/荷田、国学) | → | 算木有政(さんぎのありまさ、狂歌)    | F 2 0 7 2 |
| 則之(のりゆき・赤松)       | → | 次郎(じろう・赤松あかまつ、剣術家)   | N 2 2 0 5 |
| 則之(のりゆき・築瀬)       | → | 広記(こうき・築瀬やなせ、藩士/儒者)  | I 1 9 2 1 |
| 則之(のりゆき・山田)       | → | 嘯廬(しょうろ・山田やまだ、詩歌人)   | M 2 2 0 8 |
| 訓之(のりゆき・羽倉、国学)    | → | 算木有政(さんぎのありまさ、狂歌)    | F 2 0 7 2 |
| 宣之(のりゆき・石田)       | → | 一鼎(いっぺい・石田いしだ、儒者/詩文) | H 1 1 6 4 |
| 徳之(のりゆき・村山)       | → | 素行(そこう・村山むらやま/藤原、歌人) | D 2 5 7 3 |
| 憲之(のりゆき・山田)       | → | 公章(きみあき・山田、藩士/兵学)    | L 1 6 9 9 |
- J3574 **規世**(のりよ・繁沢はんざわ/本姓；上領かみりょう、) 1732-180675 長門萩藩士、長崎遊学；儒者、藩校明倫館講師/のち学頭、歌人、  
1775(安永4)側儒格；江戸で藩主毛利治親の子の斉房なりふさ・多美姫の侍講  
[いそのかみふるのゝ山はふるぬれどむかしながらの滝の音かな]([萩の歌人]入)  
[規世(；名)の通称/号]通称；権右衛門、号；豊城
- 3526 **令世**(のりよ・吉田よしだ、初名；尚幹/栄寿、吉田尚典[愚谷]男) 1791-184454 儒；藤田幽谷門、幽谷女と結婚/1813水戸藩彰考館入；大日本史編纂参加、41弘道館助教/歌道掛/史館編集、歌/篆刻/書を嗜む、「新採歌集」「歴代和歌勅撰考」、「道の八十隈」「道の長手」著、1825「声文私言」40「永言鈔」著、  
[令世(；名)の字/通称/号]字；平坦、通称；平太郎、号；活堂、妻；
- G3518 **則善**(のりよし・大窪おおくぼ) ？ - ？ 960存 平安前期廷臣；勘解由次官/五位、歌；後撰集(1314)、  
[身をわくる事のかたさにます鏡影はかりをそ君にそへつる](後撰集；十九羈旅1314) 旅立つ人に鏡の箱の裏に書いて贈る)
- G3519 **宣義**(のりよし・菅原すがら、惟熙男/文時の孫)？-1017 平安中期廷臣；998式部少丞/1012文章博士、「小右記」呪願文入、「政事要略」願文入、詩；本朝麗藻2首・類聚句題抄9首入
- G3527 **教良**(のりよし・二条にじょう、良実男/本姓；藤原) 1234-1313?80? 母；宮仕女房；藤原隆保女？、鎌倉期廷臣；1245非参議/1274参議/中納言、1279権大納言/83辞退/1300従一位、03出家、兄弟；道良みちよし/師忠もろただら、娘；二条教良女(兼基側室)、続拾遺に沈淪を歎く述懐歌、歌人；勅撰13首；続古(517)続拾遺(283/1158/1235)新後撰(700/1027/1182/1403)以下、  
[うき度に惜しからずとはいとへども捨てやられぬは我が身なりけり](続拾；雑1235)
- K3506 **乗良**(のりよし・松平まつだいら、乗忠男) 1634-9764 江戸の幕臣；小姓組、和学者、  
[乗良(；名)の初名/通称]初名；康直、通称；三右衛門/源太左衛門/求馬助/弥兵衛法名；是諦

- I3562 **義邵**(のりよし・坂本さかもと、旧姓;一色)1656-1727<sup>72</sup> 江戸の生/陸奥会津藩士、  
神道/国学/歌;吉川惟足門、  
[義邵(;)名の通称/諡]通称;覚之進/学兵衛、諡;日学靈社
- I3599 **憲喜**(のりよし・宅間たくま、通称;庄三郎、憲連のりつら男)1671-1732<sup>62</sup> 江戸の幕臣;大番、和学者
- I3568 **履徳**(のりよし・志村むら、通称;林右衛門)?-1816 信濃洗馬<sup>まは</sup>の国学・歌人;桃沢夢宅(1738-1810)門、  
志村吉智<sup>よし</sup>のり(?-1822没)・都筑吉容<sup>よし</sup>とみの弟
- G3528 **典義**(のりよし・中川なかがわ、中川顕忠[1774-1815]の養嗣子)?-? 加賀金沢藩士/1816家督;定火消、  
1828寺社奉行、1830家老となる、  
日記/記録;1815-32「中川典義日記」25「道中心得覚書」、「家老方諸事留帳」著、  
[典義の通称] 逸角/采女/式部/八郎右衛門
- G3529 **乗よし**(のりよし・大ふね) ? - ? 狂歌。1782橋州「狂歌若葉集」入
- G3530 **升芳**(のりよし・間宮まみや、通称;一郎、号;白水/拙齋)1779-1841<sup>63</sup> 江戸神田の国学者:  
小山田与清<sup>ともきよ</sup>門、津田家の家士、歌;景樹に私淑/書に長ず、  
1826「三絃考」校/44「さが野のいほり」著
- G3531 **則瓊**(のりよし・鹿島かしま、通称;右衛門/大和、号;鶴翁、則峰男)1786-1874<sup>89</sup> 常陸鹿島神宮神職;  
18004大宮司/58致仕/65-69復職、国学;芝山持豊/塙保己一門、  
歌:「則瓊詠草」、「年中祭事録」、「弓能本末」著、
- G3593 **乗美**(のりよし・松平まつだいら、乗保2男)1791-1845<sup>55</sup> 美濃岩村藩5代藩主/岩村藩大給松平家6代、  
長兄乗友早世のため世子、1826(文政9)父没;家督継嗣;5代藩主/従五位下、河内守/能登守、  
財政悪化し再建が急務;家老丹羽瀬清左衛門と共に知行借上・儉約・新田や荒地開発、  
桐・桑・杉・茶・栗等の育成・国産所の設置等の藩財政改革に着手、効果はあったが;  
1833からの天保の大飢饉被害・34江戸藩邸類焼・木綿や絹織物が生産過多・  
改革を担った問屋庄屋の出奔等で改革停滞、  
1837年(天保8)岩村藩内52か村代表が改革中心の丹羽瀬を弾劾する書状提出;丹羽瀬蟄居、  
改革は中止;財政は益々悪化、1842(天保13)家督を2男乗喬に譲渡;隠居、  
正室;朽木倫綱女(名;常磐子?)、側室;千葉氏乗啓・乗喬・乗敦・牧野忠興の父、  
[乗美(;)名の別名/法号]幼名;幸之進/卓太郎、法号;寂通院
- G3532 **得義**(徳義のりよし・奥村おくむら、正房、字;士達)1793-1862<sup>70</sup> 尾張葉栗郡光明寺村の生/尾張藩士、  
1805尾張藩普請方/徒格に昇進、国学/名古屋城故実研究;子弟に書を教授し研究費用捻出、  
1860「金城温古録」、「いつまで草」、「正房歌稿」、「松濤棹筆」、「大平談」、「鶴亀草」外著多数、  
[得義(;)名の通称/号] 通称;千代松/松太郎/才助/貞[定]兵衛、号;松濤居
- G3590 **範儀**(のりよし・のりただ?・内海うつみ)?-? 江後期;歌人、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[すむ月に数あらはれて置く露の玉の声ある野辺のまつ虫](大江戸倭歌;秋796)
- G3533 **範善**(のりよし・彦坂ひさか、初名;永貞、田中嘉平の長男)1803-79<sup>77</sup> 母方叔父質商彦坂嘉平の養子、  
三河吉田の和算家;牧野伝蔵門;関流和算を修学/1826江戸の和田寧門、34秀文堂を開塾、  
和田寧没後;1840内田五観門;天文・地理・暦学・測量術を修学/別伝免状を授与される、  
1857吉田藩算術御用として出仕/60藩士;算術方に出仕;7人扶持、1842「豁術稿」著、  
1846「円理新々増刻稿」51「牛川稲荷社額面写」、「算法円理三台起源」、「彦坂草稿」著、  
[範善(;)名の字/通称/号]字;徳元、通称;菊作/規矩作/喜久作、号;晴軒/九成/観成/成通
- I3548 **徳能**(のりよし・河野こうの、旧姓;土持、通称;駒助)?-? 日向延岡の国学者;本居内遠(1792-1855)門
- H3509 **則義**(のりよし・赤松あかまつ、通称;林吉)?-? 江後期;美作勝田郡香美郷小畑村の歌人、  
歌;平賀元義門、1857-8大沢深臣「巨勢総社千首」入
- J3557 **宣祥**(のりよし・長谷川はせがわ、)1819-1893<sup>75</sup> 美濃不破郡の医者、国学者、国学者、  
[宣祥(;)名の号] 貞齋/清耳庵
- I3577 **至善**(のりよし・角すみ、)1833 - 1909<sup>77</sup> 近江野洲郡の酒造業、歌;十林とばやし舎章門、  
国学・歌;赤松祐以<sup>すけもち</sup>門、歌;[鳩のうみ]入、  
[至善(;)名の通称/号]通称;繁八、号;濃技軒

- I3588 **則義**(のりよし・田中たなか、) 1844-1908<sup>65</sup> 長門萩藩士;小納戸役、のち毛利家家令、  
 学問;吉田松陰門、歌集「春及遺稿」、  
 [あら磯のいはほの松はたつ波をまなくかつけど色はかはらじ]([萩の歌人]入)  
 [則義(;名)の通称/号]通称;朔之進/一介、号;春及
- J3582 **則吉**(のりよし・泥谷ひたに、) 1845-1891<sup>47</sup> 豊後国東郡の神職、維新後;権中講義
- J3584 **意美**(のりよし・平尾ひらお、) ? - 1906? 讃岐高松藩士、和学、  
 [意美(;名)の通称/号]通称;平三郎、号;藻海/対山
- 章義(のりよし・勢多) → 章斐(のりあや・勢多せた、明法家) E 3 5 2 7  
 矩佳(のりよし→のりとも・内藤) → 矩佳(のりとも・内藤、幕臣/記録) F 3 5 2 6  
 則敬(のりよし・入江) → 則栄(のりひで・入江いりえ、歌人) F 3 5 5 6  
 則好(のりよし・池西) → 言水(ごんすい・池西いけにし、俳壇革新) 1 9 5 4  
 則良(のりよし・吉沢/赤松) → 大三郎(だいざぶろう・赤松、幕臣/海軍) K 2 6 7 5  
 規吉(のりよし・児玉) → 規吉(ききつ・児玉こだま、俳人) F 1 6 1 2  
 憲欽(のりよし・佐藤) → 梅軒(ばいけん・佐藤さとう、藩儒/藩家老) B 3 6 1 2  
 徳美(のりよし・中村) → 松洲(しょうしゅう・中村なかむら、儒者/地誌) J 2 2 5 3  
 敬美(のりよし・那須) → 敬英(のりひで・那須、国学者) F 3 5 5 8  
 宣義(のりよし・稲生) → 若水(じゃくすい・稲生いのう/稲、儒/本草) G 2 1 3 0  
 宣能(のりよし・岩間) → 宣道(のりみち・岩間いわま、藩士/歌人) F 3 5 8 6  
 教良母(のりよしのは・藤原、詞花歌人) → 頼輔母(よりすけのは・藤原、千載歌人) I 4 7 8 2
- G3534 **教良女**(のりよしのむすめ・二条にじょう/本姓;藤原)?-? 父教良(1234-1313?)は従一位兼大納言、  
 従兄弟二条兼基(1268-1334)の側室、  
 鎌倉期歌人;前期京極派歌合に参加、1299伏見院五種歌合/1303仙洞五十番歌合参加、  
 1303伏見院三十首/1305嘉元三年三月歌合参加、繊細な歌風、  
 勅撰17首;玉葉(12首56/387/492/652/836/1263/1533/1670/1726/1754/1784/2222)、  
 風雅(5首859/196/1172/1241/1672)、  
 [よにかかる簾に風は吹き入れて庭白くなる月ぞ涼しき](玉葉;夏387)
- G3535 **範頼**(のりより・源みなもと、蒲の冠者/蒲殿、義朝男)?-1193**殺害** 平安末期遠州蒲御厨の武将、  
 兄頼朝と挙兵;弟義経と平家討伐/頼朝に疑われ修善寺で殺害
- G3536 **教頼**(のりより・二条にじょう/本姓;藤原、教嗣/教忠、師基2男)?-? 1381**存** 南朝廷臣;1356?内大臣、  
 1371右大臣、1375関白/左大臣、教基の弟、歌:南朝歌壇で活躍、1371自邸「三百番歌合」催、  
 1375内裏「探題五十首歌合」/五百番歌合/76内裏百番歌合など参加、天授千首に詠進、  
 春宮百五十番歌合・名所五十首・述懐百首に詠進、  
 新葉;28首関白左大臣名(6/27/40/99/135/179/225/323/331/342/428/438/452/464以下)、  
 [冴えかへりまたこそ谷にこほりぬれ高嶺にとくる雪の下水](新葉;春6)
- 憲頼(のりより・藤原) → 長方(ながかた・藤原、廷臣/歌人) 3 2 0 6  
 能六斎(のろくさい・歌沢) → 谷峨(2世こくが・梅暮里うめぼり、戯作/歌謡作者) C 1 9 3 5  
 野呂松勘兵衛(のろまつかんべえ) → 勘兵衛(かんべえ・野呂松、人形遣い) G 1 5 6 2